

小学館版

少年少女

学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

13 土農工商

●江戸時代前期

決定版





●まんが
あおむら 純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

か・八 き・う・り・よ・く か・た
13巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
藤井讓治（京都大学文学部教授）
西原和海

●考証
石井謙治（日本海事史学会会長）
黒田日出男（東京大学史料編纂所教授）
小泉和子（生活史研究所代表）
鈴木友也（日本美術刀剣保存協会専務理事）
高田倭男（高田装束研究所所長）
玉井哲雄（千葉大学工学部教授）

●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

- 指導・執筆・協力
石井謙治（日本海事史学会会長）
岡田威夫（共立女子高校）
谷脇理史（早稲田大学文学部教授）
飛田紀男（三和銀行調査部）
広末保（法政大学文学部講師）
藤井讓治（京都大学文学部教授）
宮沢嘉夫（東京都公立学校長）
森杉夫（元大阪経済大学教授）
山本胥（旅研究家）
高橋千劍破

- 取材協力
新居関所史料館 石川県立郷土資料館 出光美術館 梅沢記念館 大阪城天守閣 大阪市立博物館 大津市産業振興部観光課 柿衛文庫 寛永寺 象潟観光協会 義仲寺 久保克敬 国立国会図書館 三和銀行 関ヶ原町歴史民俗資料館 たばこと塩の博物館 中尊寺 敦賀市役所観光課 天理大学付属天理図書館 東京国立博物館 東京都江戸東京博物館 鳥取県立博物館 長野県南木曾町役場 長野県権川村役場 西村弘明（財）根津美術館 箱根町立箱根関所資料館 箱根町観光協会 芭蕉翁記念館 姫路城管理事務所 百萬石文化園江戸村 兵庫県立歴史博物館 藤井真津子 最上町教育委員会 若宮八幡宮 奈良国立文化財研究所

- イラスト
浅原一義 石井謙治 きみのみき 中西立太 三谷ゆきひこ 深山のばる

- 作画協力
大岡龍二 小野寺克彦 小井土繁 小杉彰 小林進 小山春夫 阪上吉英 芝知照 坪井幸一 馬場秀夫 森正 山本貴久雄
- 装丁・レイアウト
功野真矢 佐野恒雄（C S J） 篠原忠彦 成澤哲夫（N E D）

- 版下
大山デザイン 昭和ライト タナカデザイン
- 編集協力
エディトリアル・プランニング 小井詰昌之 真英社 風人社 鈴木悦子 銀杏社
- 編集担当
柏原順太 宮部良雄 八卷孝夫
(五十音順・敬称略)

小学館版

少年少女

学習まんが

日本の歴史

13

し の う こ う し ょ う

土農工商

●江戸時代前期



この巻の歴史年表

●この巻には、青色の部分の時代・年代が、かかれています。

巻数	時代	年代
1	旧石器 (岩宿)	前3万
	縄文	前1万
	弥生	前1000
2	古墳	紀元1
	飛鳥	100
3	奈良	200
4	平安	300
5	鎌倉	400
6	南北朝	500
7	室町	600
8	戦国	700
9	安土桃山	800
10	江戸	900
11	江戸	1000
12	江戸	1100
13	江戸	1200
14	江戸	1300
15	明治	1400
16	明治	1500
17	大正	1600
18	昭和・前期	1700
19	昭和・後期	1800
20	昭和・後期	1900
21	平成	~平成

時代・文化

西暦

日本のおもなできごと

世界のおもなできごと

代

●1673 ●1671 ●1670 ●1668 ●1661 ●1651 ●1649

幕府政治の安定。

江戸で明暦の大火がおこる。
徳川光圀が「大日本史」の編さんをはじめる。
越前藩が藩札を発行する。(慶安事件)
貿易での銀貨取引をやめ、金貨取引とする。
岡山城主池田光政が閑谷学校の建設に着手する。

●1661 ●1660 ●1649

イギリス、王制にもどる。
康熙帝のもとで、清が最盛期をむかえる。

市川団十郎が江戸で歌舞伎をさかんにする。
東廻り航路がひらかれる。(翌年、西廻り航路もひらかれる。)
分地制限令が出される。



元禄文化

●1715
●1714

●1709

●1704
●1703●1702
●1697●1695
●1691●1688
●1681●1681
●1685●1684
●1681
●1680

綱吉、五代將軍となる。

河村瑞賢が淀川治水工事をはじめる。(→87)

貞享暦を採用する。

貿易額を清船は銀六千貫、オランダ船は三千貫に制限する。

生類憐みの令が出されはじめめる。(→709年廃止)

このころ、友禅染が発明される。

西鶴が「日本永代蔵」をあらわし、翌年、芭蕉が「奥の細道」の旅に出る。

湯島に聖堂がたてられる。

貨幣の質をおとし、幕府の財政不足をおぎなうことをはじめる。

宮崎安貞が「農業全書」をあらわす。

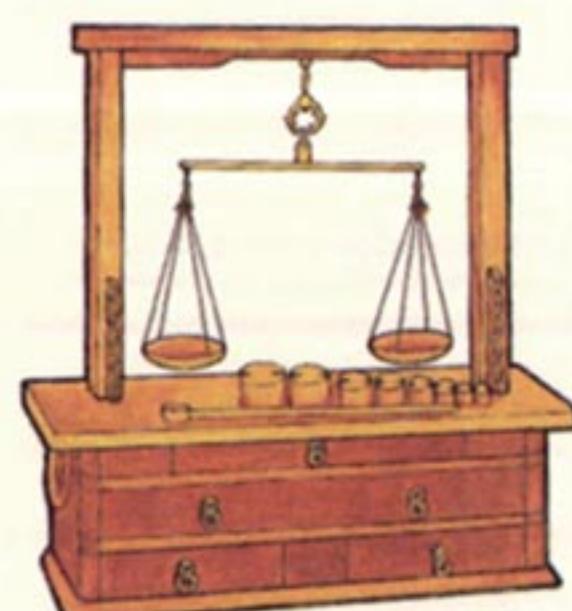
赤穂浪士が吉良邸にうちに入る。

近松門左衛門の「曾根崎心中」が初演される。

富士山が噴火し、宝永山ができる。

この噴火で、武藏・相模・駿河が大被害をうける。
将軍家宣のもとで、新井白石が政治を行う。(正徳の治)

貨幣を改鑄し、その質を元禄以前にもどす。
白石が海舶互市新令を出し、長崎貿易を制限する。
白石が宣教師シドツチの話から、「西洋紀聞」をあらわす。



●1707

●1701

●1699

●1689
●1688

●1687

●1679

イギリスで政党が生まれる。

ニュートンが万有引力の法則を発表する。

清露ネルチンスク条約がむばれる。

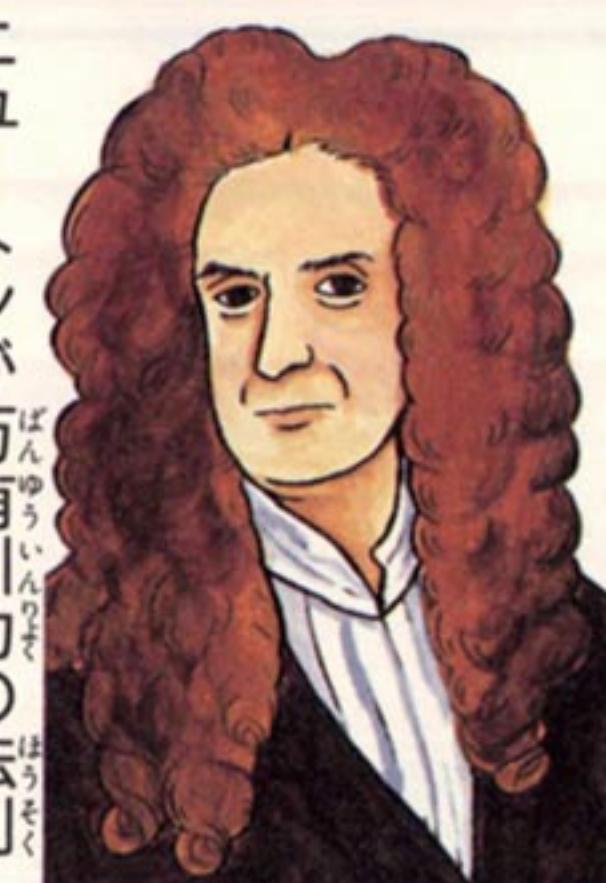
イギリスで権利章典ができる。

清がイギリスに広東貿易をゆるす。

スペイン王位継承戦争。

(→13)

プロイセン王国が成立する。
大ブリテン王国が成立する。



はじめに

「犬公方」將軍と花ひらく元禄文化



◆イヌと將軍

みなさんも、動物は大好きでしようね。イヌやネコのペットはかわいいし、野生動物は地球のいのちとして、たいせつにしたいものです。

17世紀の後半、動物をとてもたいせつにした人物がいました。徳川五代將軍の

綱吉です。

でも、これがやりすぎだったのですね。

綱吉は、仏教を深く信仰するあまり、「生類憐みの令」を出しました。「いきもの殺してはいけない」という法律です。とくに、綱吉はイヌ年生まれでしたので、イヌを人間よりもたいせつにしました。

さあ、たいへん。イヌは大いばりで、人びとは大よわり……。

いつたい、どういうことになつたのかは、本文を読んでのおたのしみです。

◆大名のくらし

しかし、その綱吉にも、政治家としてすぐれたところがありました。四代將軍・家綱から綱吉の時代にかけて、幕府の土台は、かなりしつかりしたものにな



つてきたのです。

しつかりしていたということは、それだけ幕府の支配が、国内のすみずみにまで、ゆきわたっていたということです。

この巻では、そうした支配のようすを、大名や農民・商人たちの生活をとおして見ていきたいと思います。

大名といいますと、何の苦労も知らない「お殿さま」といったイメージが強いかもしれませんね。ところが、どうでしょう。大名だつて、なかなかたいたいへんだったということが、よくわかりますよ。

◆町人の文化

「古池や蛙飛びこむ水の音」。

この俳諧は、日本人でしたら、だれもが知っているはずです。作者は……。そ

う松尾芭蕉でしたね。

この時代には、町人の文化が発達しました。とくに元禄年間（一六八八～一七〇四年）には、上方（関西）を中心に、はなやかな文化が見られました。「元禄

文化」とよばれています。

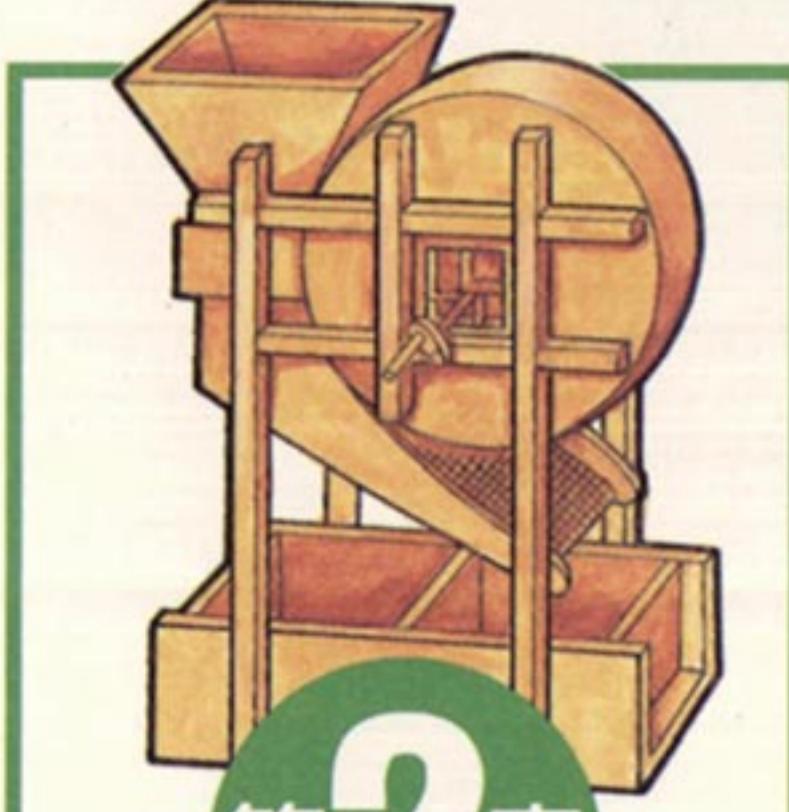
芭蕉や、井原西鶴、近松門左衛門といった人たちが、このころを代表する文化人として知られています。旅をよくした芭蕉が、みなさんをみちのく（東北地方）にガイドしてくれるそうです。さあ、ついていつてみましょう。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物



第3章



第2章



第1章

赤穂浪士の討ち入り
朱子学をすすめる
生類憐みの令
五代將軍綱吉の政治

綱吉の時代

塩田の様子
大画面・弁才船の出航

新しい農具
大画面・年貢をおさめる

庶民の生活

諸大名の配置
池田家の政治
大画面・江戸の再建

大名のくらし



第4章

元禄文化と町人

綱吉の死

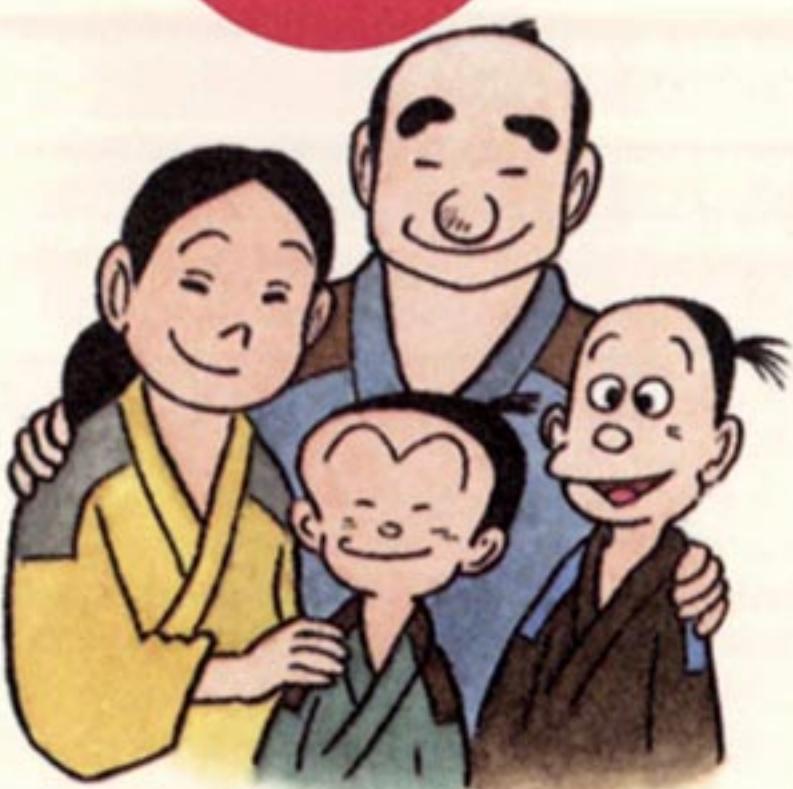
芭蕉と俳諧
奥の細道の旅
浮世草子作家、大画面・大坂、難波橋
井原西鶴

おもな登場人物

第2章

弥助の一家

北陸のある村に住む農民の一家。幕府のきびしい農民政策のもとで、けん命に生きる。



農家の子・弥助が奉公に出された先の主。北陸のある城下町で手広く商いをしている。



商家の主人

難破して塩田のある村で養育された時の見聞談を弥助らに語る。弁才船でまた船出する。



船頭

弥助の一家が住む村をたばねる。農民代表として、幕府や藩主との連絡をする。



庄屋

※この巻に登場するおもな人物を紹介します。登場人物をくわしくし知るための事典として、役立たせてください。

第1章

徳川家綱

(一六四一～一六八〇年)

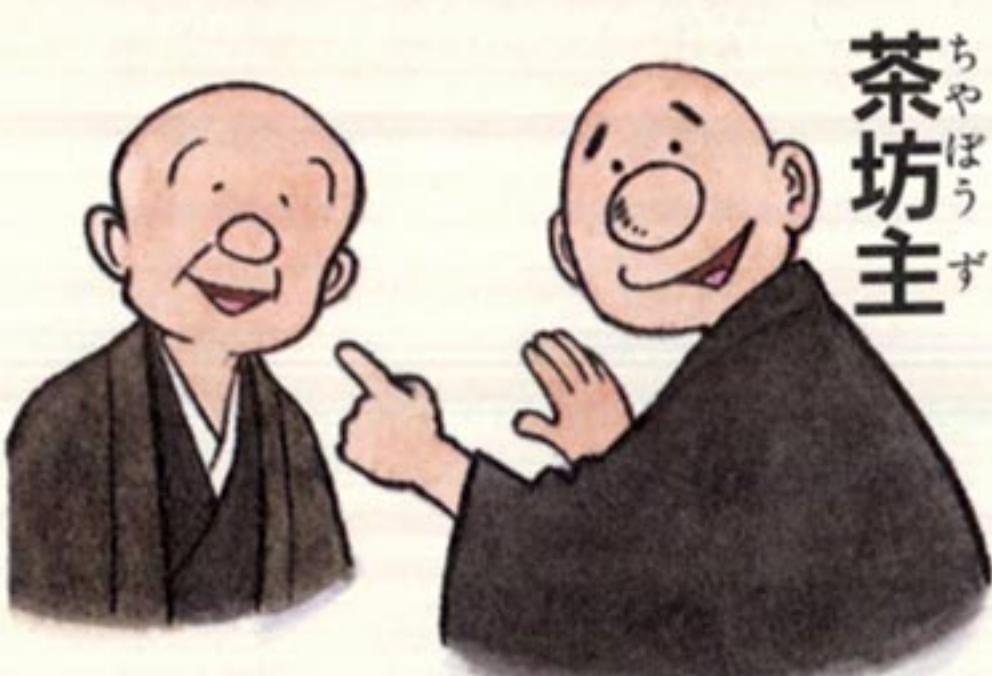
四代將軍。十一歳で將軍となり、保科正之、酒井忠清らの補佐をうける。文治政治を行つ。



茶坊主

(一六〇九～一六八二年)

武家の職名のひとつ。將軍の茶道や、登城する大名などの喫茶に応じる人たち。



岡山藩主として、儒学を政を確立した名君の一人。



由比正雪

(一六〇五～一六五一年)

浪人たちの貧しい生活に心を痛め、丸橋忠弥らと幕府への反乱を計画した軍学者。



吉良義央
(1641–1702)

池田屋

浅野長矩
(1665–1701)

第4章

「好色一代男」「日本水代藏」「世間胸算用」など多くの小説を書いて人気になる。



井原西鶴

(一六四二～一六九三年)

「浮世絵の発達につくした浮世絵版画の始祖。『見返美人』『吉原恋の道行』などをえがく。」



菱川師宣

(一六一八～一六九四年)

旅をかさねながら独自の芭蕉風俳諧をつくる。『奥の細道』などの紀行文をあらわす。



松尾芭蕉

(一六四四～一六九四年)

芭蕉に学んだ俳人。芭蕉の『鹿島紀行』『奥の細道』の旅に同行する。



河合曾良

(一六四九～一七一〇年)

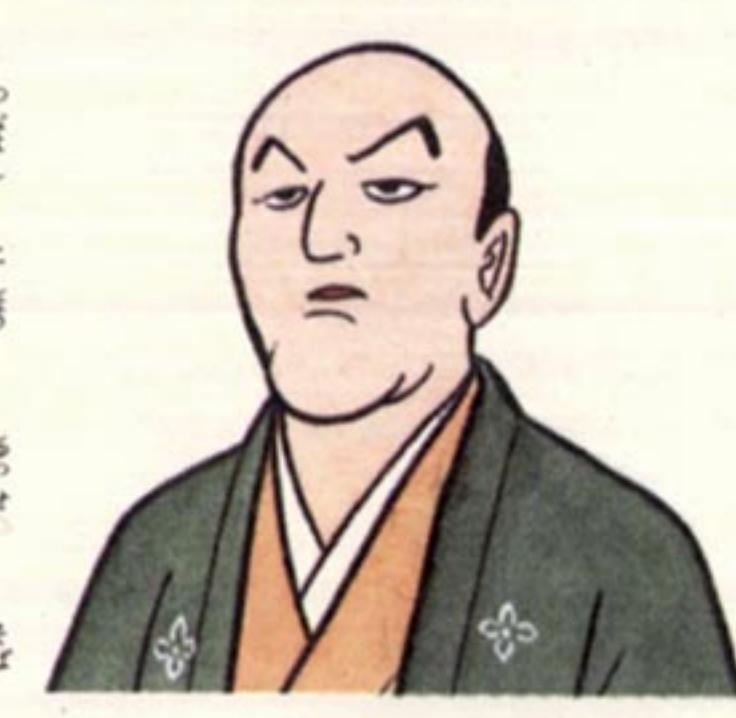
「生類憐みの令」を出し、公方といわれた五代将軍。島の聖堂をたてる。



第3章

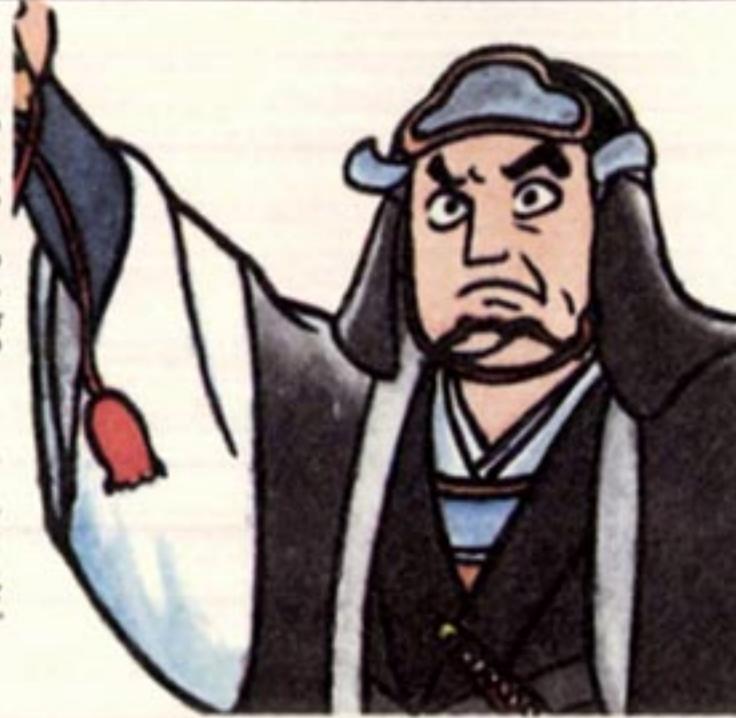
徳川綱吉
(一六四六～一七〇九年)

綱吉の小姓から出世し、側用人として元禄期の幕府の実権をにぎって政治を行う。



柳沢吉保
(一六五八～一七一四年)

主君浅野長矩が吉良義央との一件で切腹したあと、同志を集めて吉良邸にうち入る。



大石良雄
(一六五九～一七〇三年)

六代將軍家宣をたすけ、武家諸法度の改正など、幕府政治のたて直しに努力する。



新井白石
(一六五七～一七二五年)

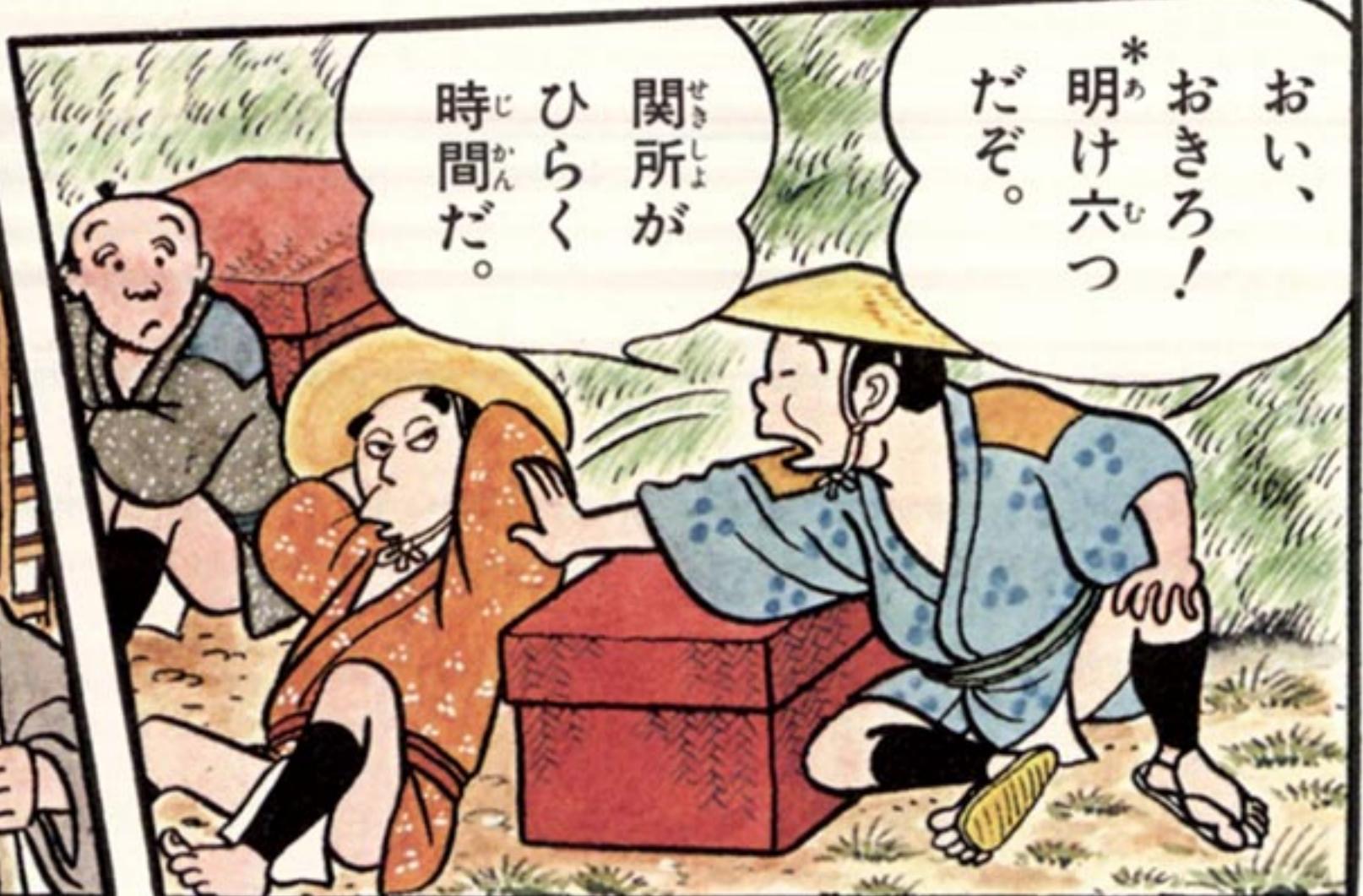
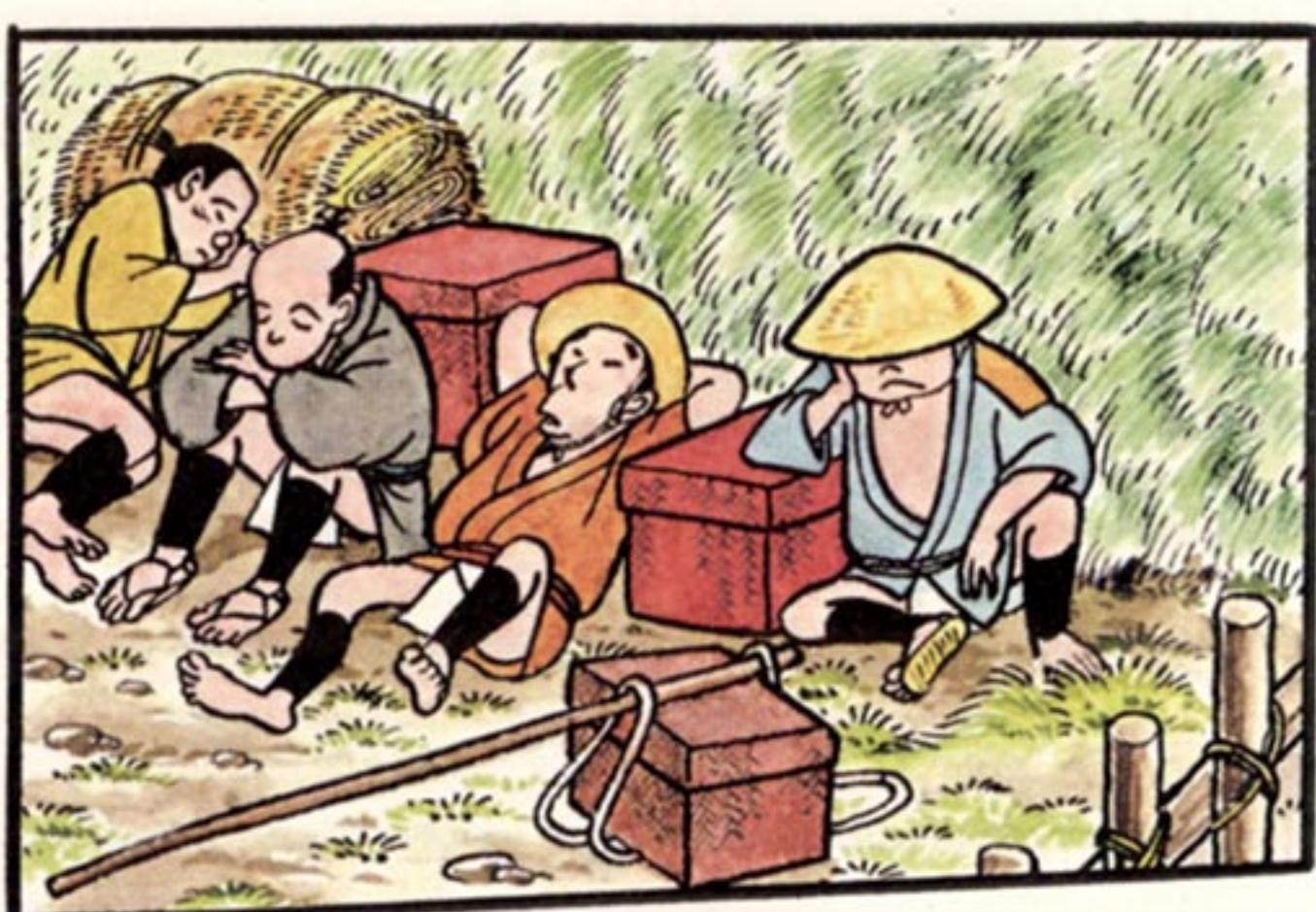
小学館 eBooks

だい しょう
第一章

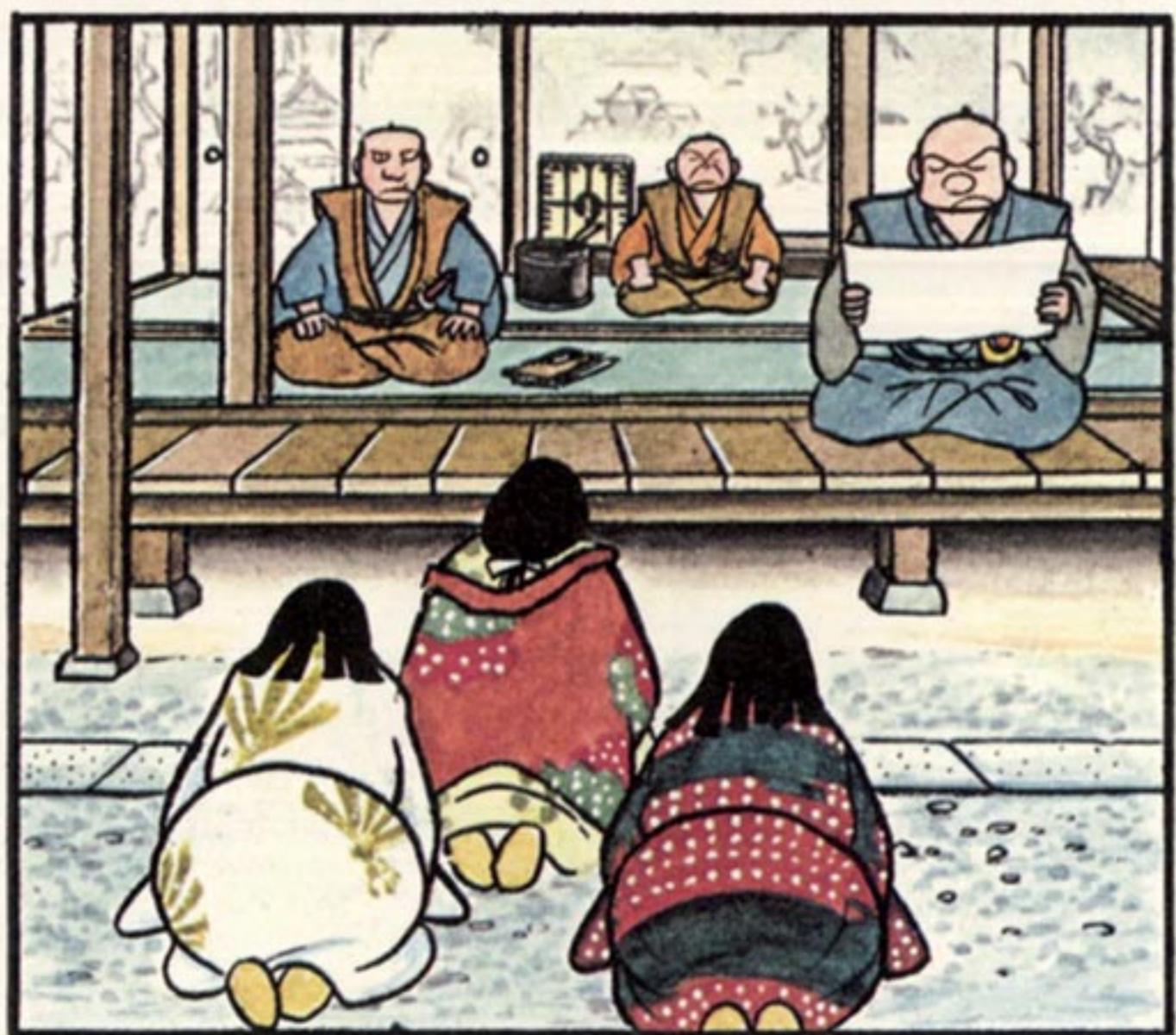
だい みよう
大名のくらし
えどじだいぜんき
—江戸時代前期—



箱根の関所
一六五五年四月、

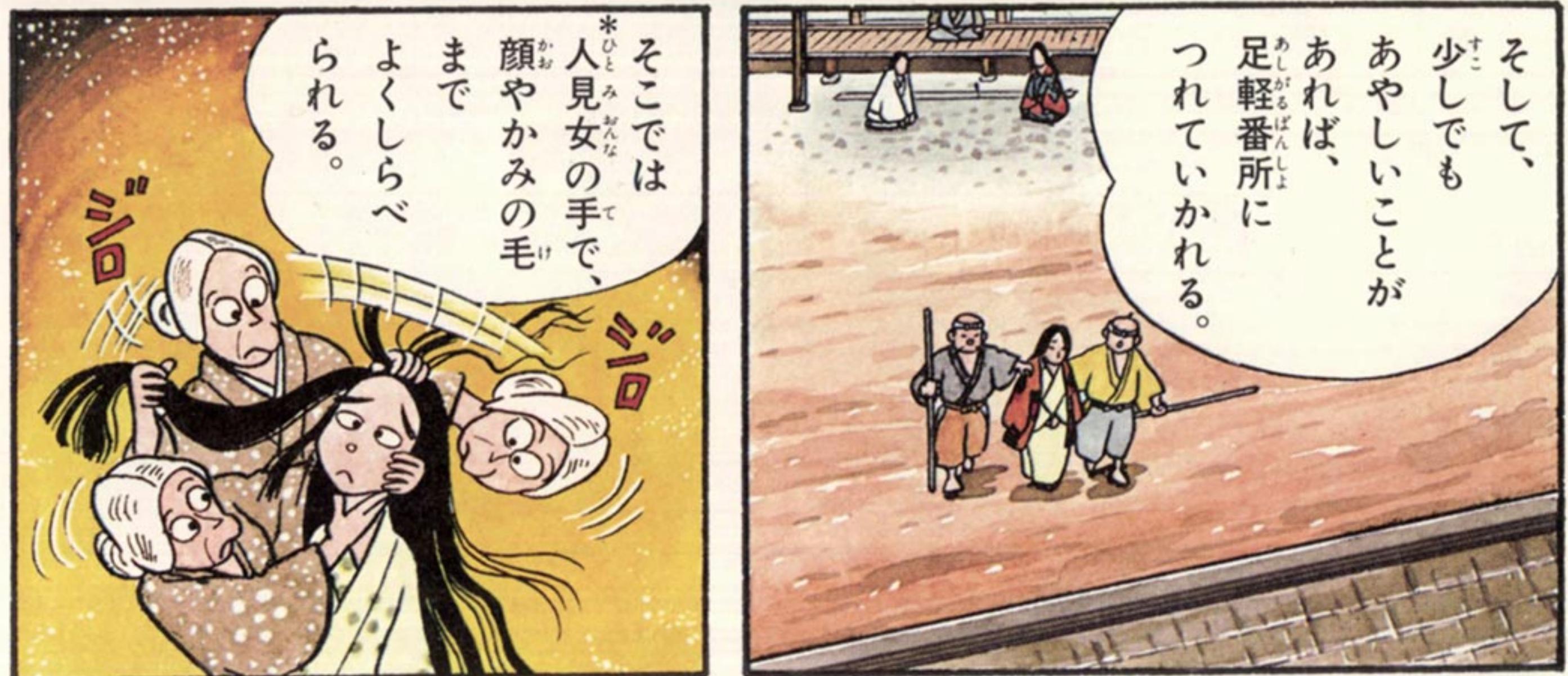


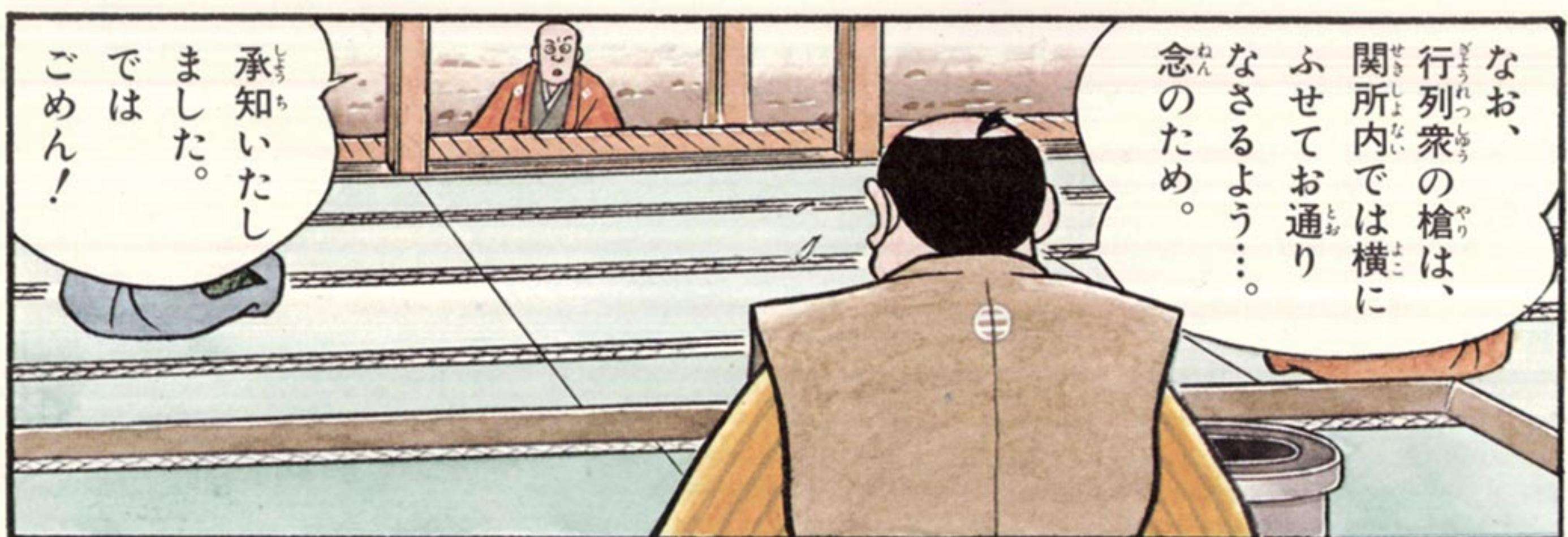
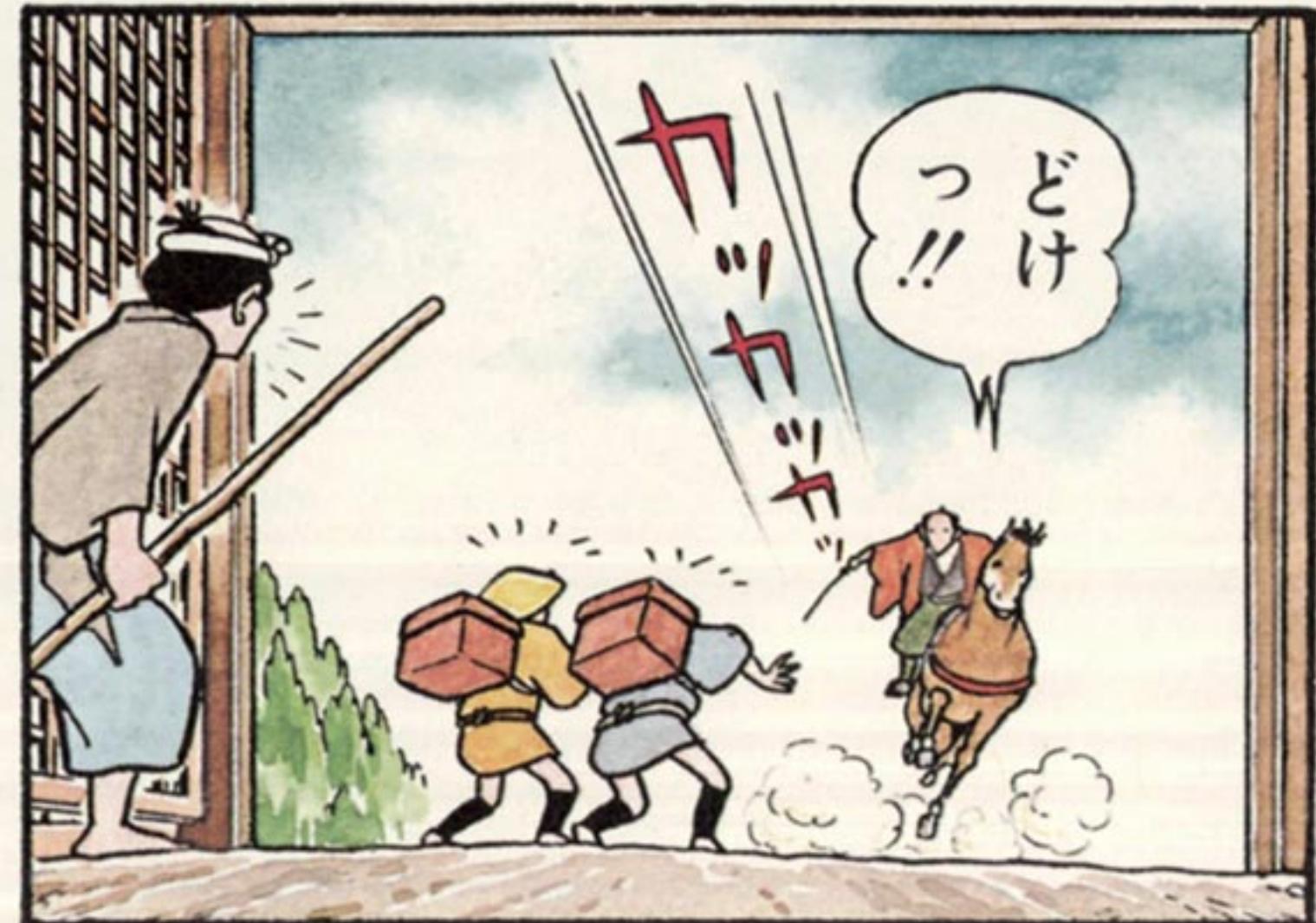
*明け六つ：午前六時ごろ。



*手形：関所を通行するさい、本人であることをしめす身元証明書。

*人見女：大名の妻などが江戸から出ることをふせぐため、関所であやしい女性をしらべる女人の人。

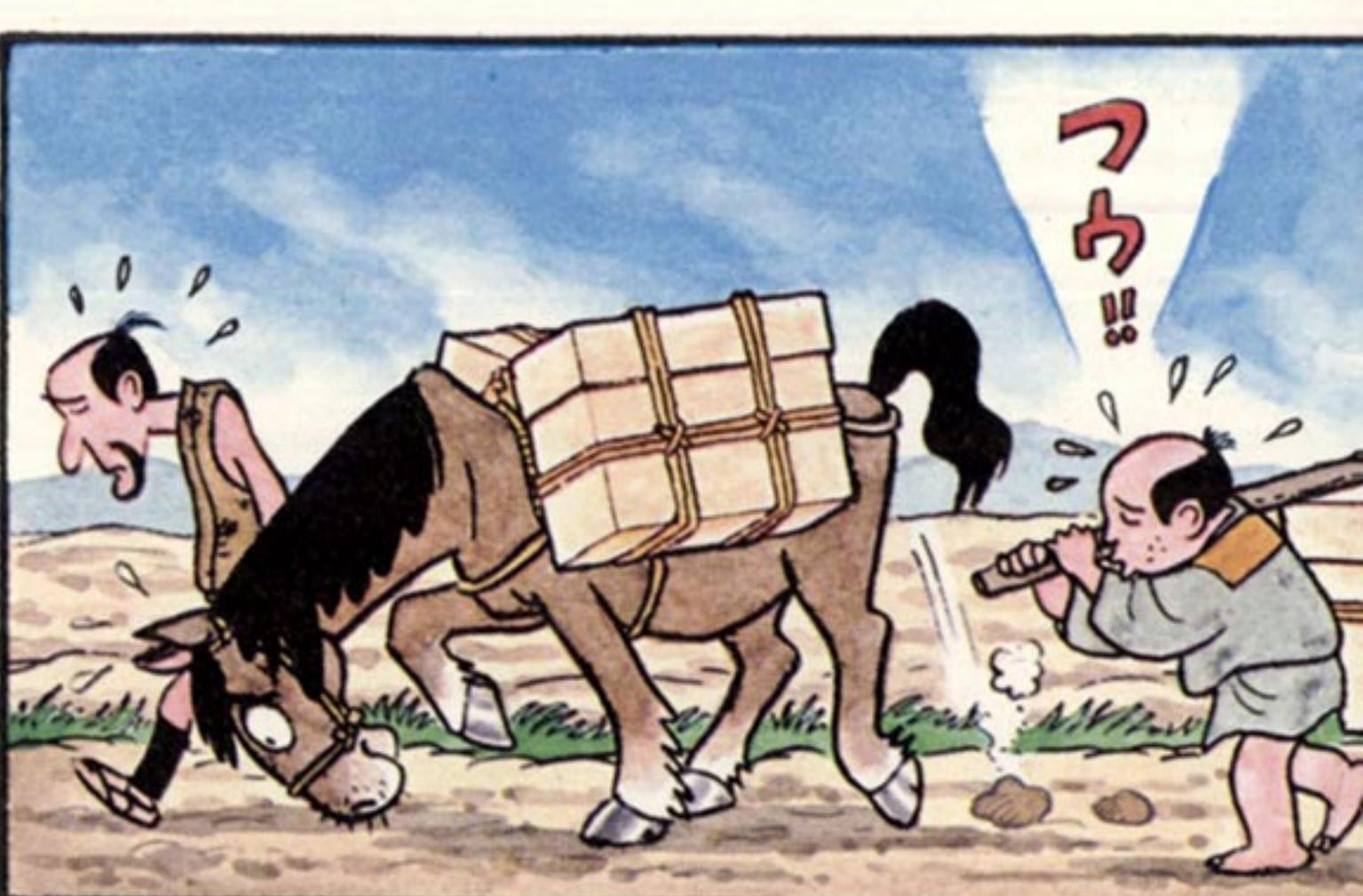


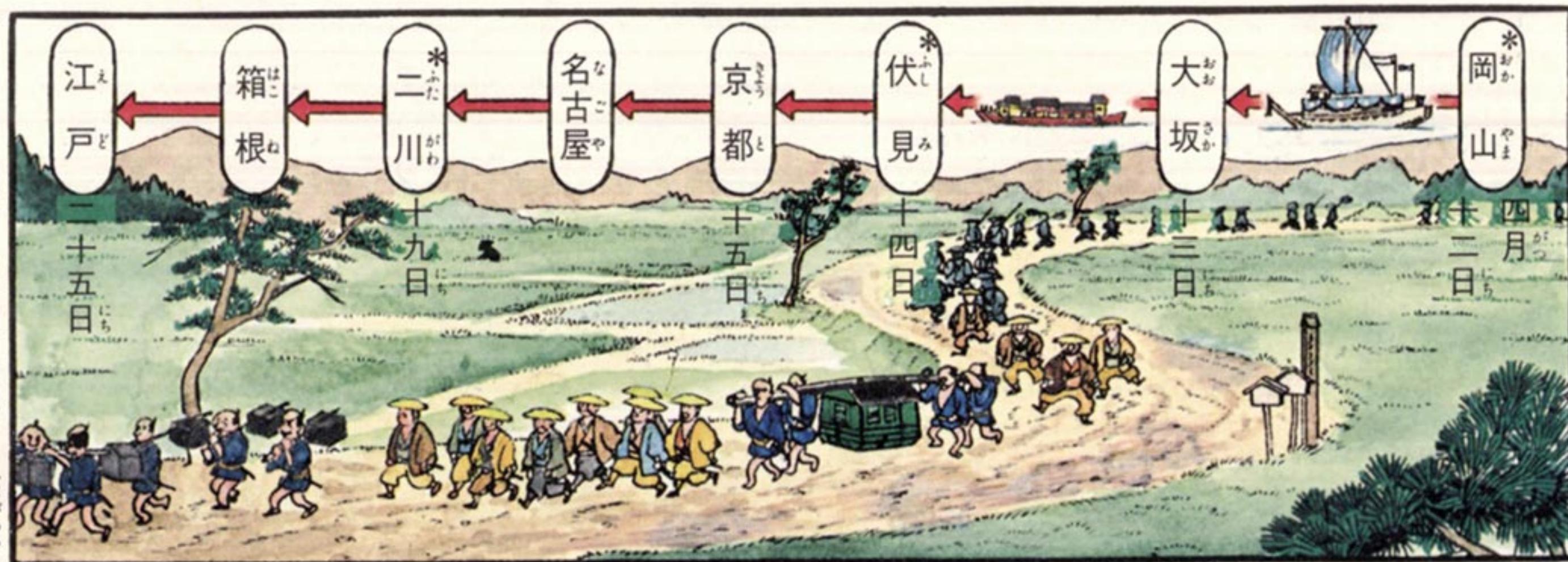
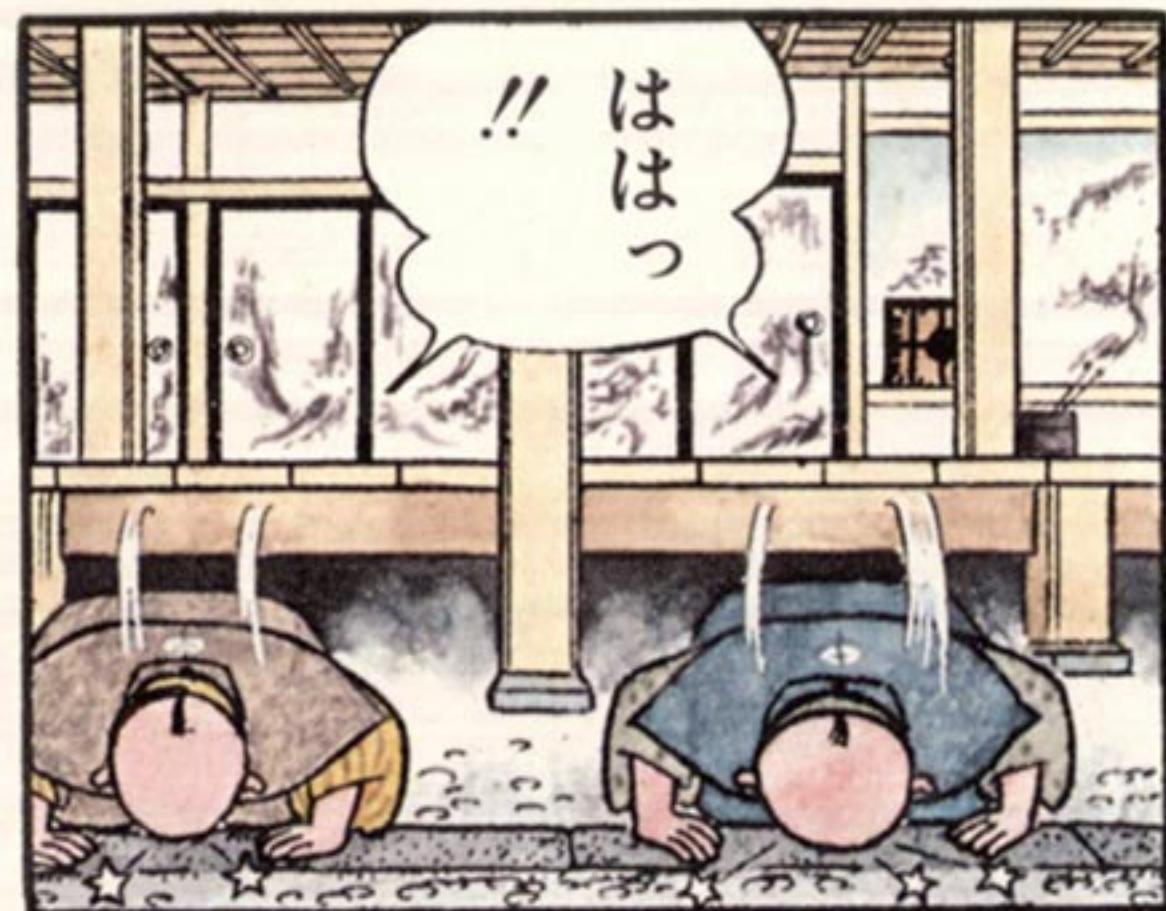
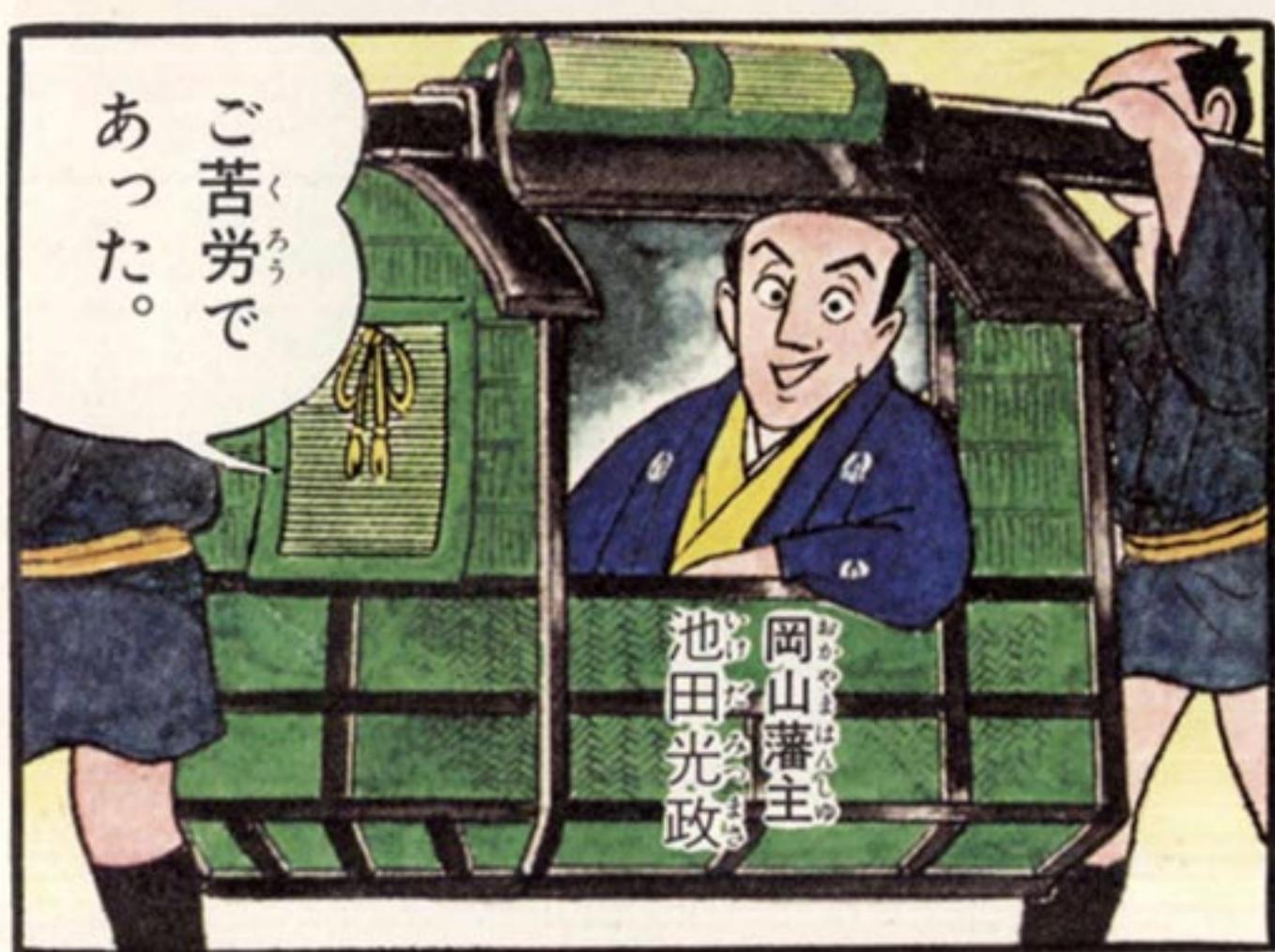
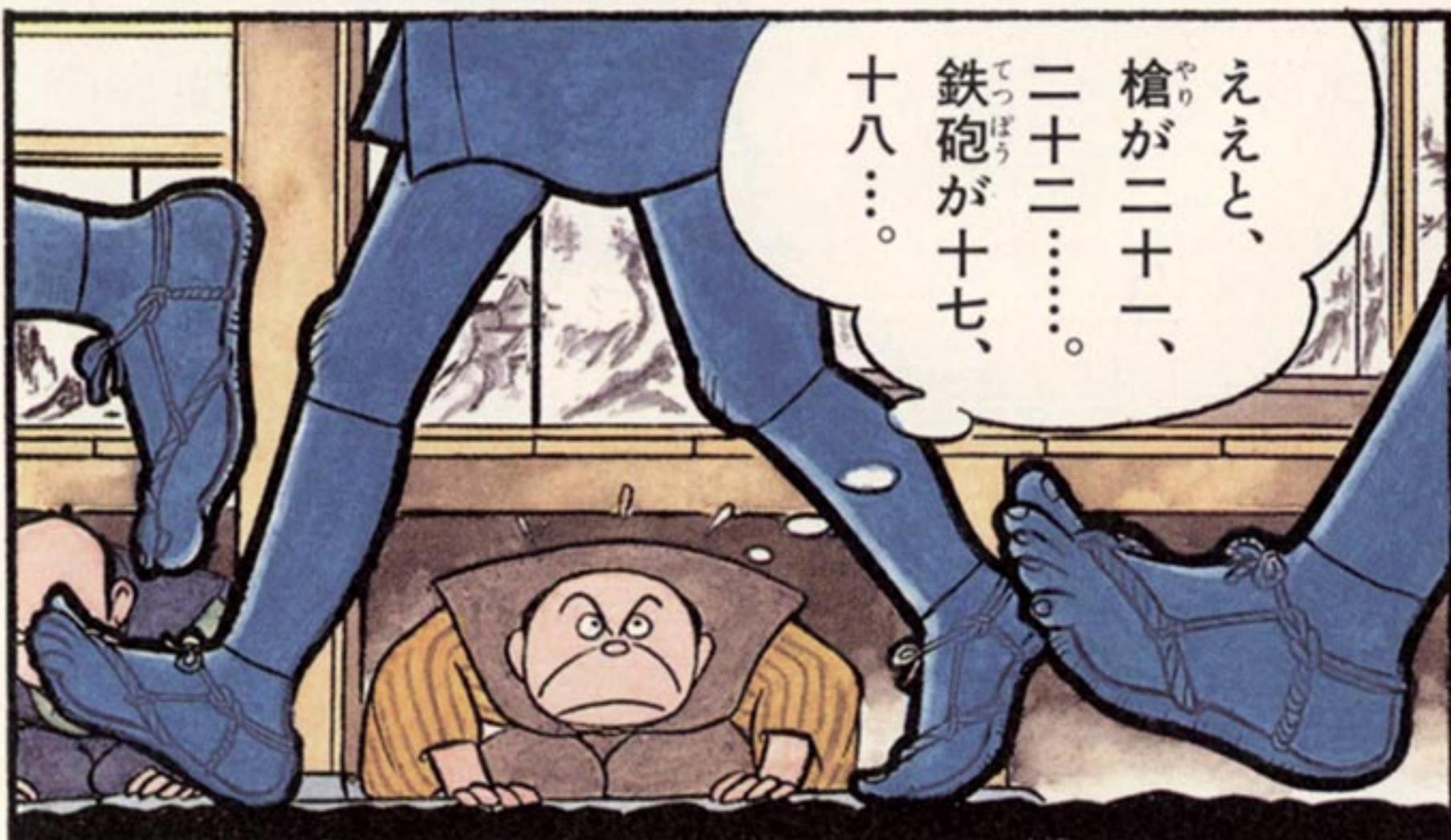


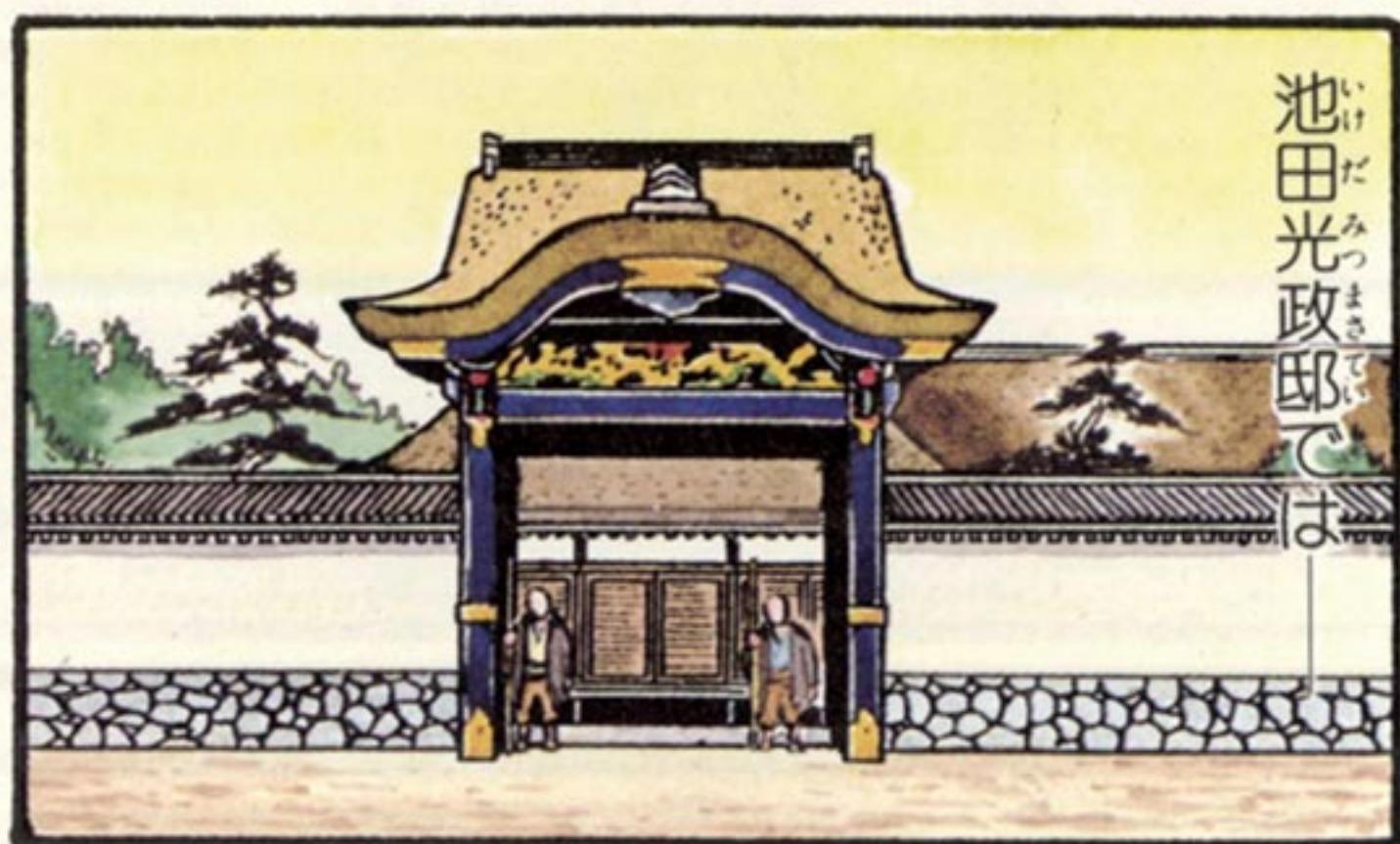


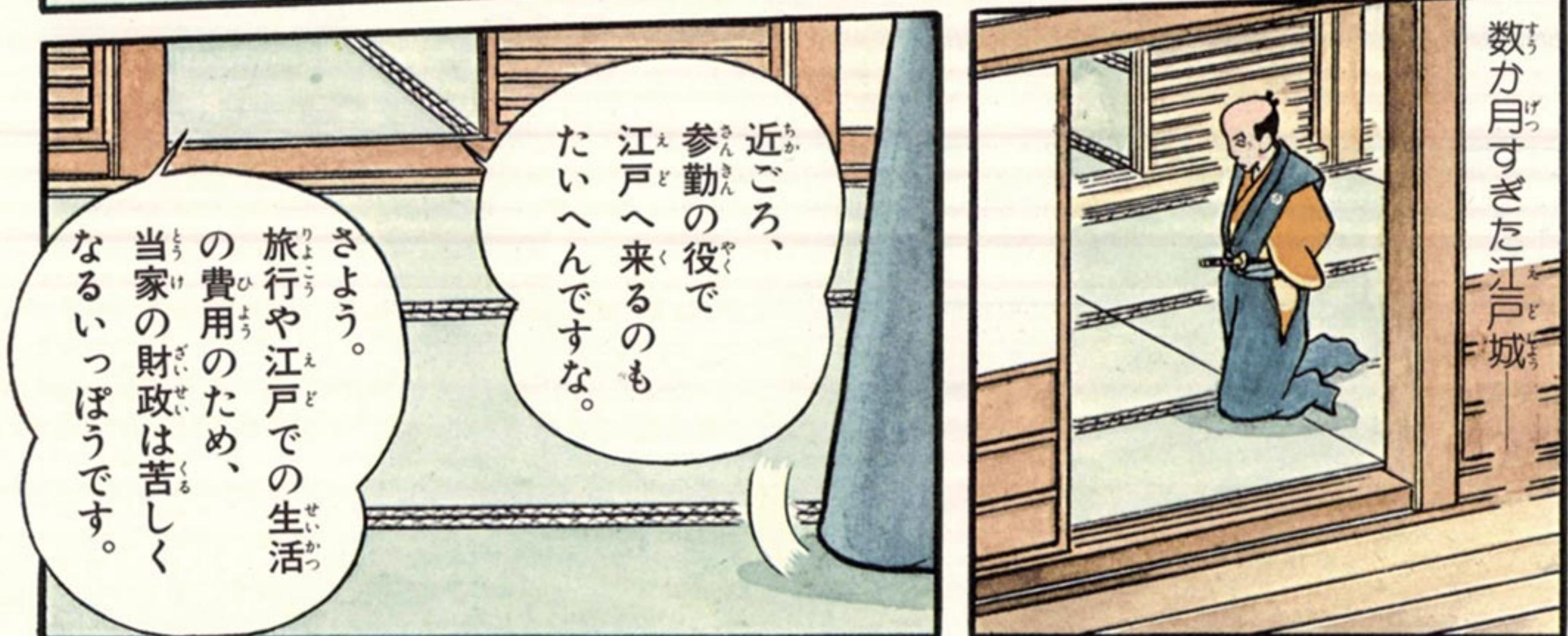
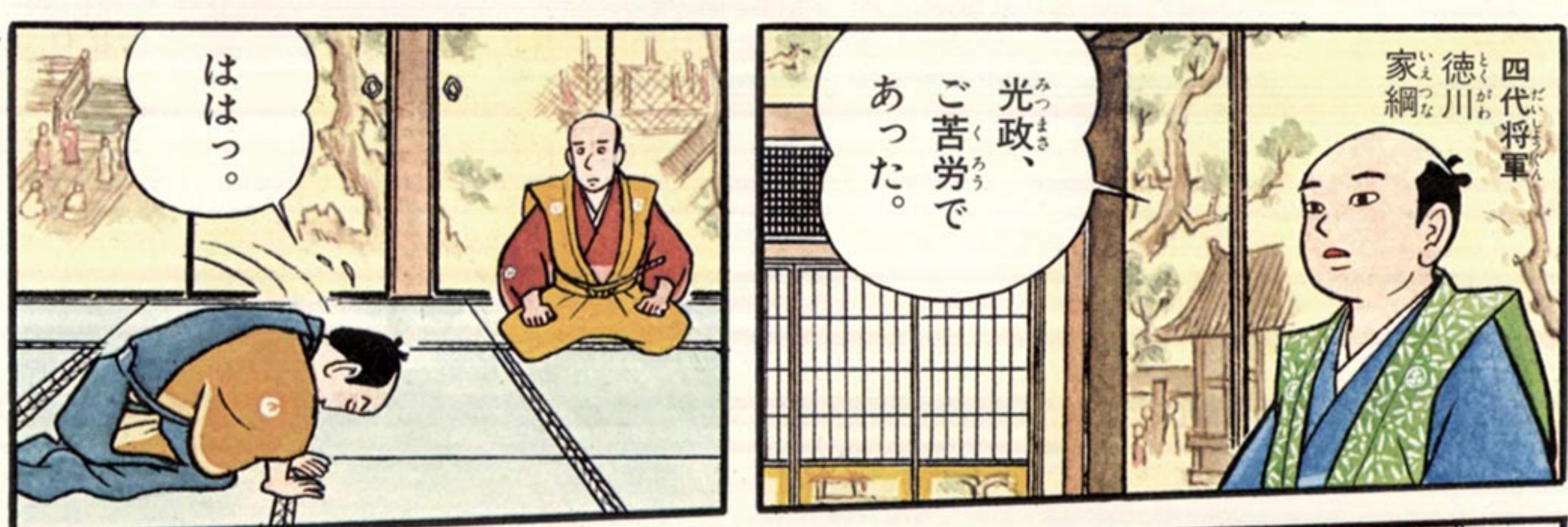
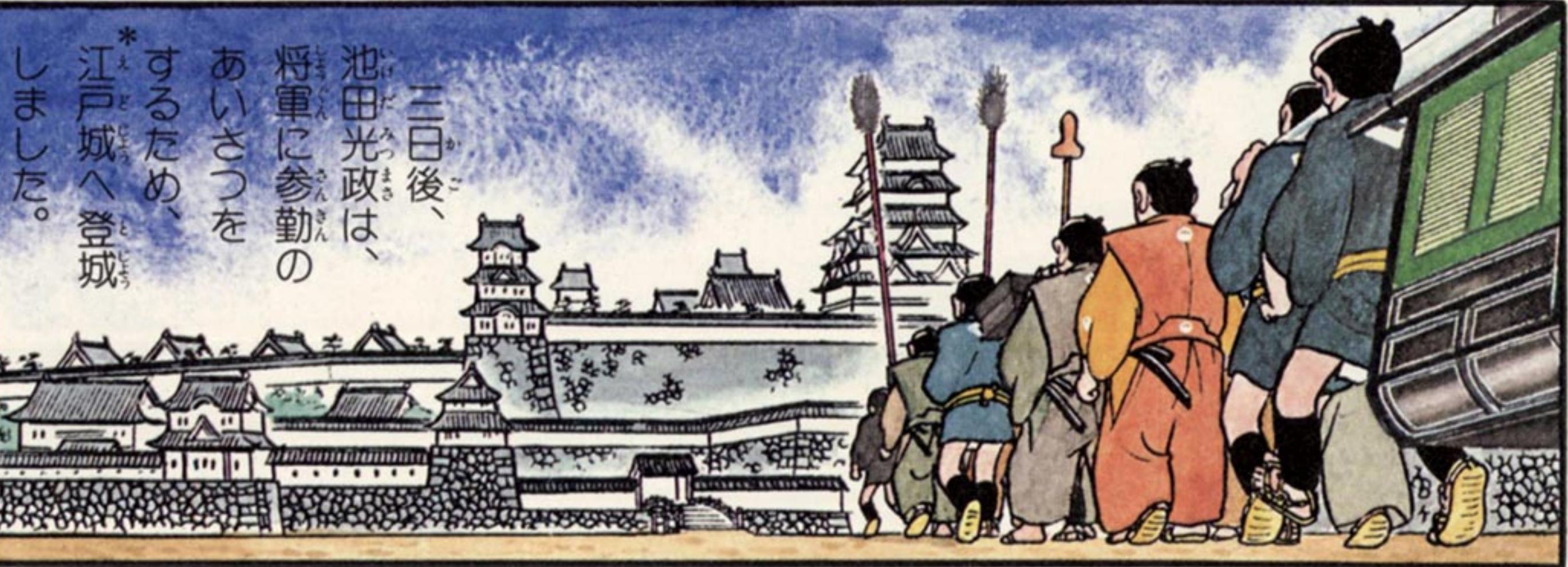


荷物を宿駅から次の宿駅には
こぶために、幕府は街道の各宿
に人馬をおきました（東海道五百
人・馬百頭、中山道五十人、馬
五十頭）。しかし交通量の増大
にともなつて、宿場近郷の農民
たちもかり出されるようになりました。これを助郷とよびます。
参勤交代の時期が四月の農繁期
にあたつたため、助郷は農民に
とつて大きな負担でした。



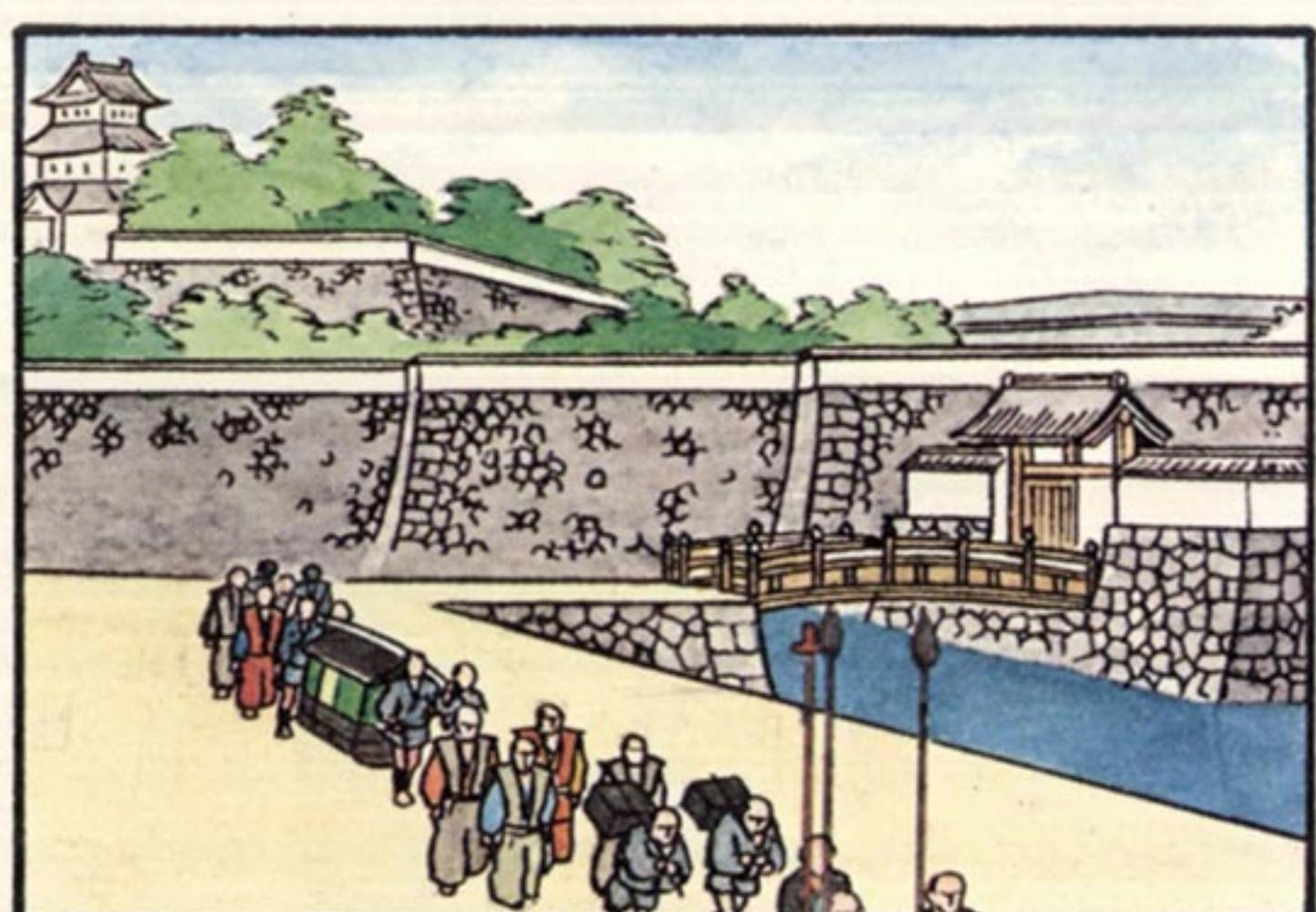
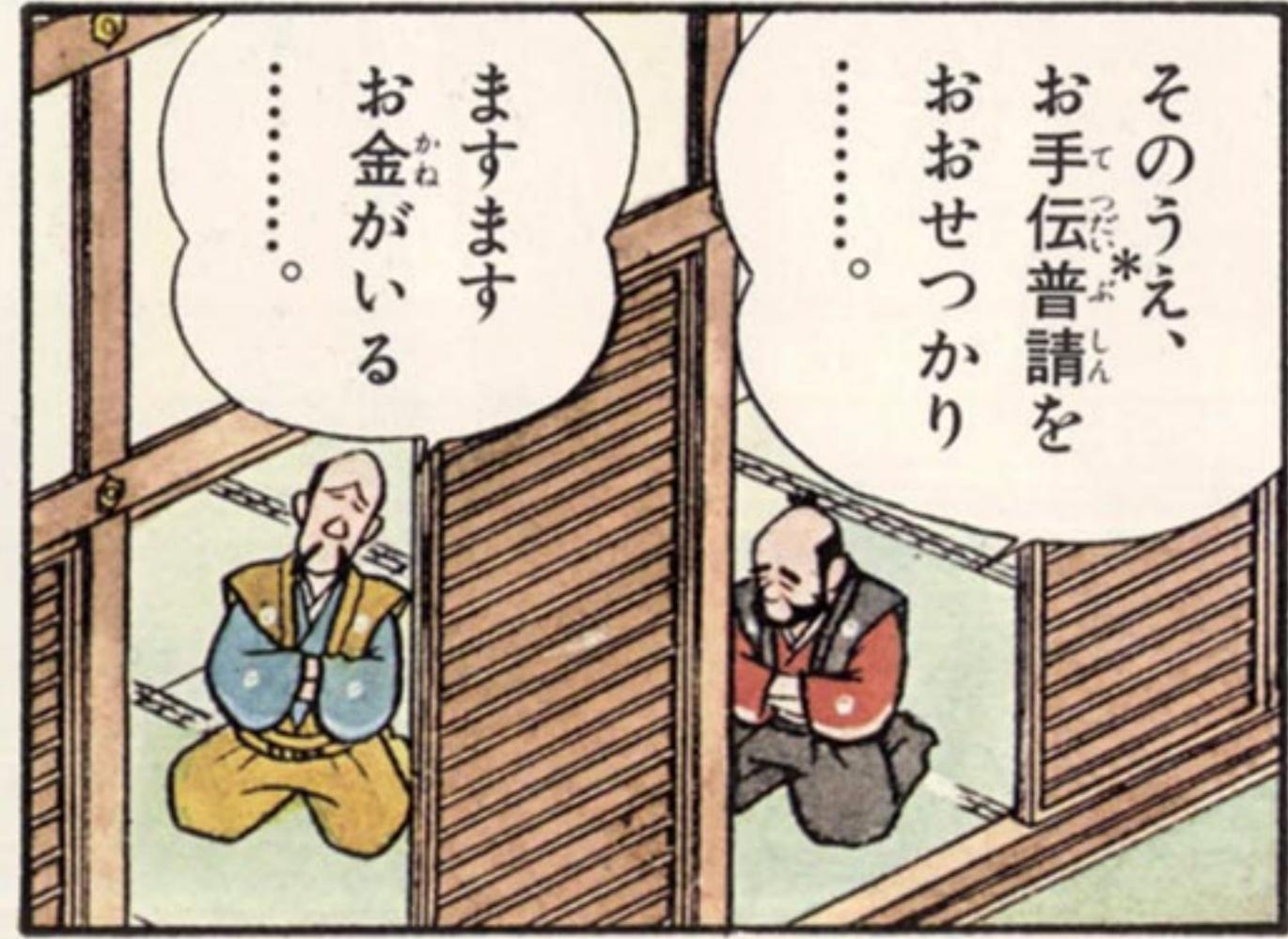


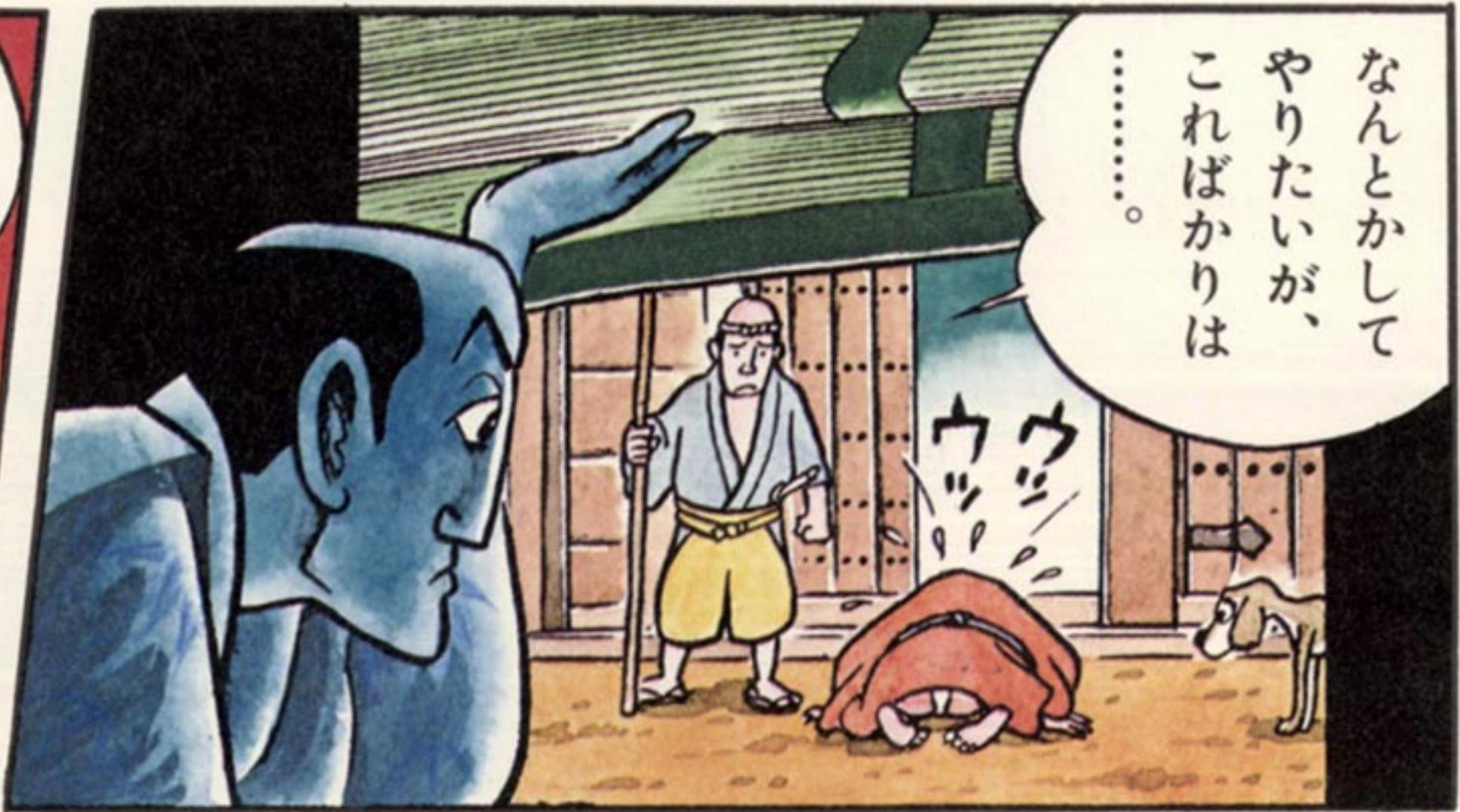
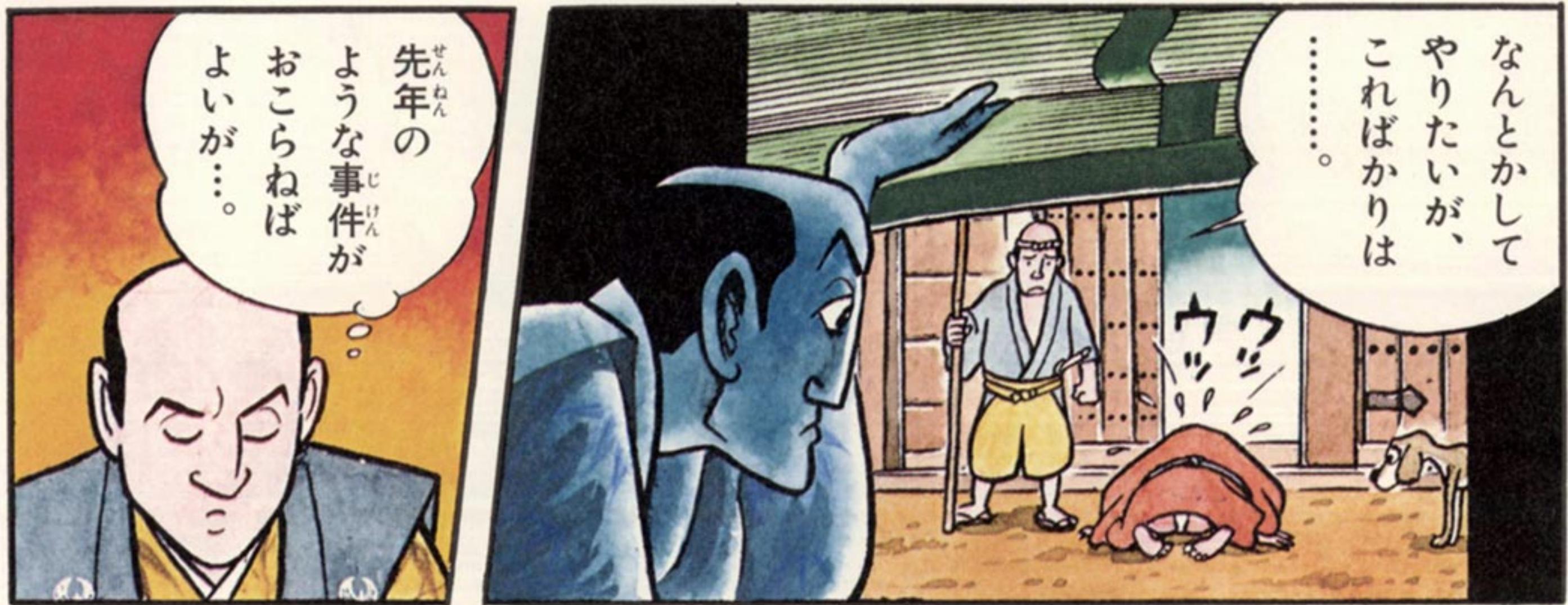




*普請：土木工事。

*改易：武士としての身分をうばい、領地・屋敷をとりあげること。





* 武家諸法度：江戸幕府が大名統制のために出した基本法。

わしのところは、
武家諸法度に
違反したという
ことで改易になつた。

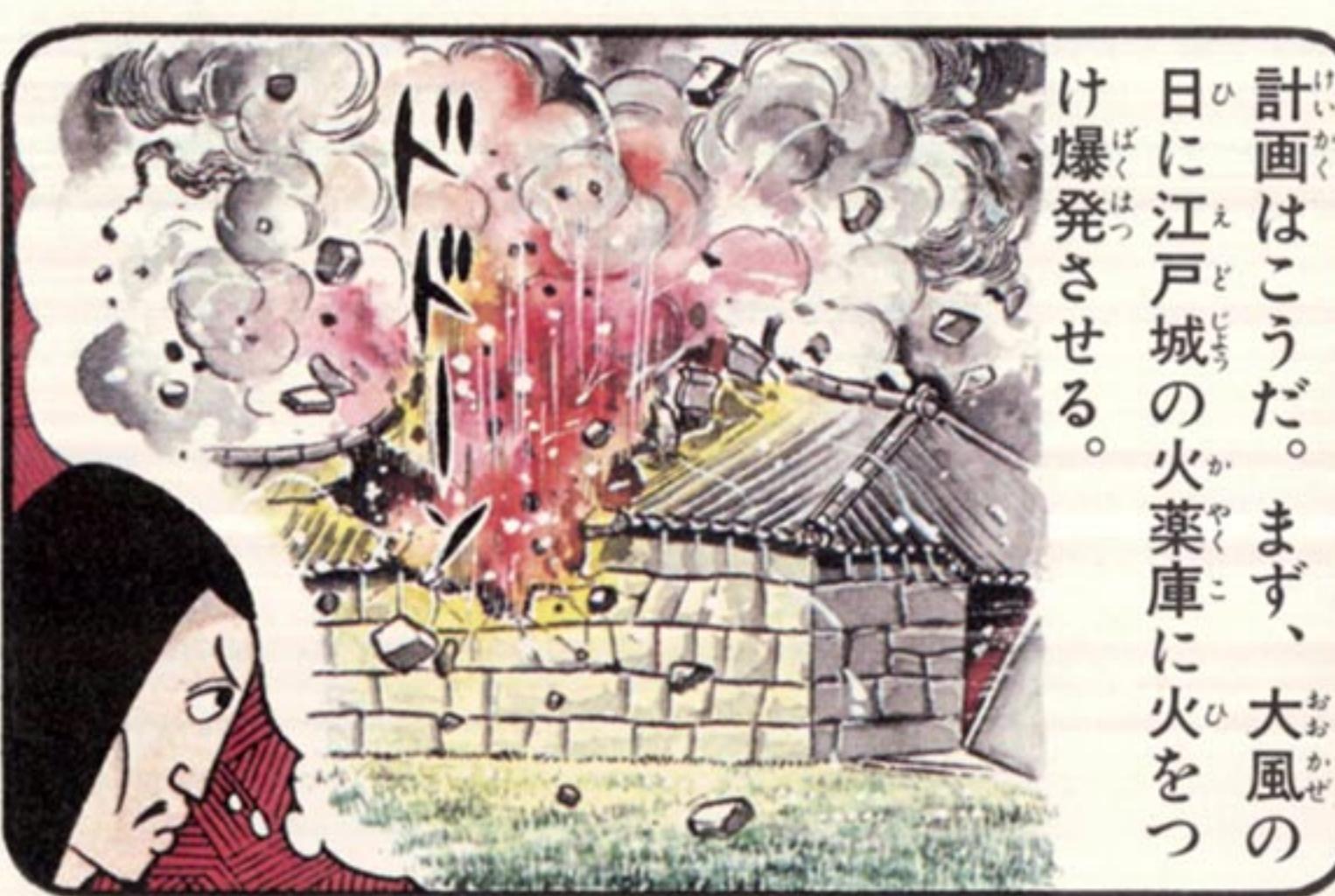
それも、
これも、
老中たちの
政治が
悪いのよ。

おれのところは、
あとつぎが
生まれなかつた
ためだ。

正雪さま、
われらは
どうすれば
よいので
しようか？

それ以外に
浪人をすぐう
道はない。

老中たちに
思い知らせて
やろう！



計画はこうだ。まず、大風の
日に江戸城の火薬庫に火をつ
け爆発させる。



その指揮は、
丸橋忠弥どのが
なされよ。

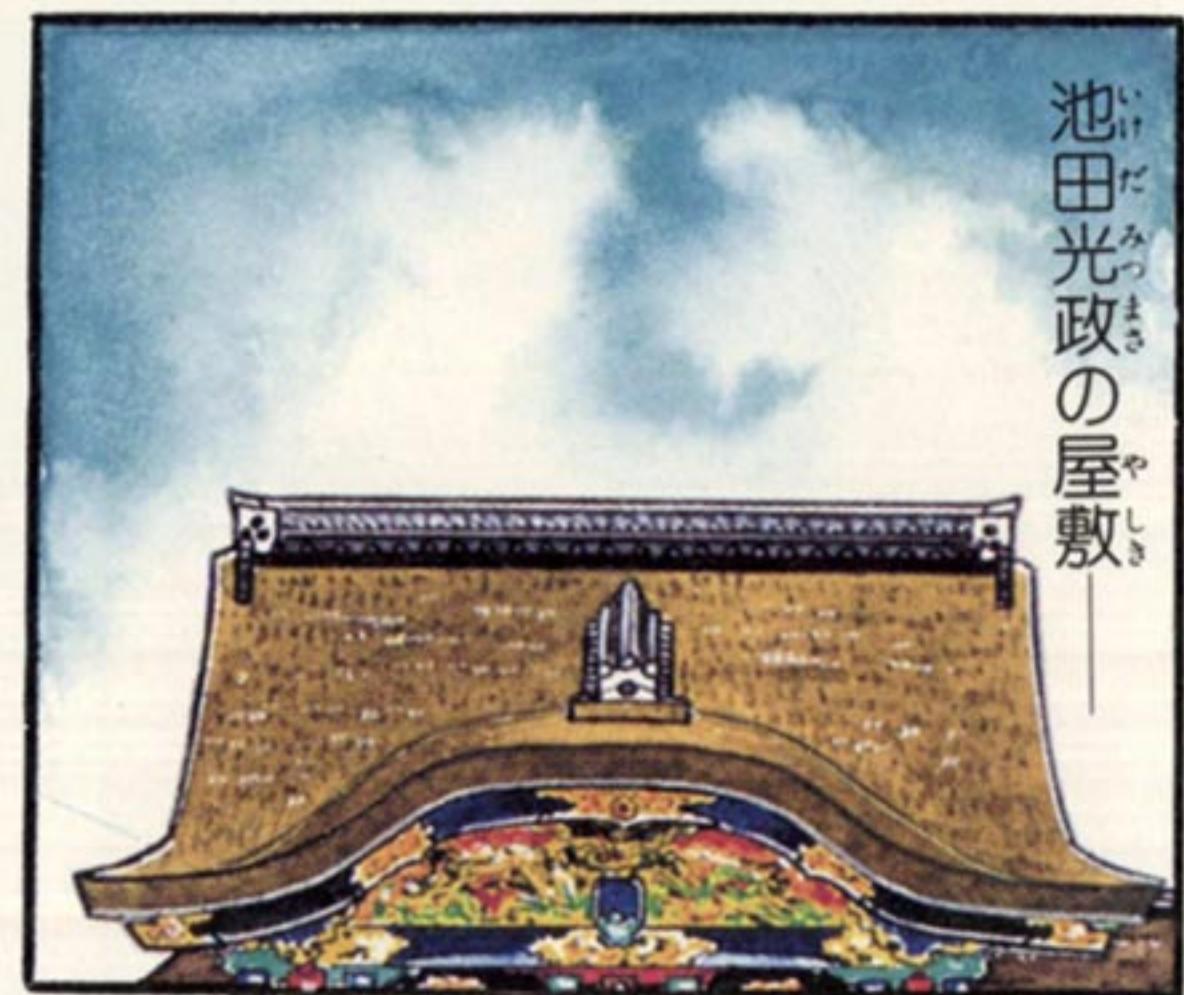


あわてて登城する老中たちを
鉄砲でうちとり、城内へ乱入
して占拠する。



*駿府城：静岡県静岡市にあった城。

徳川家康がきずいた城で、幕府がおさめていた。



活する諸大名は、
江戸屋敷で生
きの問い合わせ
や報告を見る毎
日がつづきます。

こまつてている
領民たちを、
すくつてやる
よう…。

去年の洪水で
こわれました
石垣の修復は、
まだかかりそう
です。

この手紙を
國もとへ
おくれ！

ついで、
ちょつと
ご相談を…。
新田の開発に

ははつ。



もうじき
年貢の時期だ。
今年の年貢は
どのくらいにな
なるかのう…。

ああ
いそがしい、
目がまわり
そうじゃ。

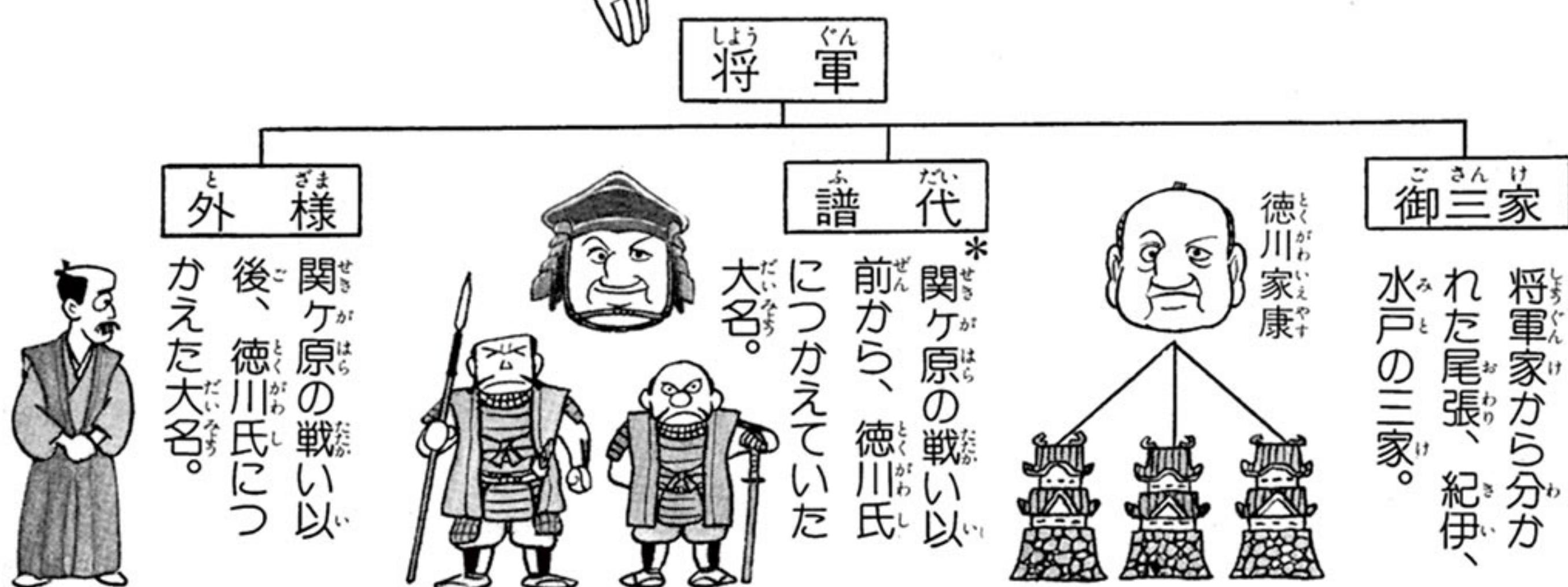


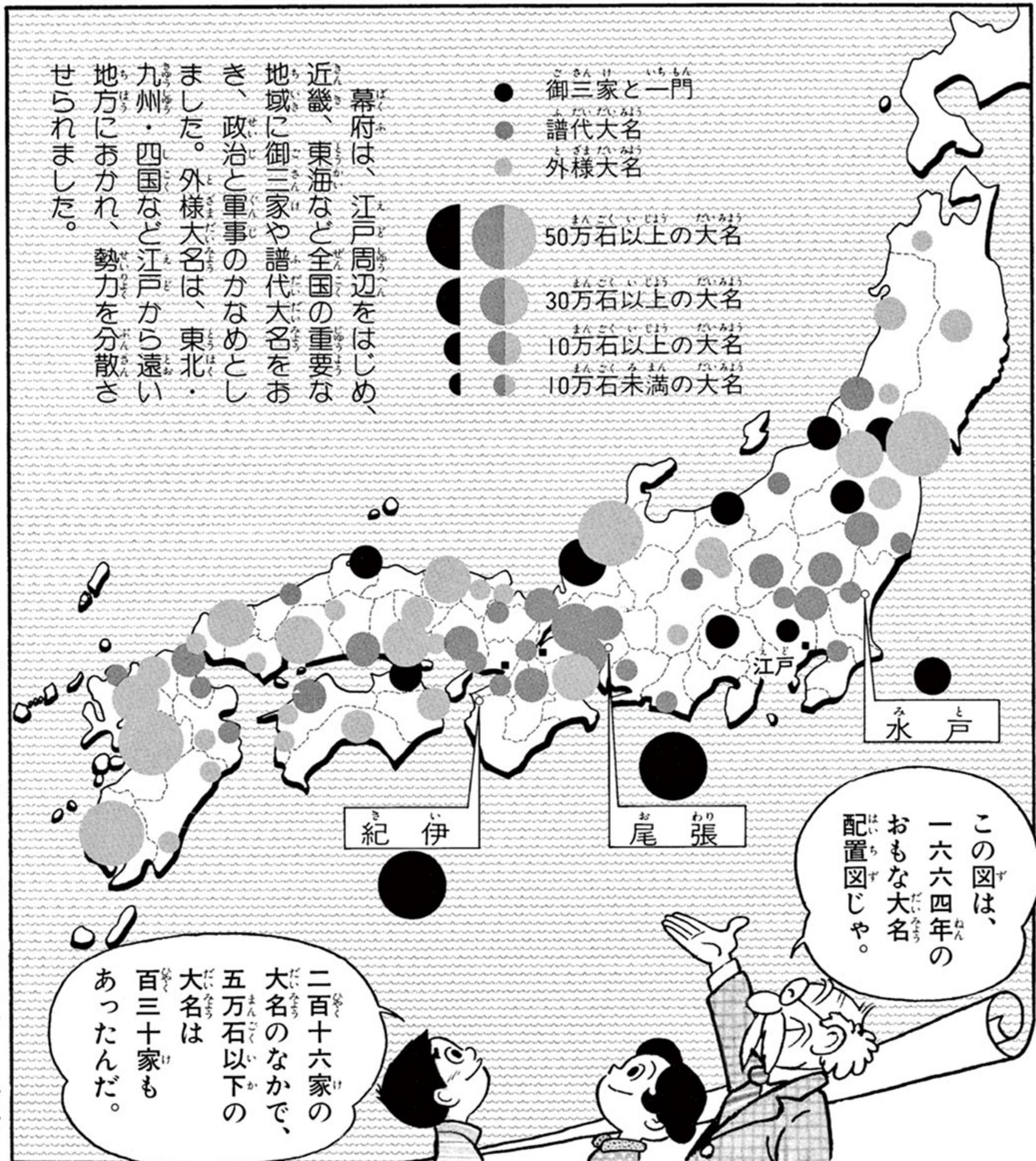
* 年が明けて、江戸城内では—



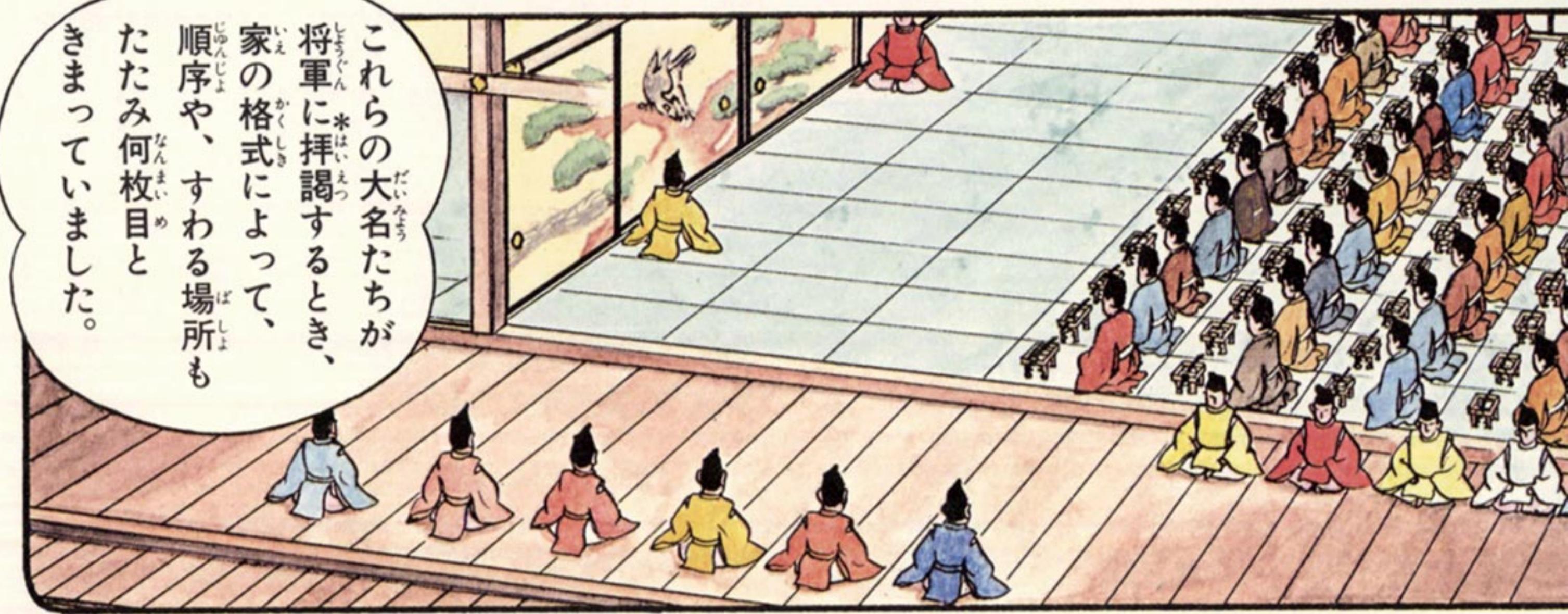
* 関ヶ原の戦い：一六〇〇年、徳川方と豊臣方の間でくりひろげられた戦い。

第十一卷第四章参照。





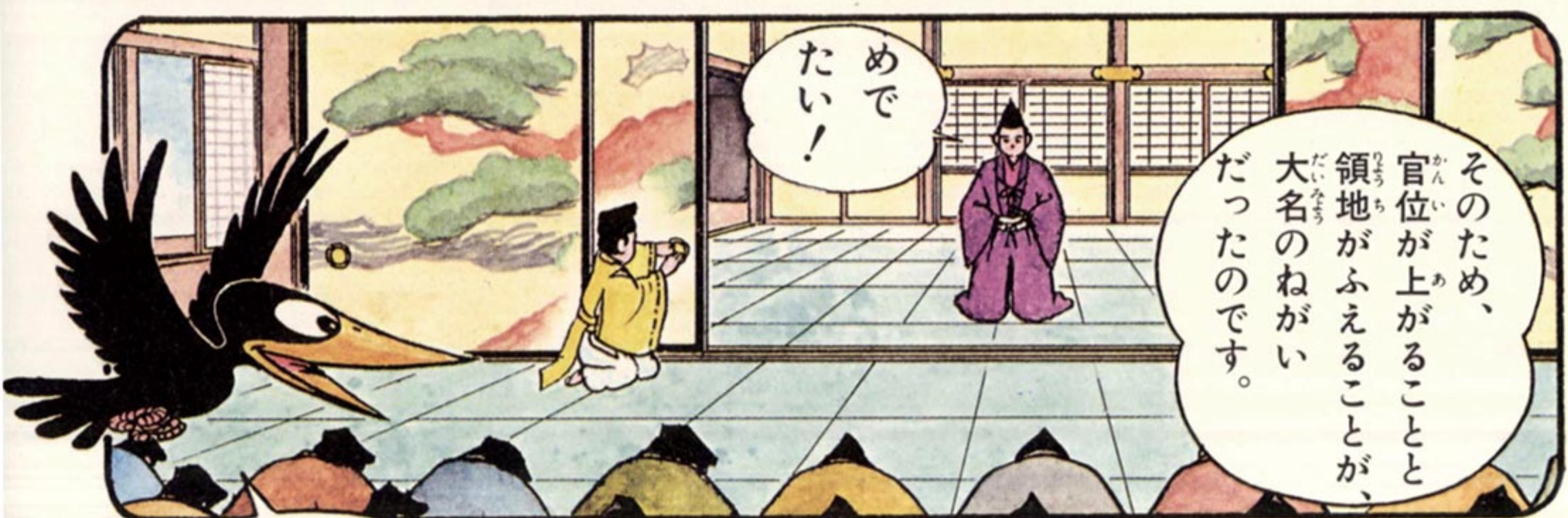
これらの大名たちが
将軍に拝謁するとき、
家の格式によつて、
順序や、すわる場所も
たたみ何枚目と
きまつっていました。



めで
たい！

そのため、
官位が上がるこどと
領地がふえることが、
だつたのです。
大名のねがい

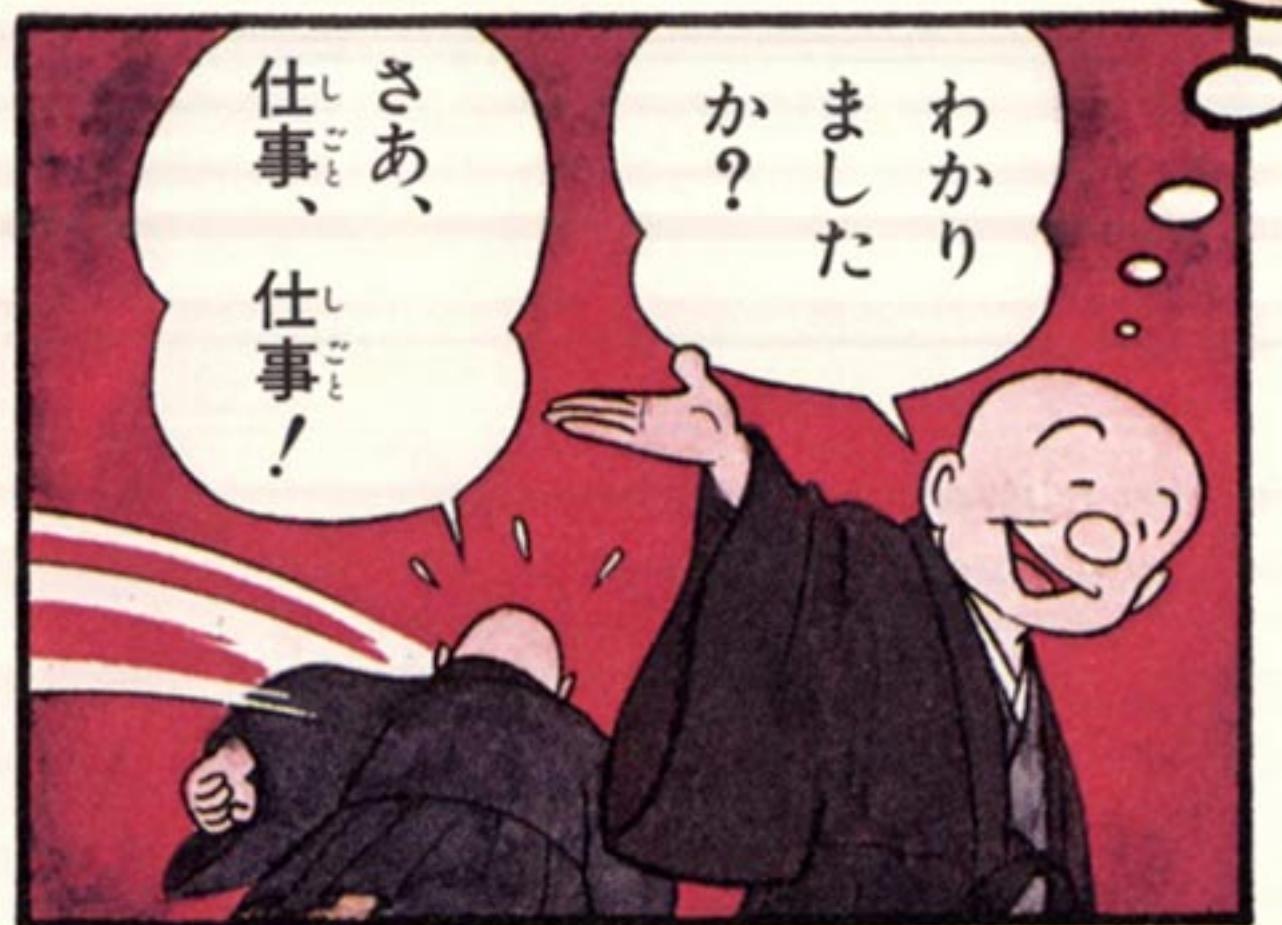
殿との國に
さまとよばれて
いばついていても、
江戸にいるときは、
ずいぶんかわいそ
な生活だなあ。



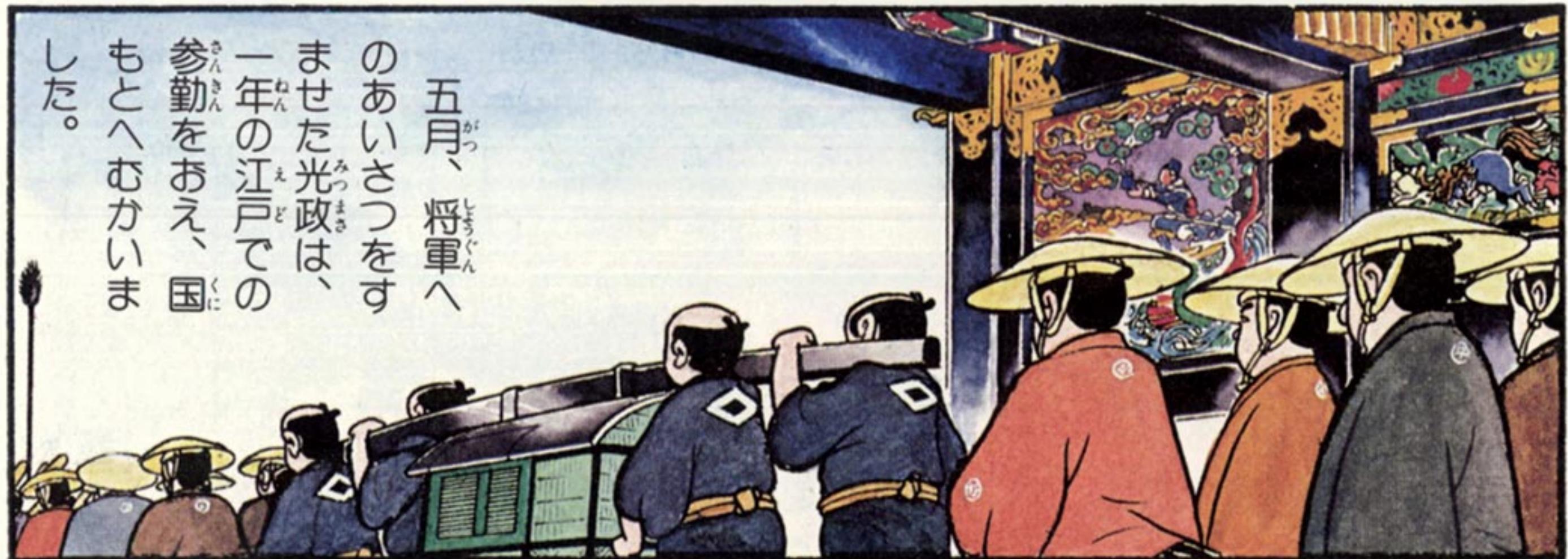
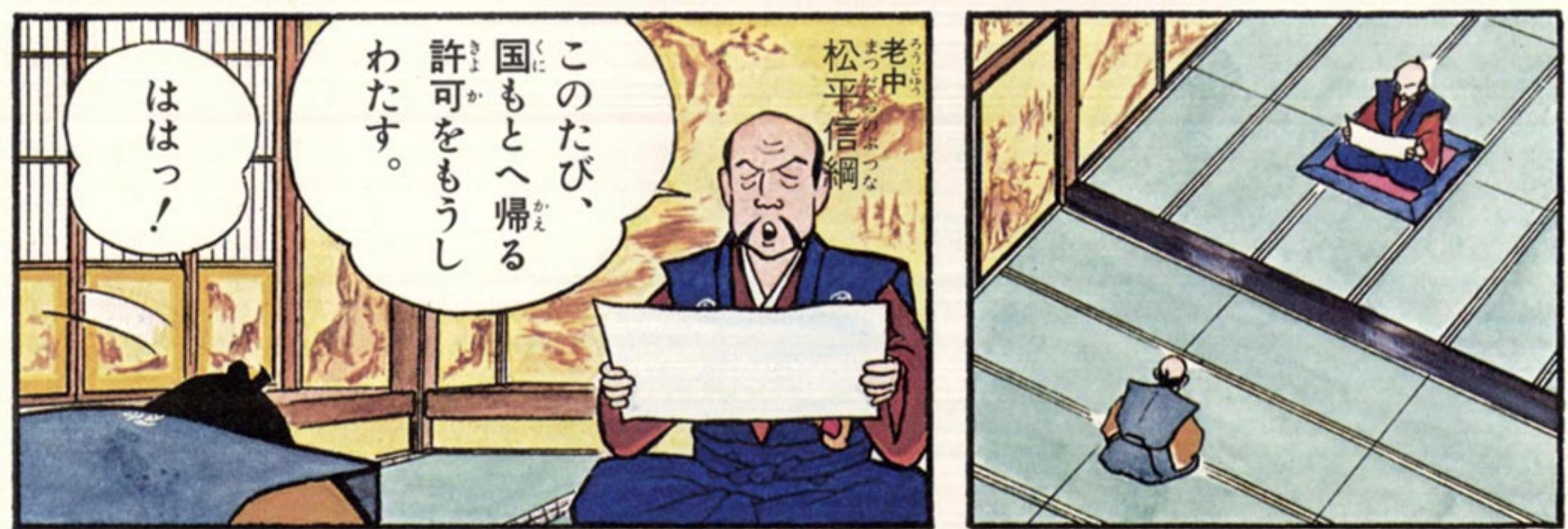
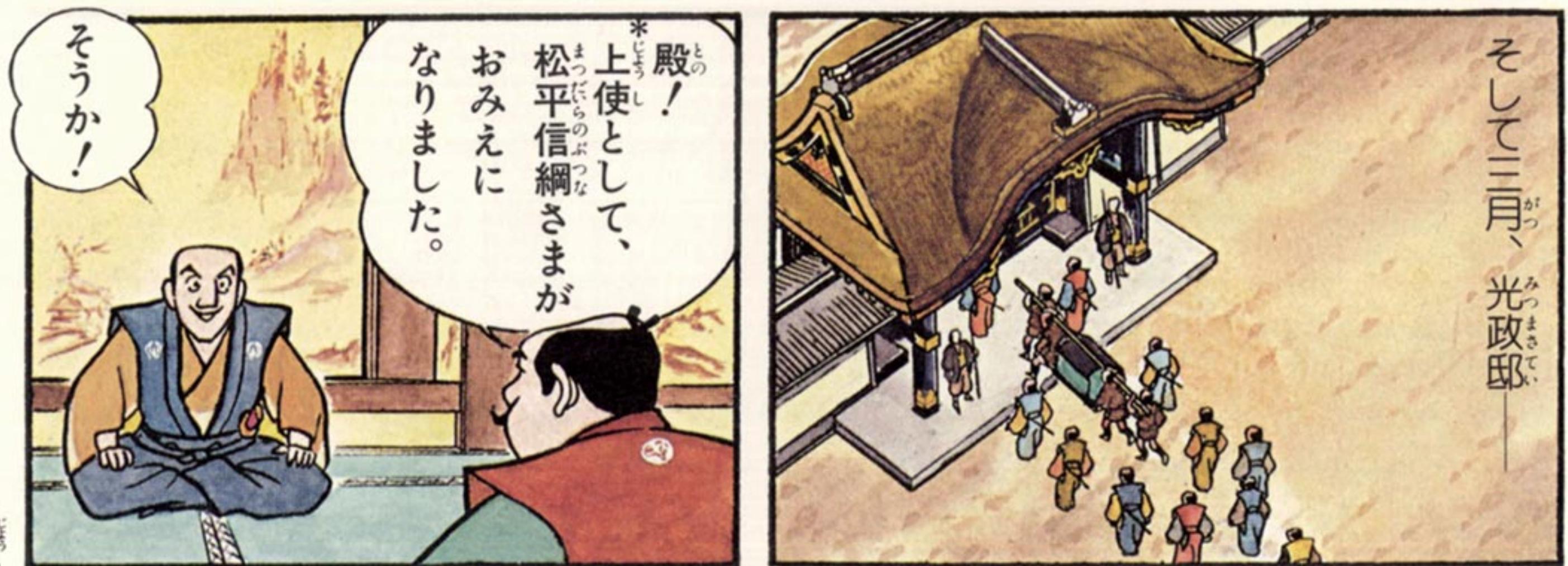
儀式もあわつて

さあ、
仕事、仕事！

わかり
ました
か？



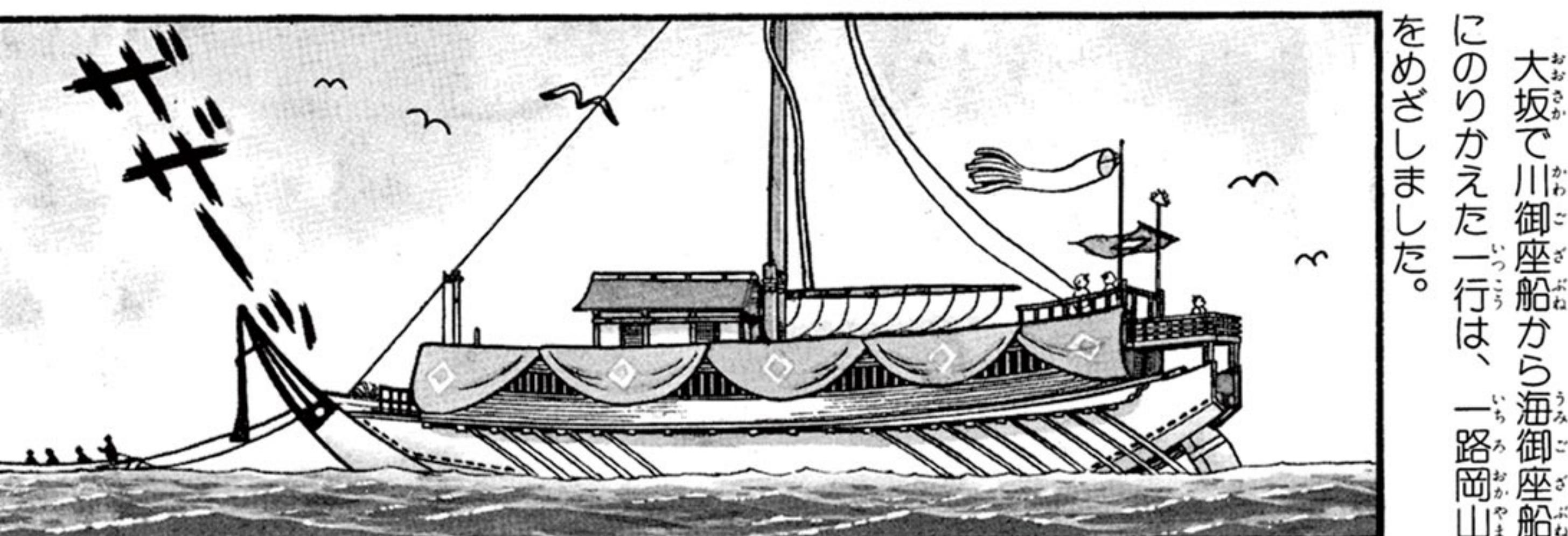
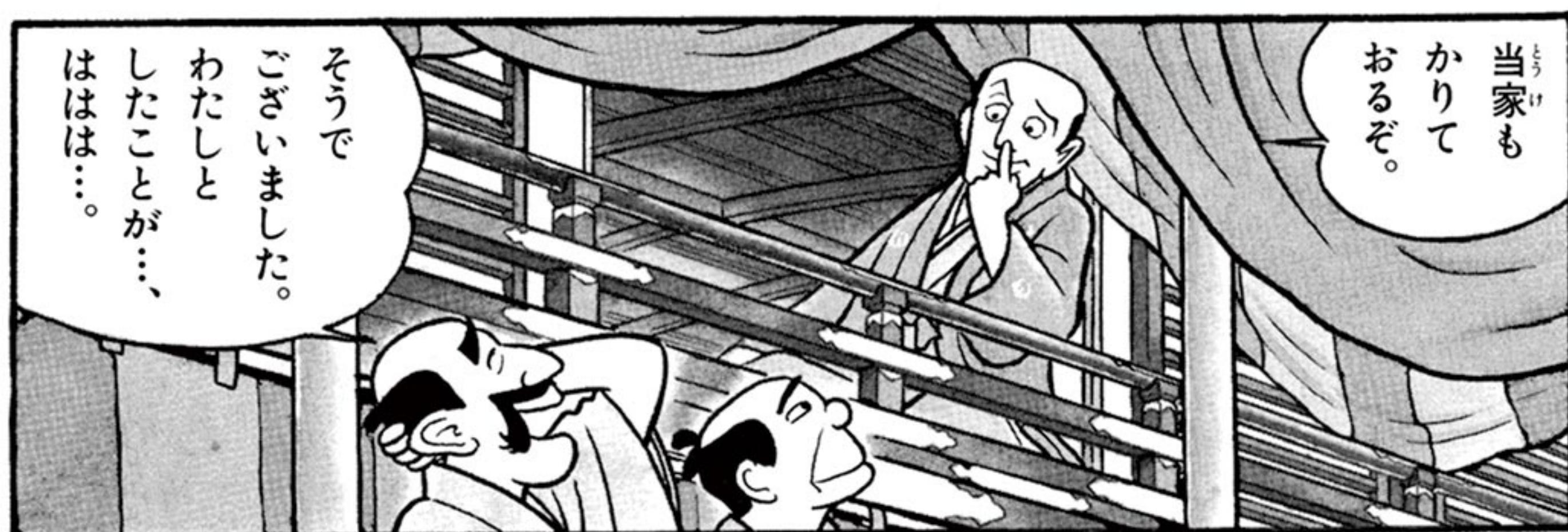
* 拝謁：身分の高い人にお目にかかること。

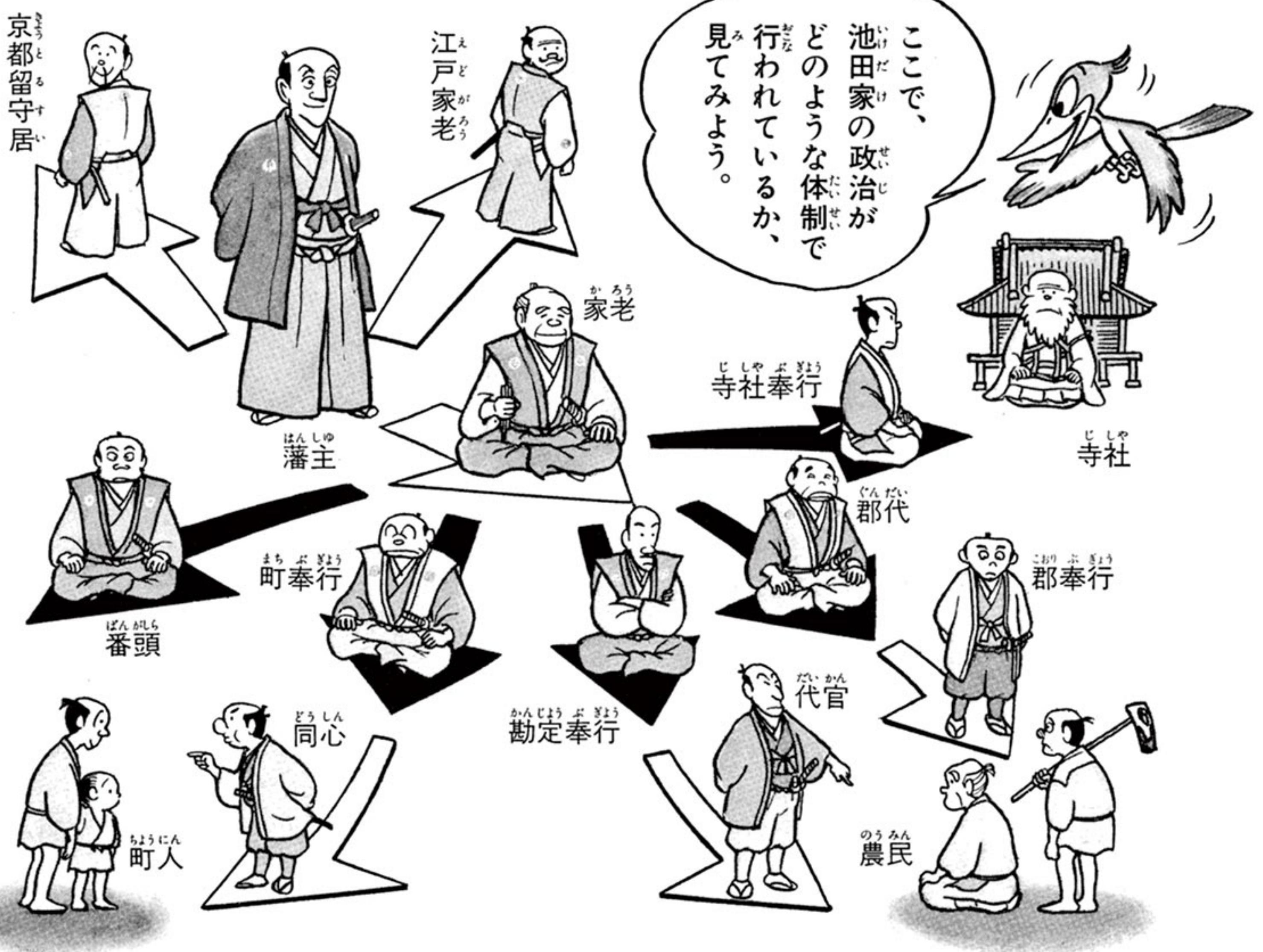
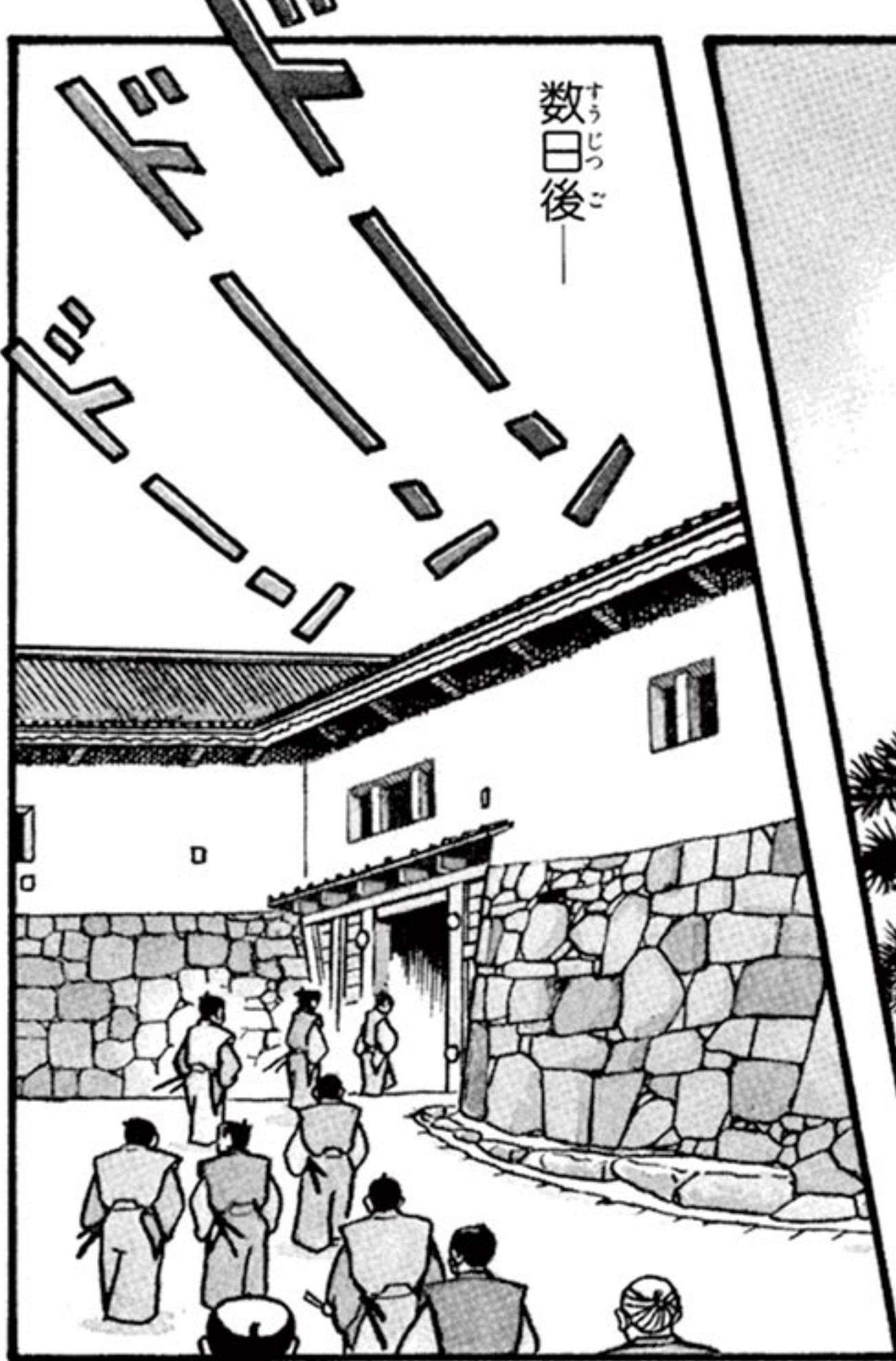


*上使：江戸幕府が、諸大名などへ将軍の命令をつたえるために派遣した使者。

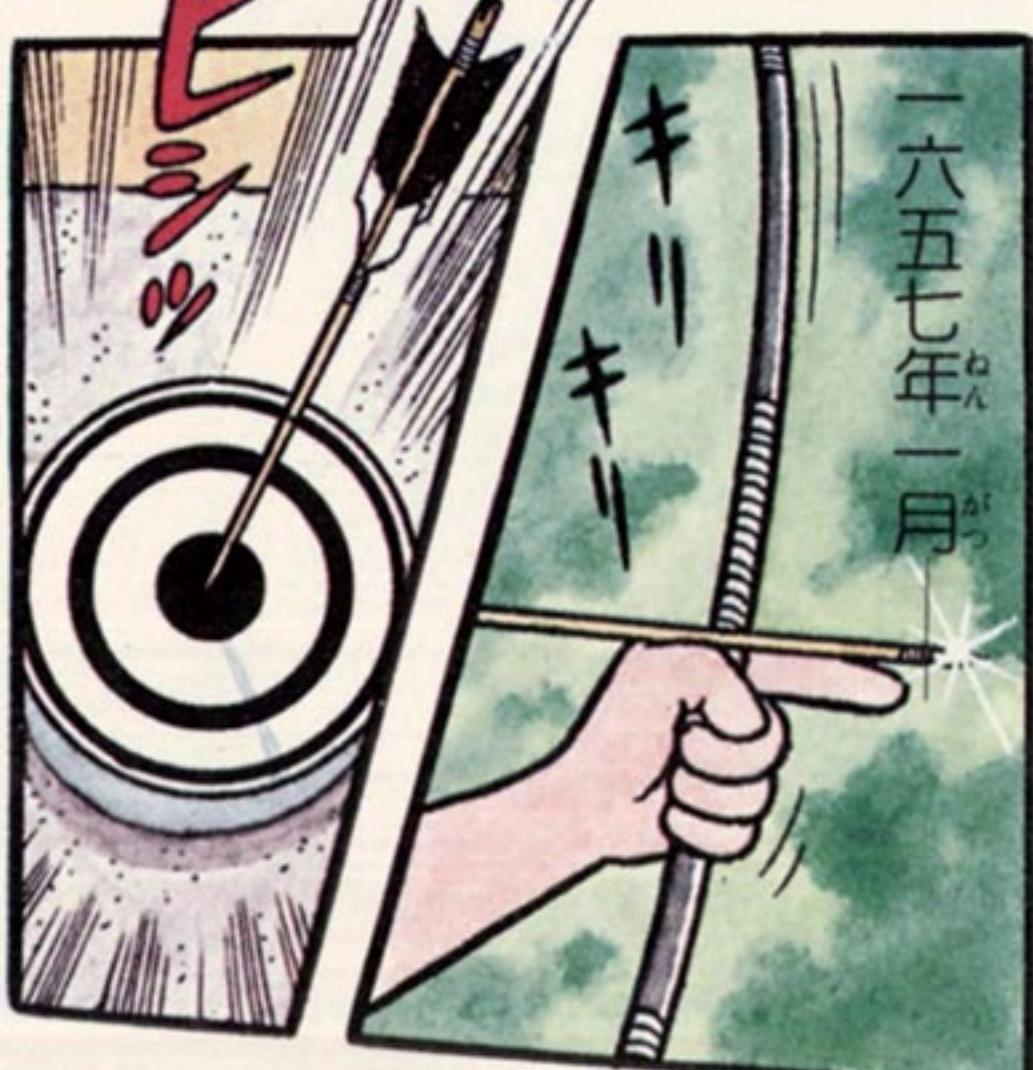
*御座船：屋根のついた屋形船で、貴人がのった船。

一行は、江戸城から伏見までは陸路で、伏見からは川御座船で大坂へむかいました。



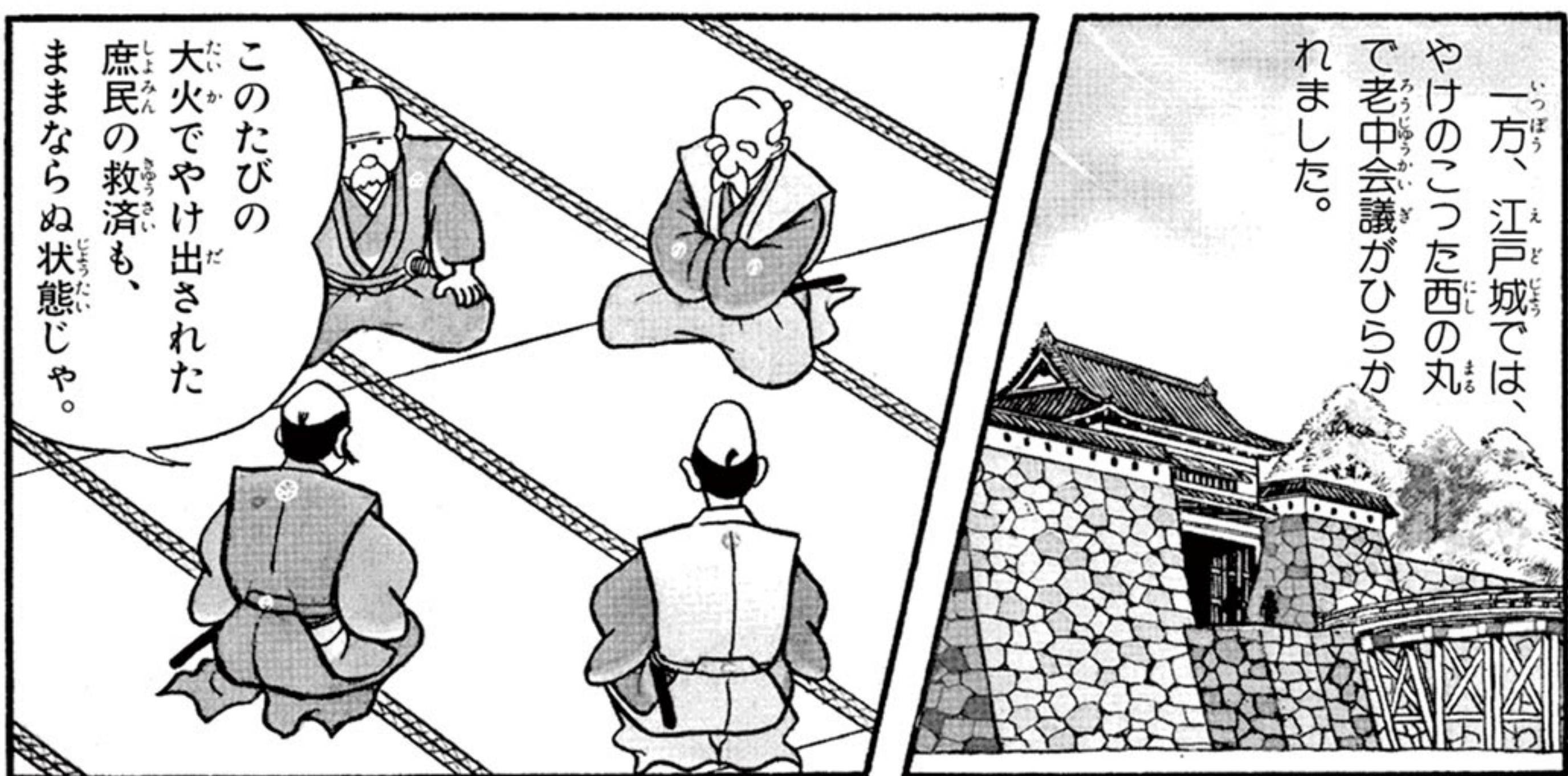


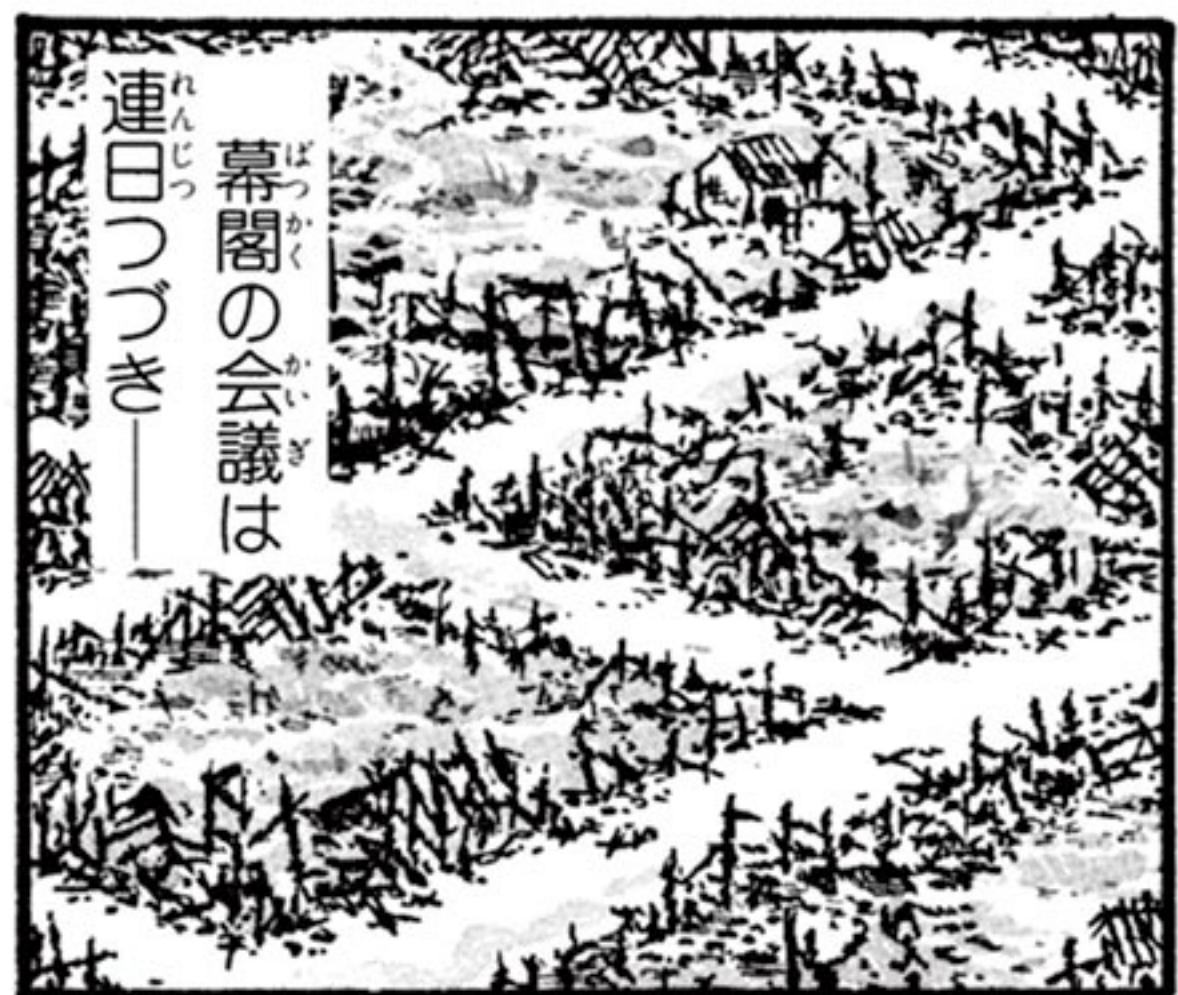




*西の丸：城の西部の一郭。

*旗本：江戸時代の武士の階級の一つ。将軍の直属の家臣団のうち、一万石以下、五百石以上の者。





連日つづき

幕閣の會議は



そのうえ、
多くの大名も
やけ出され、
すむ所もない
あります…。



これから
参勤してくる大名には、
まず、火事にあつた
大名には、
帰国を命じ
よう。

延期を命じては
いかがかな。
たちには、一年の



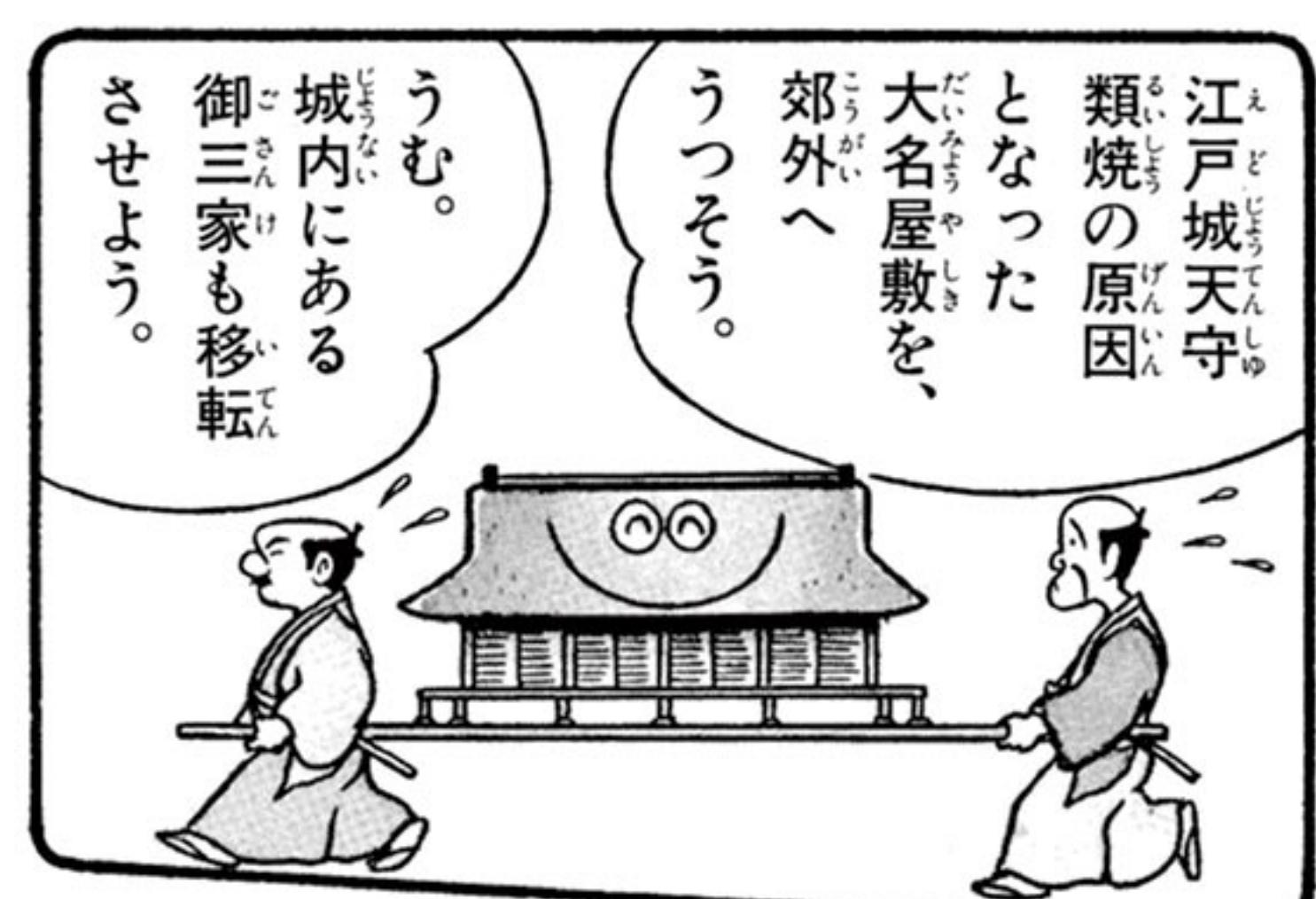
江戸の
再建案

そして――



江戸の
町にも、
火除地

をつくらな
ければ



江戸城天守
となつた
大名屋敷を、
郊外へ
うつそう。

城内にある
御三家も移転
させよう。

うむ。



それは
良い考
えだ。
さつそく
実行し
よう。

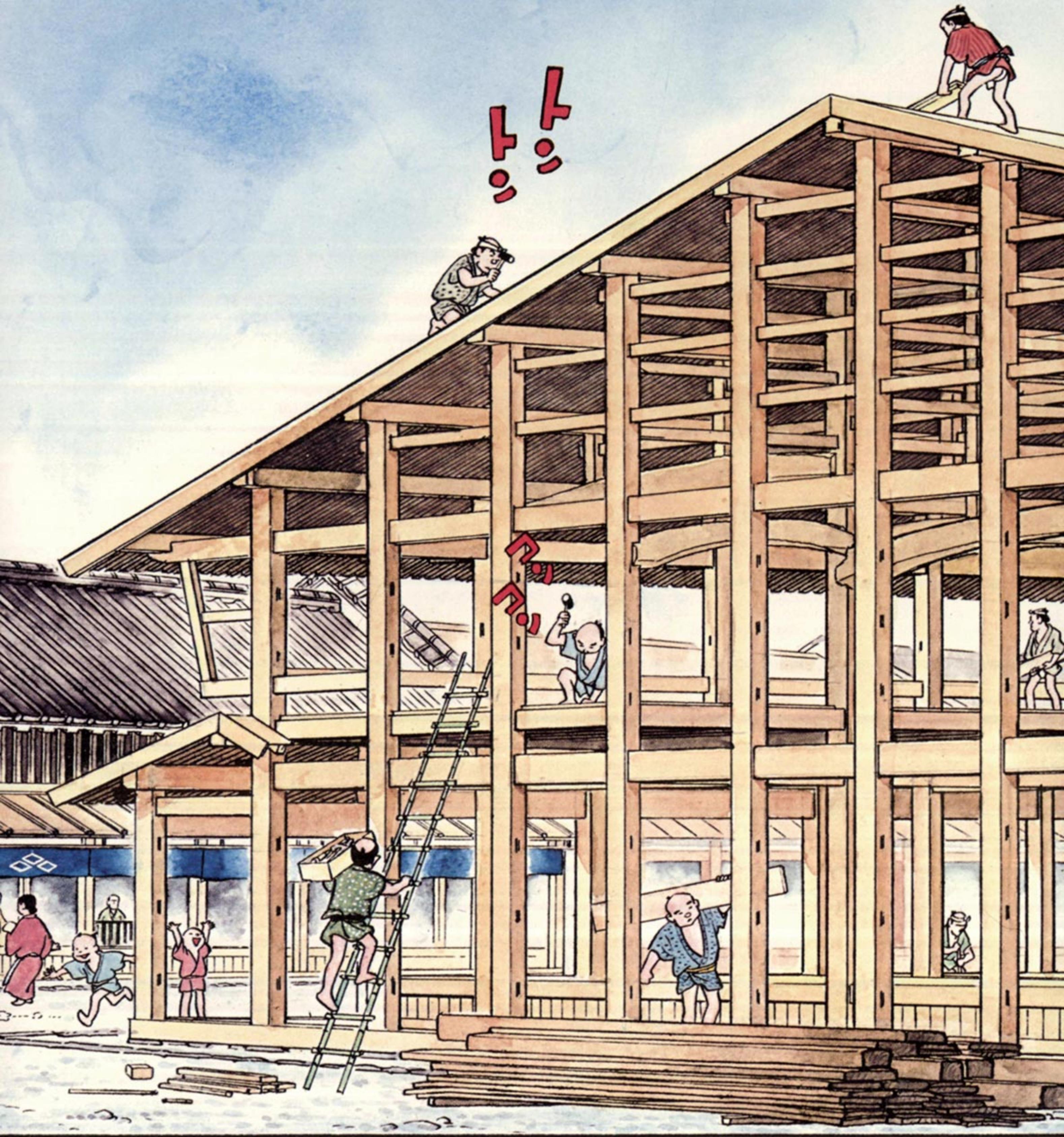
橋を
かけよう。
じょうぶな

死んだ。
ために、
多くの人が

*隅田川に
橋がない

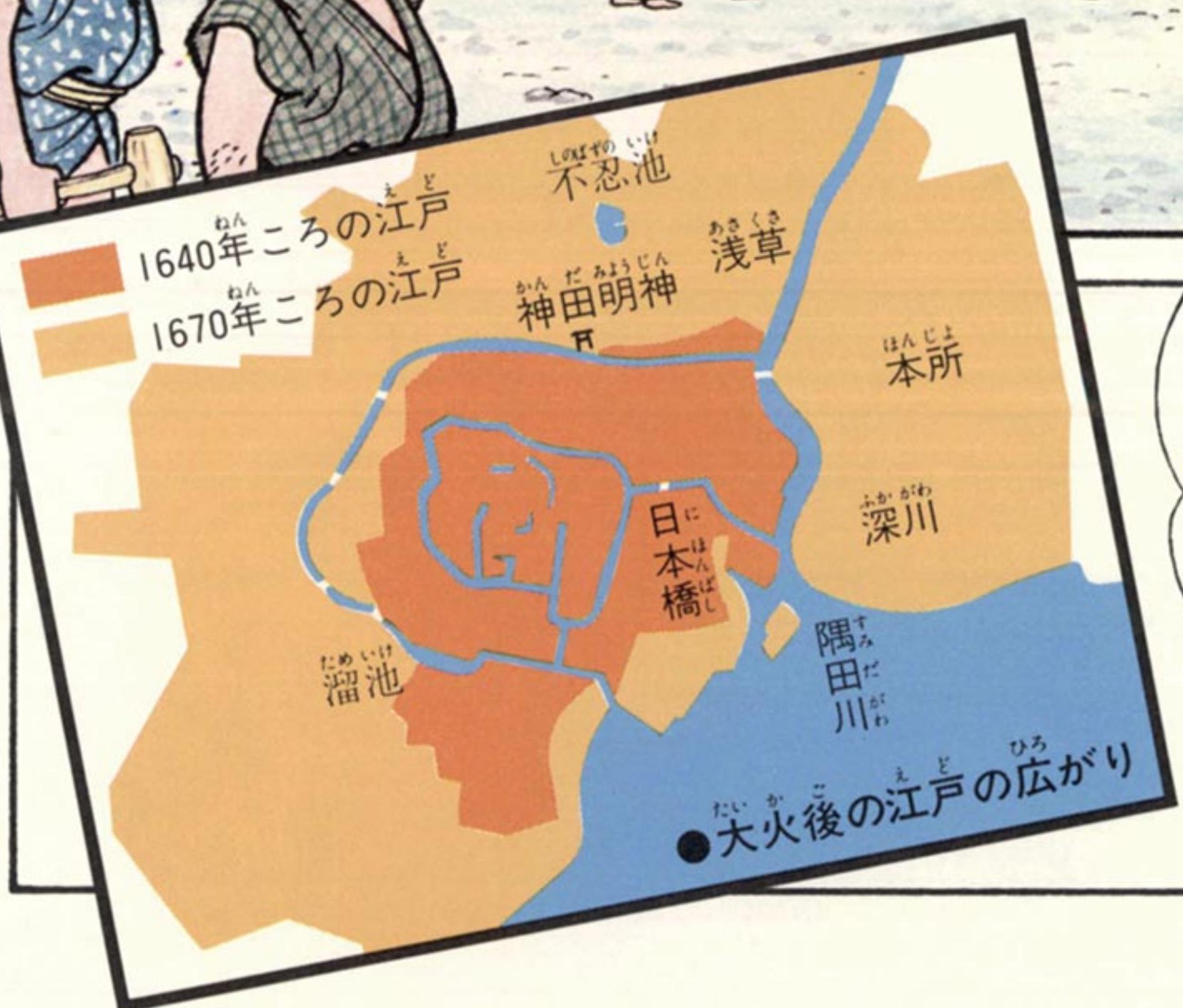
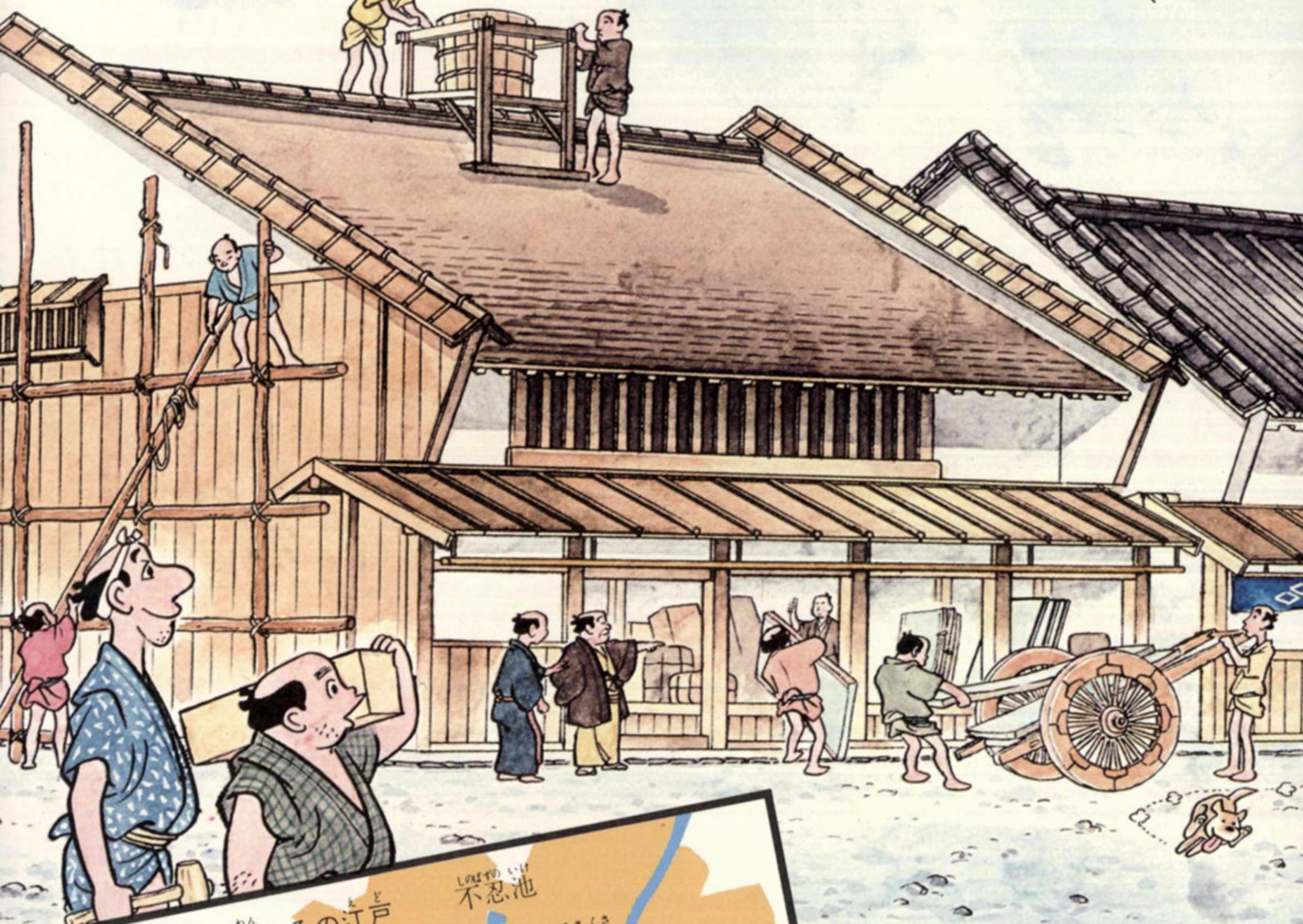
*隅田川：東京都市街地の東部をながれ、東京湾にそそぐ川。

（つづく）

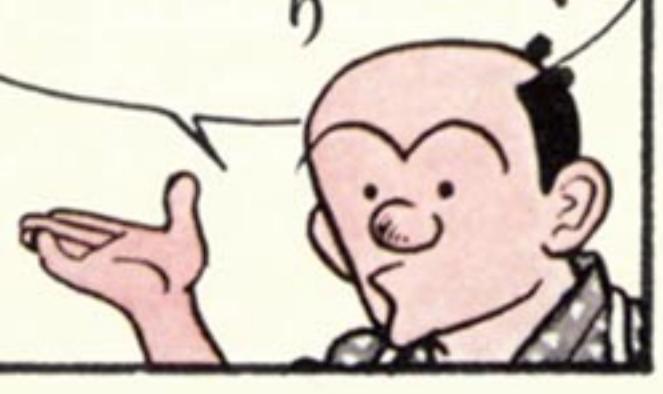


こうして、江戸の再建がはじまりました。大名屋敷や寺社は郊外へとうつされ、再建されました。が、大火以降の桃山文化のなごりをとどめたごうかな建物は姿をけしました。

また、大火の教訓を生かして、市中の道路は広げられ、隅田川には両国橋がかけられました。これらの工事をきっかけに、江戸の町はいちだんと大きくなり、その後の江戸の町の原型となりました。



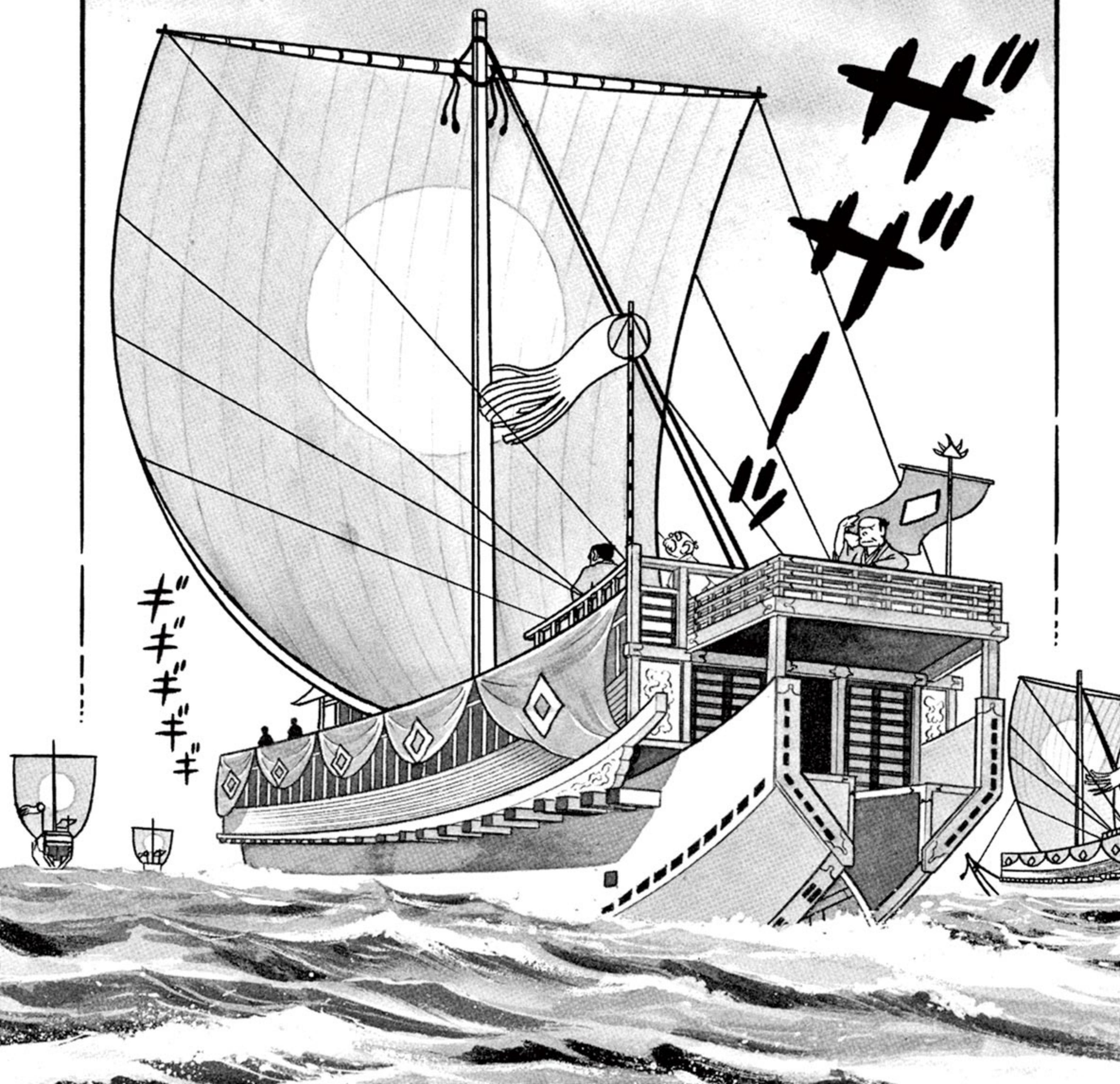
町を広げるためには、隅田川のむこう岸の本所、深川あたりをひらいたり、赤坂溜池付近の湿地もうめたてているぞ。





光政は、ふたたび江戸での一年をすごすことになります。このように、大名たちは、特別なことがないかぎり、一年を国もとで、一年を江戸でくらすという生活を一生くりかえしました。

一方、江戸の町は、明暦の大火のあと整備され、また両国橋がかけられたことで、隅田川の対岸にも町が広がり、政治の中心として、いつそう発展していきました。



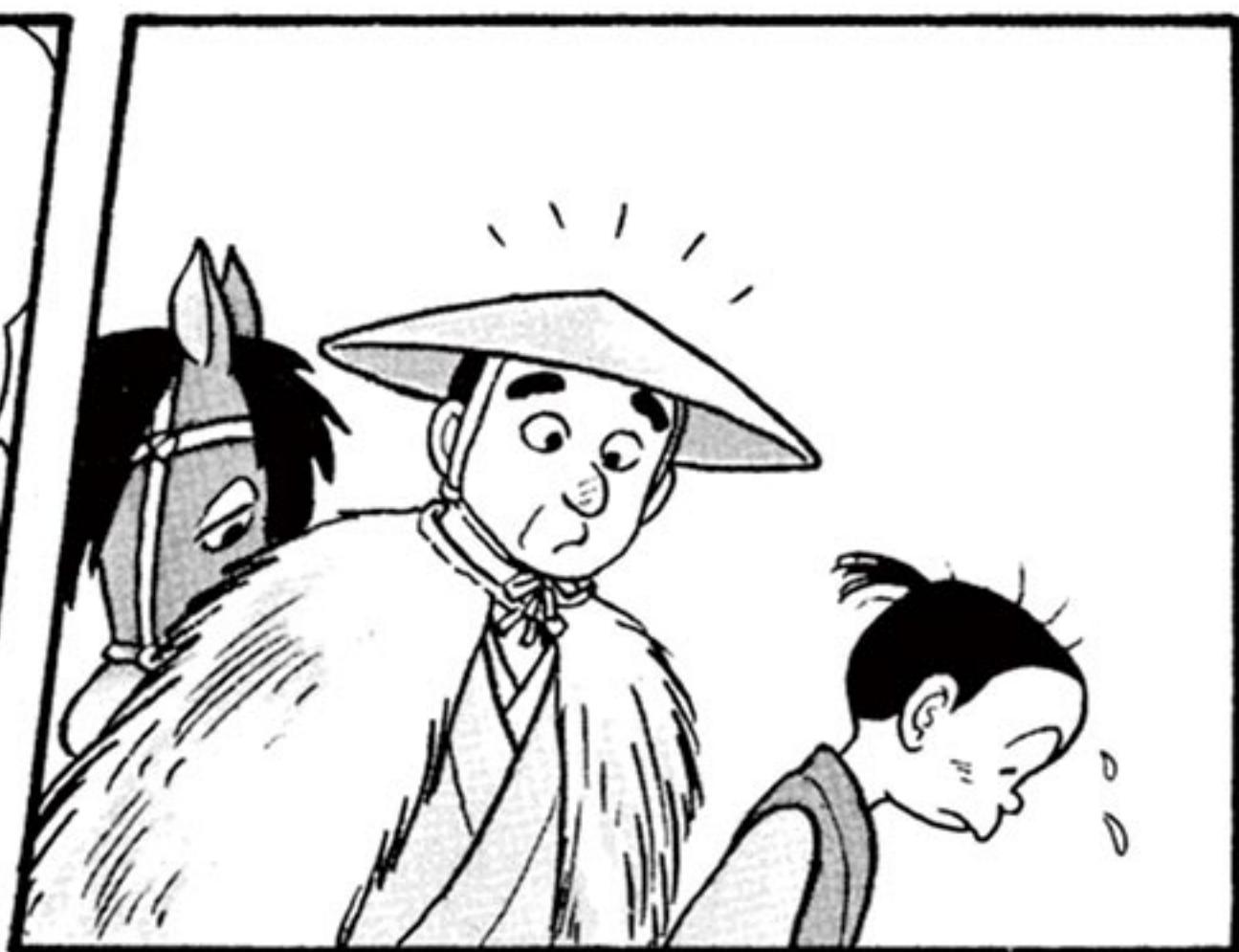
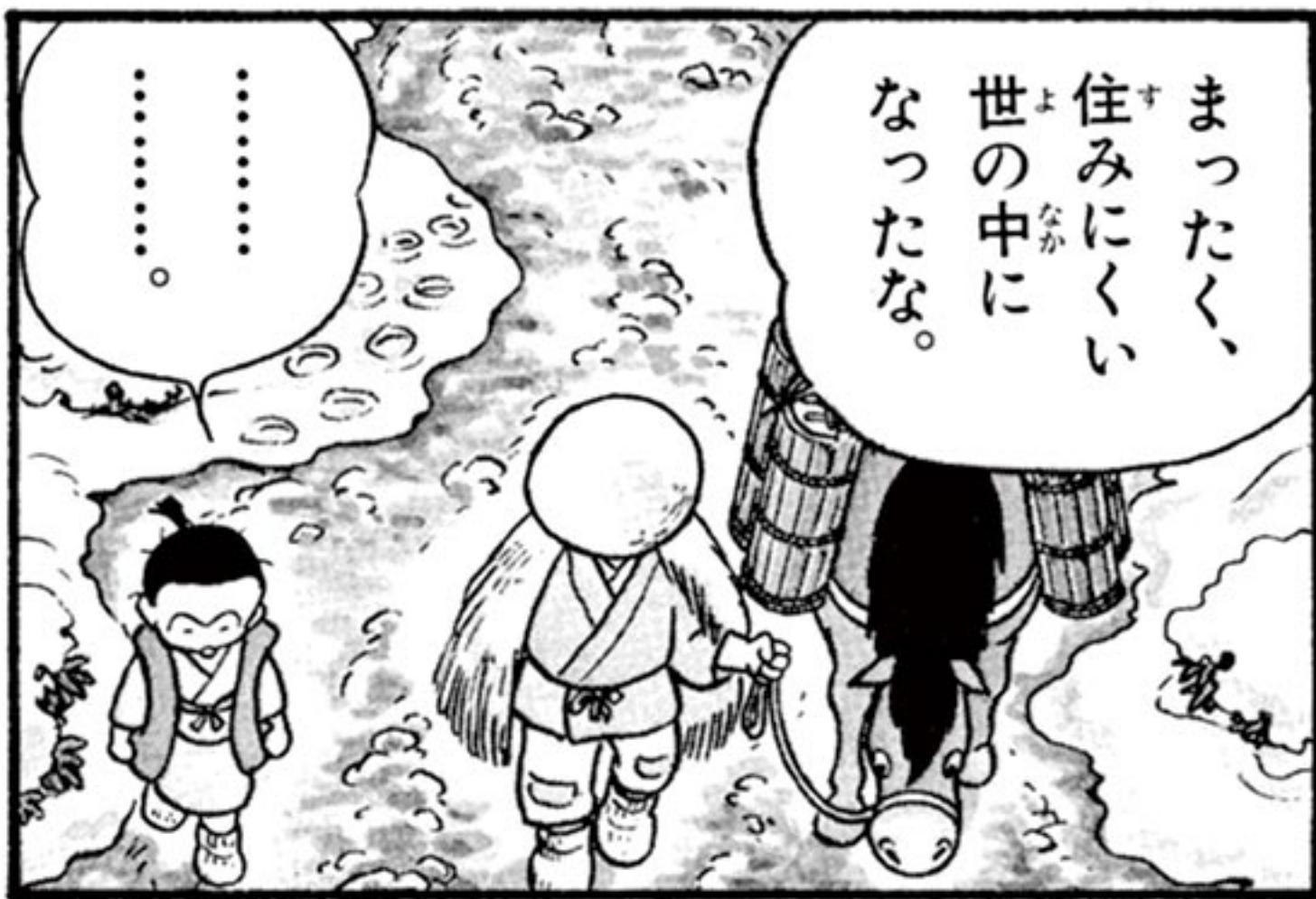
小学館 eBooks

だい しょう
第二章

しよ みん せい かつ
庶民の生活
えどじだいぜんき
——江戸時代前期——

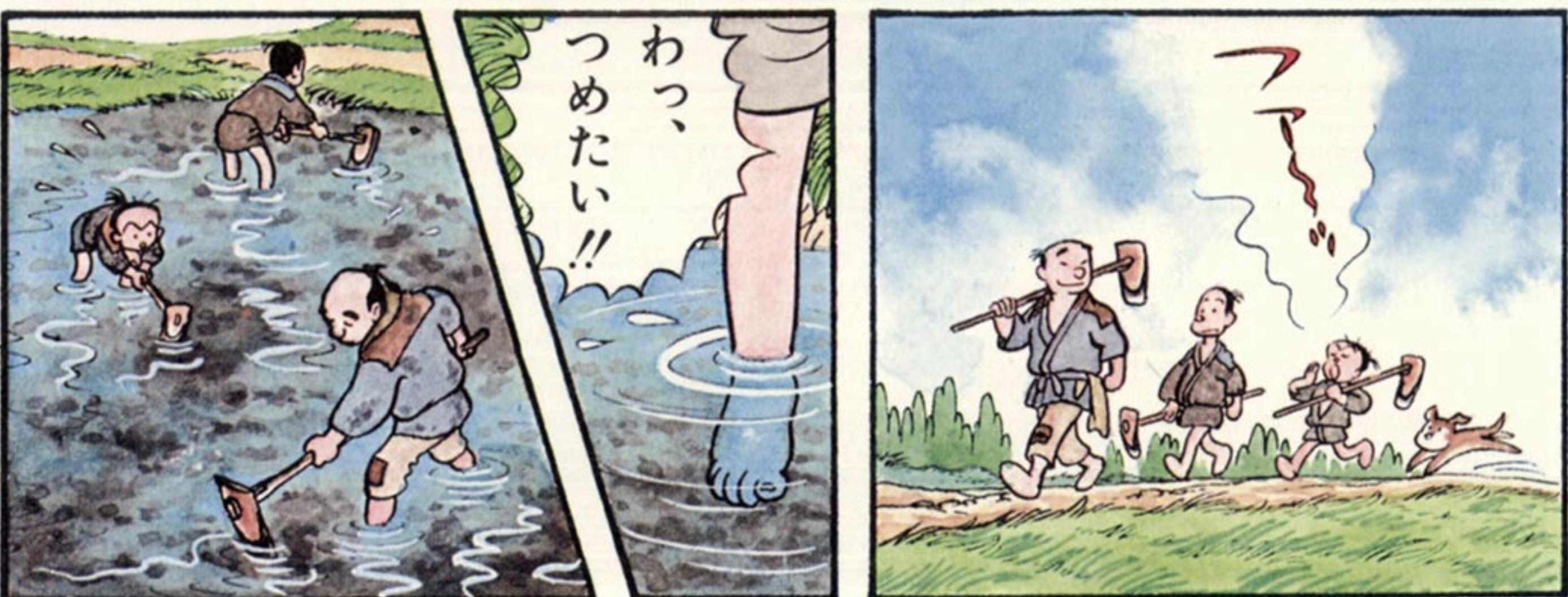
一六八五年正月、
北陸のある村



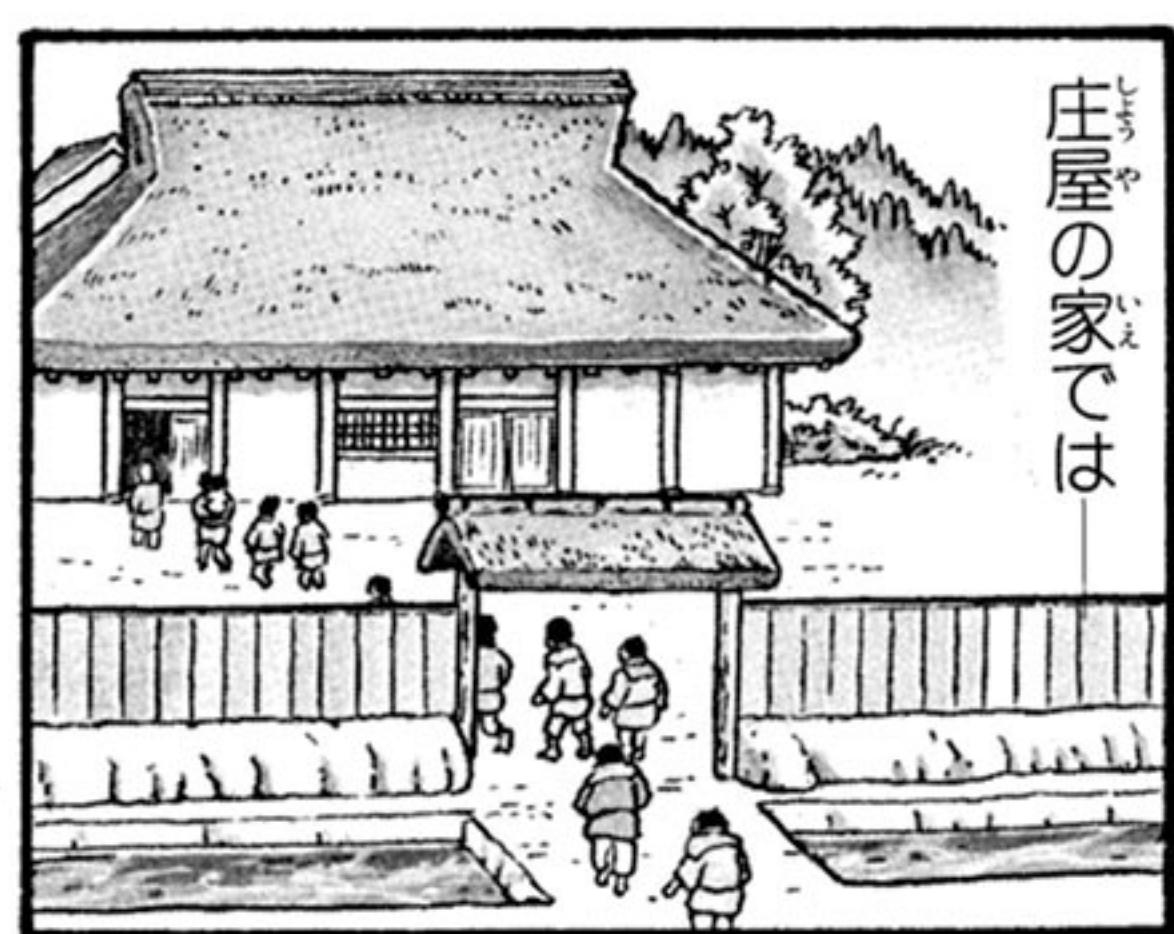




* 苗代：稻のたねをまいて、苗にそだてる田。



* 庄屋：江戸時代、村の納税やその他の事務をあつかつた村の長。名主ともいう。



* 檀家：一定の寺院にぞくし、そこに金品をほどこして、寺をたすけもりたてる家。



* 旦那寺：自分の家が信者としてぞくしている寺。

宗門人別帳

檀家であることを個人ごとに証明した帳簿。



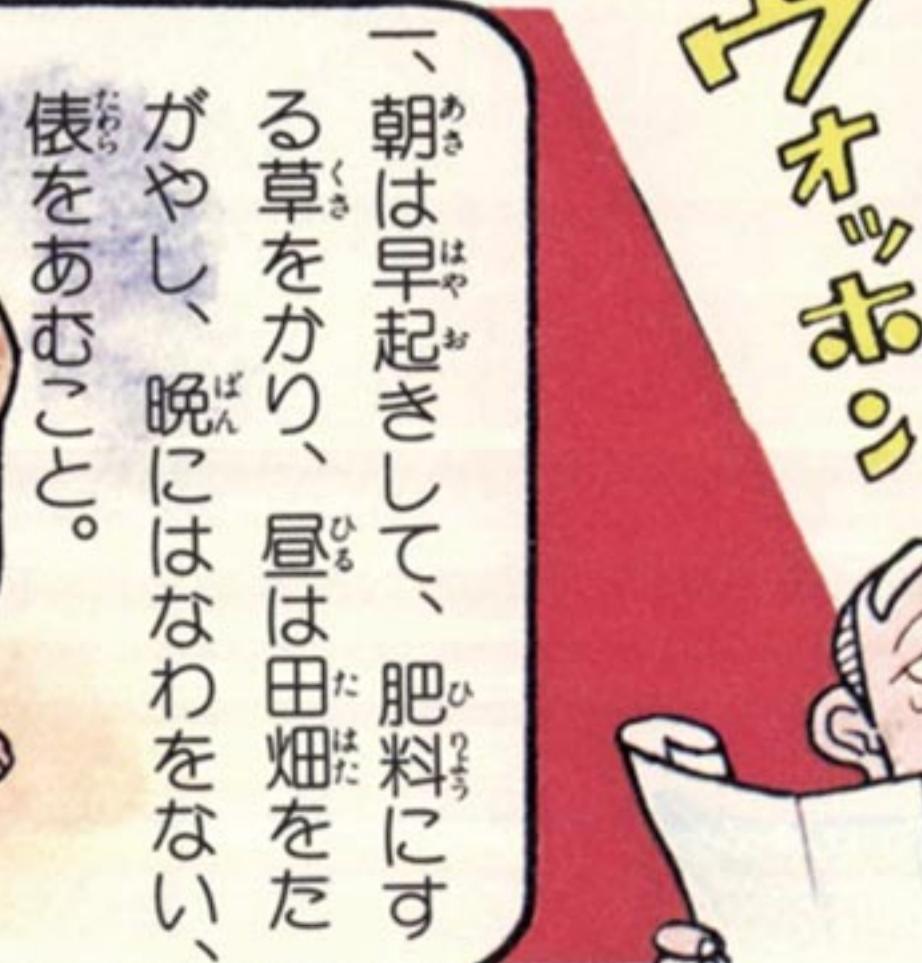
*持高：農家の持っていた田畠の量を米で表したもので、年貢その他の税の基礎となつた。



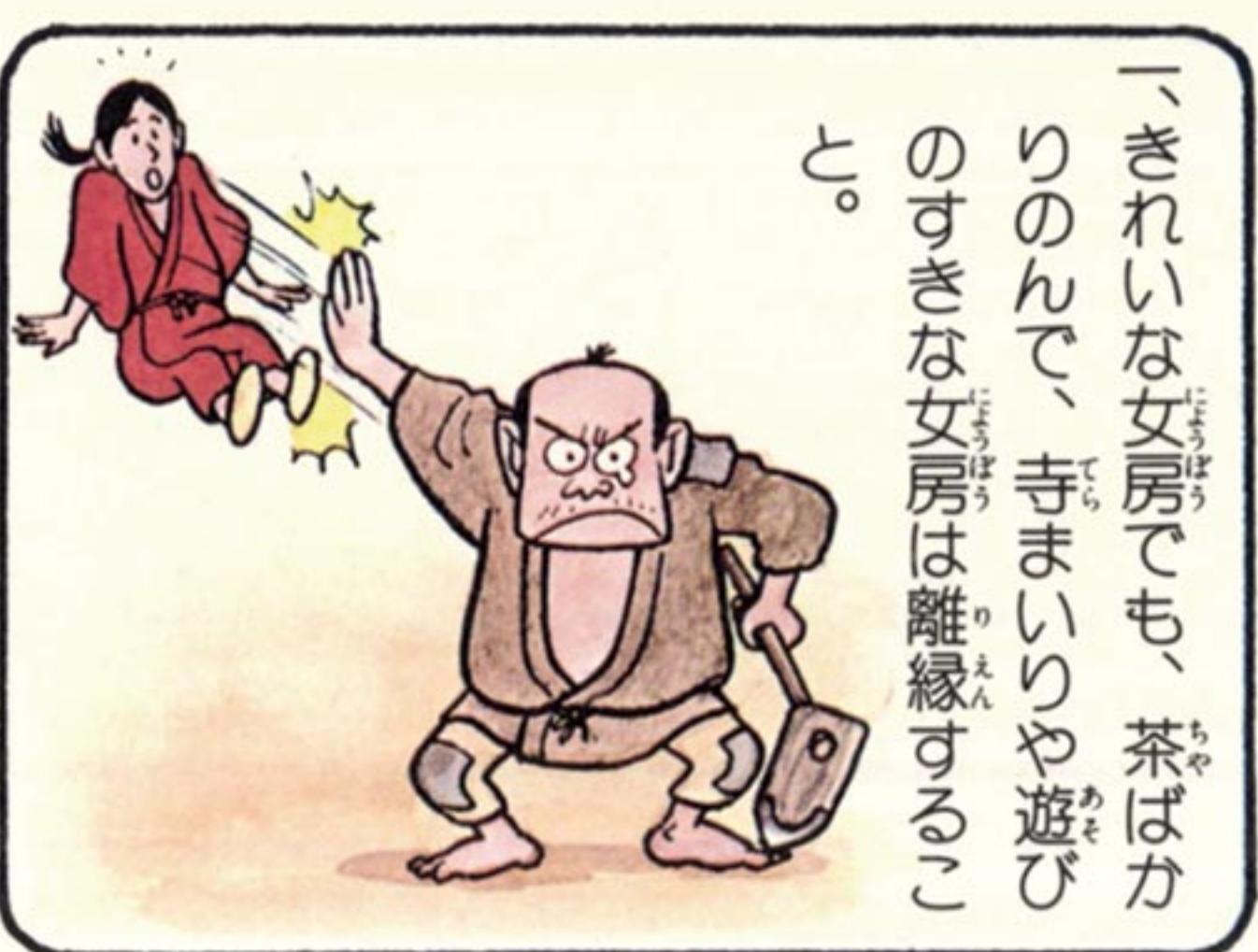
このように農民一人ひとりの
旦那寺や家族などを宗門人別帳
に記録し、役所にとどけさせた
ことを、「宗門改め」といいます。
この制度は、本来キリストン
信仰を禁止するためにもうけら
れました。



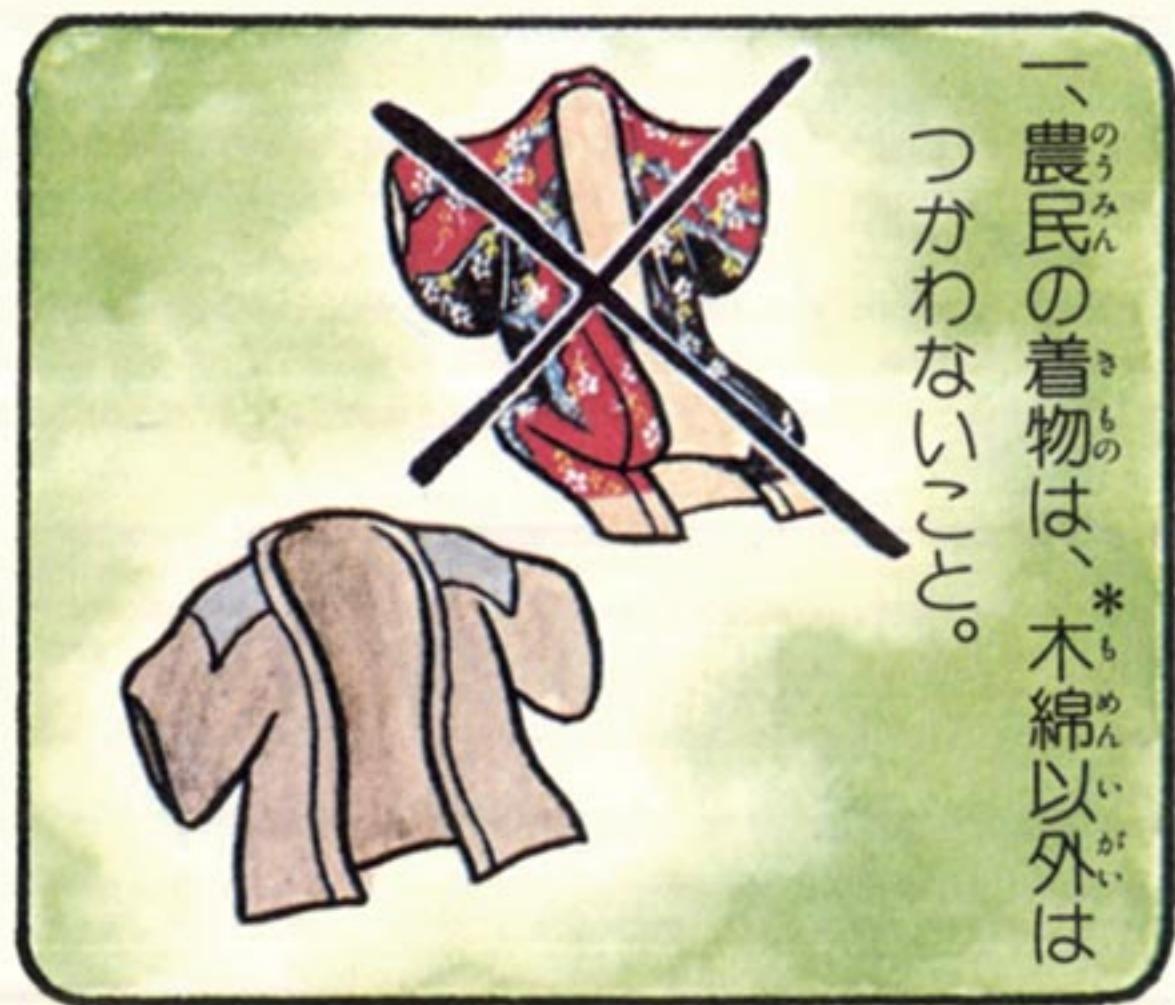
*木綿：農民の着物としては、これまでの麻以外に、じょうぶな木綿の着物がふきゅうし、絹はぜいたく品として禁止された。



ウオッホン



一、麦、アワ、ヒエ、菜、大根、
そのほか何でもよいから、
雑穀をつくり、米を食いつ
ぶさないようにすること。

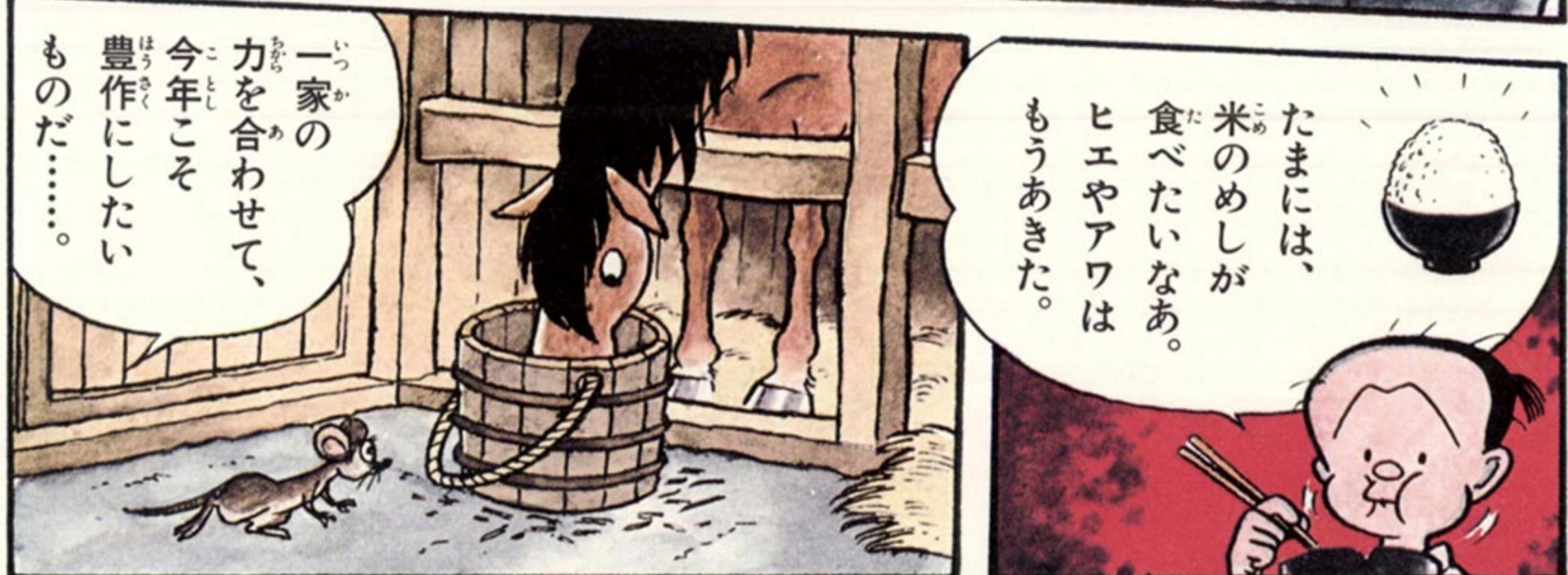
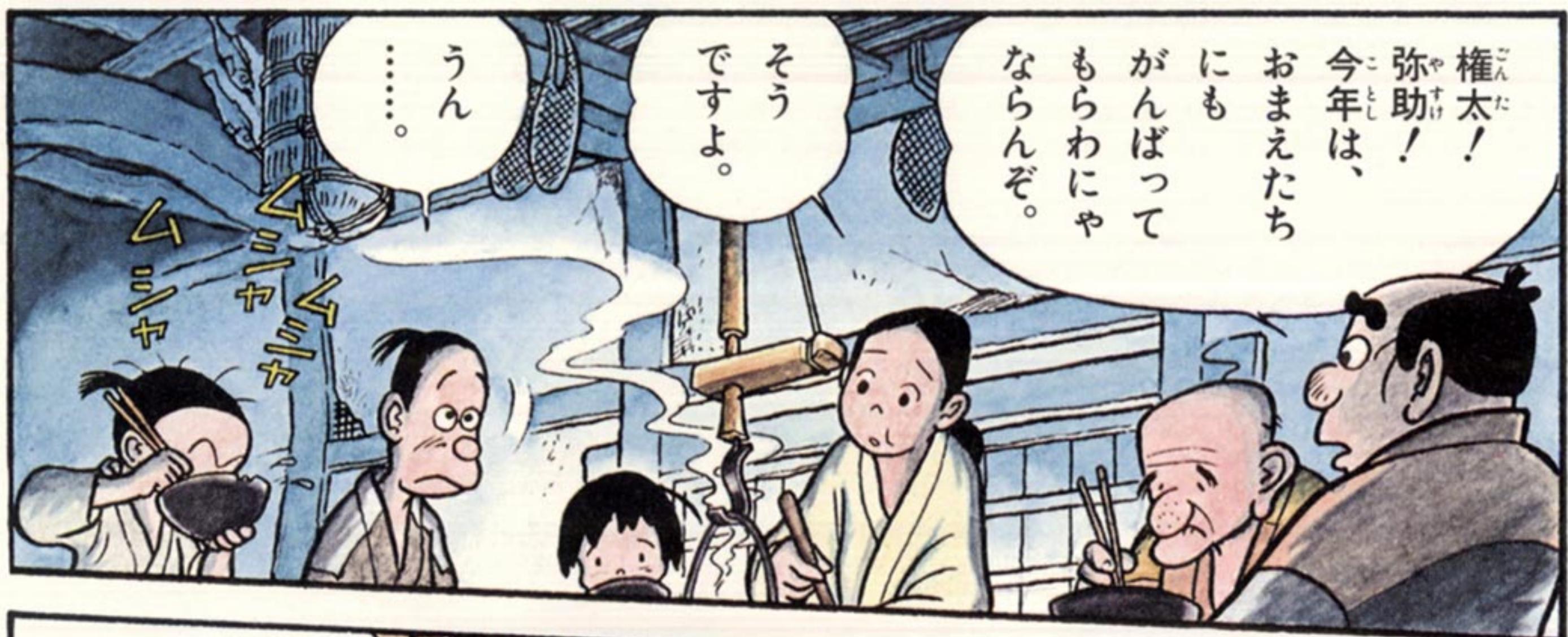
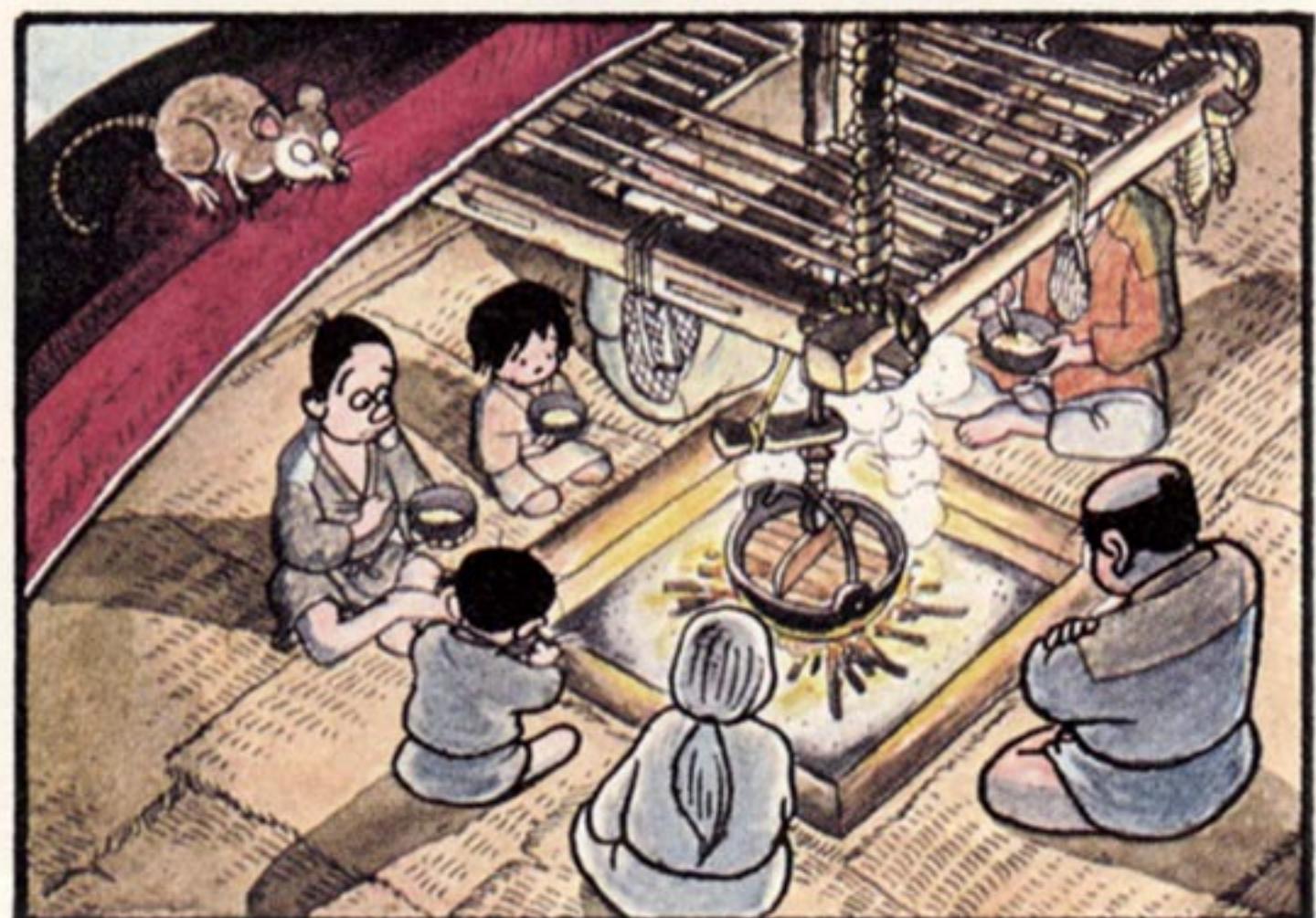
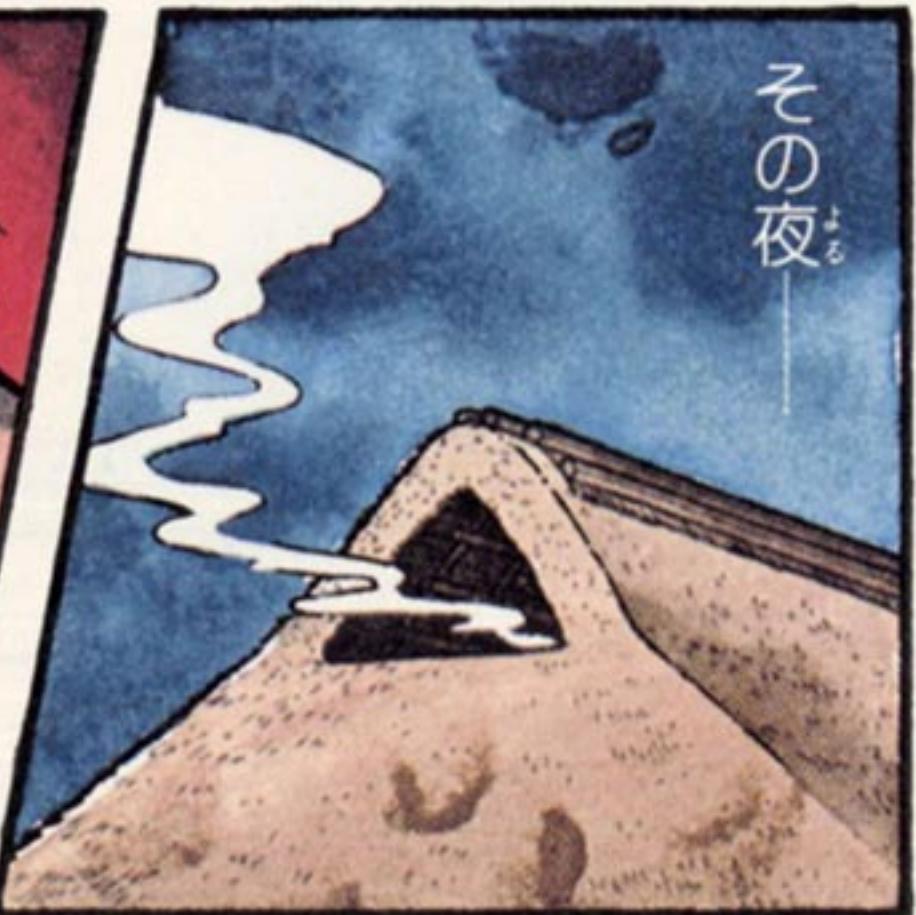
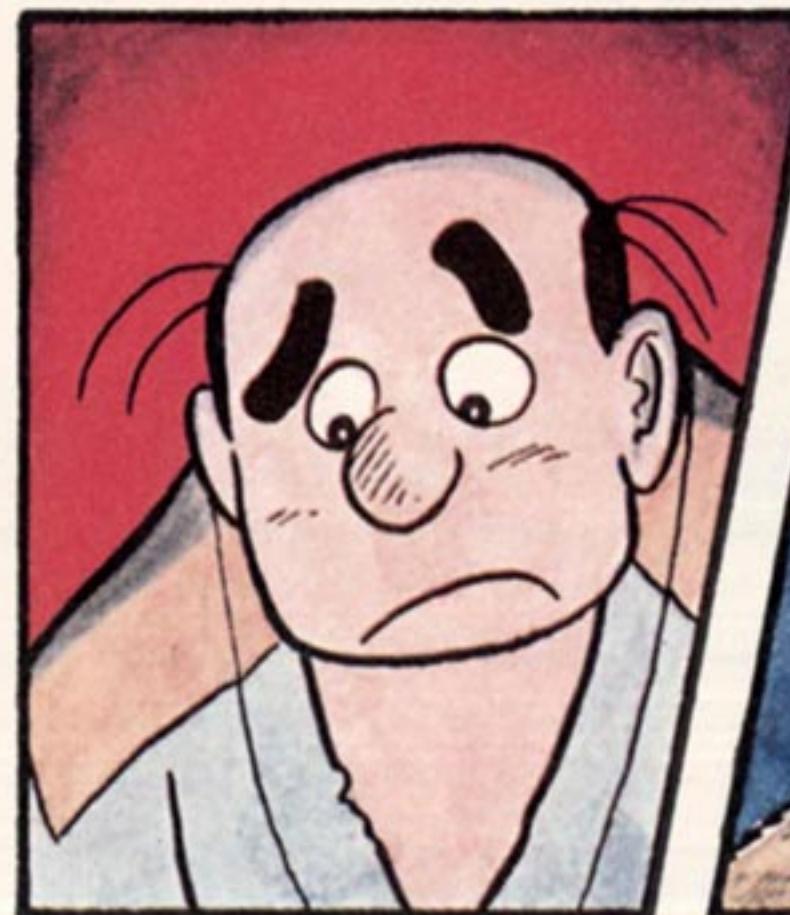


一、農民の着物は、*木綿以外はつかわないこと。

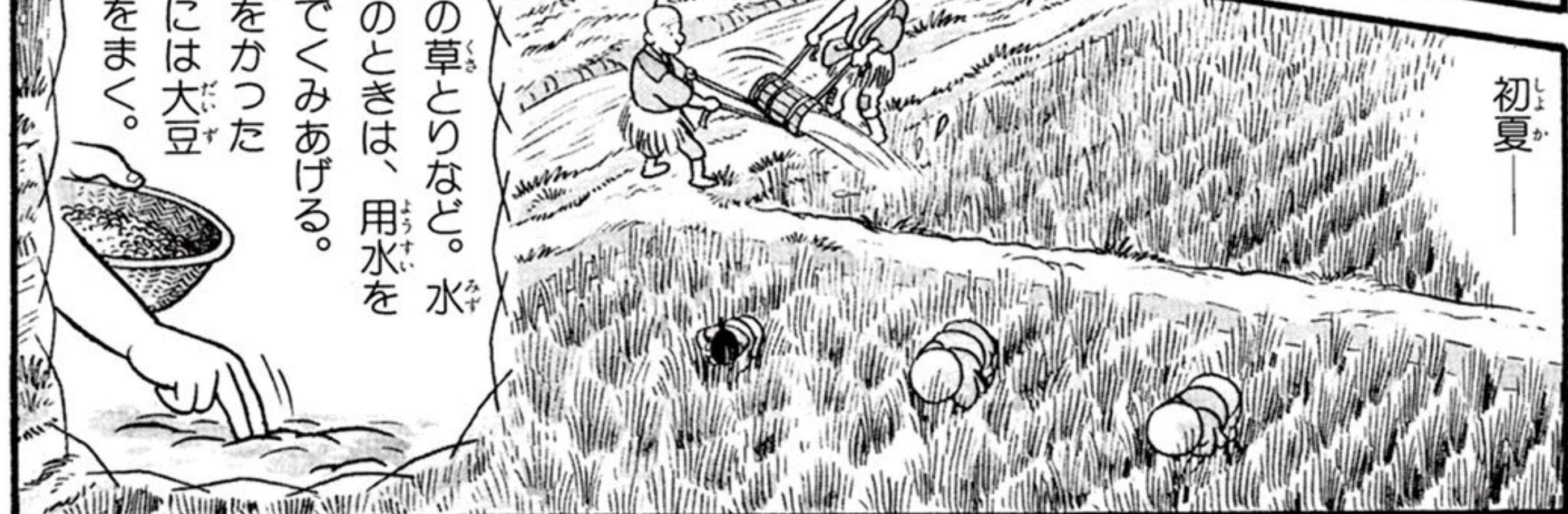
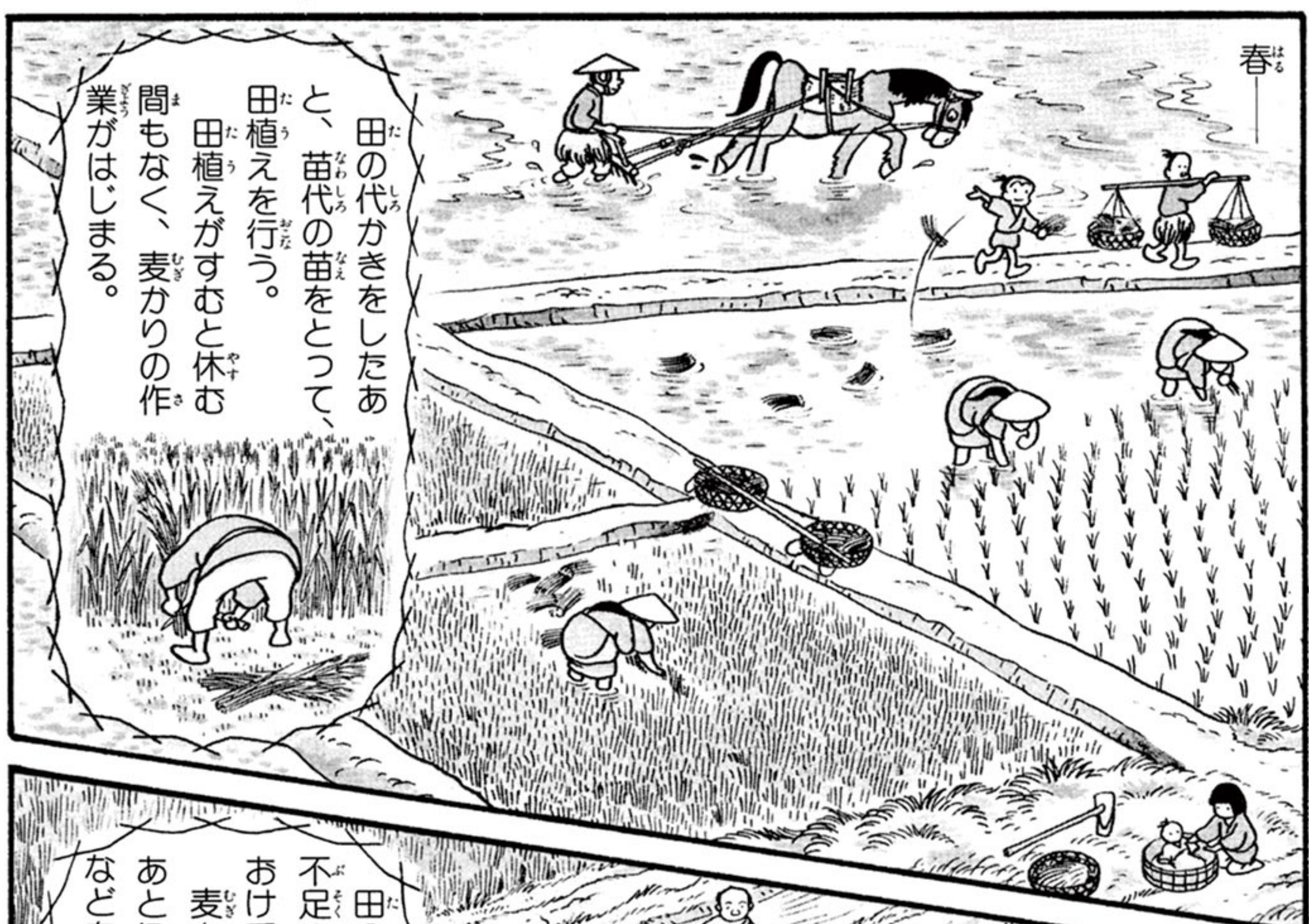


書がきを、各大名は、これをまねた御触を、領内の農民に出しました。

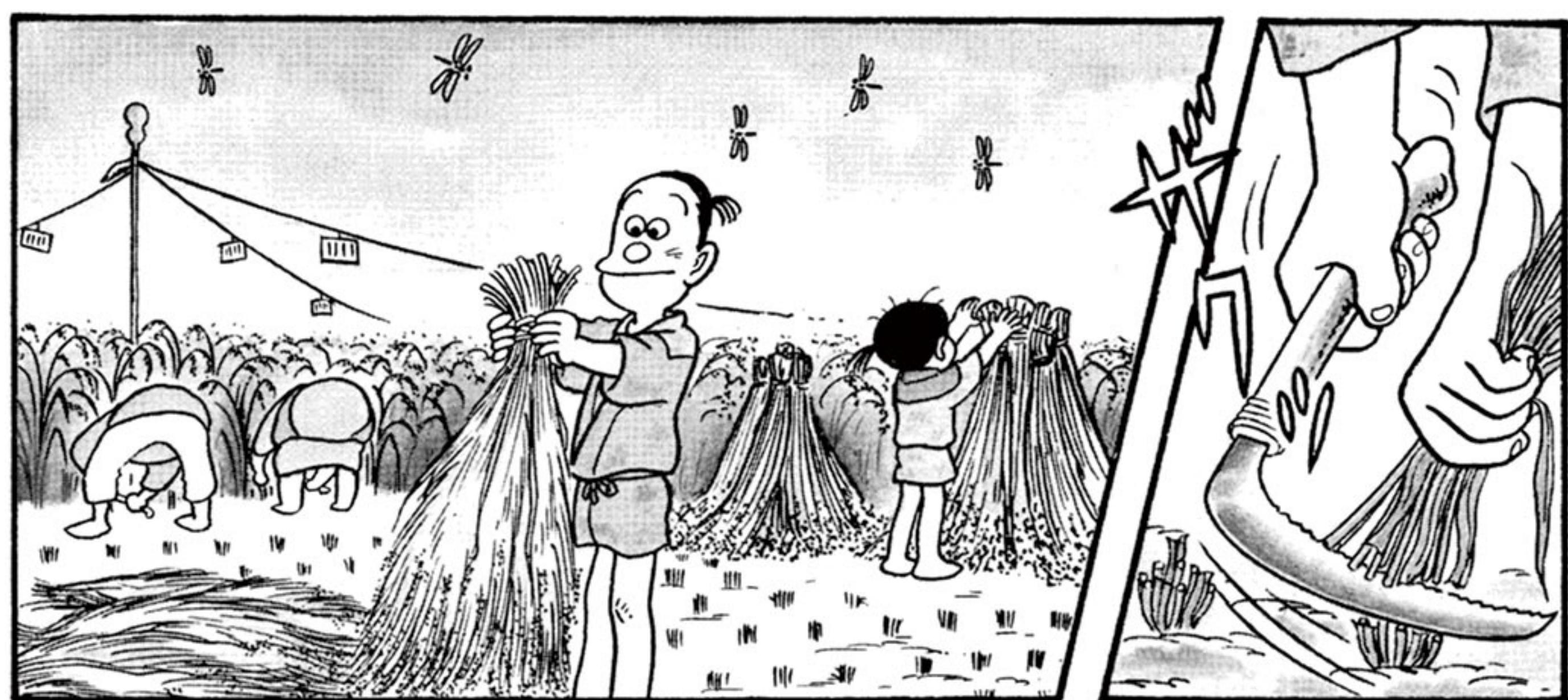
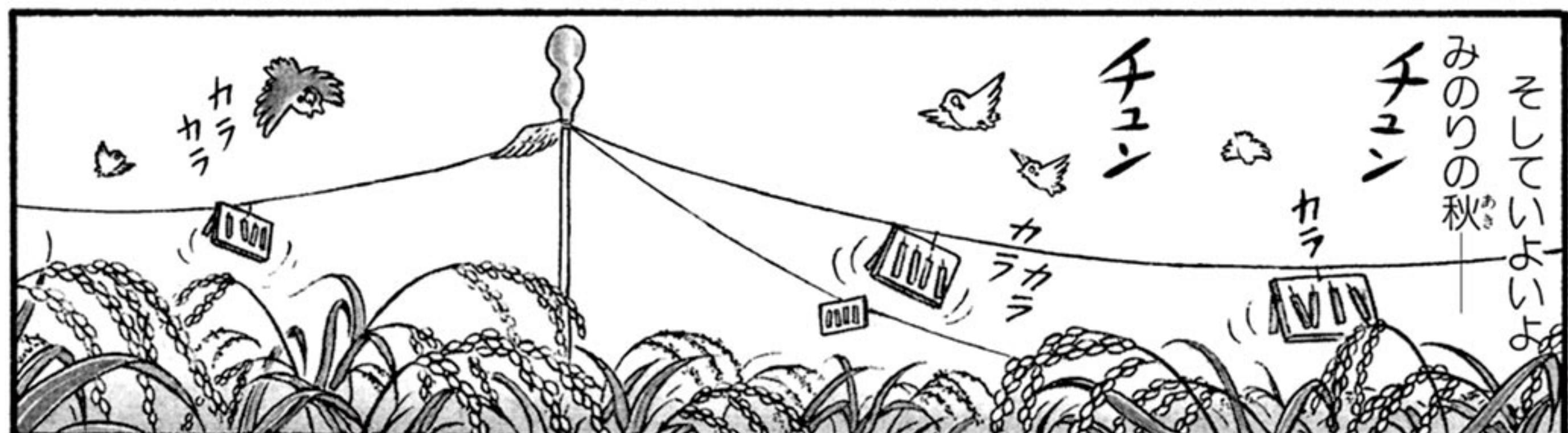
幕府は、一六四九年、農民の生活を細かくさだめた「慶安の御触書」という法令を農民にむけて出しました。



* 厥肥：馬屋のしきわらと、牛馬のふんによるをまぜてつくつた肥料。



*追肥：作物の生育のとちゅうでほどこすこやし。





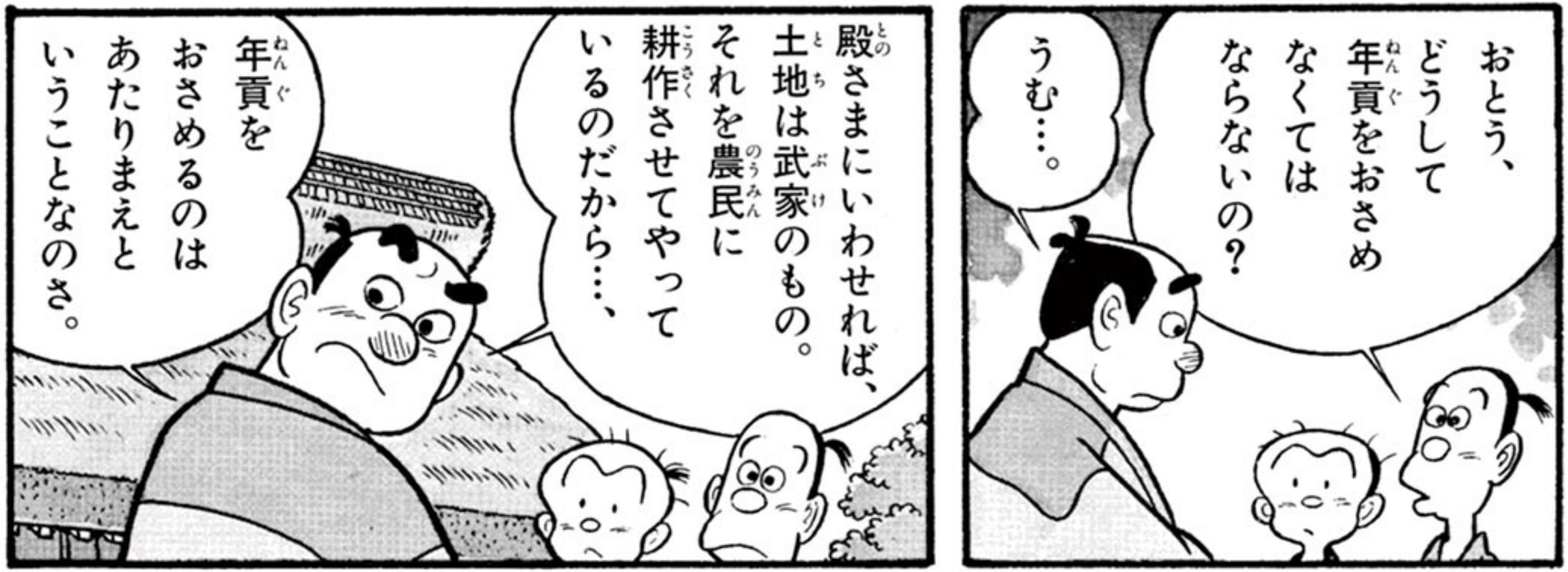
庄屋の家の庭では

ええと、
吉兵衛は
米七俵か。

ごまかしは
きかない
からなあ。

今年は、
ちゃんと
はかり
ました。





ところで、年貢のお米は、このあとどうなるのかな？

わしが説明しようか。

いつたん庄屋の蔵におさめられた年貢は、何度も城下の米蔵にはこられる。

あつめられた米のうち、約三割が家臣たちにわたされる。

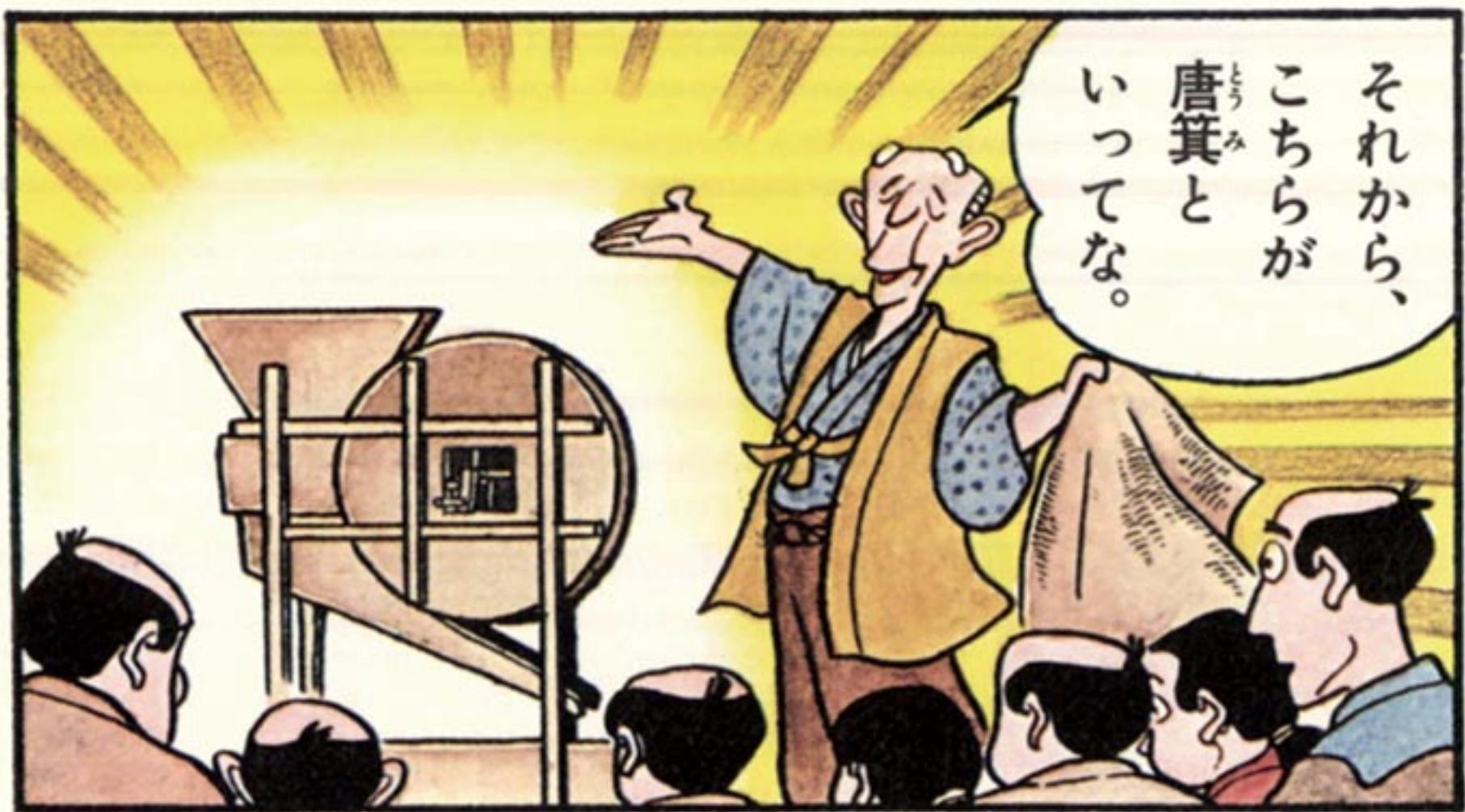
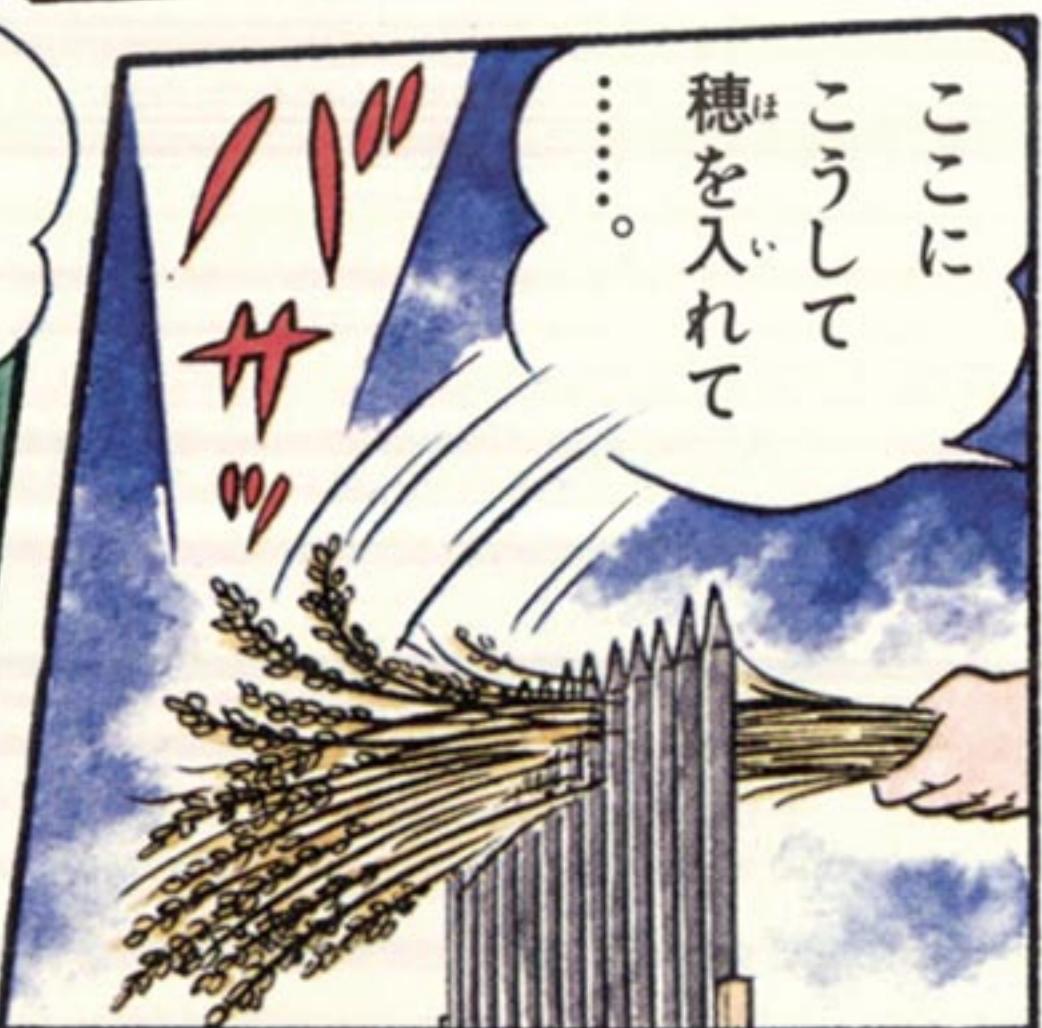
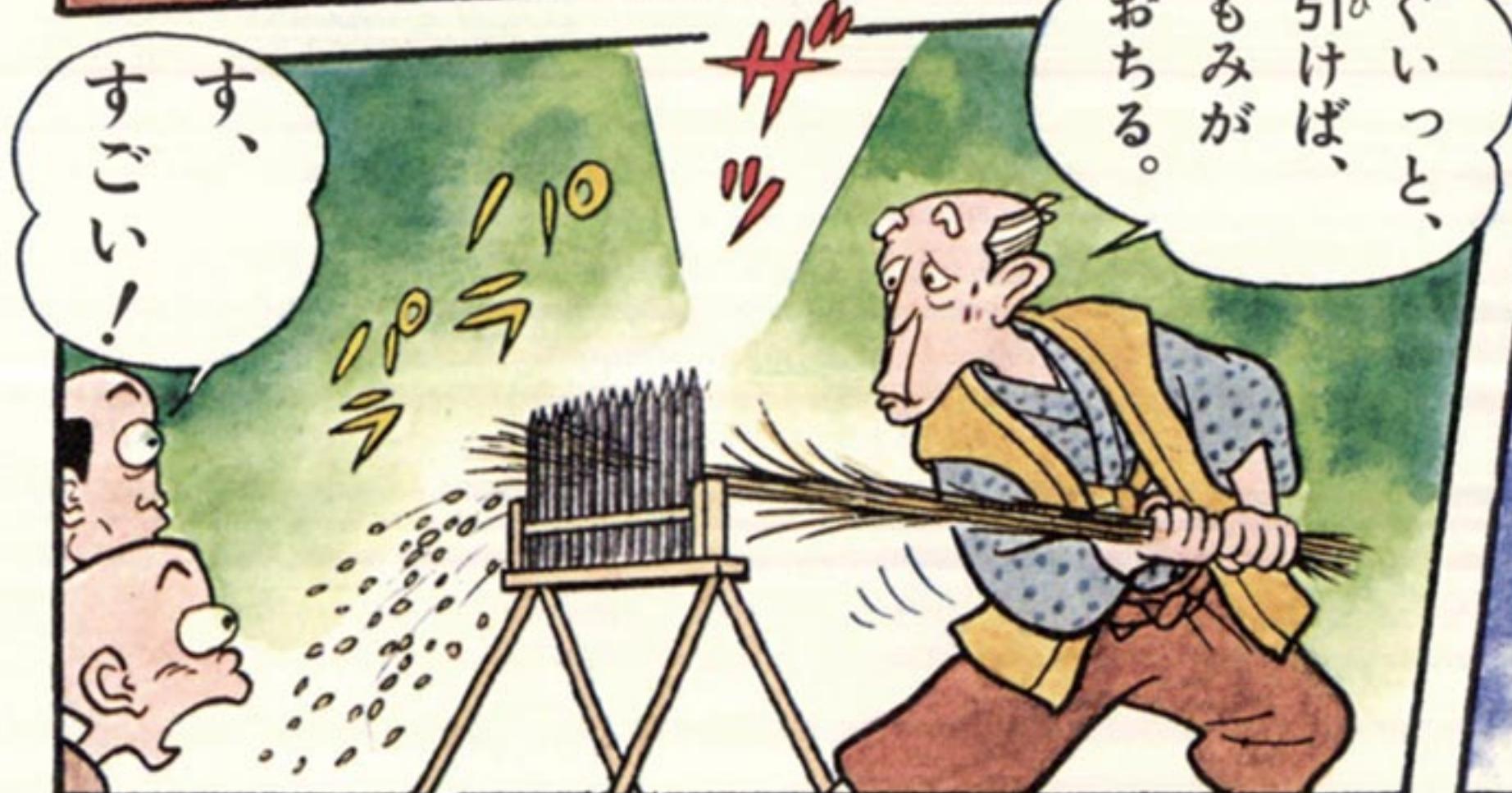
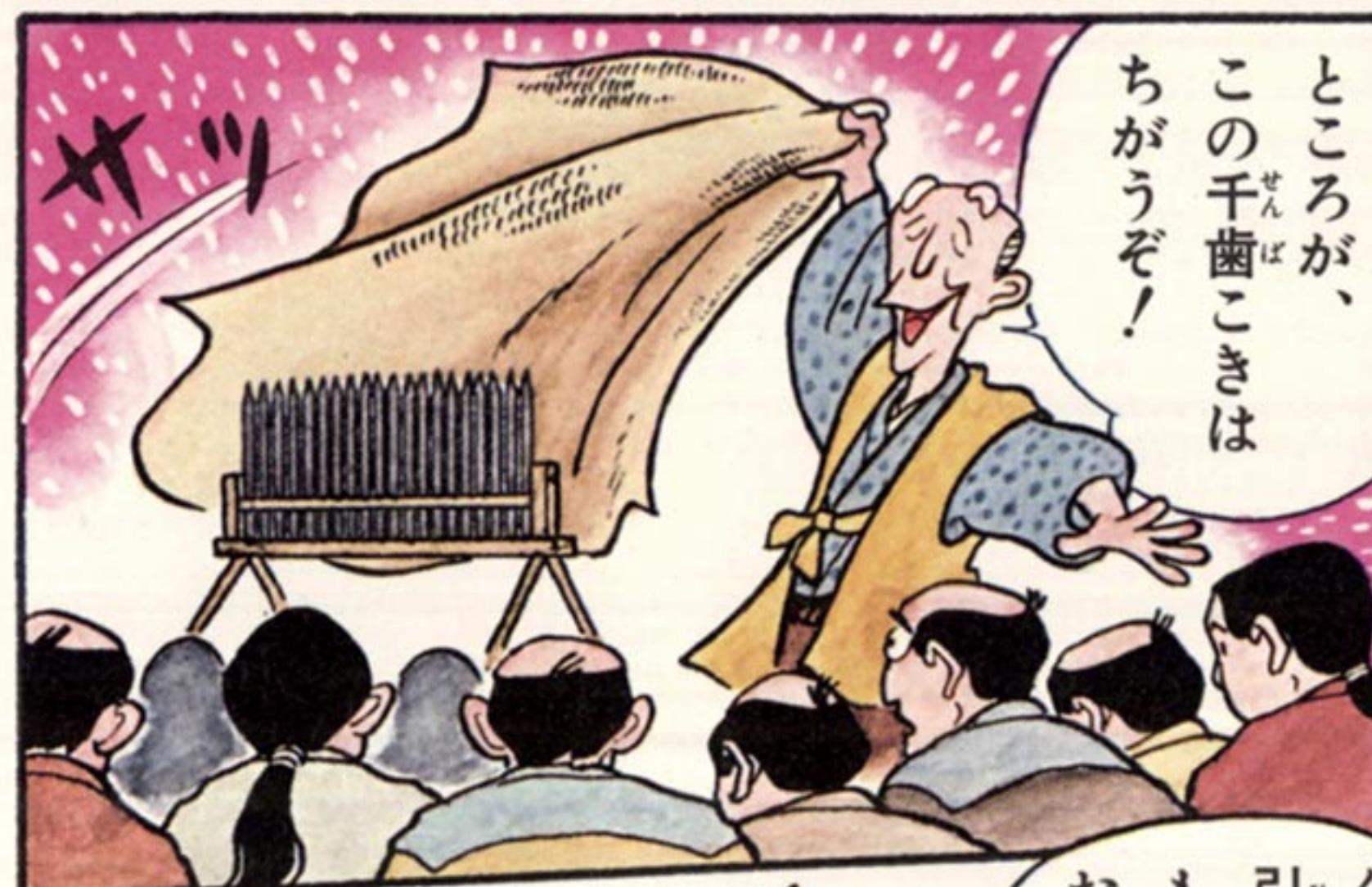
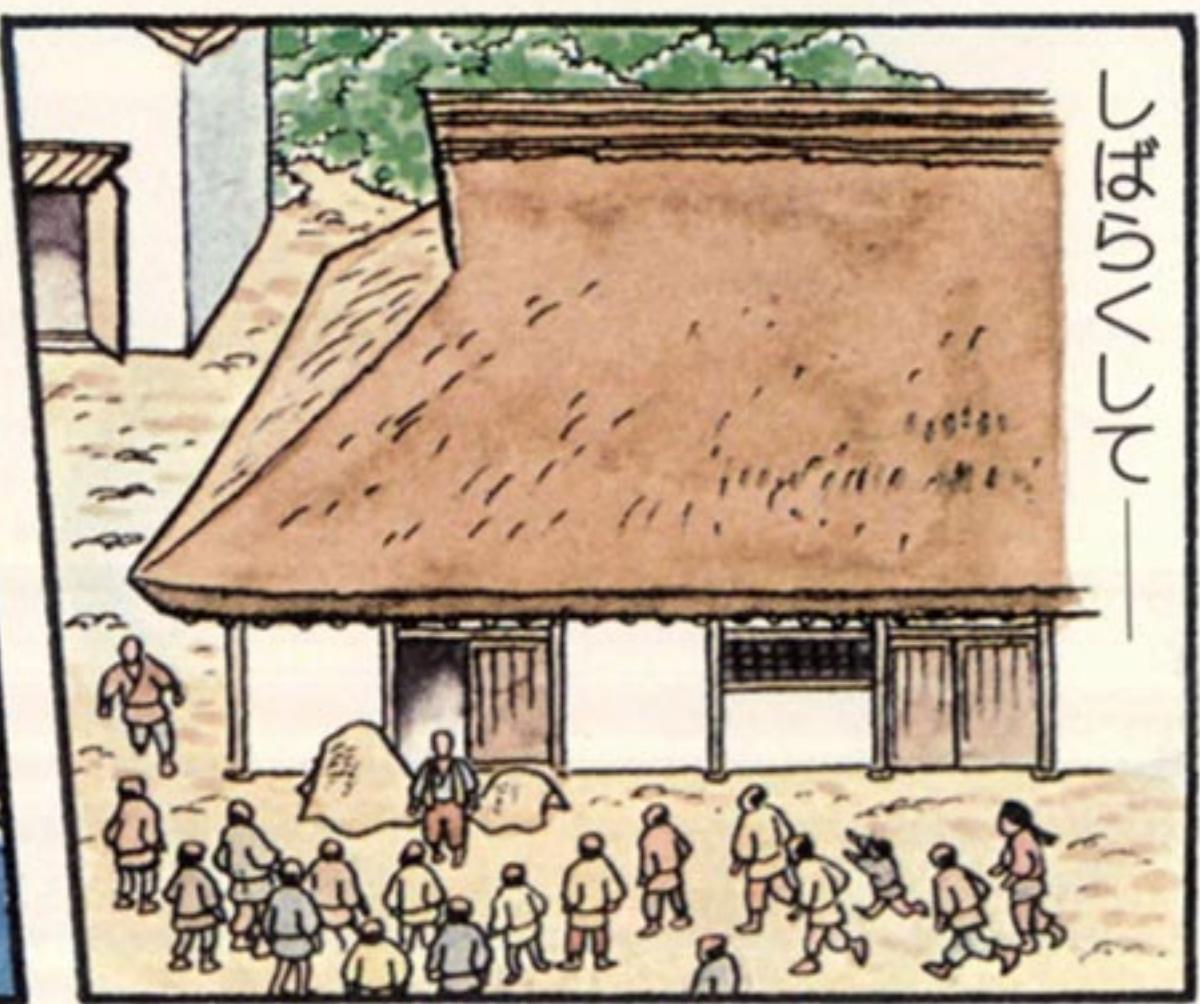
船で大坂へとほこばれる。

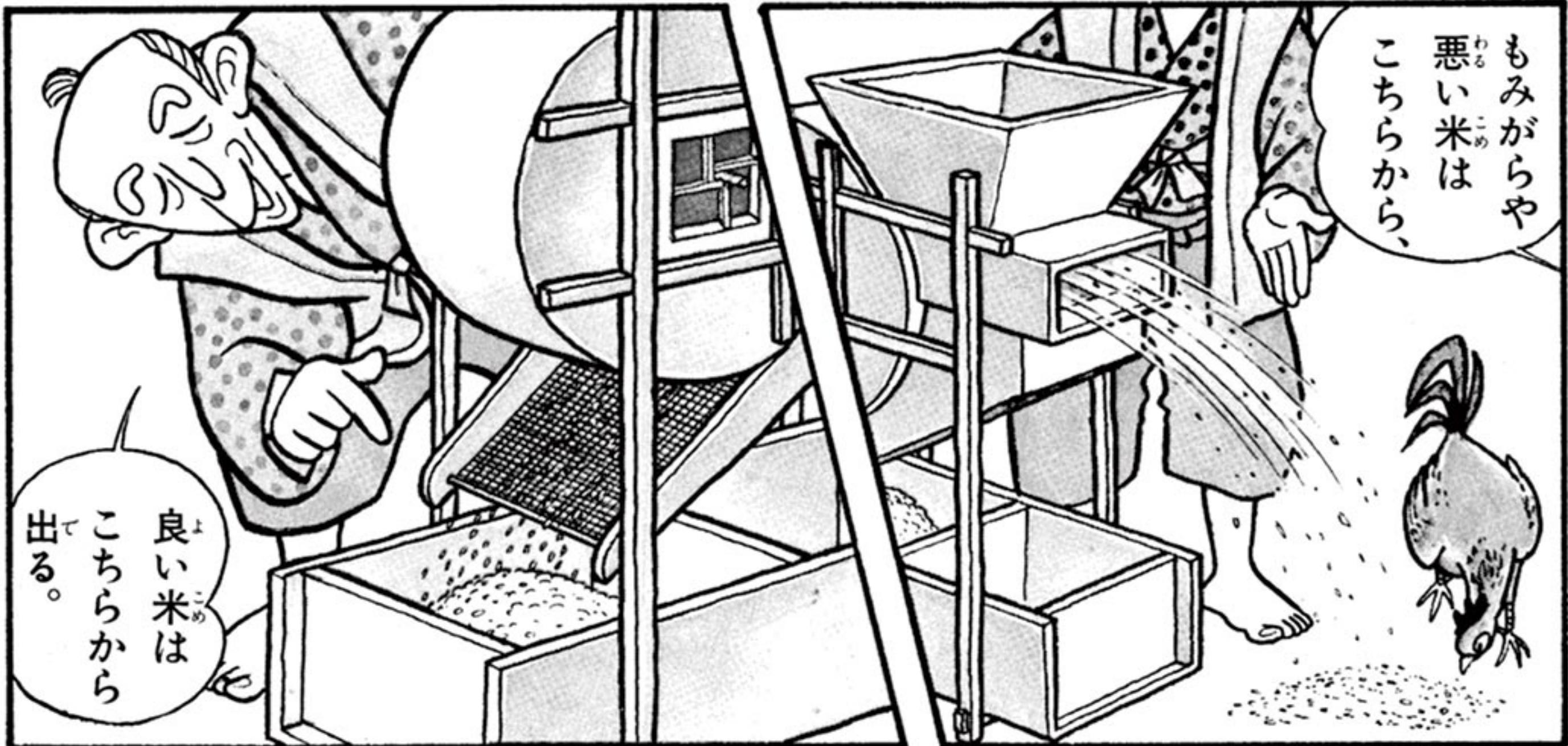
大坂の蔵屋敷にあさめられた米は、売りさばかれて金にかえられる。

そうなの
か……。

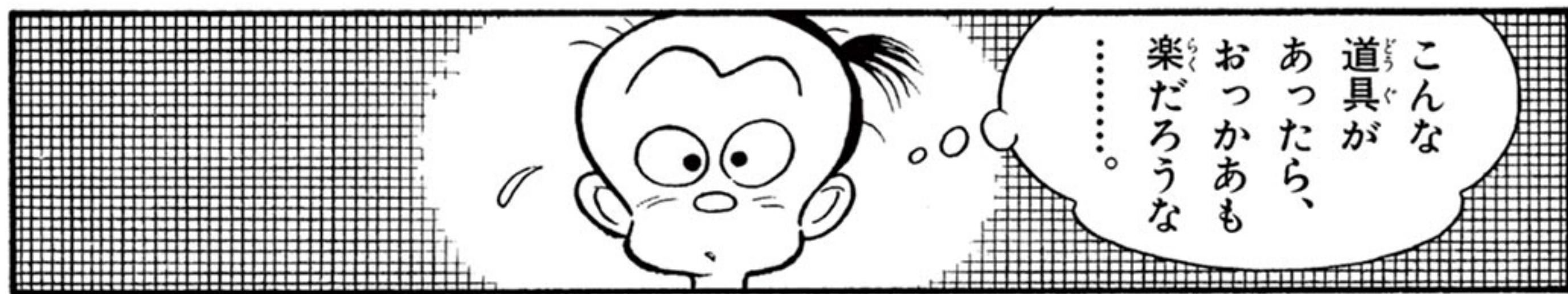
*蔵屋敷：諸大名家が江戸、大坂などに年貢米の販売のためにもつけた屋敷。

しばりくして――



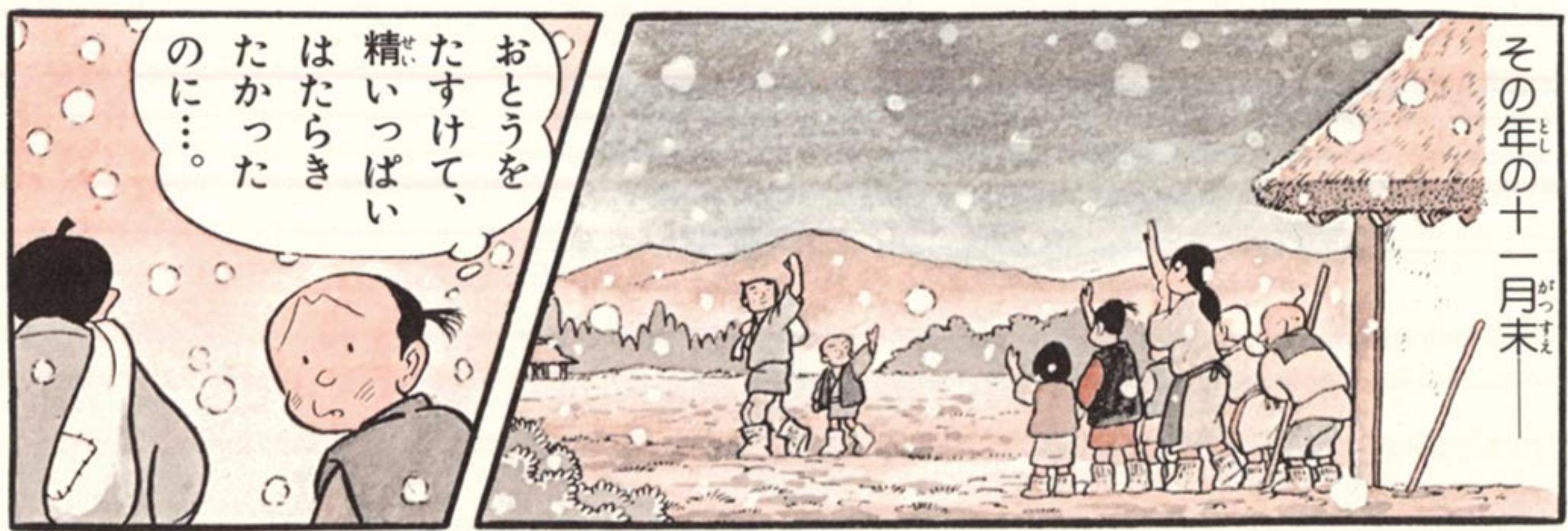
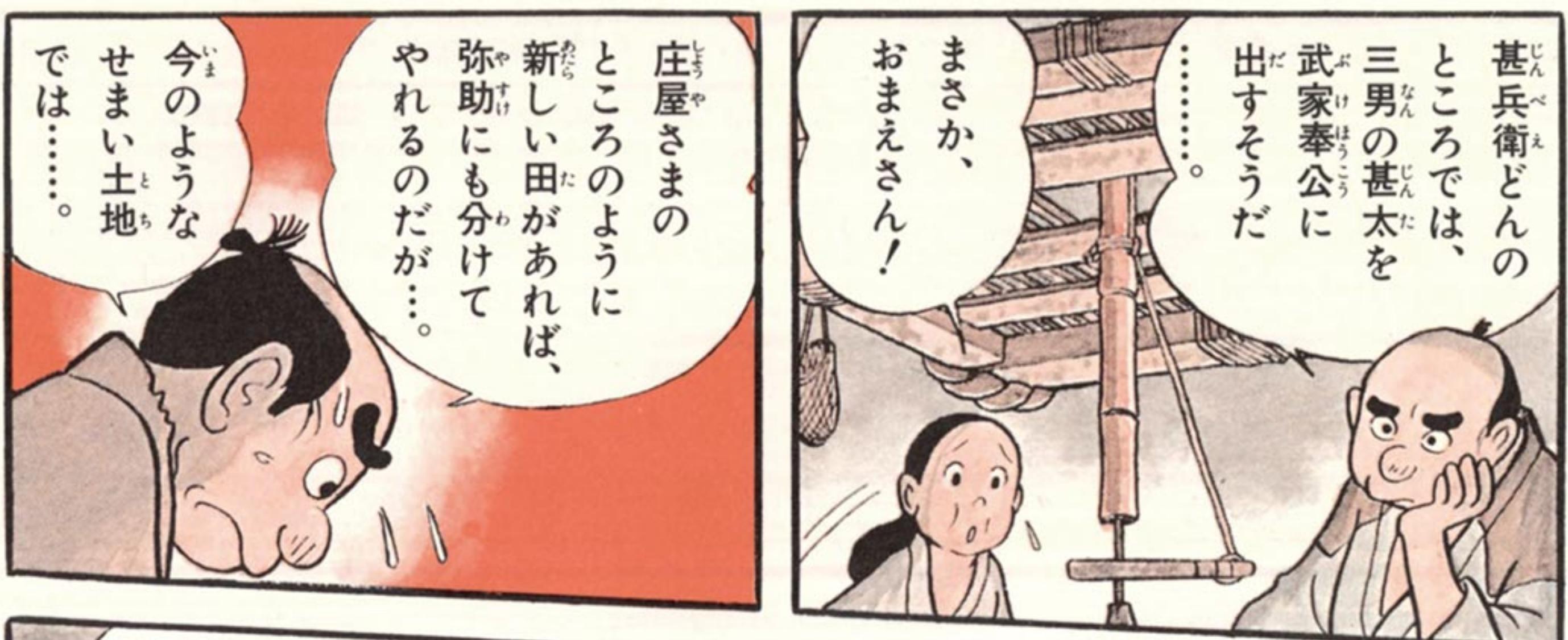


千歯つきや唐箕などの農具が発達し、干鰯などの肥料が用いられるようになつて、元禄のころ（一六八八～一七〇四年）の農業生産は急速に増大し、国で江戸時代初期の約二倍の米がつくられたといわれます。

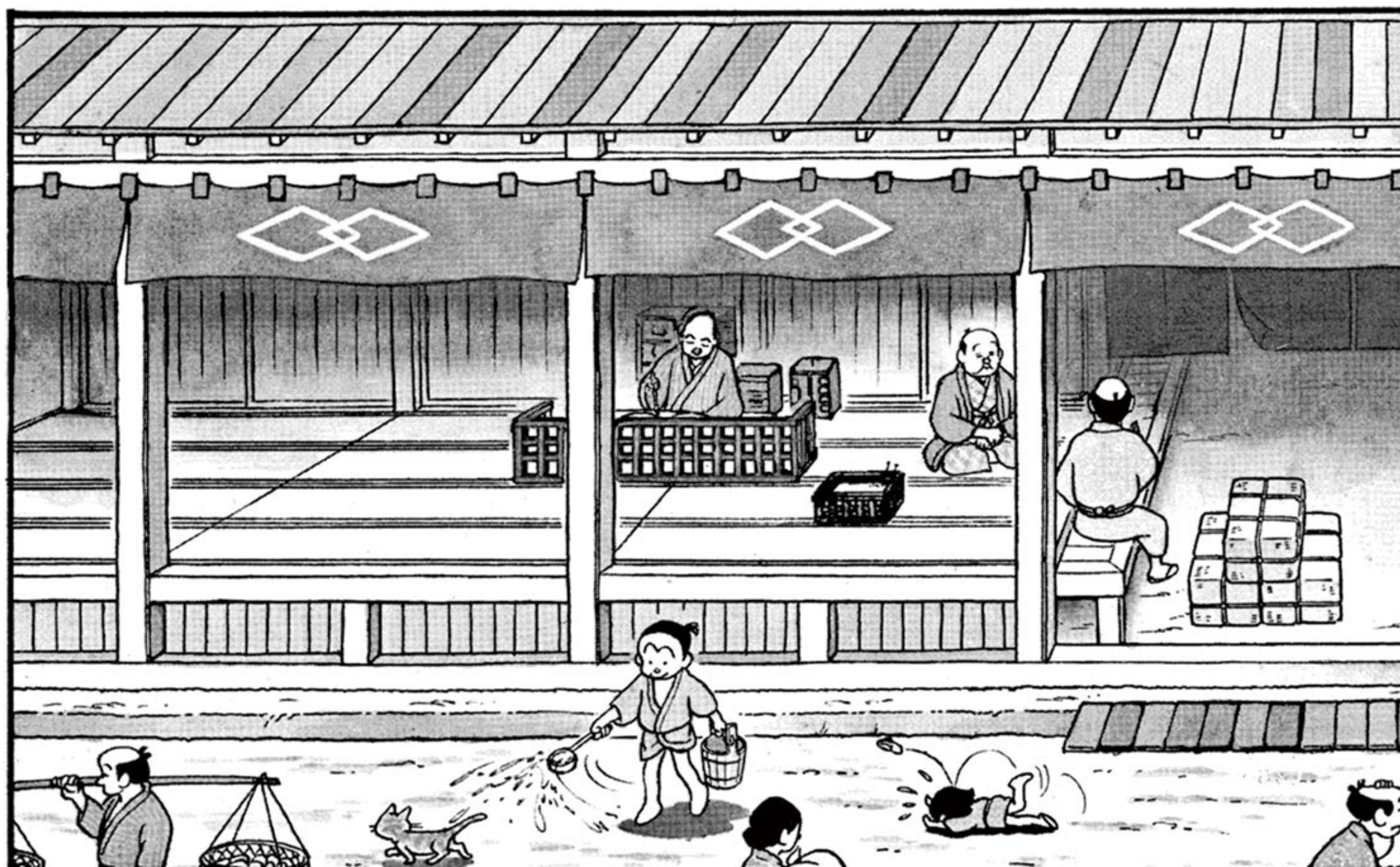
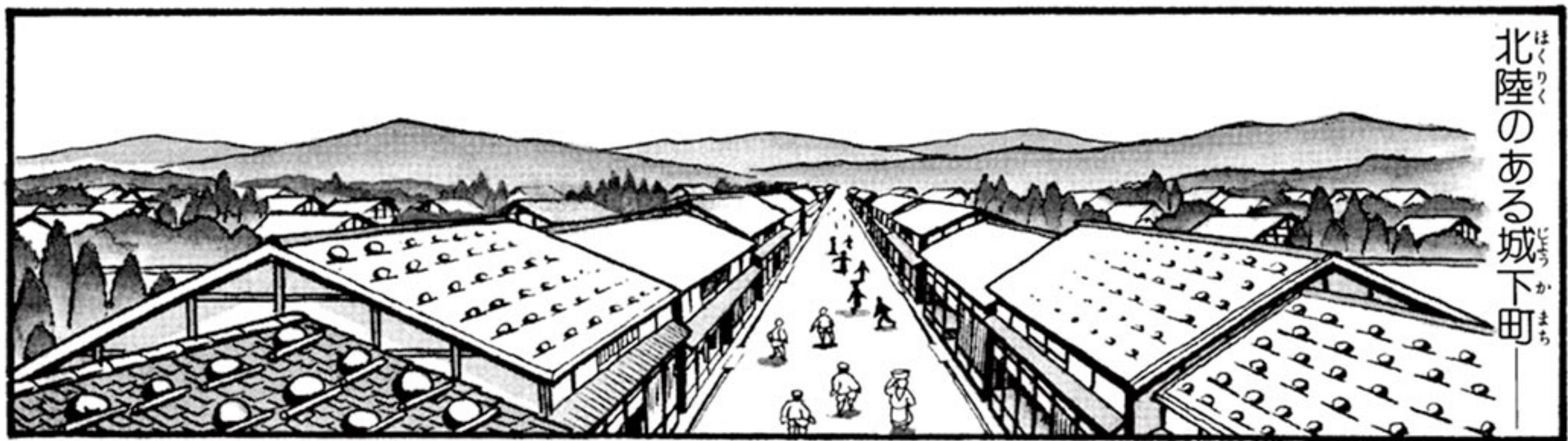


*干鰯：イワシをほしてつくつた肥料





北陸の
ある城
下町



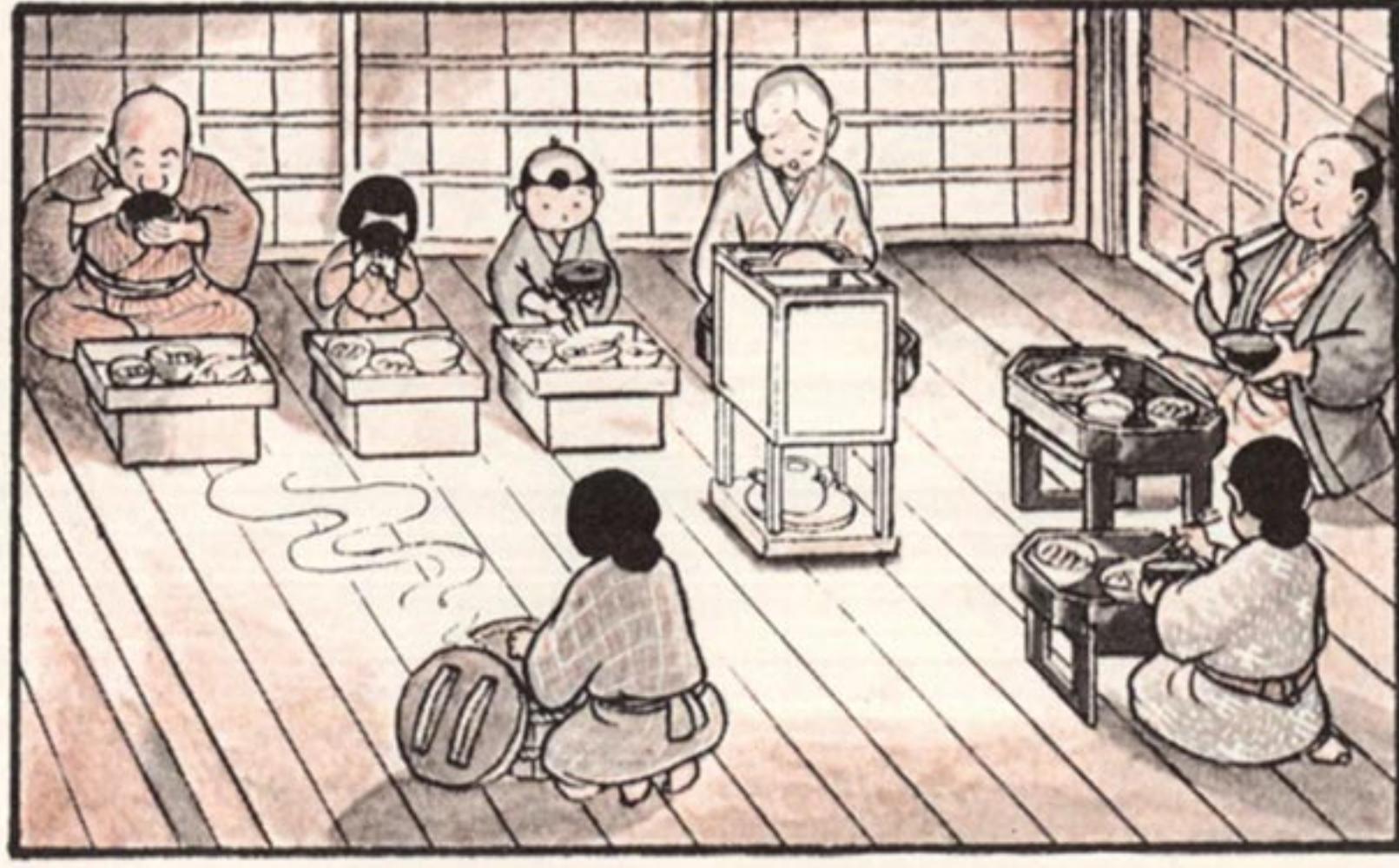
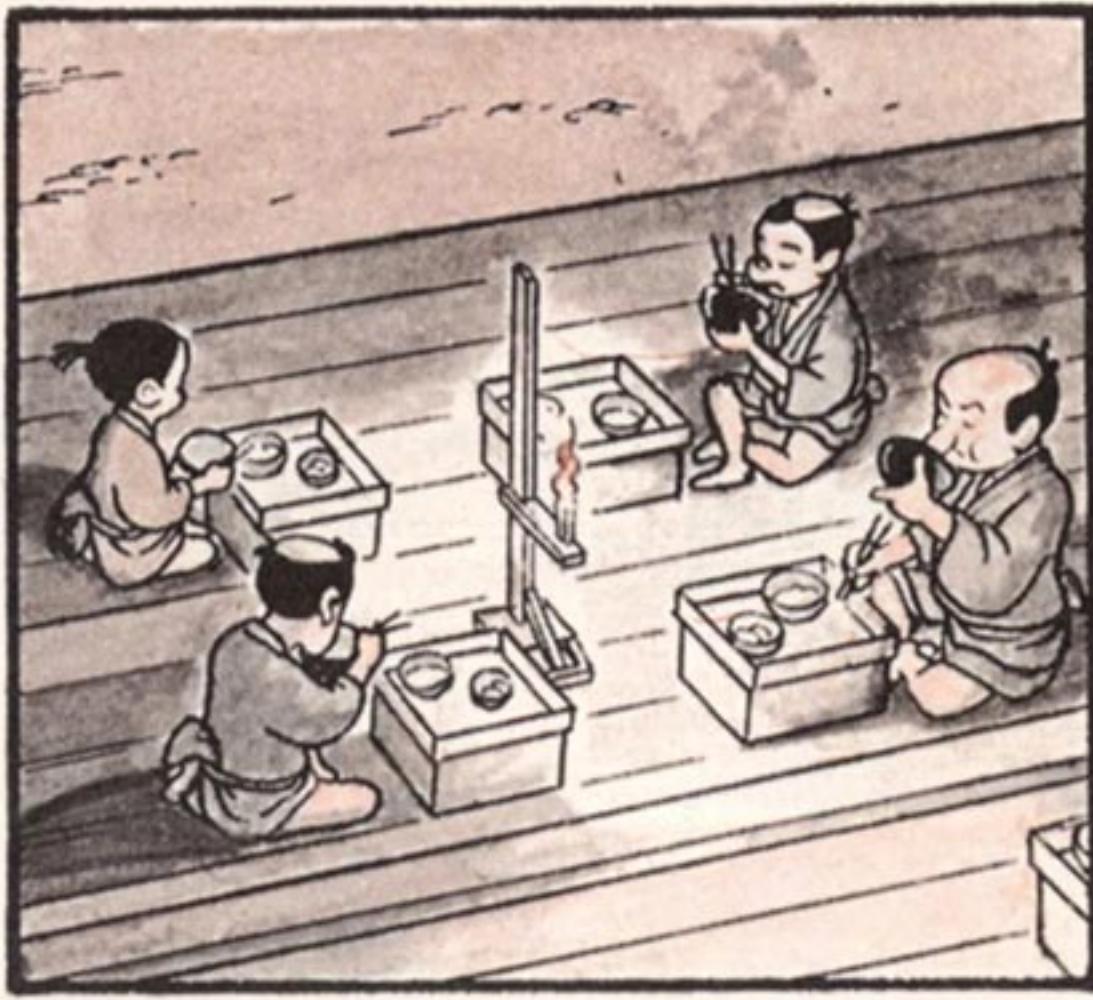


* 丁稚：職人や商人の家に奉公し、雑役に従事した少年。

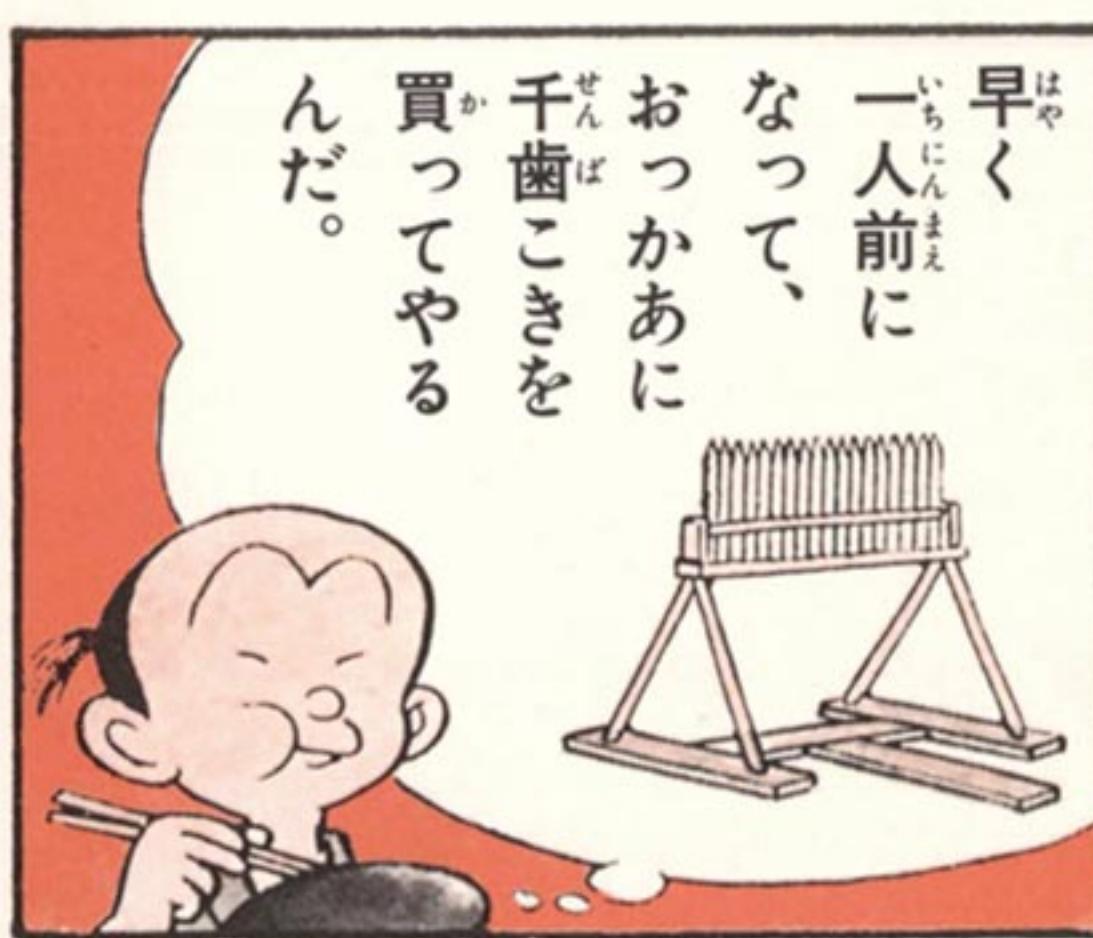
* 手代：商店で、

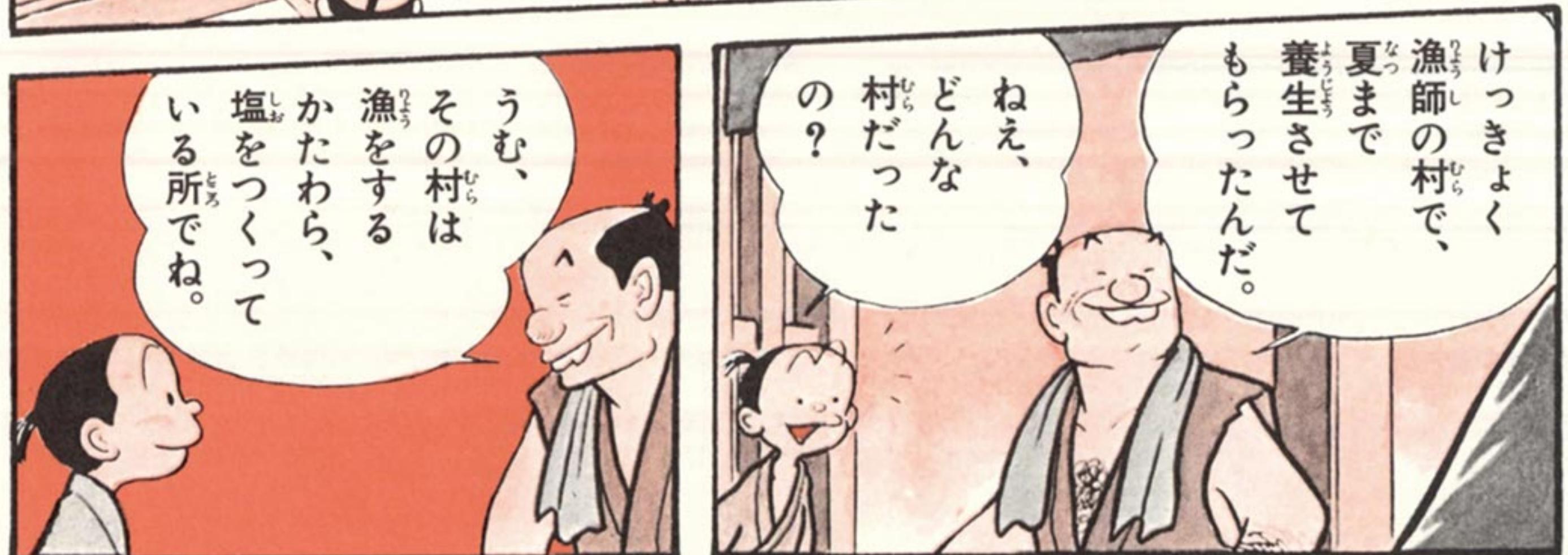
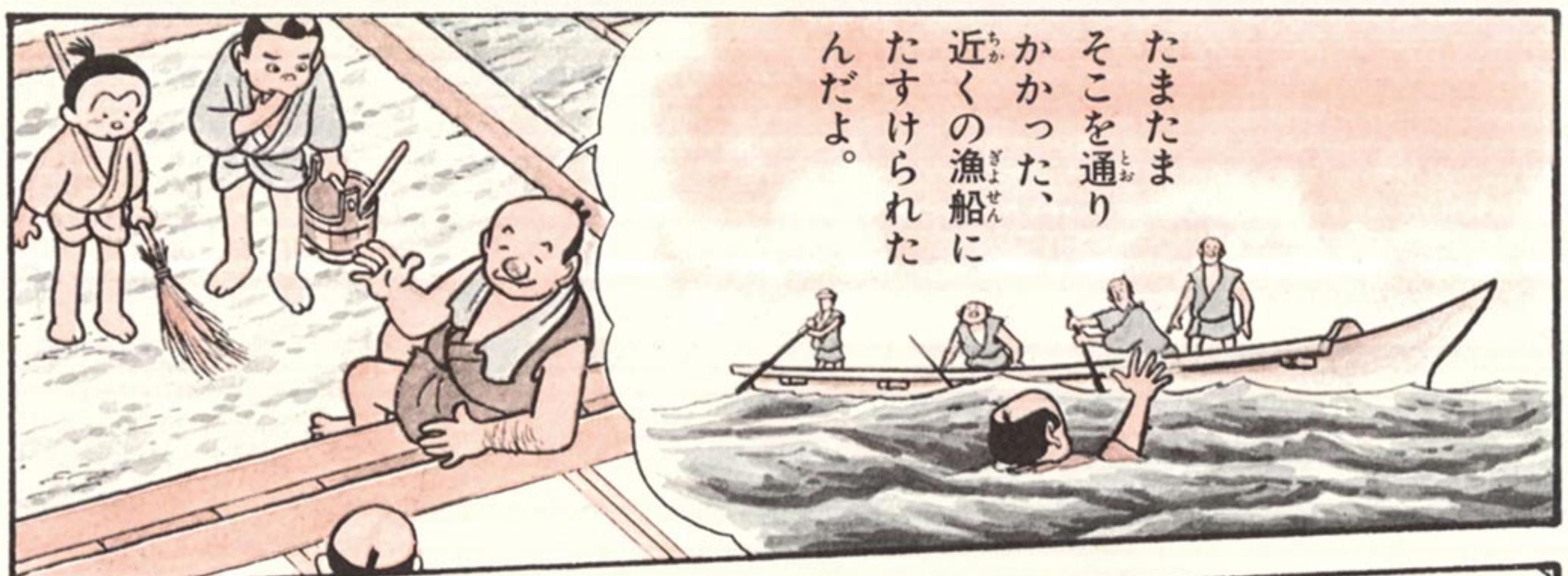
番頭と丁稚との間の身分の奉公人。

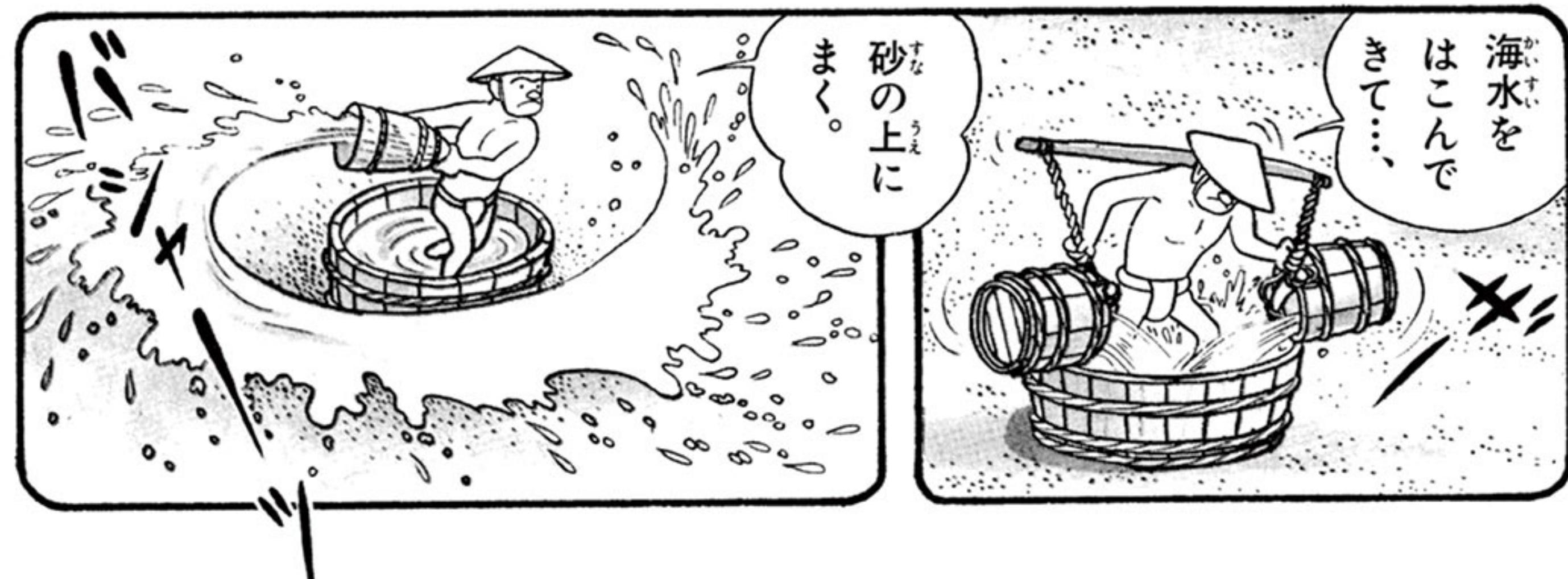
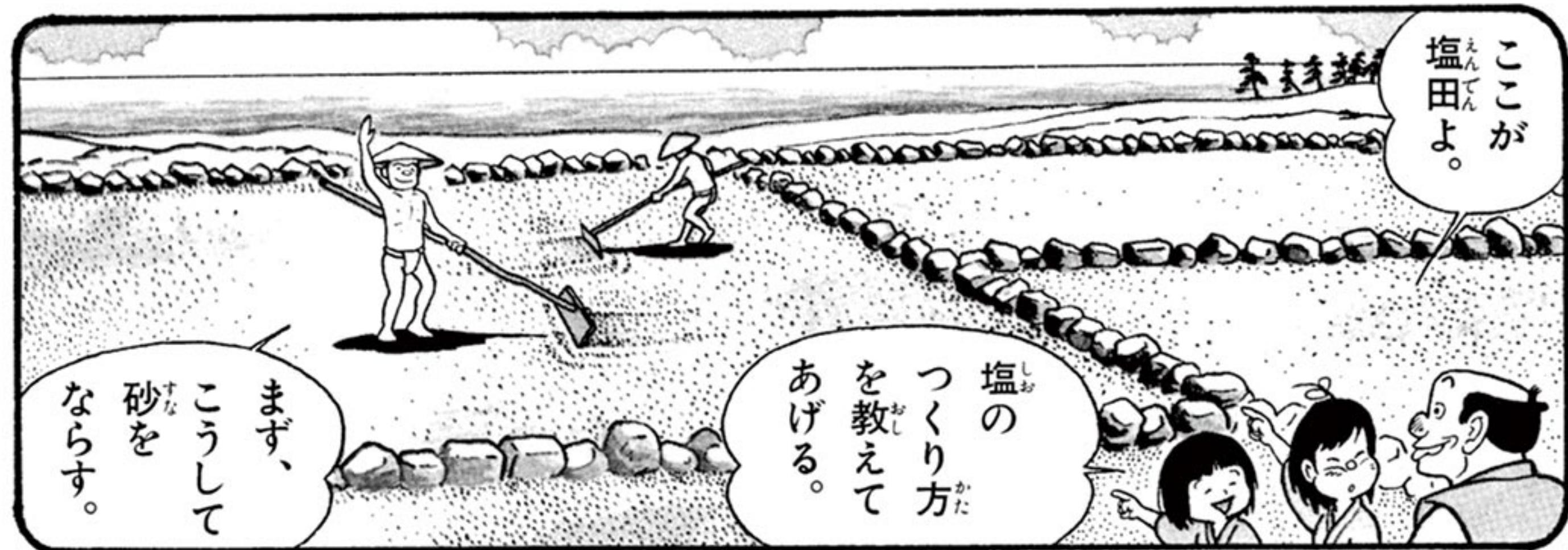
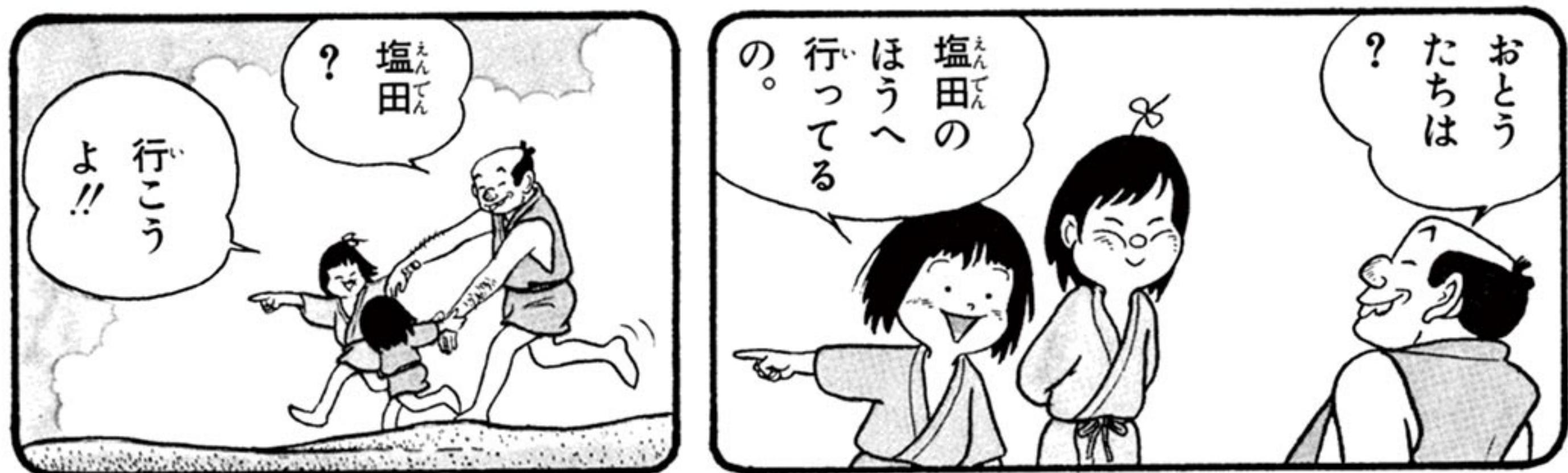
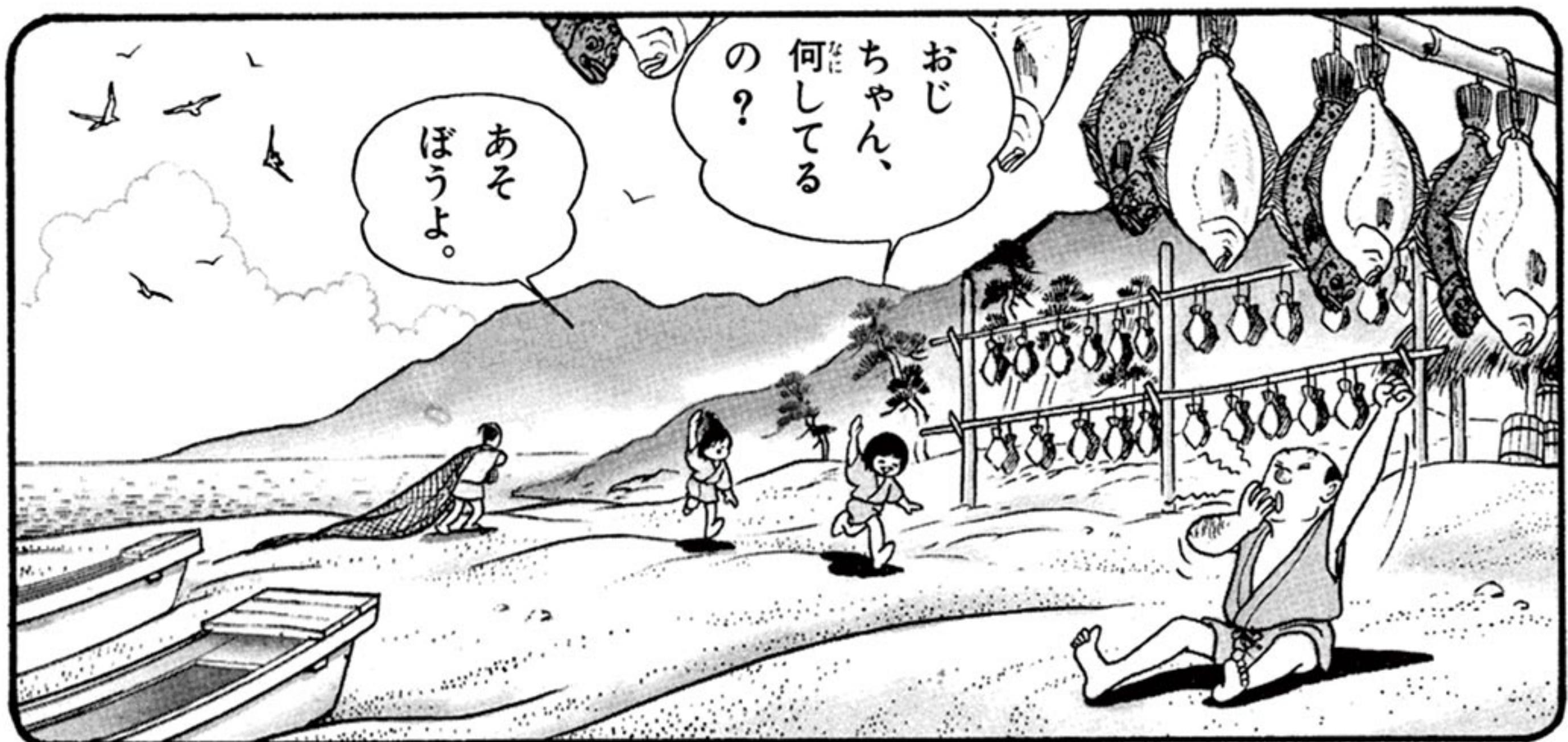
* 番頭：商店の奉公人の頭。

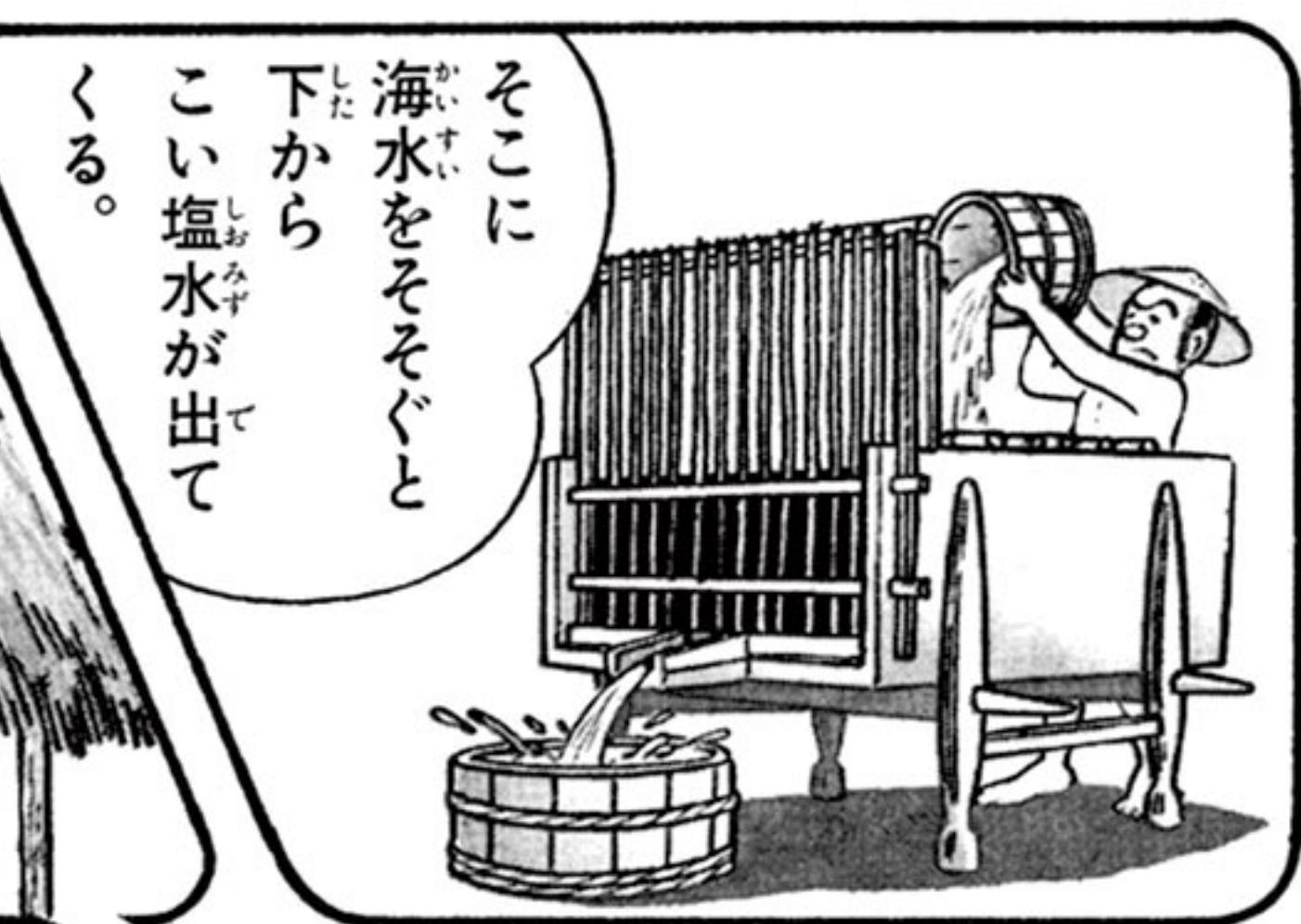
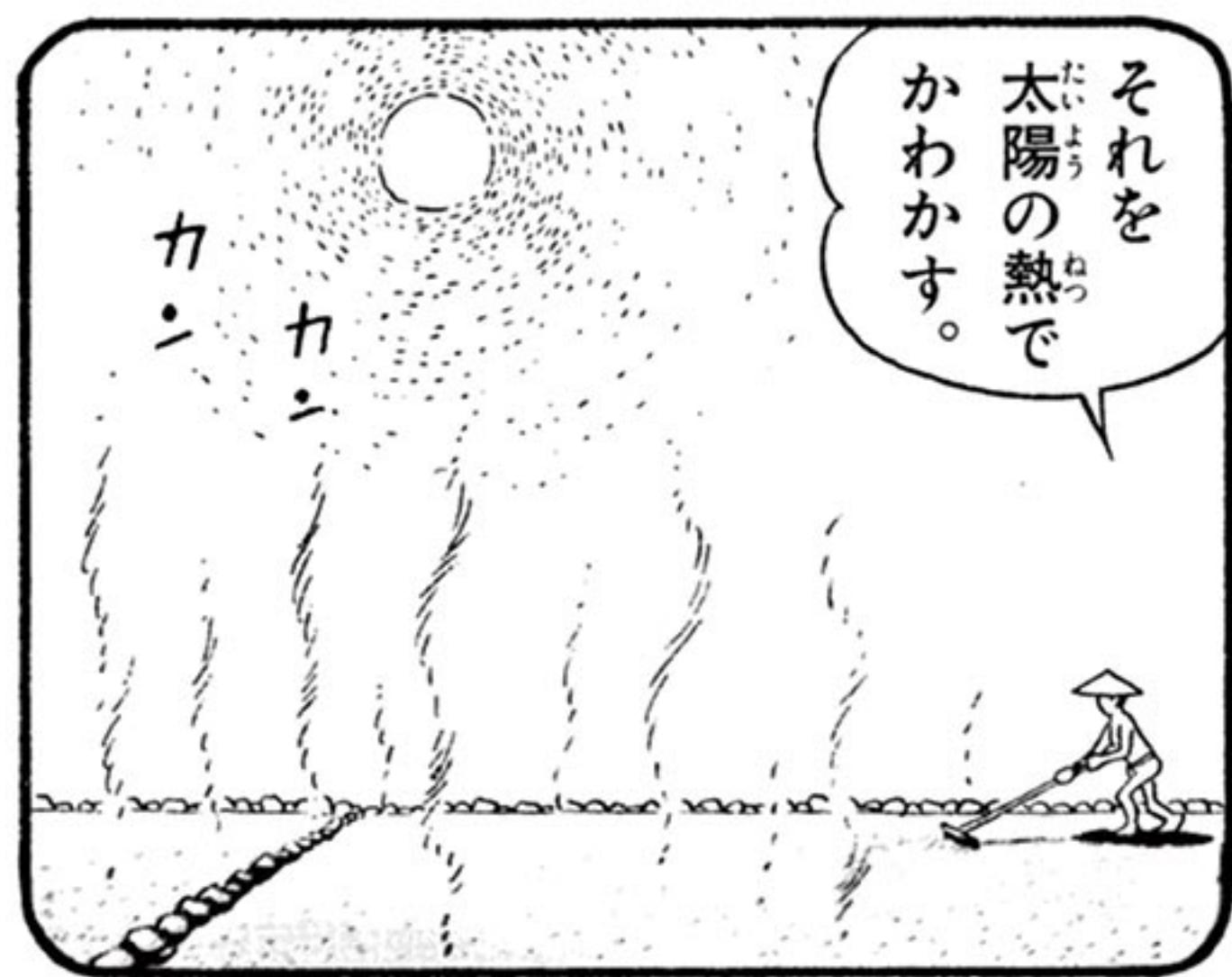


* のれん分け：長年つとめた奉公人に、店を出させて同じ屋号を名のることをゆるすこと。

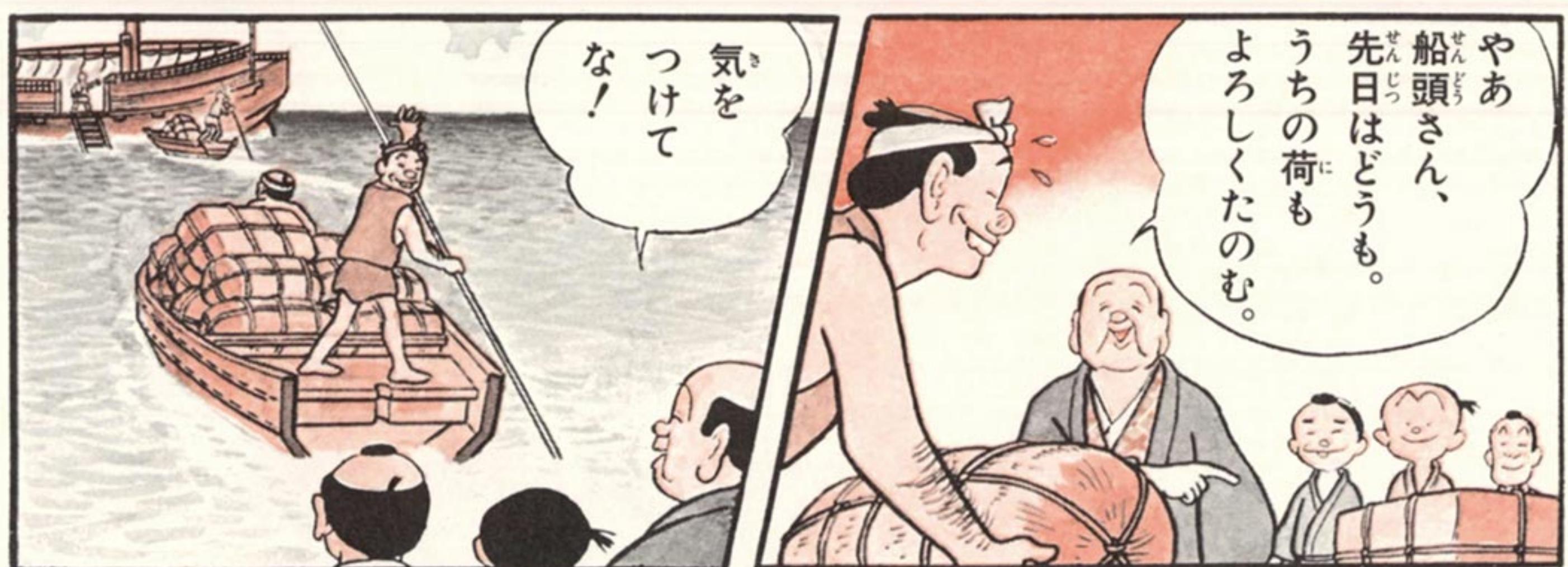
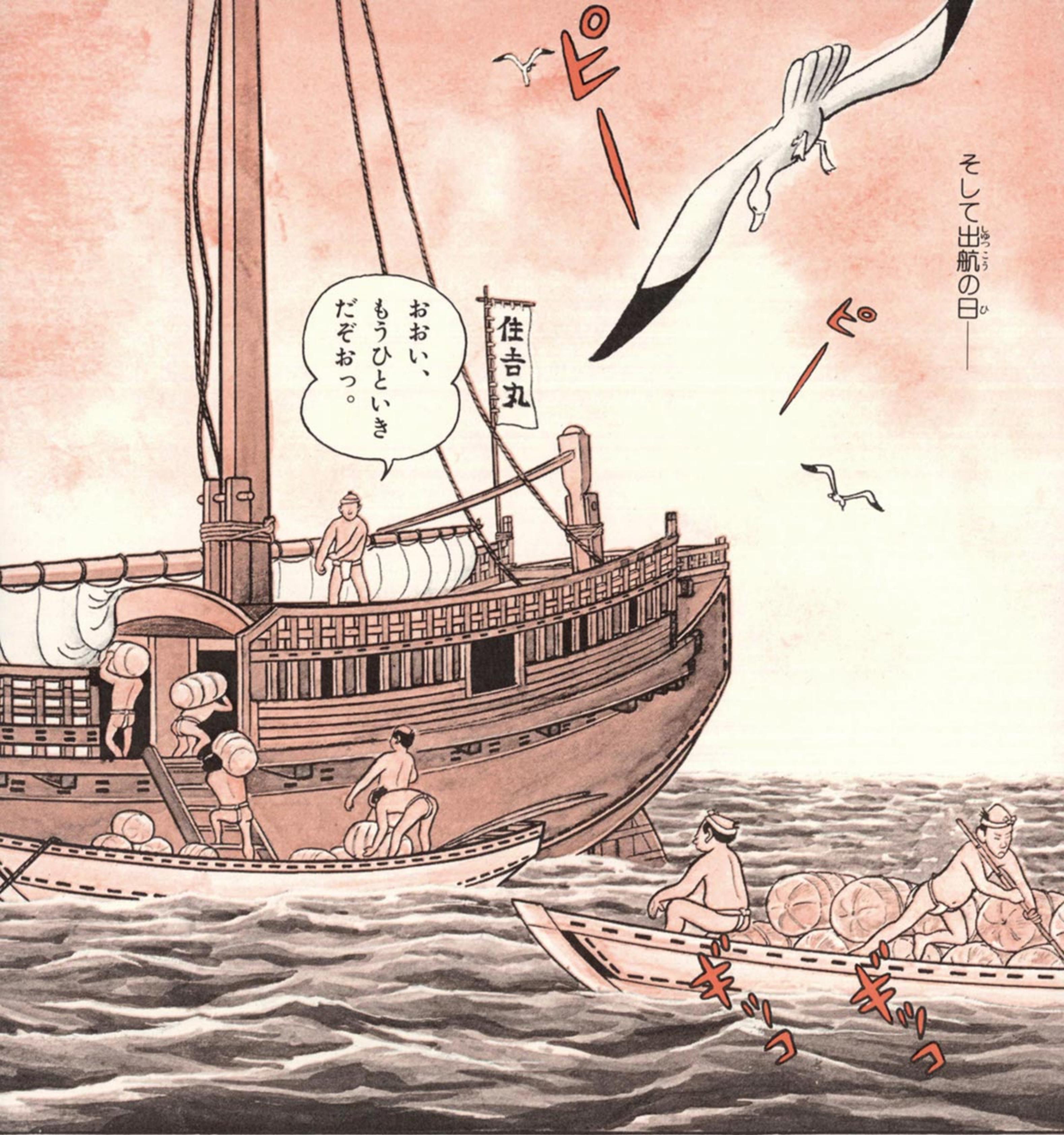


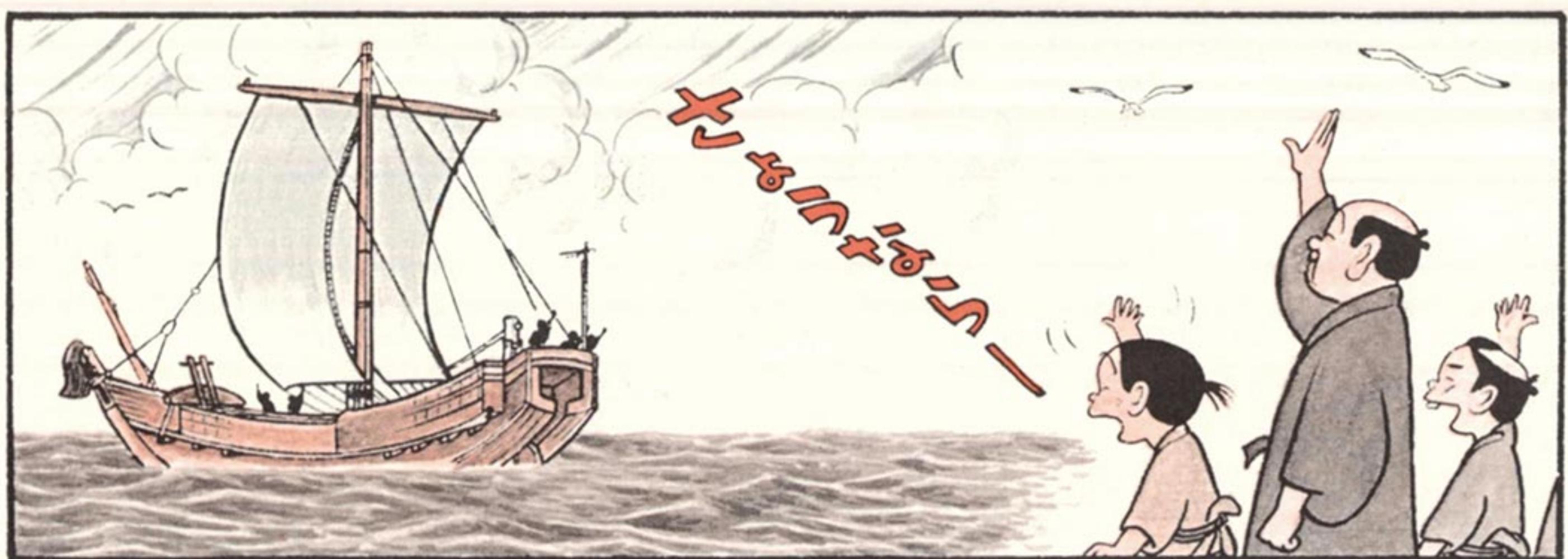
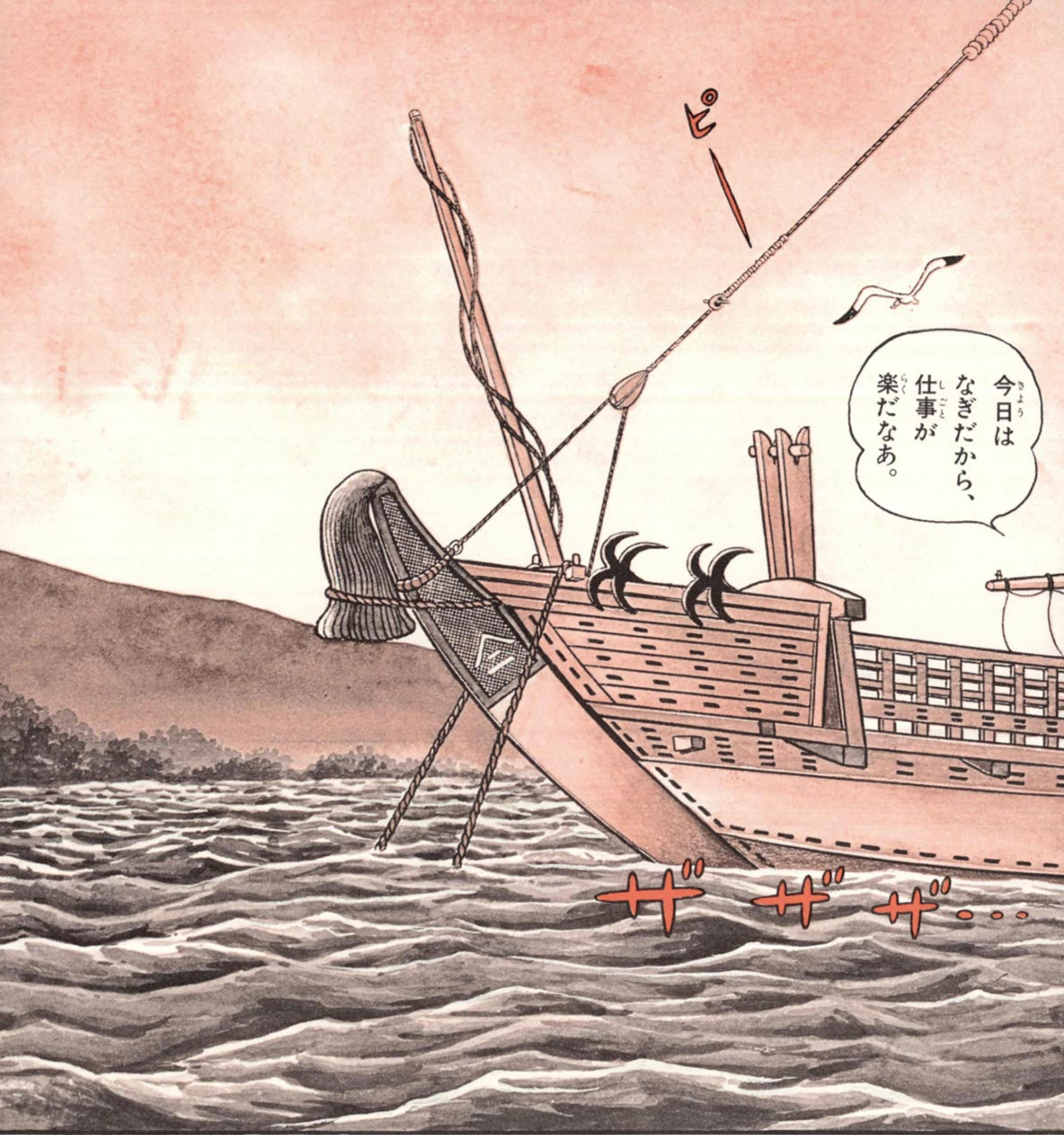




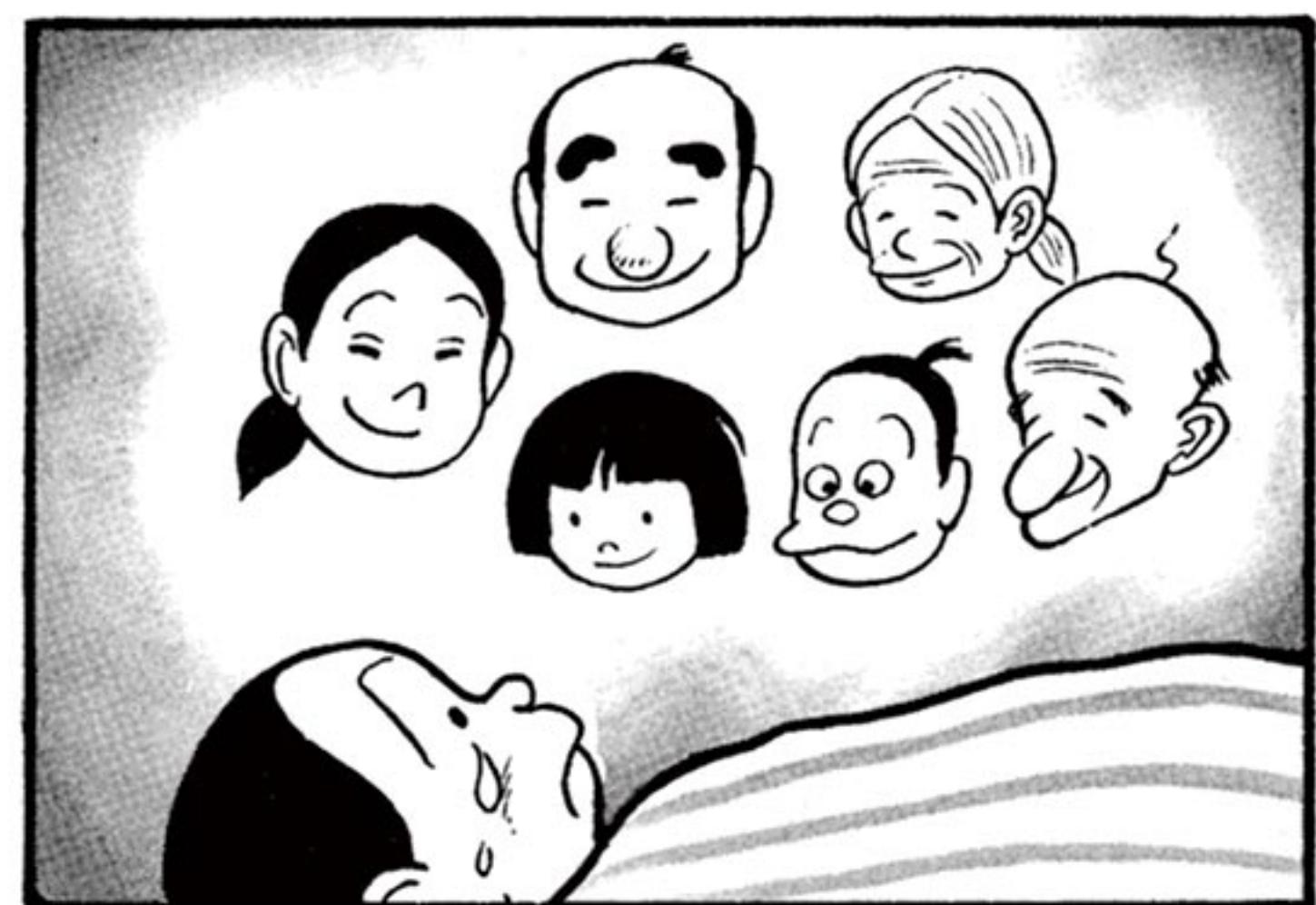
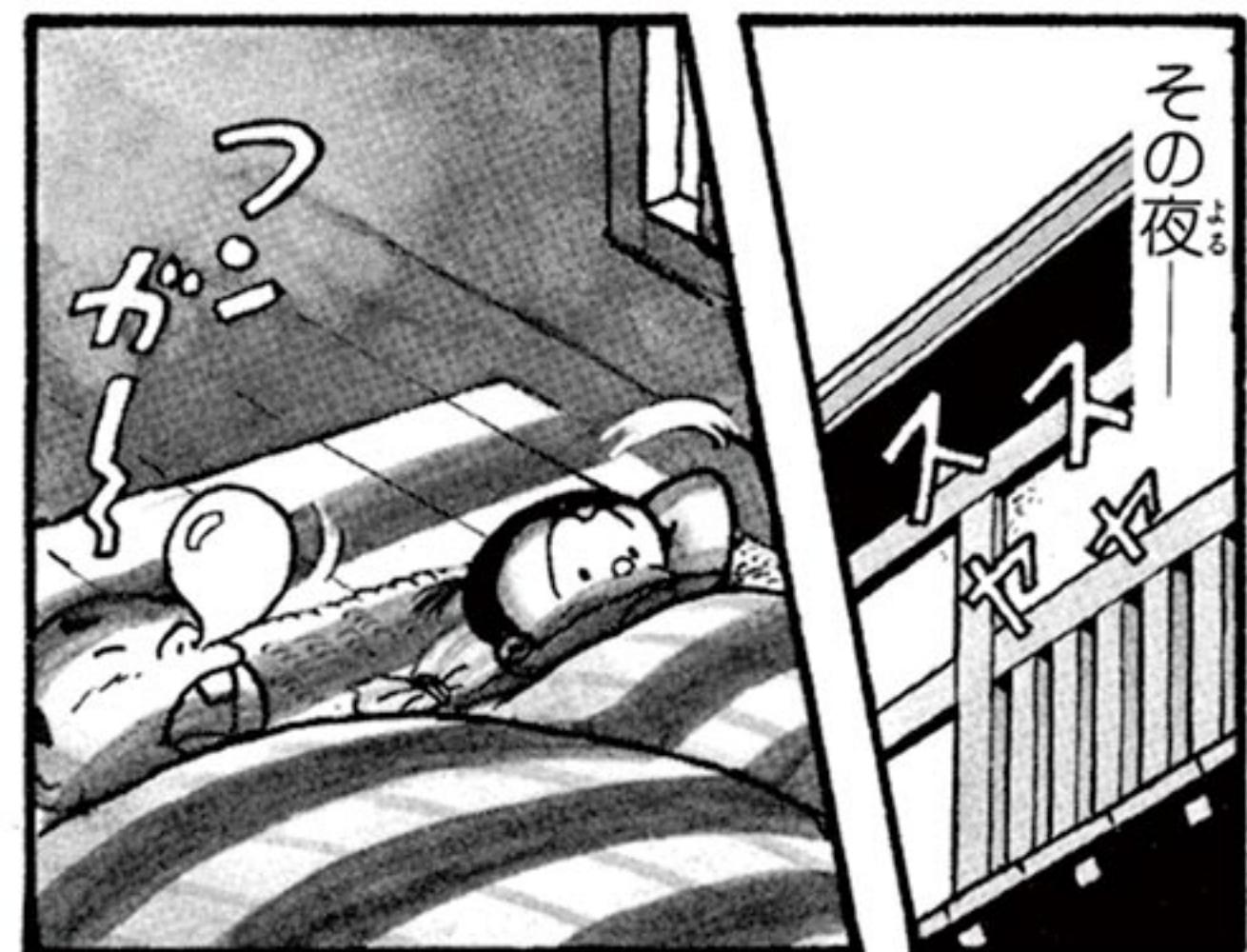


そして出航の日——





その後も、弥助のいそがし
い毎日がつづき――



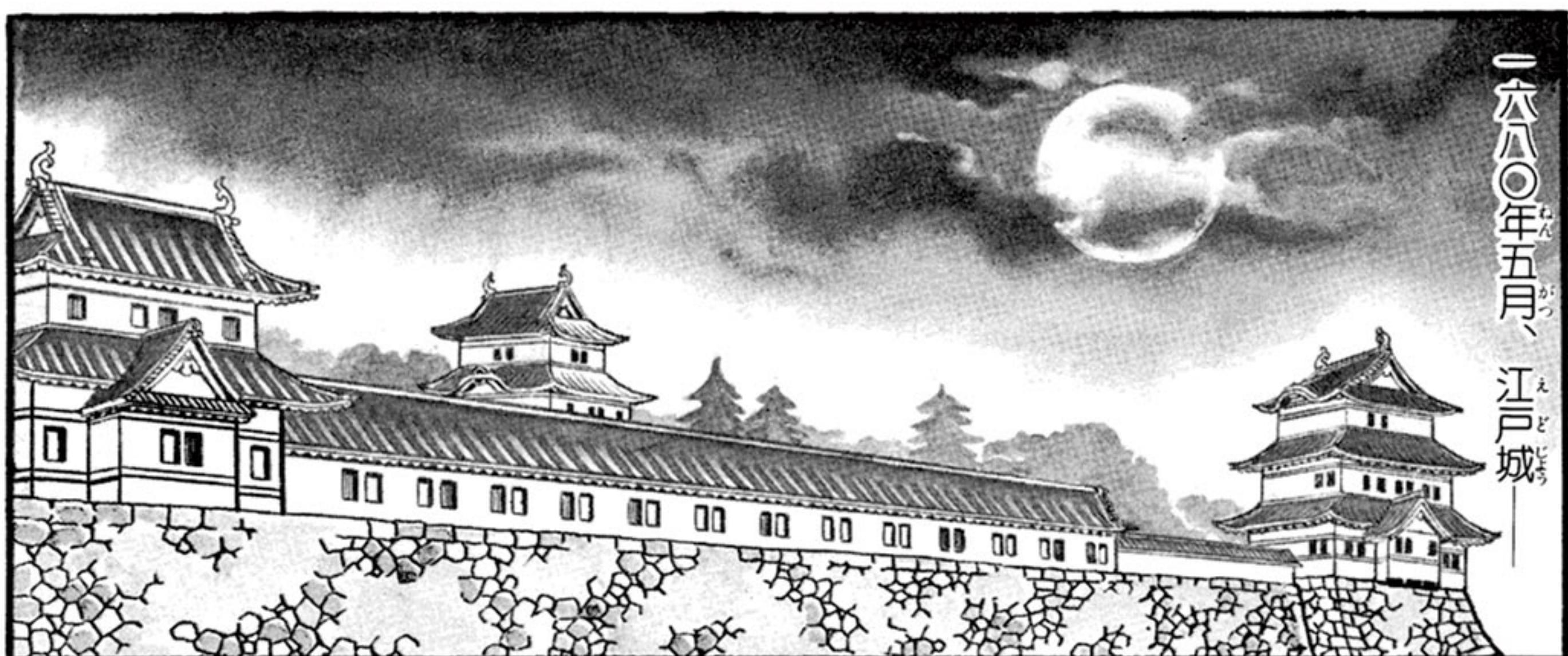
*やぶ入り：奉公人が、正月および盆の十六日前後にゆるされる休み。



小学館 eBooks

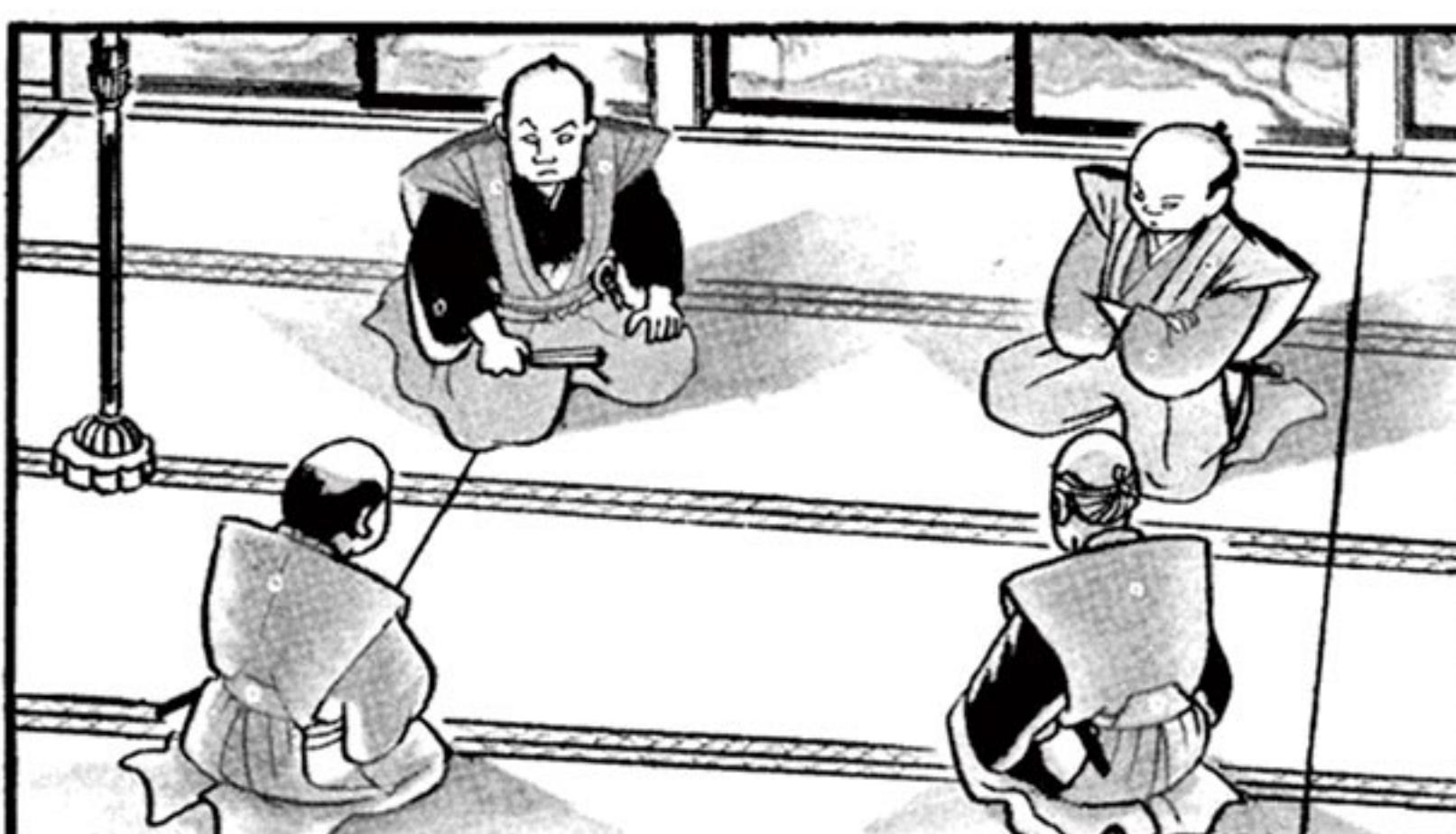
だい しょう
第三章

つな よし じ だい
綱吉の時代
えどじだいぜんき
——江戸時代前期——

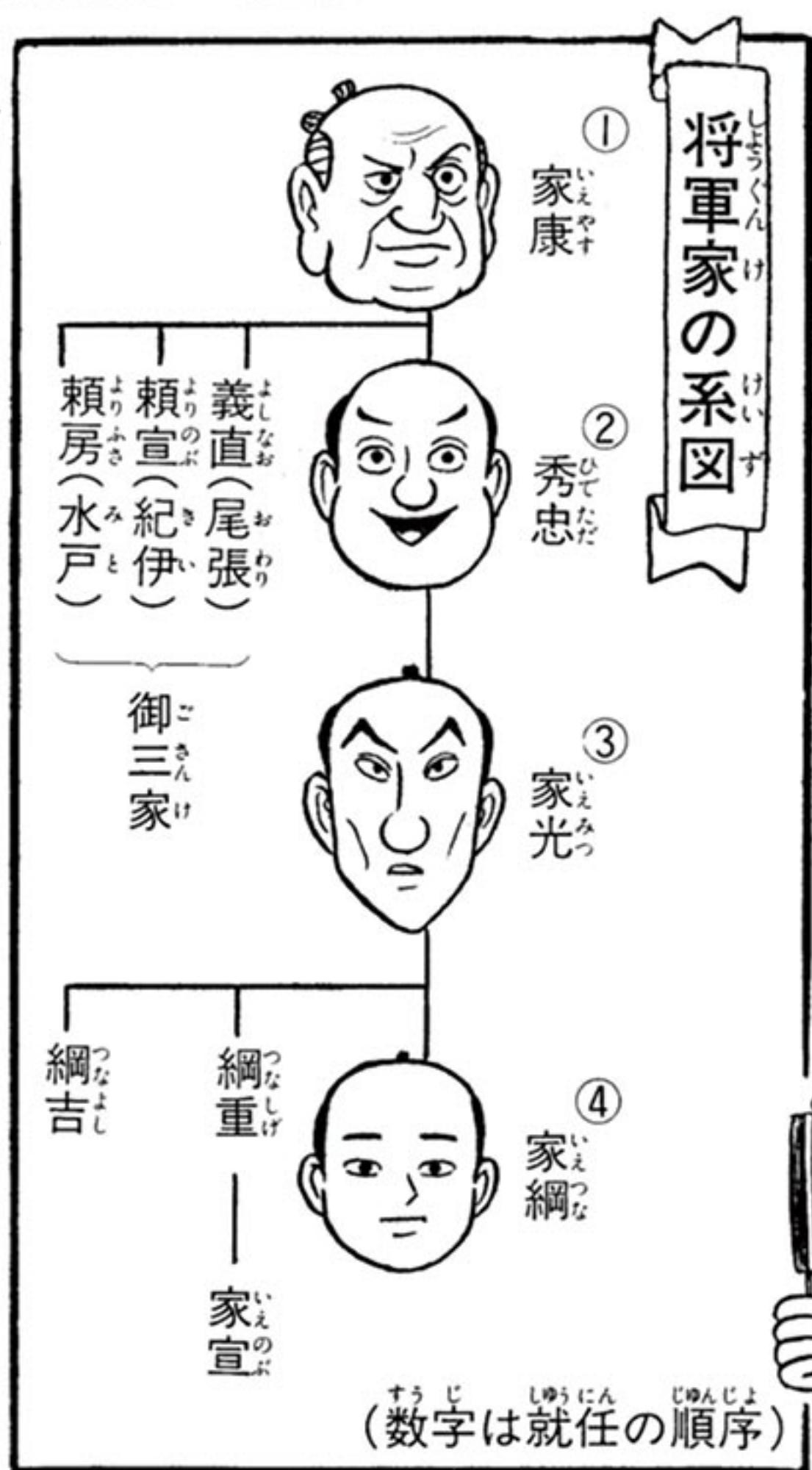


一六八〇年五月、江戸城へ御用部屋：江戸城内で、大老、老中、若年寄が政務をとつた部屋。

*上さま：天皇、将軍などの尊称。ここでは將軍徳川家綱をさす。

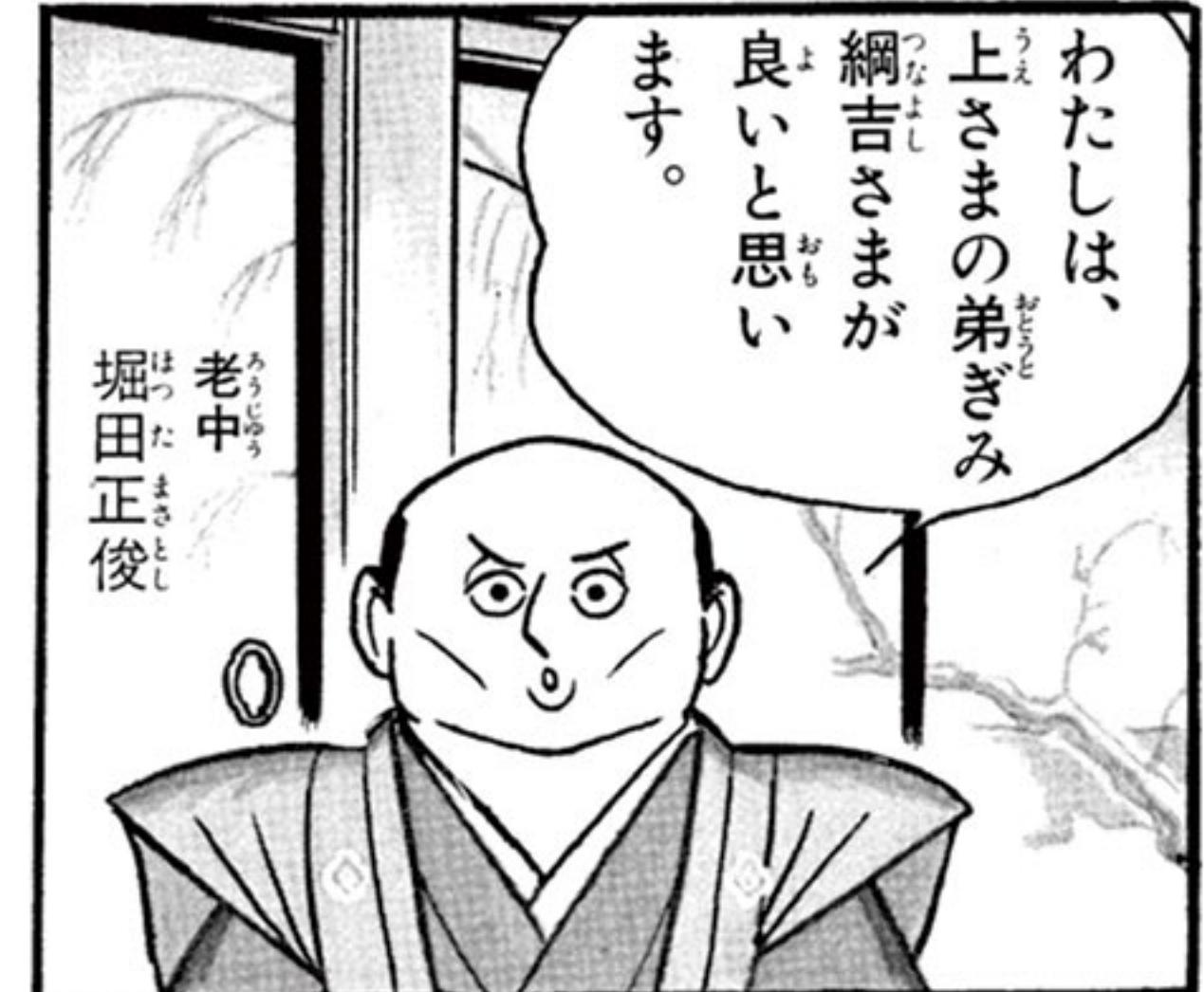


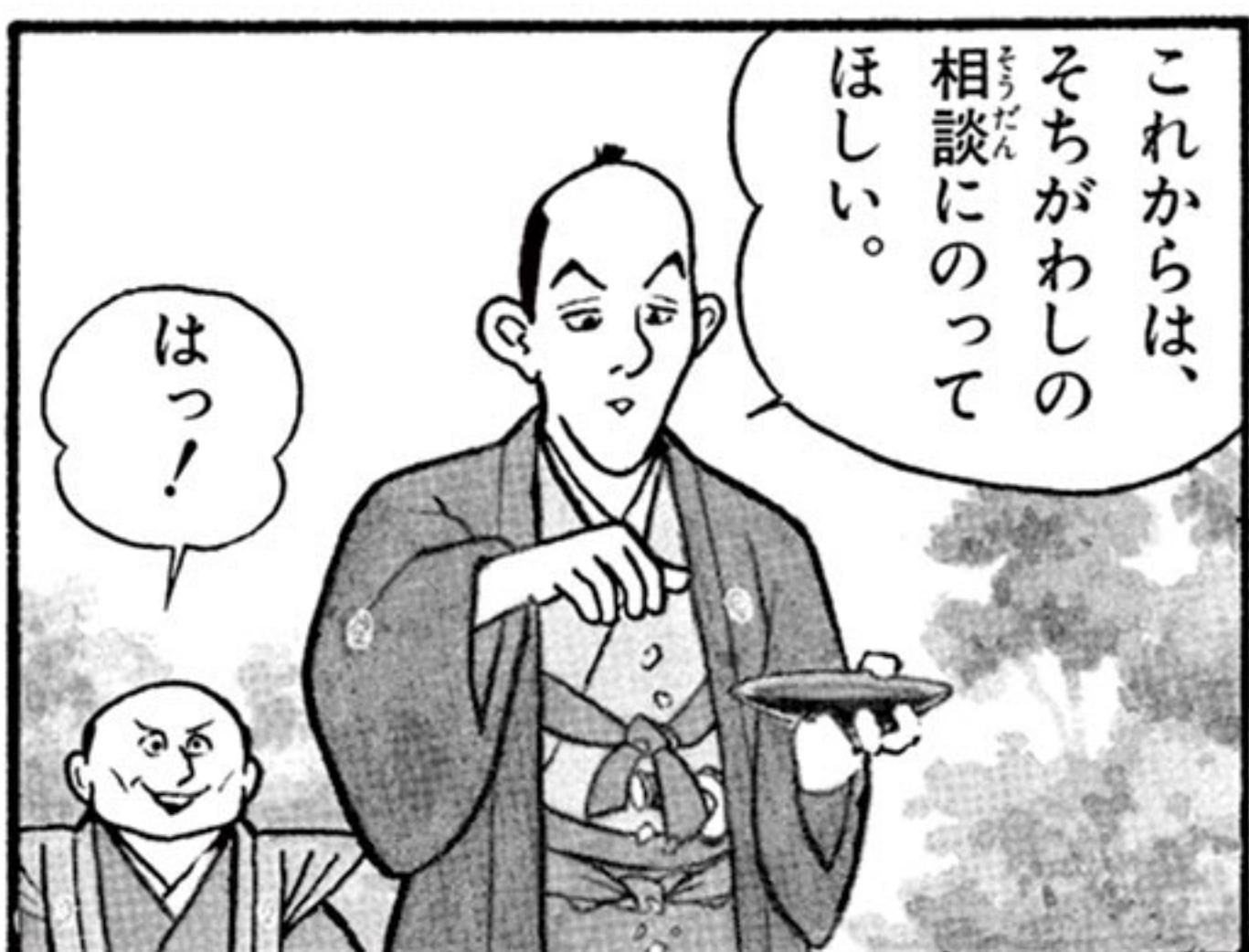
A black and white illustration showing a close-up of a traditional Japanese building's roofline and eaves. The roof is covered in grey tiles, and the eaves are supported by white wooden brackets. The building features vertical slatted windows. On the left side of the image, there is vertical Japanese text.



* 北条氏・鎌倉幕府の執権北条氏、

第七卷参考。





*代官：幕府、諸大名の直轄地を支配する地方官の職名。



*高利貸し…高い利子をとつてお金をかすこと、またはかす人。





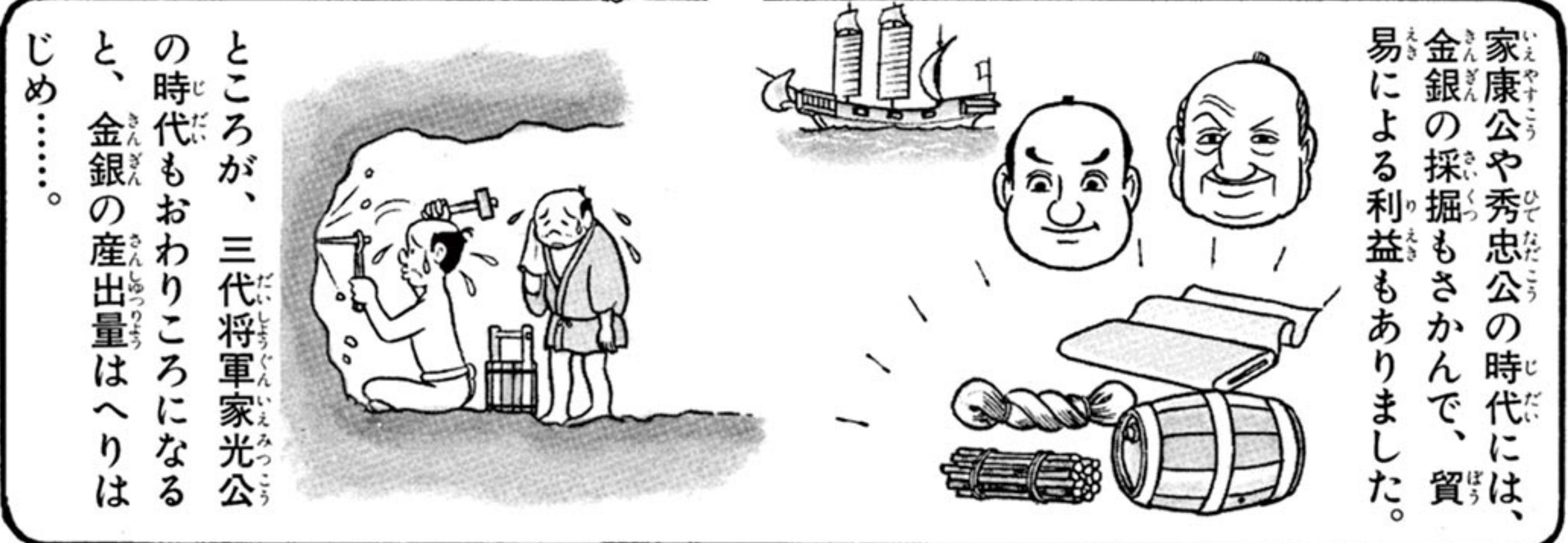
*駿河：静岡県中央部

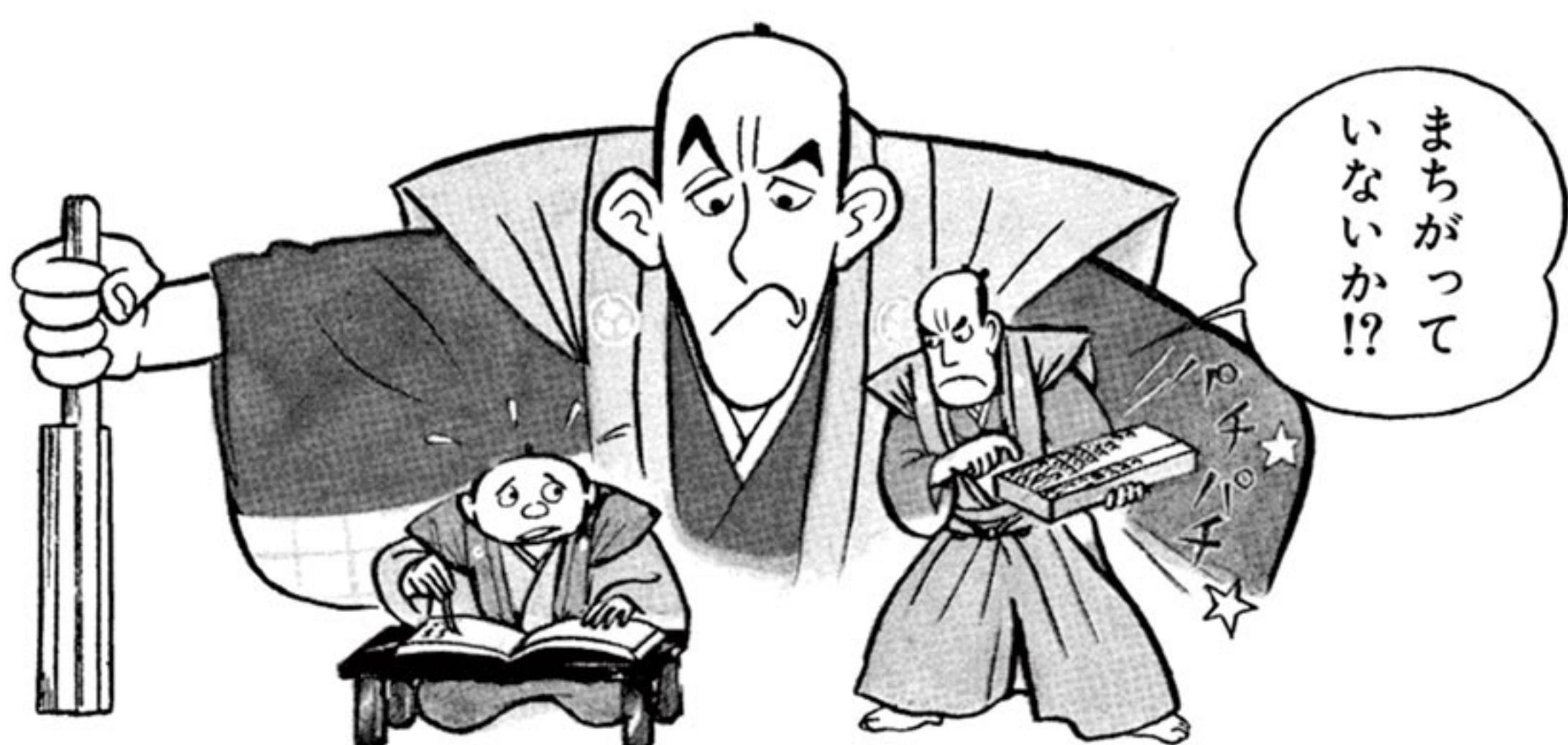
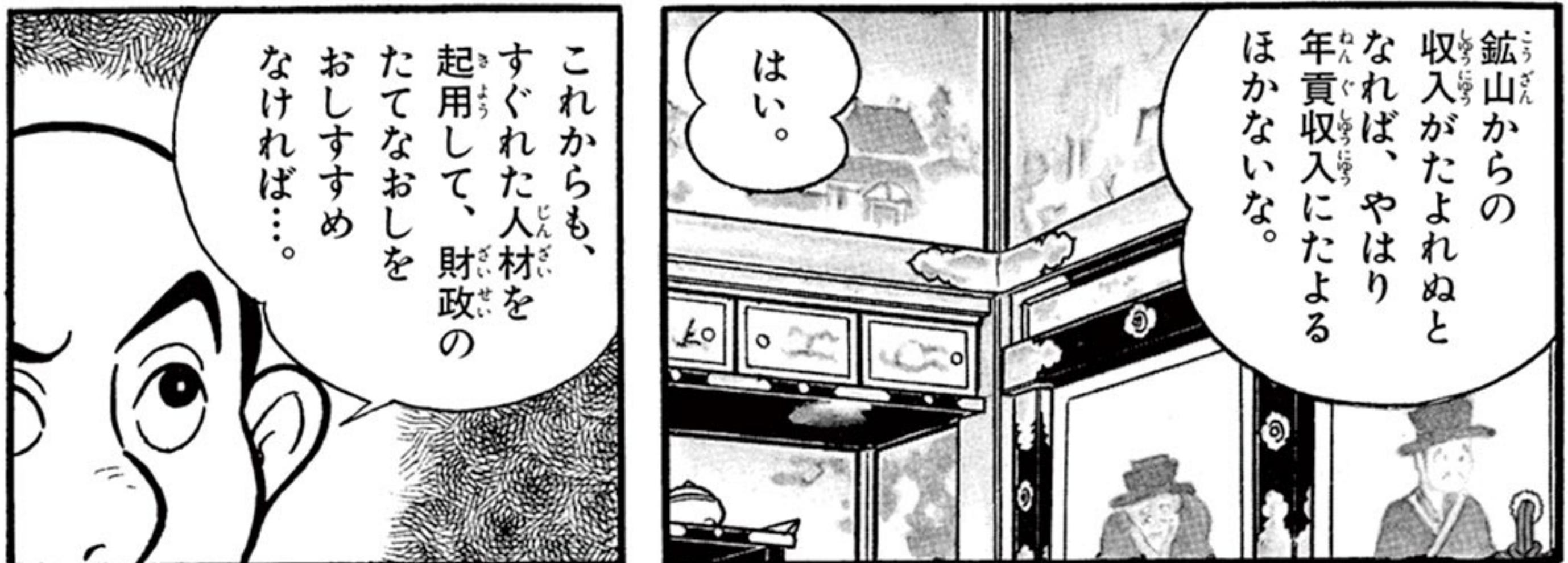
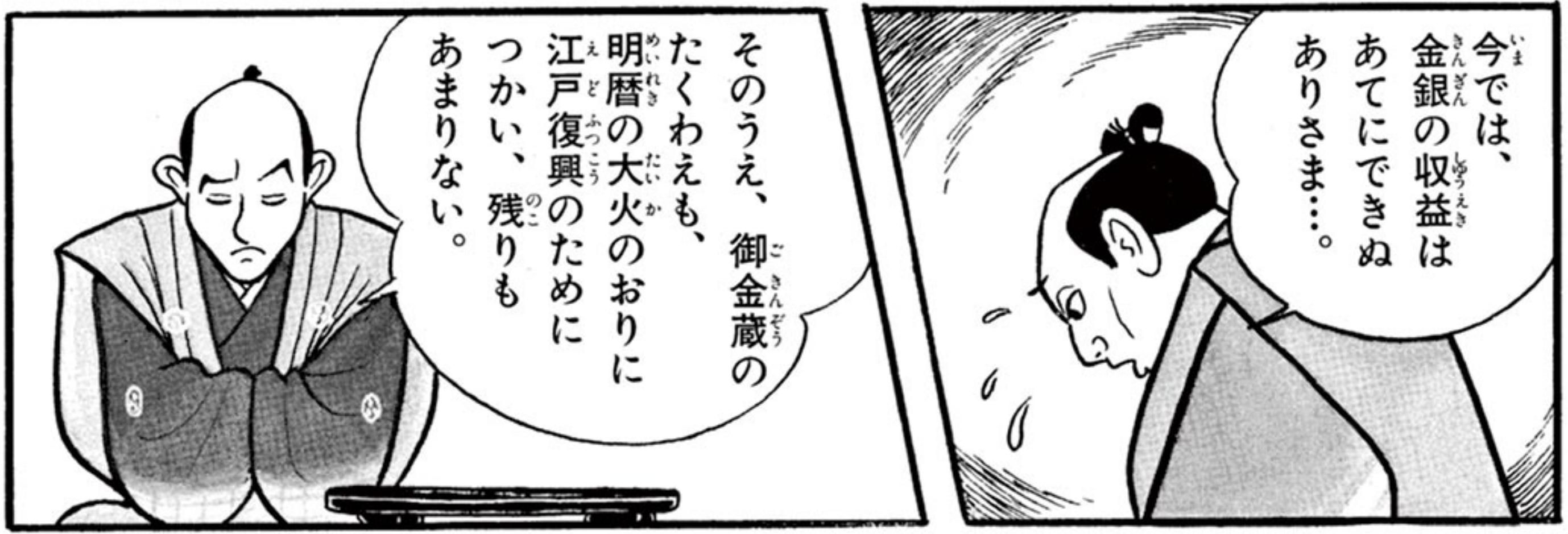


われらも
気をつけないと、
いつ改易処分に
なるかわからん
ぞ。



綱吉の部屋



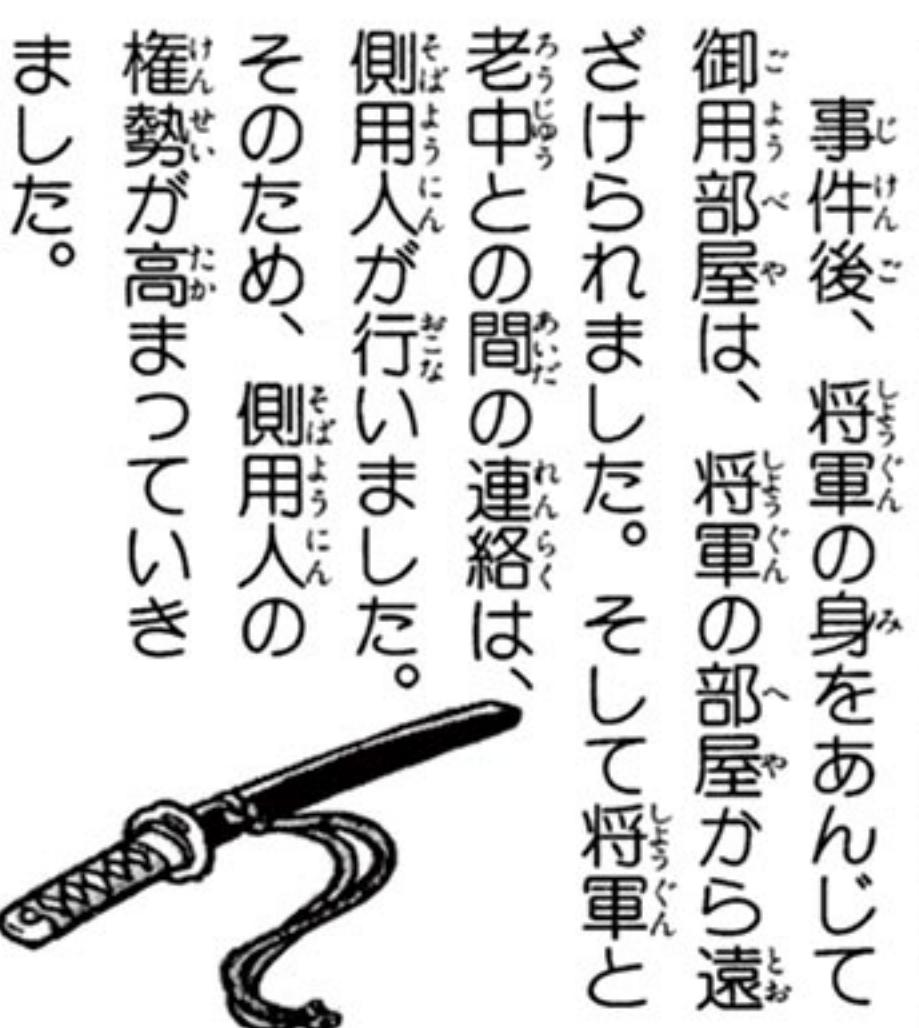
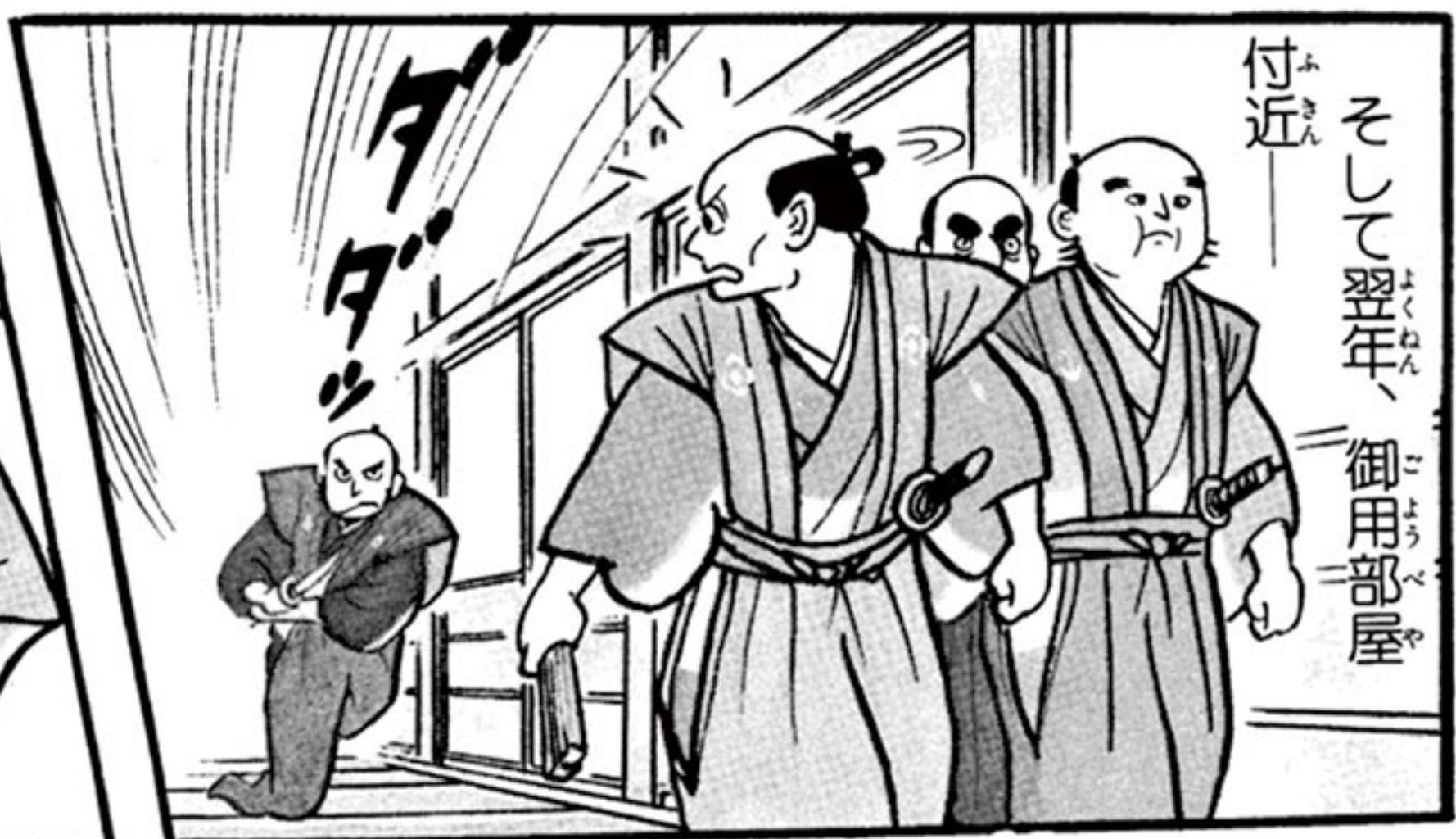
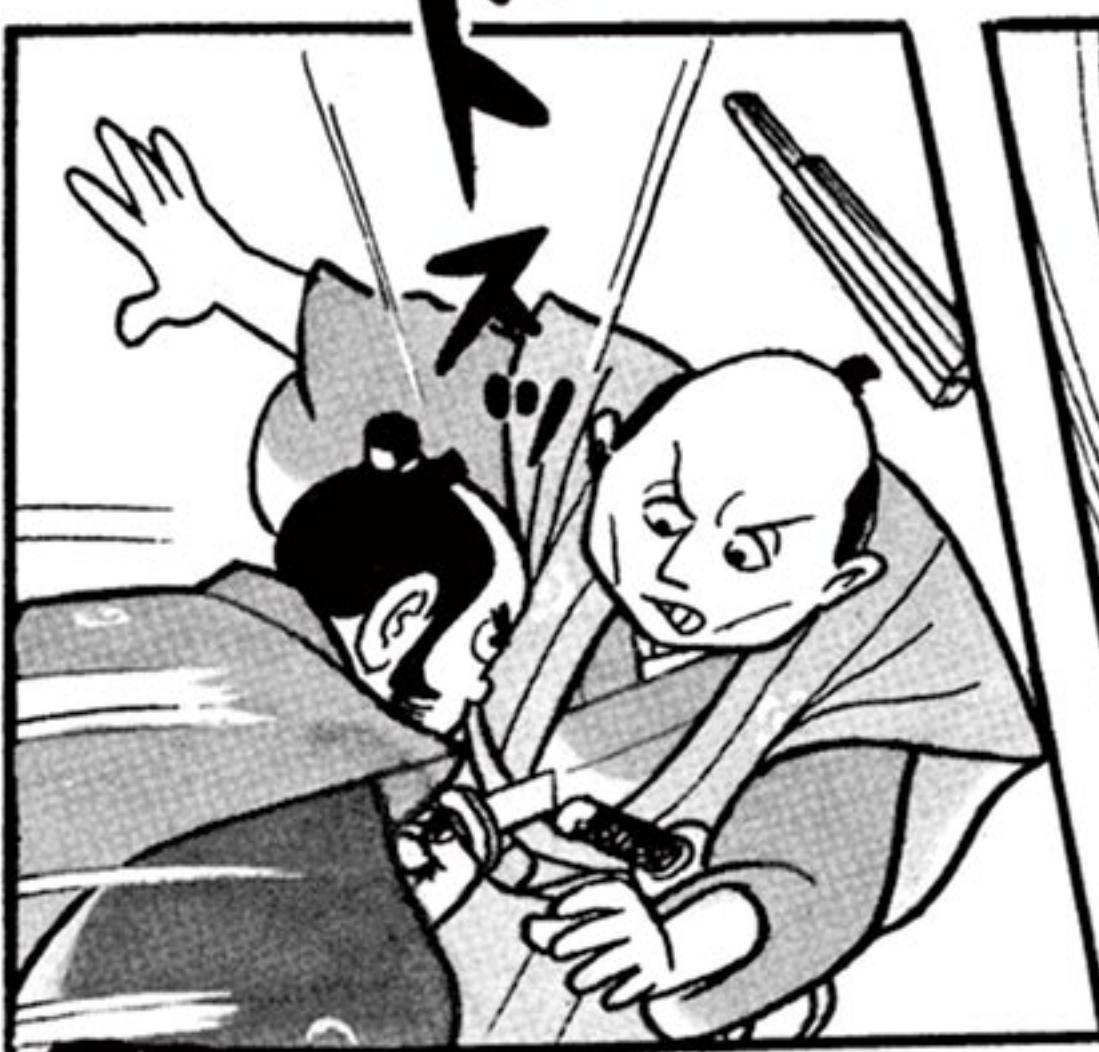


その後も綱吉は、勘定吟味役で政治にのぞみました。

*勘定吟味役：江戸幕府の職名。勘定方役人の監督を行った。



*側用人：江戸幕府の職名。將軍のそば近くにつかえた人。

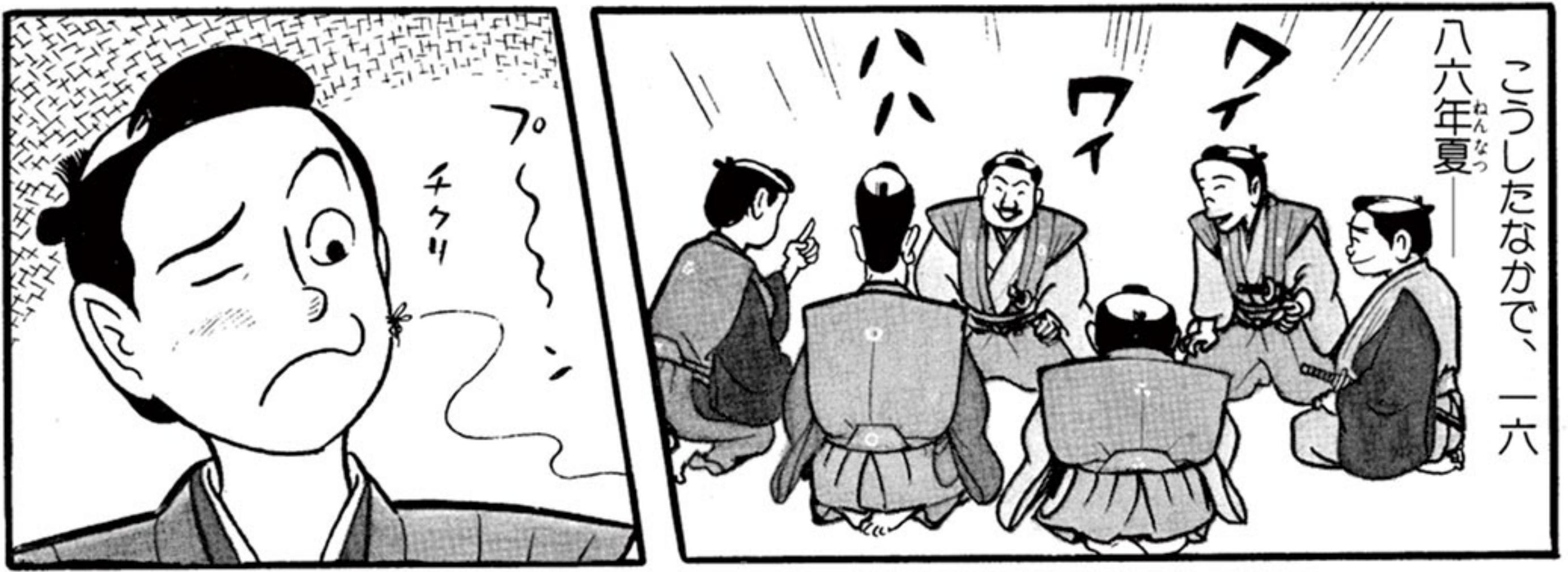


一六八五年七月



その後、病氣の牛馬を
する」と、生きた魚や
鳥を食用として購買する
ことを禁止するな
ど、あいついで動物
愛護の法令が出され
ました。

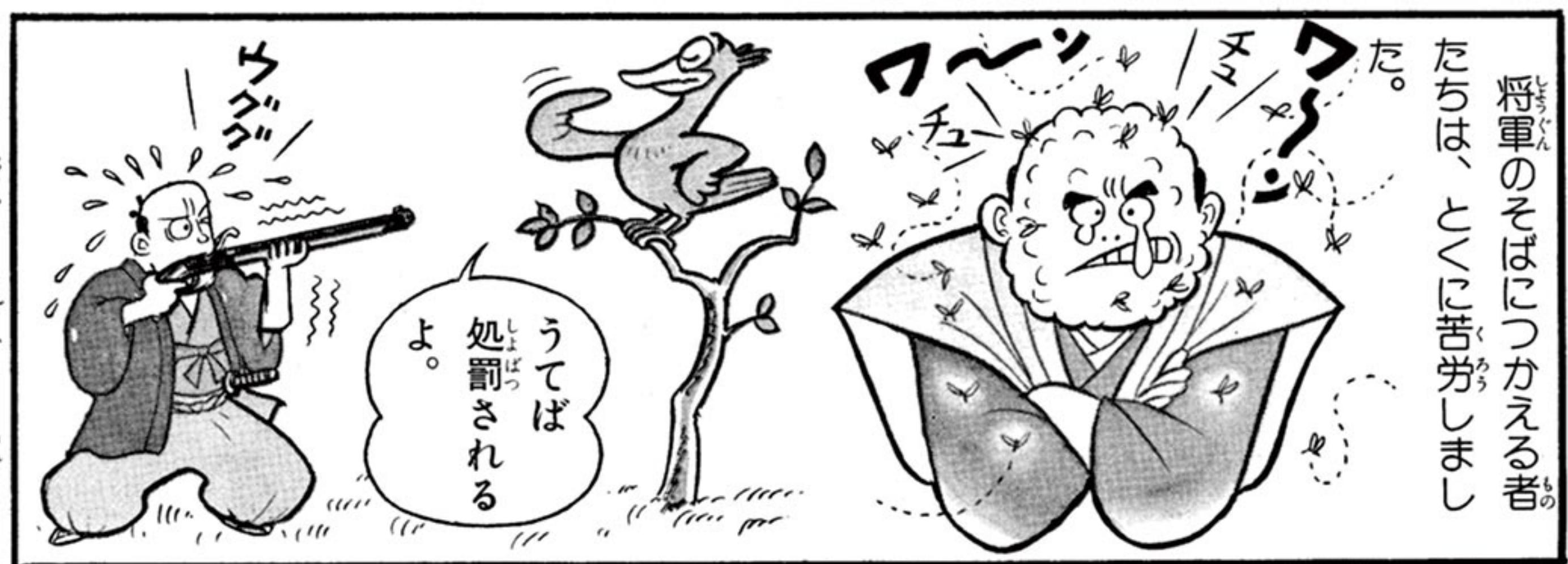




*閉門：江戸時代、武士や僧侶にさせられた刑。

門をとじて窓をふさぎ、

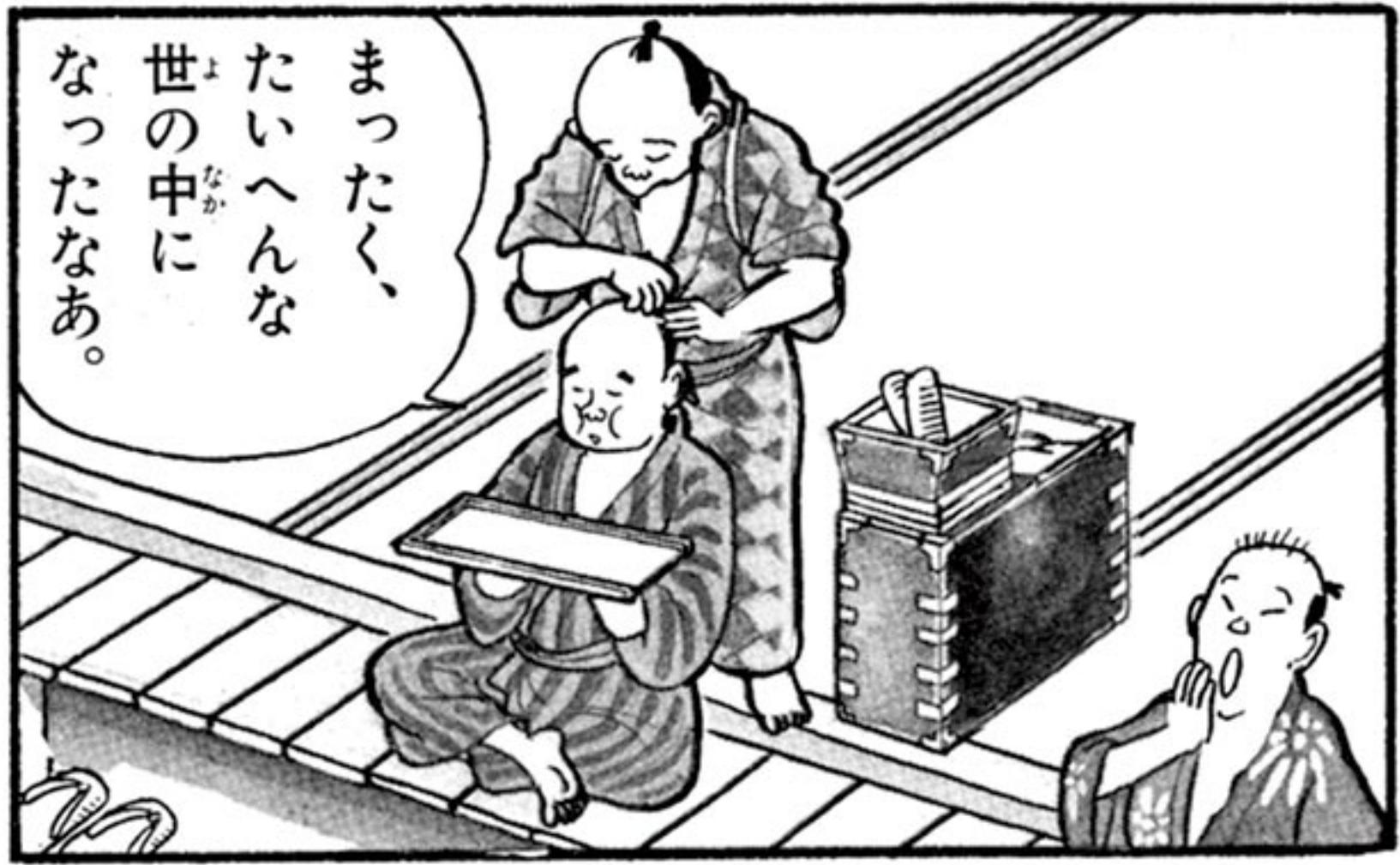
昼夜とも出入りを禁じた。





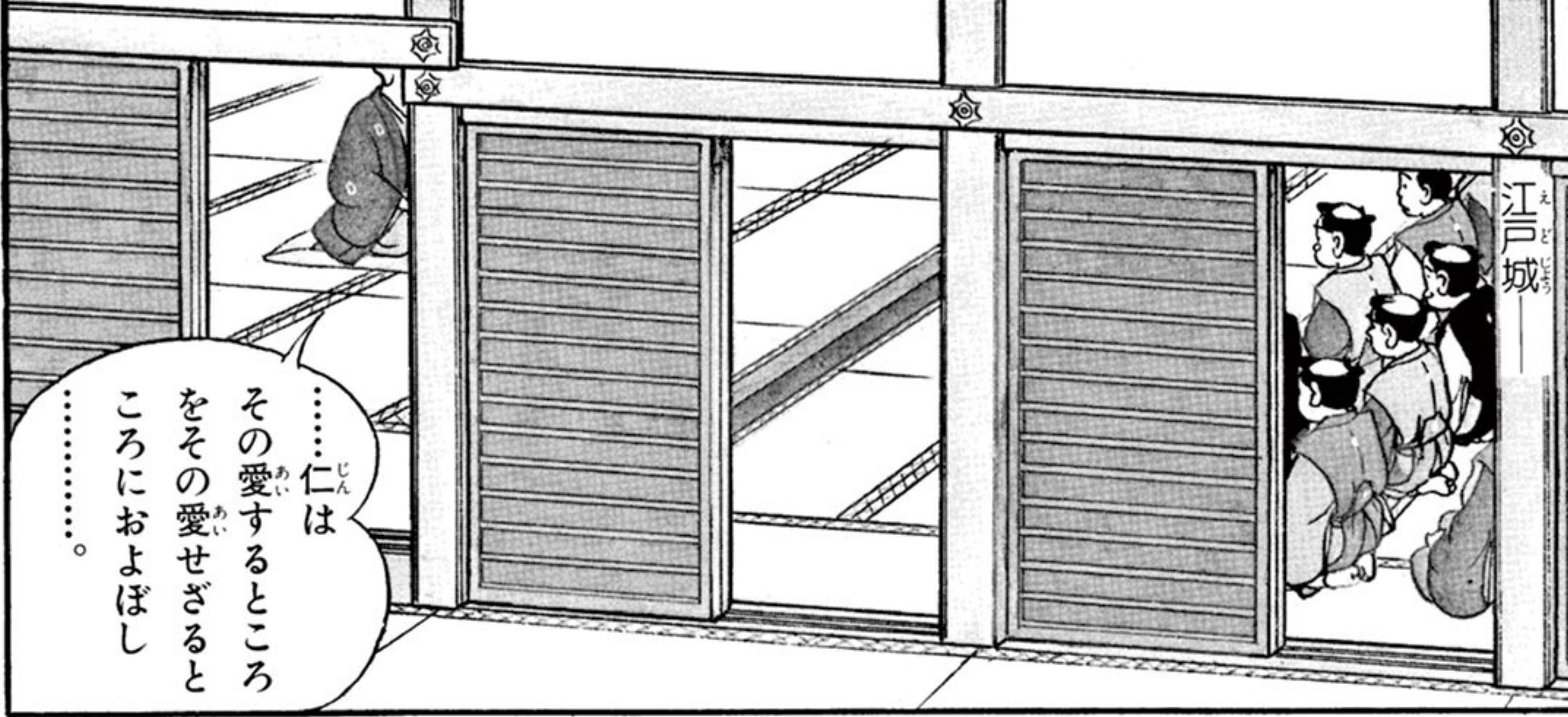
城下では

*遠流：島流しの刑のなかで、いちばん遠い所へながされることがある。

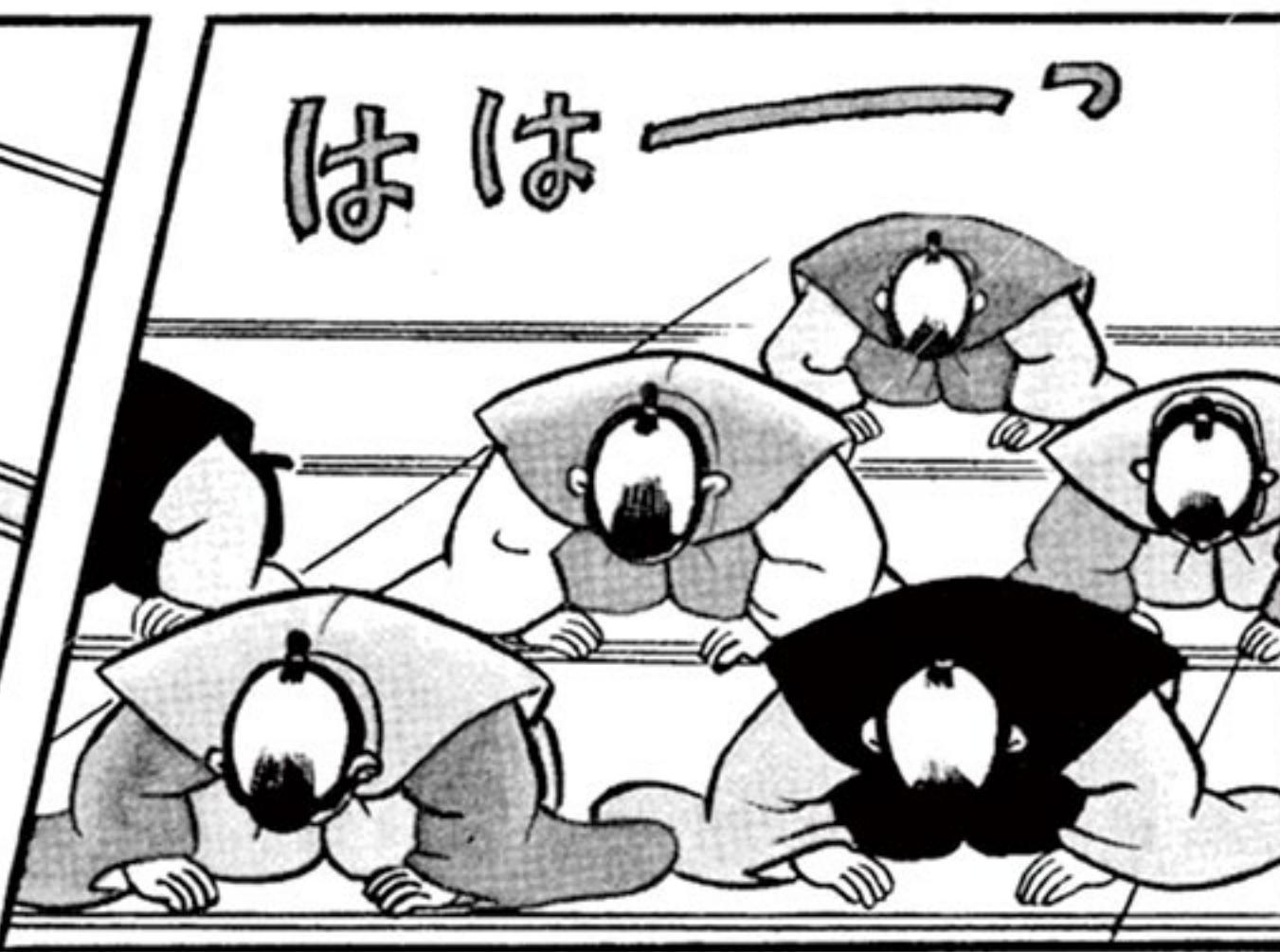


*公方：将軍のこと。





*朱子学…中国の宋時代に、朱子らによつてまとめられた儒教の学説。



*儒学…中国の孔子を祖とする、聖人の教えをまとめた政治、道徳の学問。

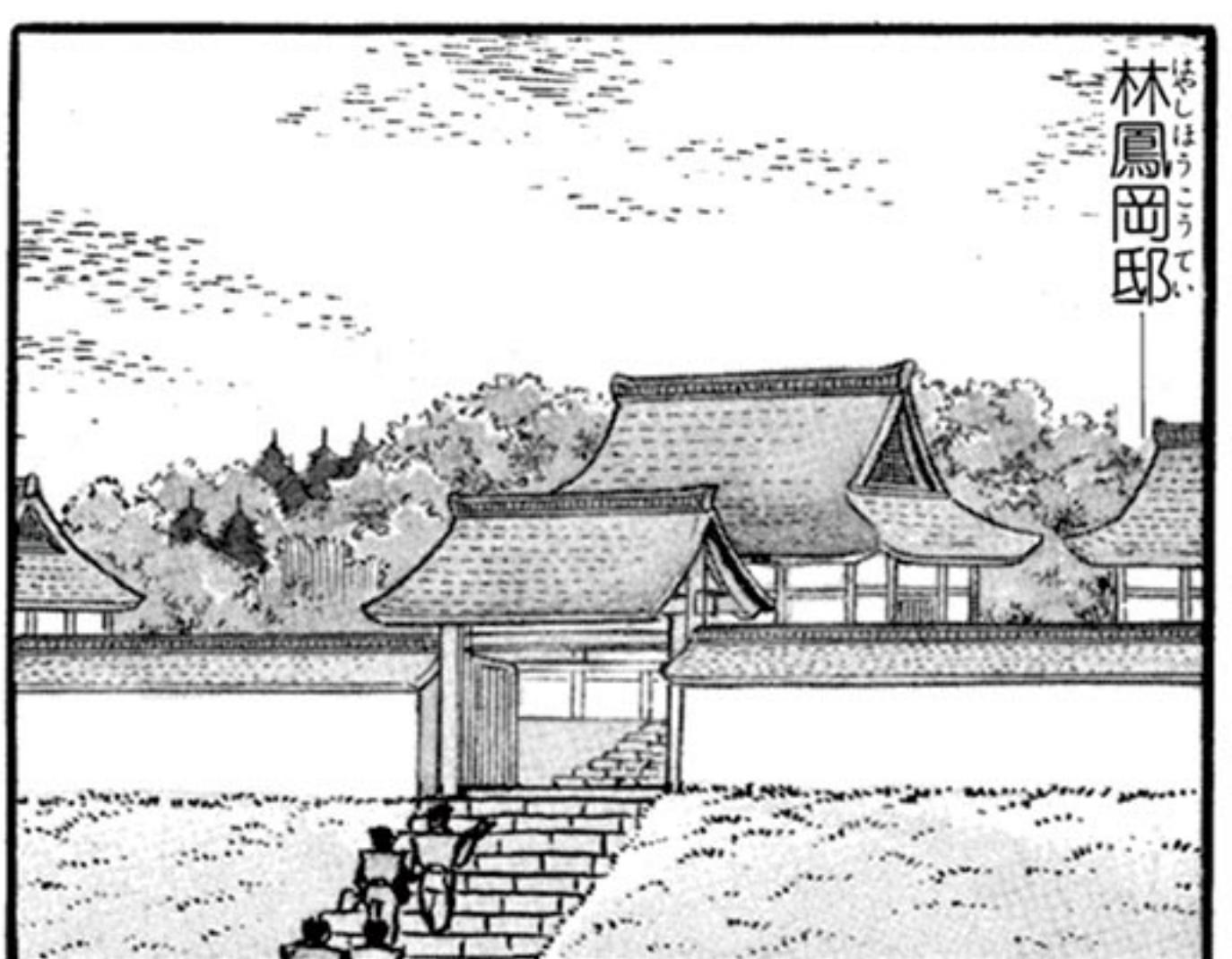
* 儒官：儒学を教える官職。

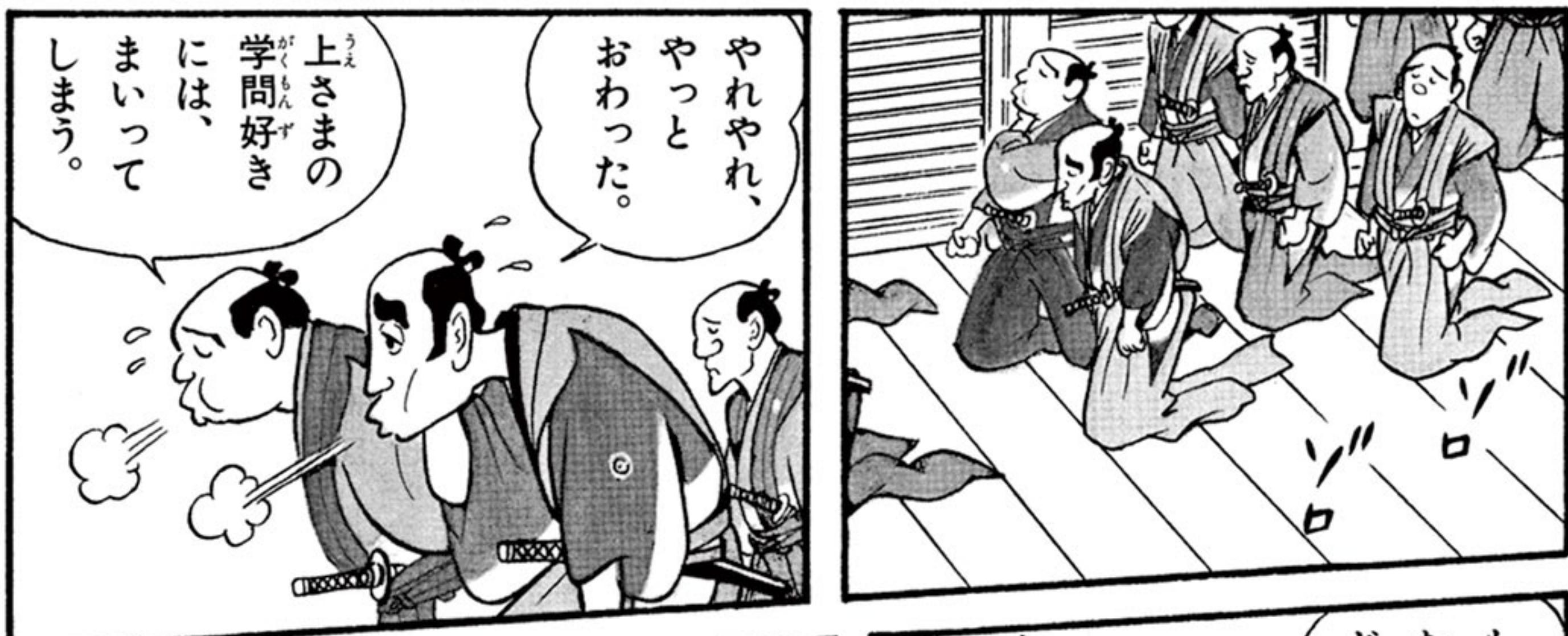
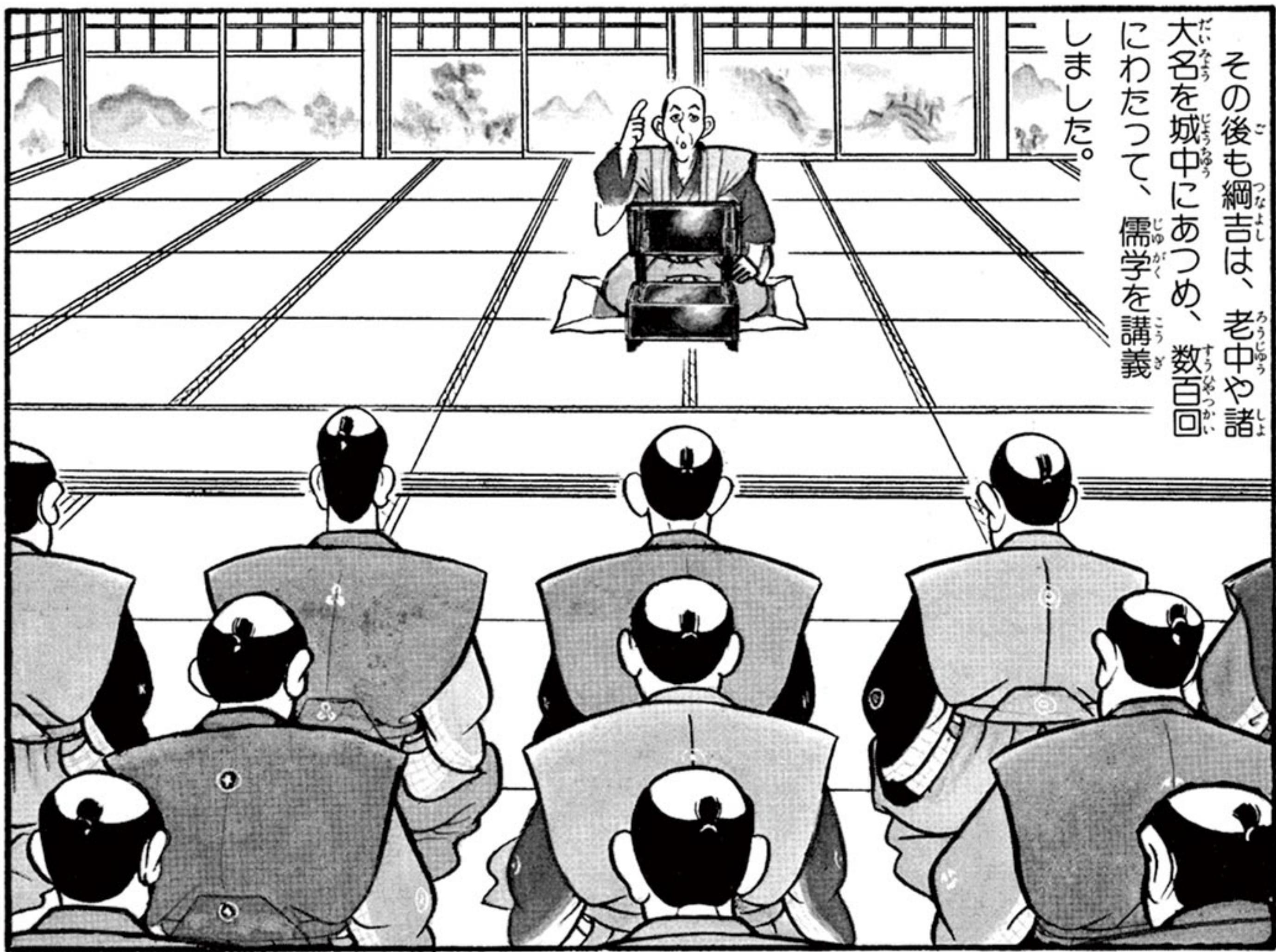
* 上野：東京都台東区上野

* 湯島：東京都文京区湯島

* 大学頭：江戸幕府の学問所の長官。

代だい林家がつとめた。





*川越城：埼玉県川越市にあつた城。



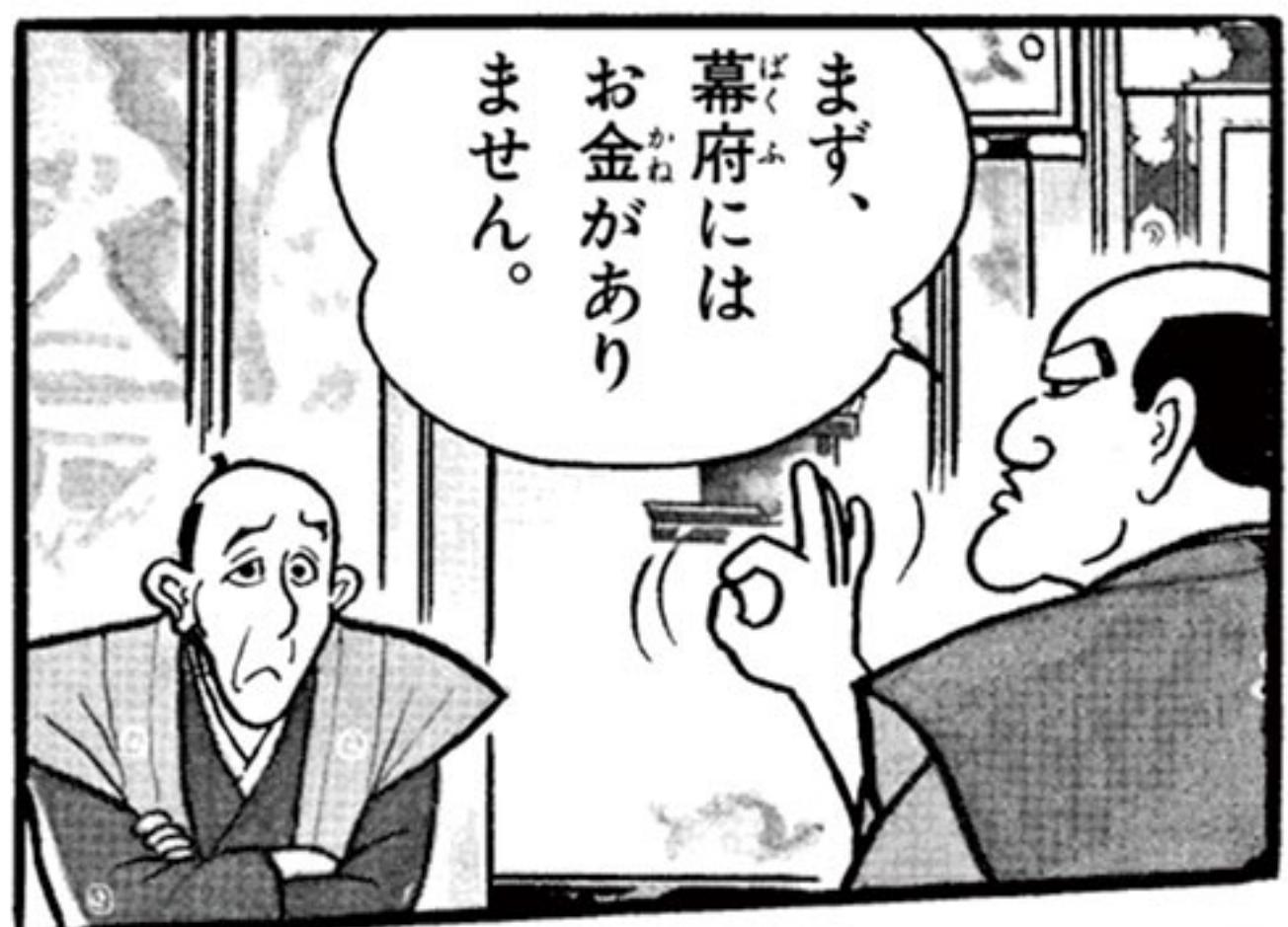
あれやこれやで
幕府の財政は、
火の車だと
いうのに……。



上さま。
勘定方の
荻原重秀より、
幕府の財政を
たてなおす案が
出されており
ます。

綱吉の部屋

*地金……ここでは金貨の材料にする金。





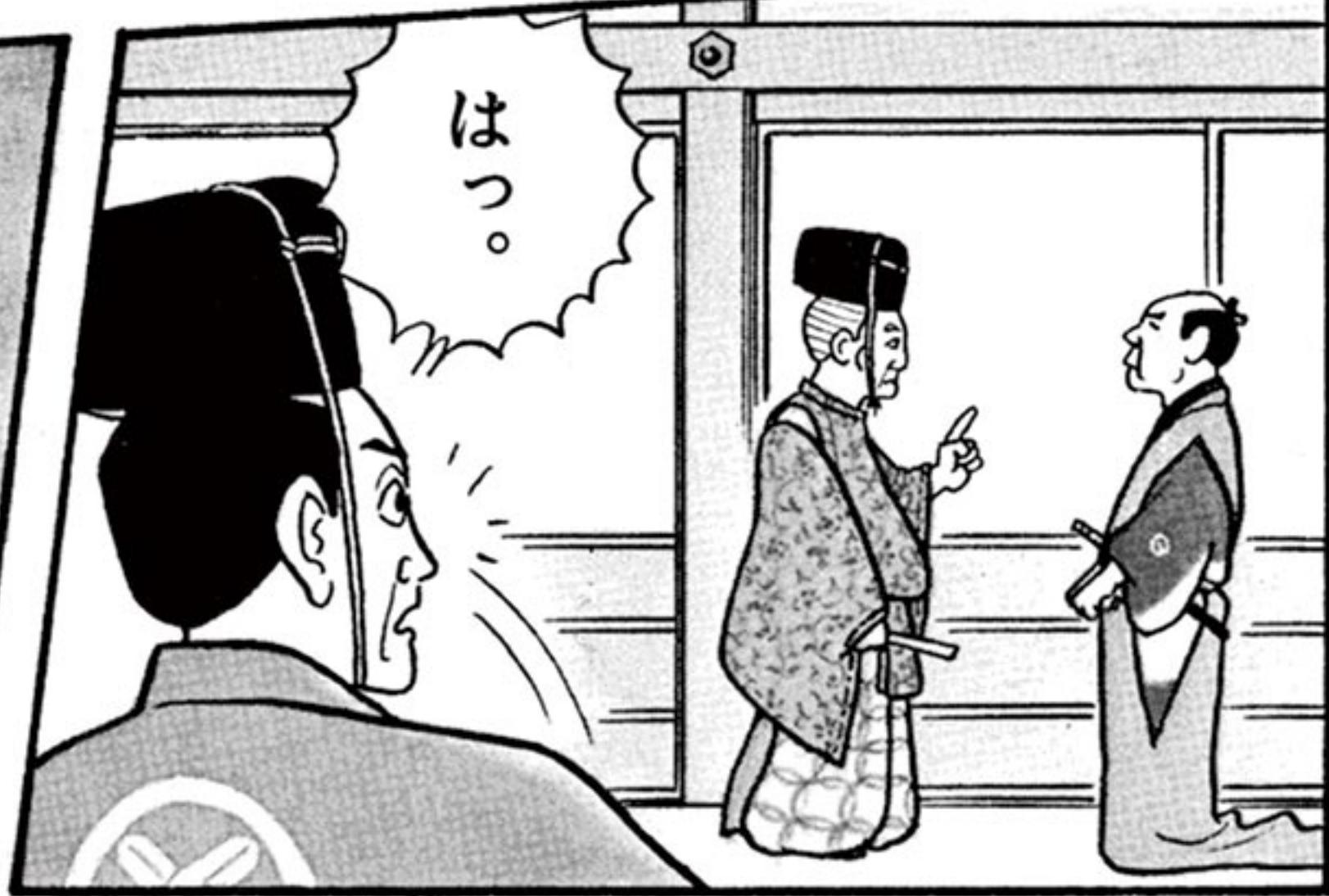
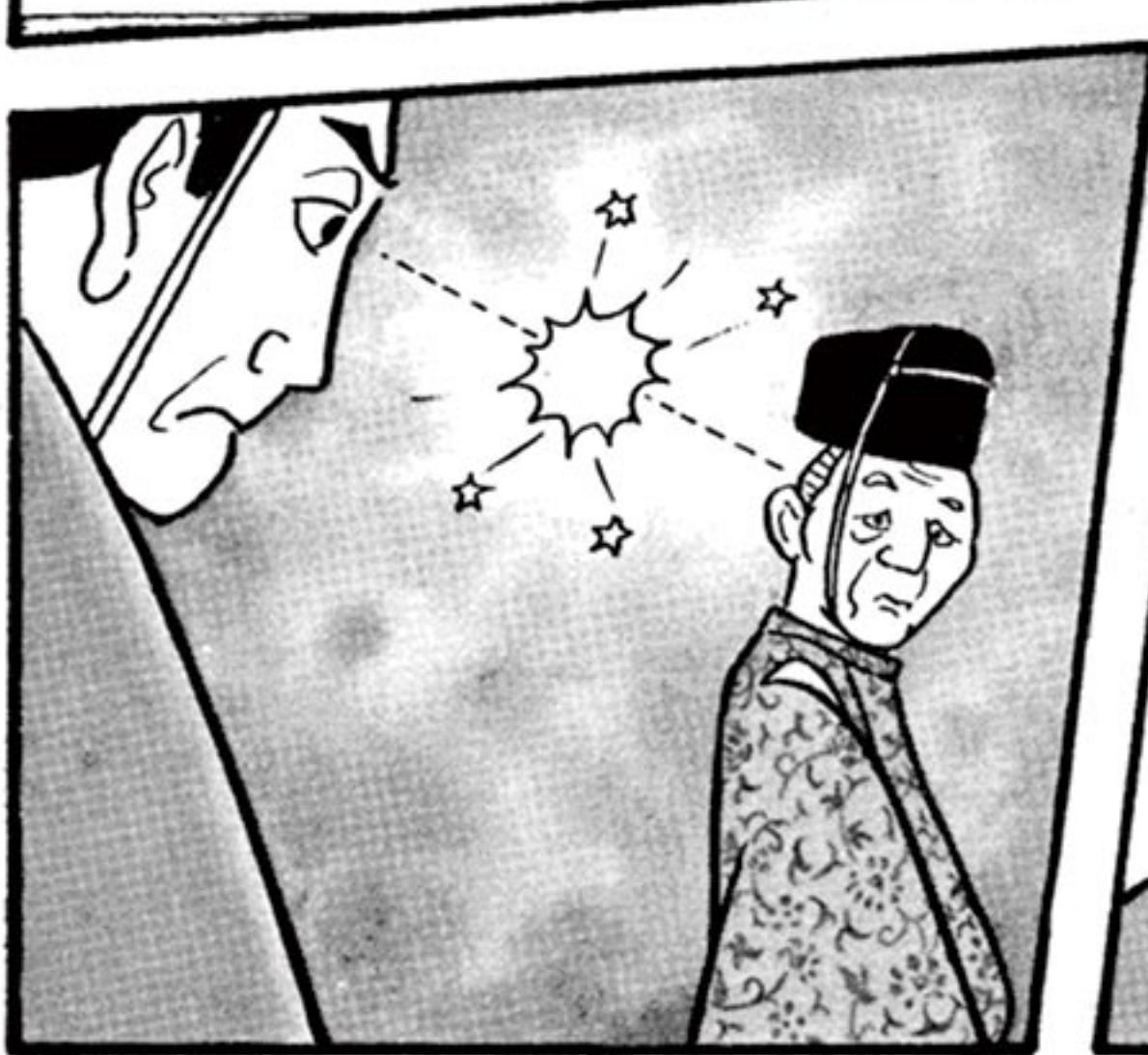
それから数年後の二七
○一年三月、江戸城



*赤穂城：兵庫県赤穂市にあつた浅野家の居城。



*勅使：天皇の意思を伝達するために派遣する特使。
*高家：江戸幕府の職名。
幕府の儀式典礼をとりあつかった。

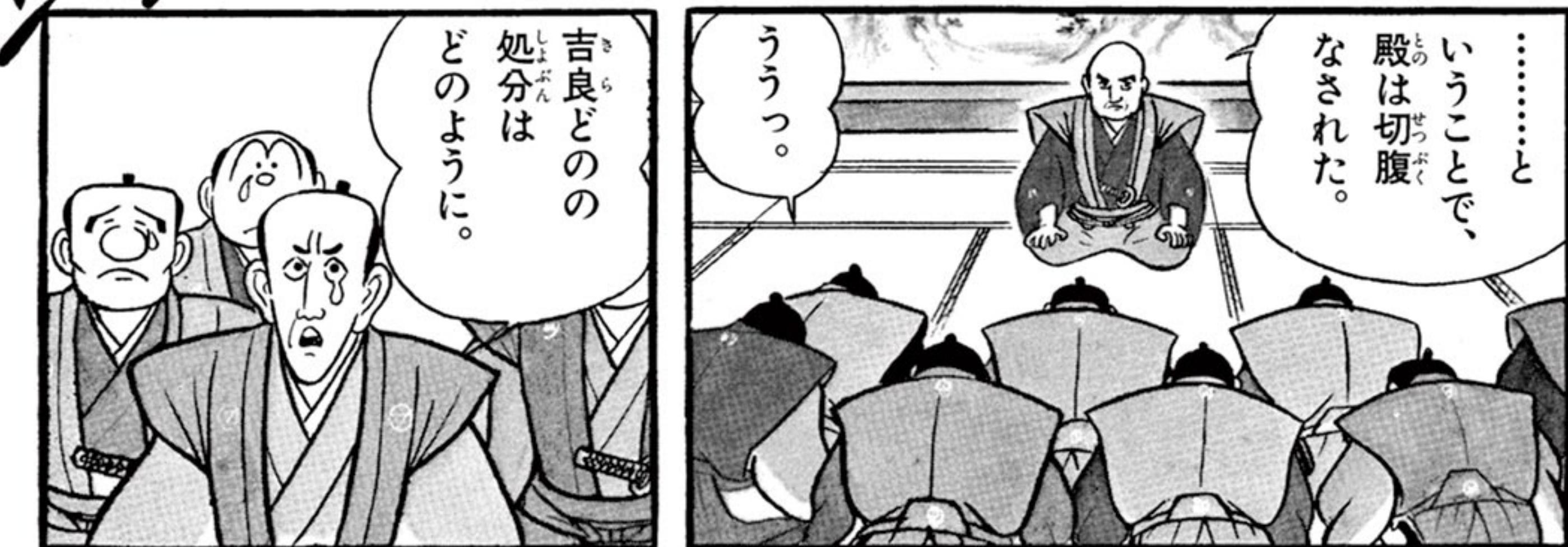
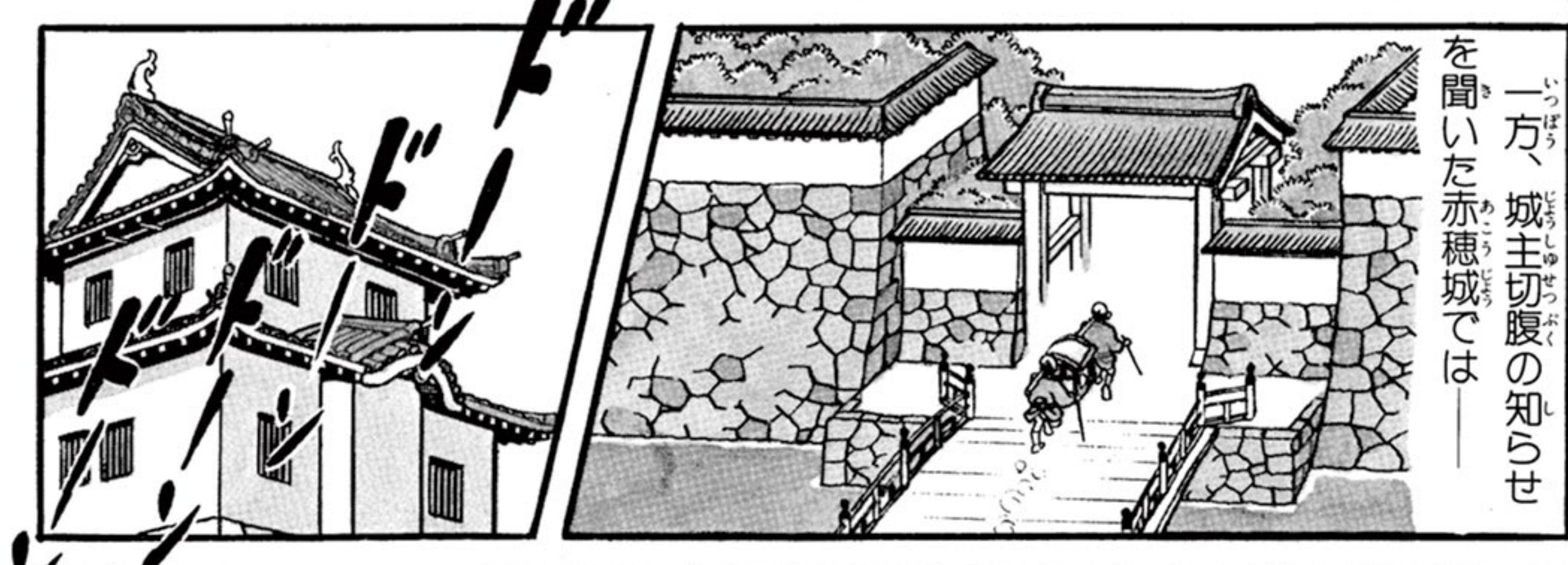
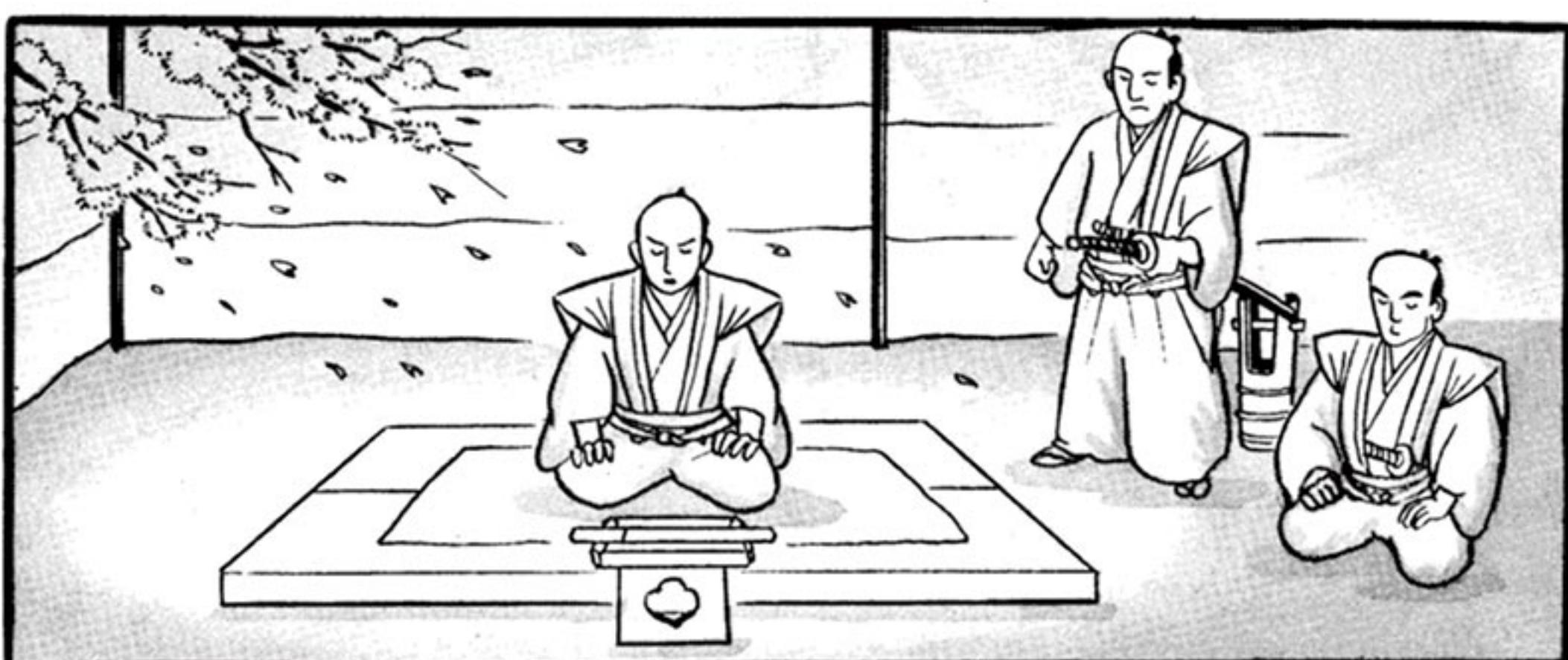




* 刀傷にんじょう：刃物で人が切られるような事件。



浅野長矩あさのながのりがなぜ吉良義央よしらよしなかに切りつけたかについては諸説があり、あまりはつきりした理由はわかっていない。



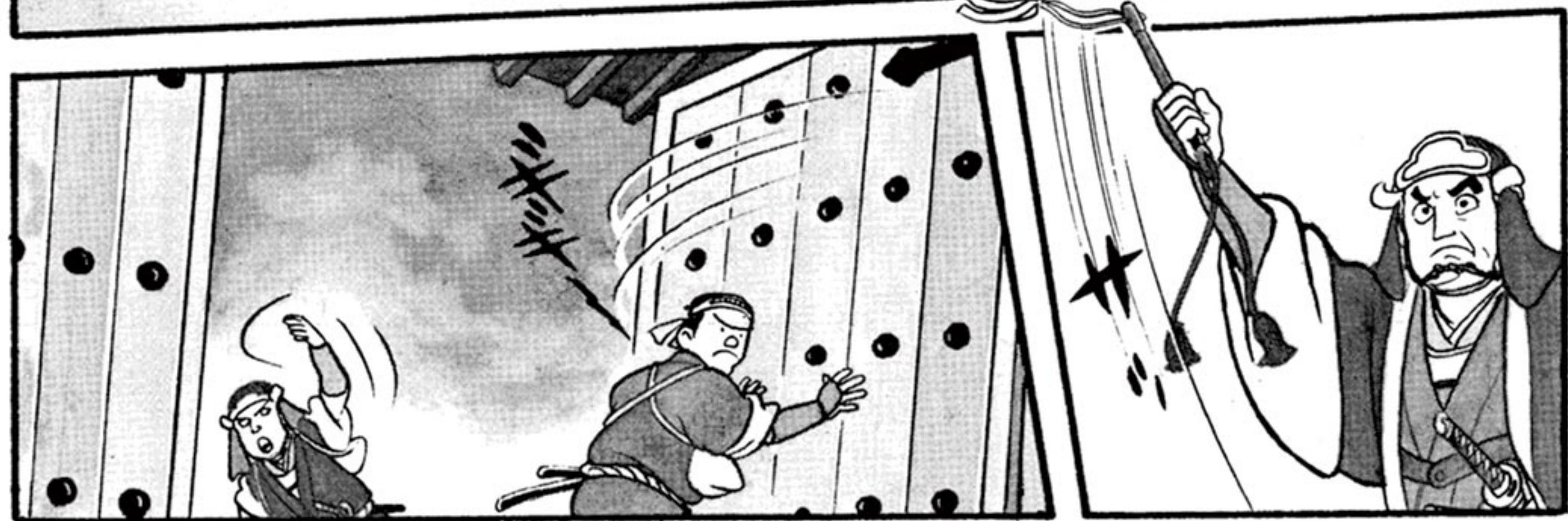
*家老：大名の重臣で、政務をまとめた者

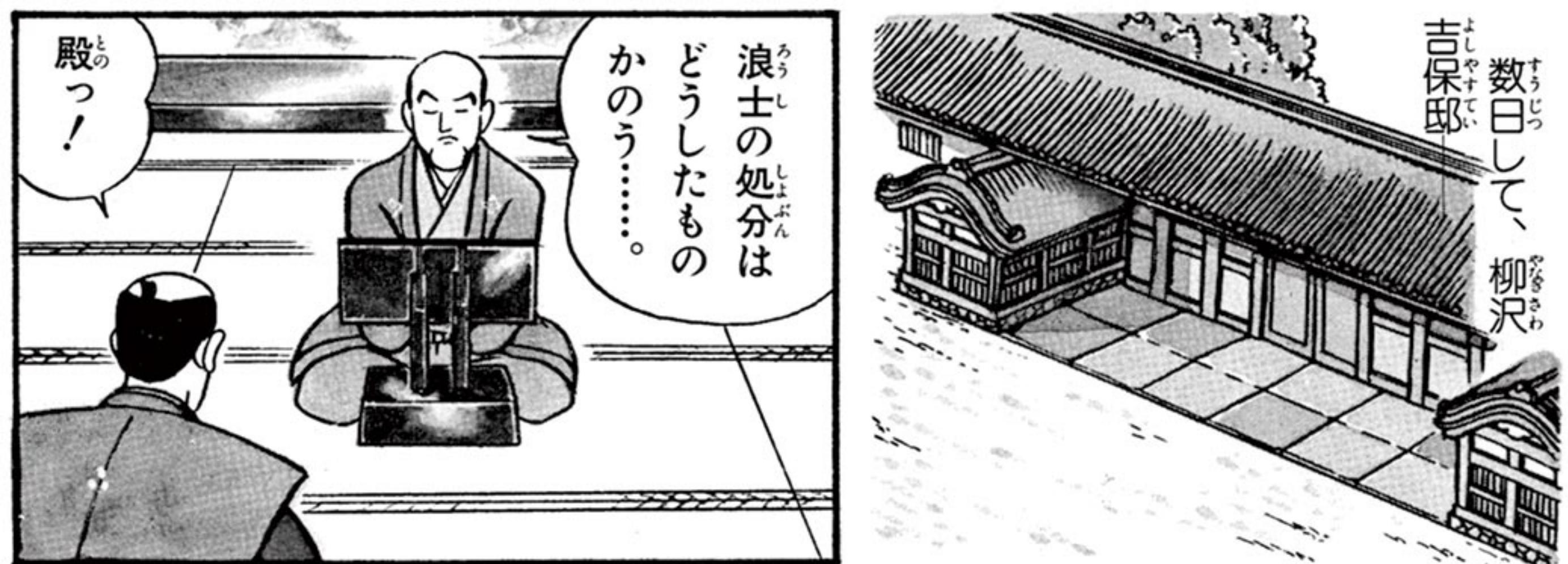
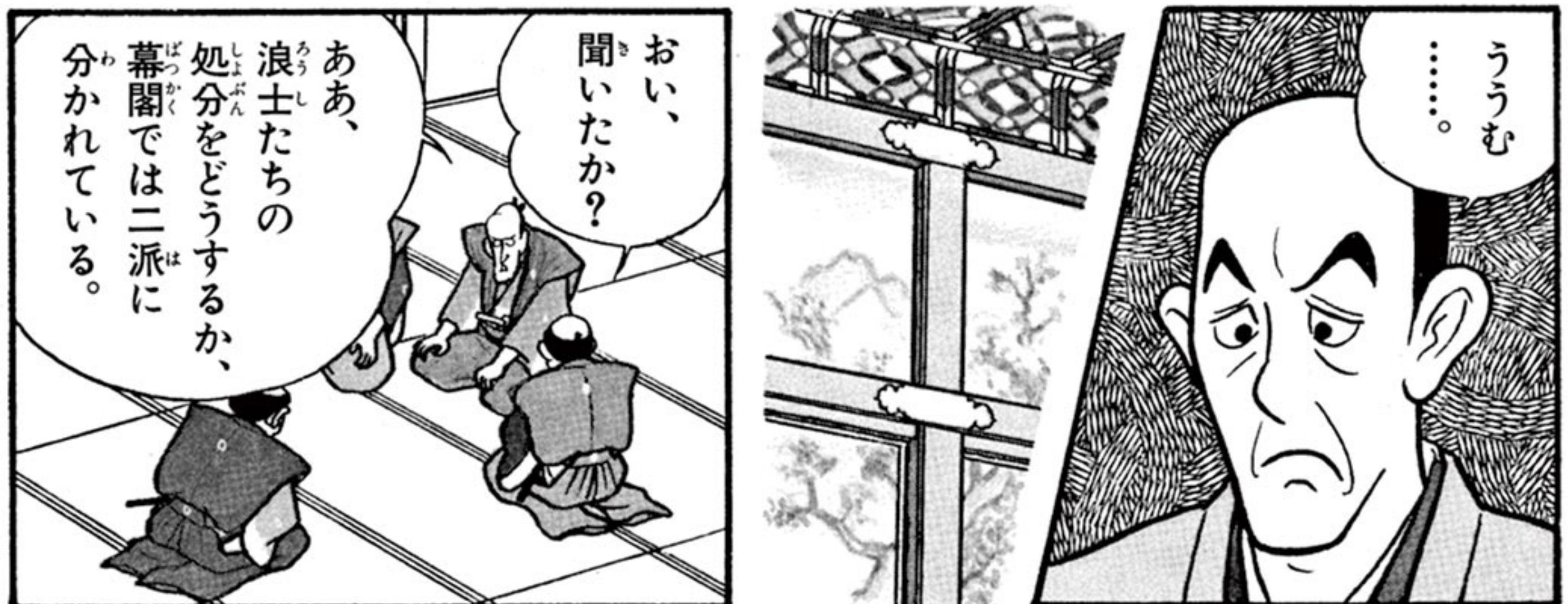


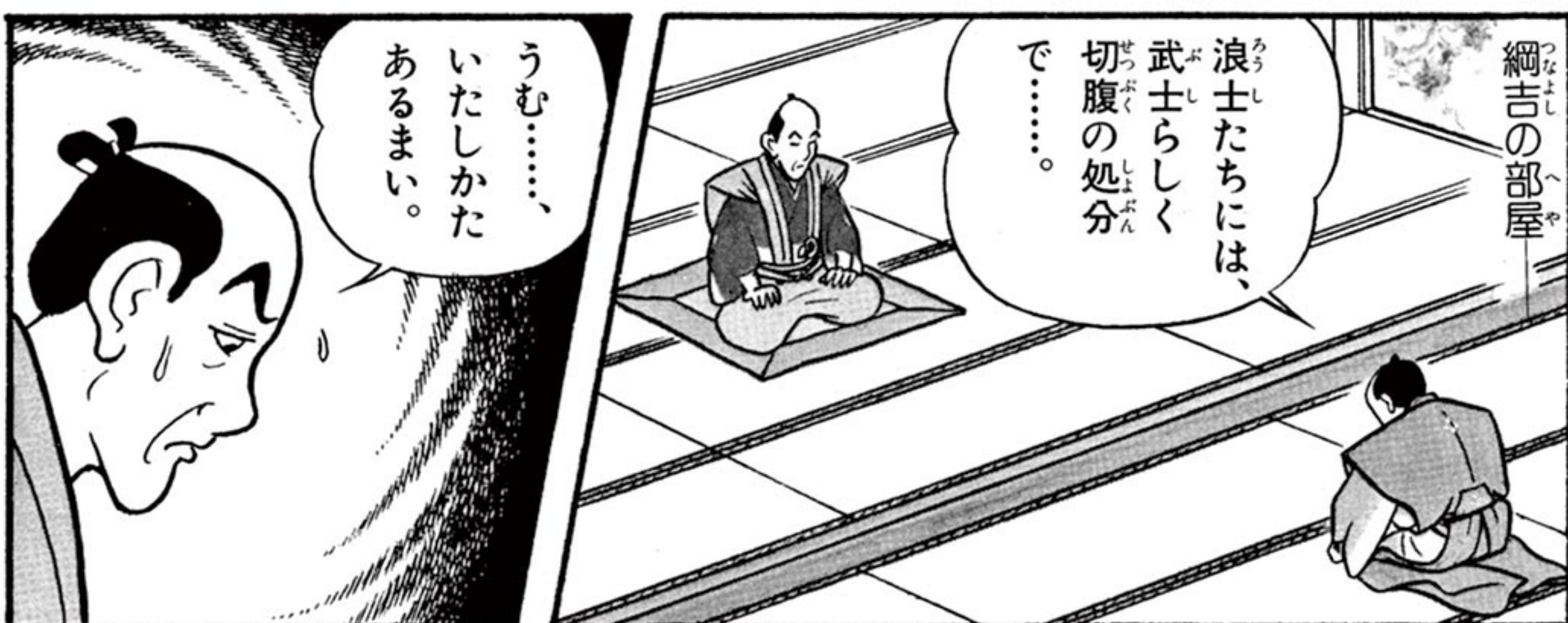
*籠城：城にたてこもること。

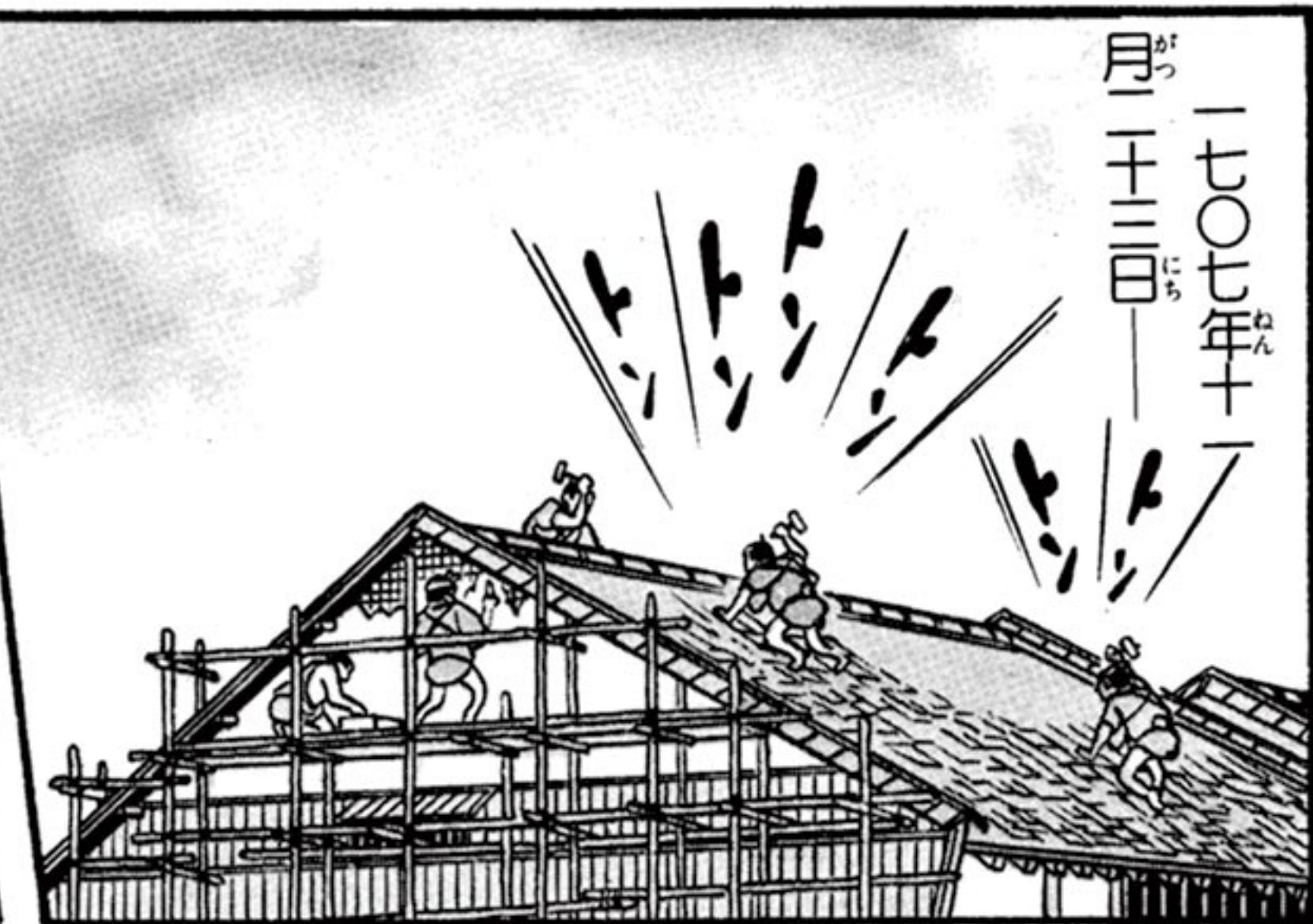
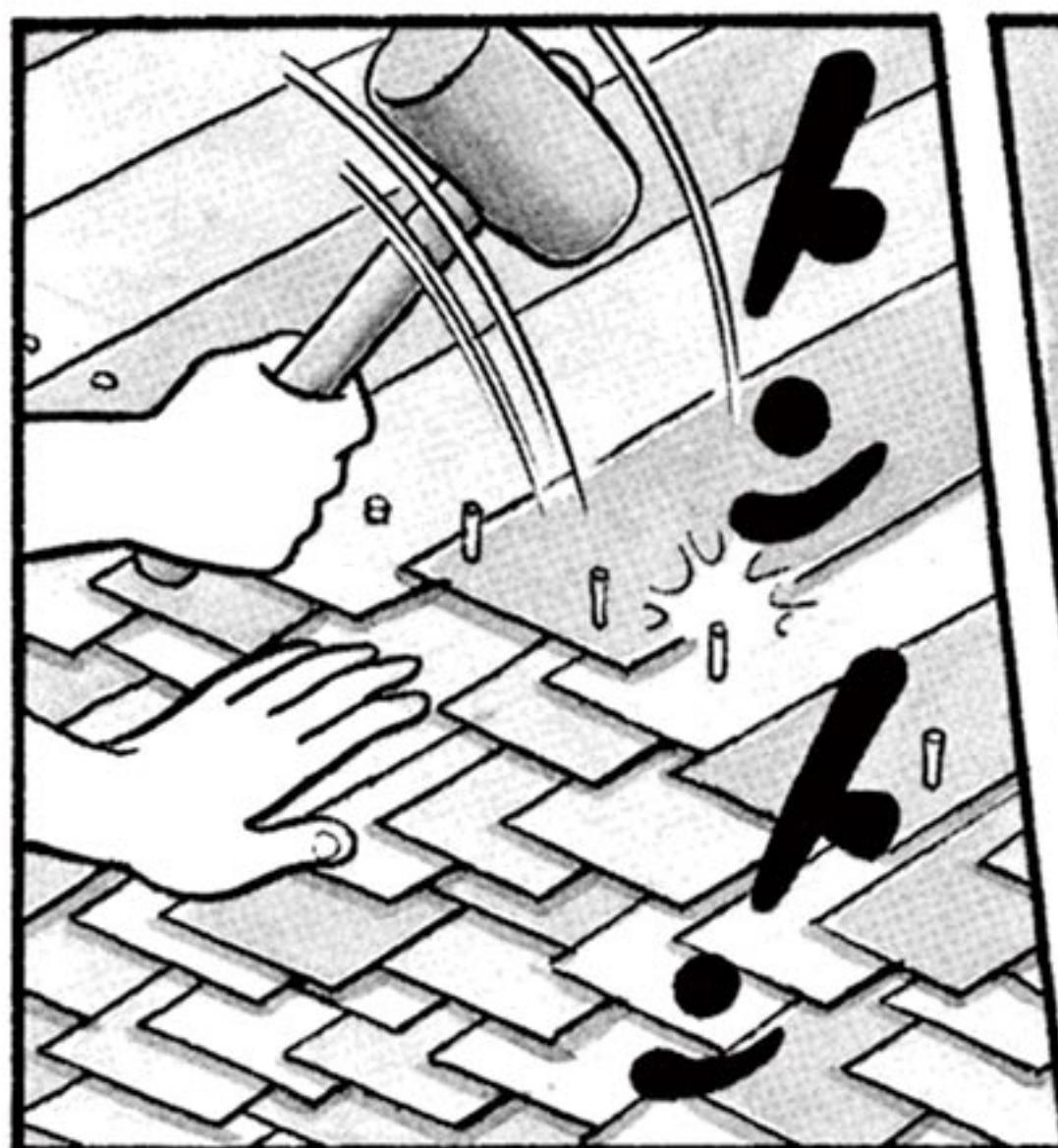


そして翌年十一月、吉良邸





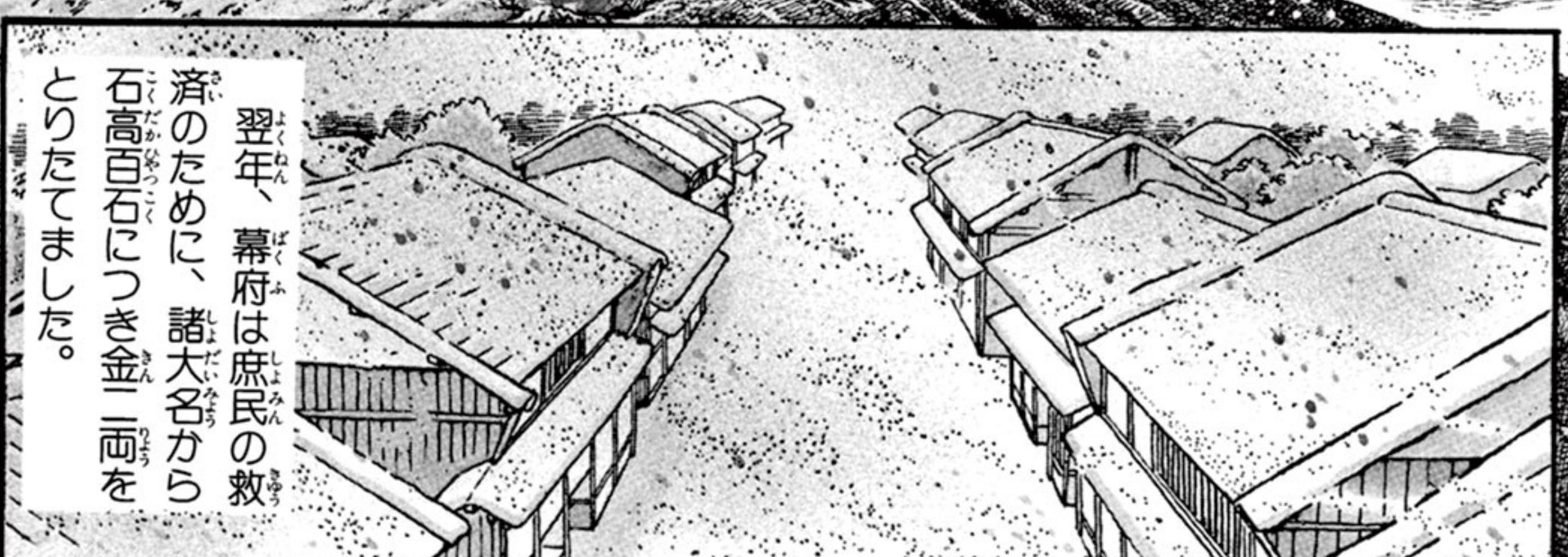




*このときの噴火でできたのが、今の富士山の中腹にある宝永山。



まもなく、駿河から富士山噴火の知らせがとどきました。空にまで上がった灰は、関東一円までも被害をもたらし、その救済のため、幕府の財政は、ますます苦しくなりました。





五月、江戸城



また、白石は政治家としてすぐれていたばかりでなく、学者としても、数多くの業績をのこしています。なかでも、イタリア人の宣教師から西洋の事情を聞き出してまとめた「西洋紀聞」や、自分の生いたちを書き記して折たぐ柴の記などの著作は有名です。



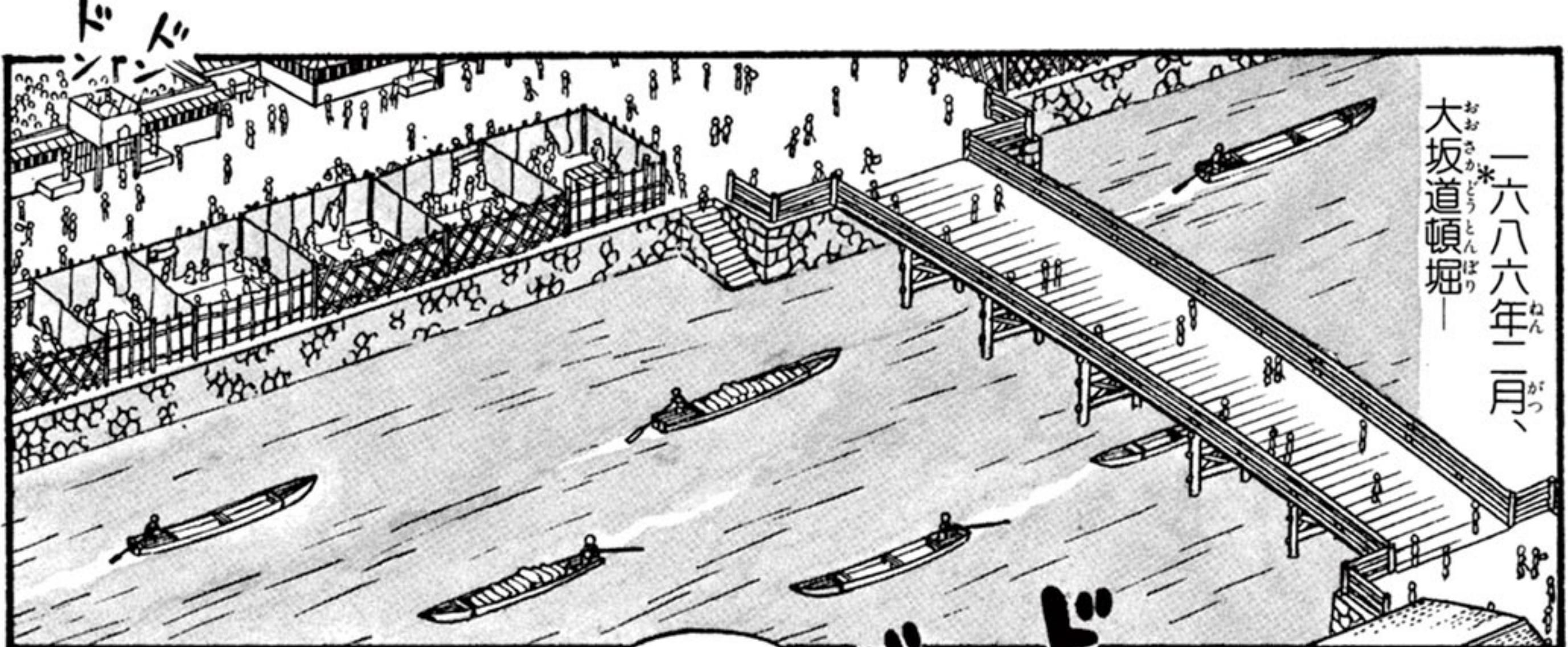
新井白石は、綱吉の時代にゆるんだ政治をあらためるために、金銀の質をもとにもどすなど、さまざまな努力をしましたが、その効果はあまりあがらませんでした。

白石のつかえた六代将軍家宣、七代將軍家継の時代は七年あまりであわり、その後をうけて、「米將軍」といわれた八代將軍吉宗が政治の舞台に登場することになります。

小学館 eBooks

だい しょう
第四章

げん ろく ぶん か ちよう にん
元禄文化と町人
えどじだいぜんき
—江戸時代前期—



*道頓堀：大阪府大阪市南区にある堀。



*竹本座：一六八四年に竹本義太夫がひらき、一七七一年までつづいた人形浄瑠璃の劇場。



竹本義太夫がひらき、一七七一年までつづいた人形浄瑠璃の劇場。

*あやつり芝居：現在「文楽」の名で知られている人形浄瑠璃は、当時「あやつり芝居」とか、「あやつり人形芝居」とよばれていた。

*竹本義太夫…浄瑠璃節の一派、義太夫節の大成者。竹本座をひらいた。

* 淨瑠璃：三味線に合わせて語る語りものの音曲。



* 近松門左衛門：江戸時代を代表する淨瑠璃および歌舞伎の作者。

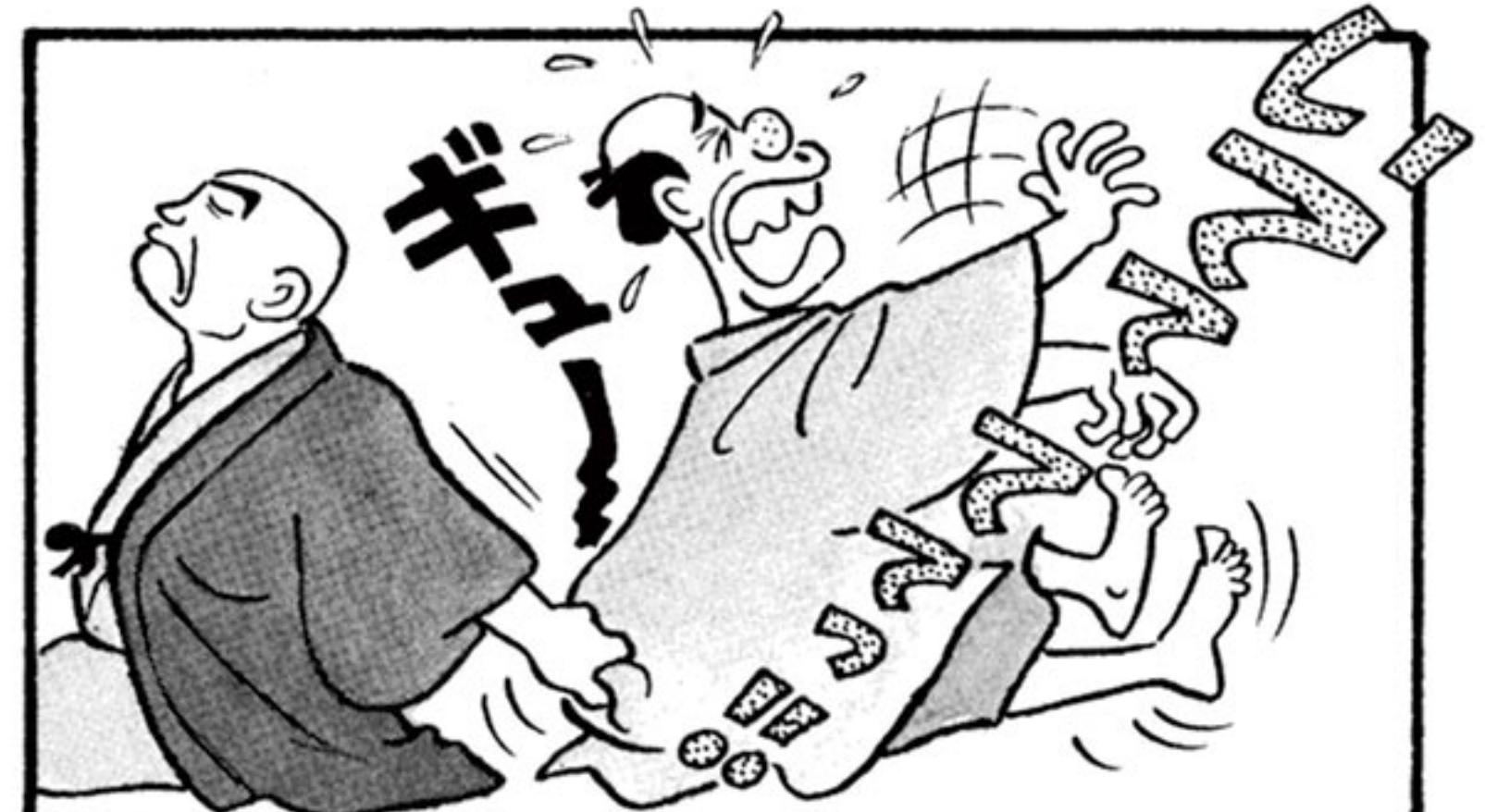


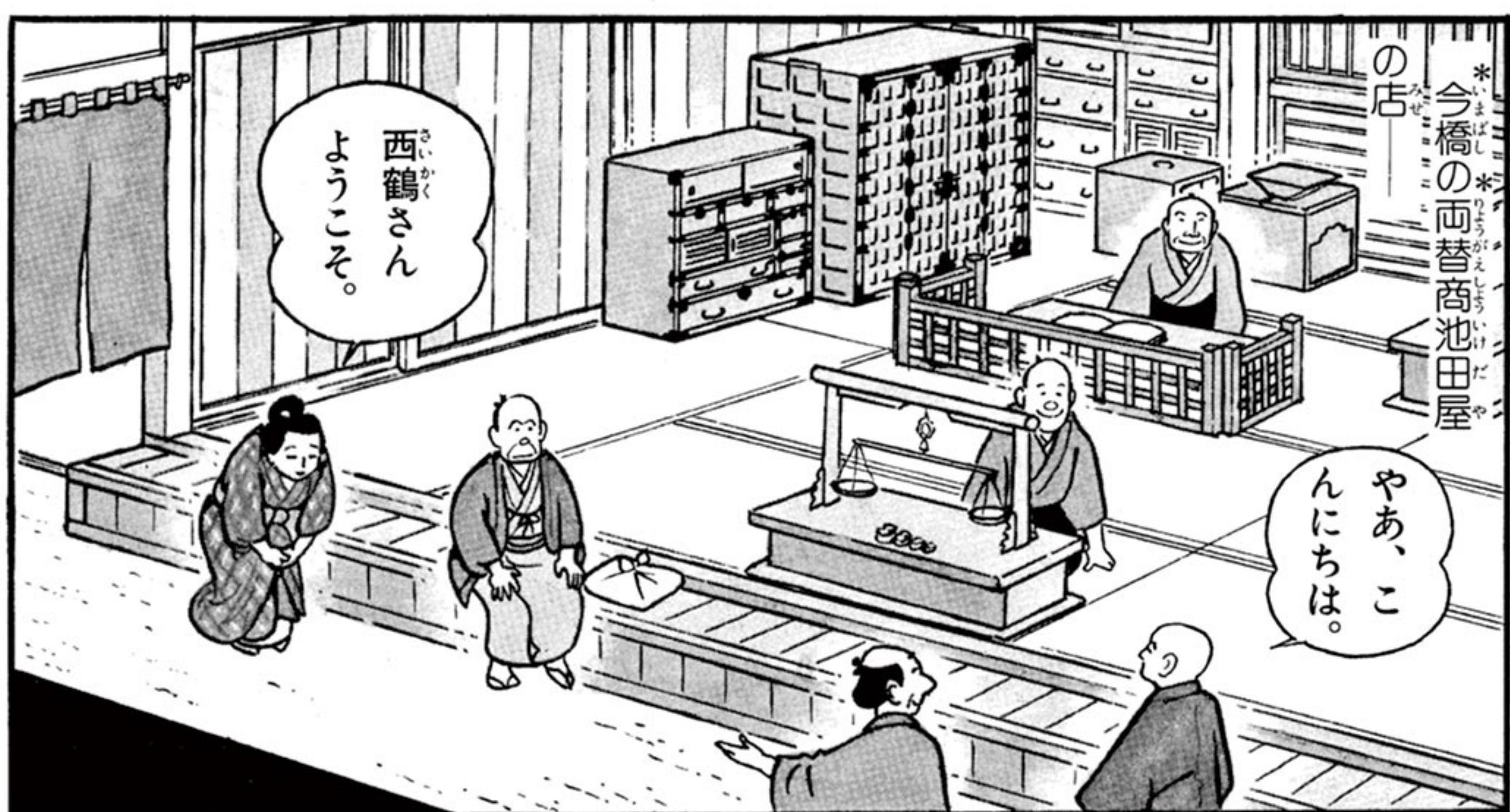
まわらわ





*浮世草子…この時代の民衆をえがいた風俗小説。



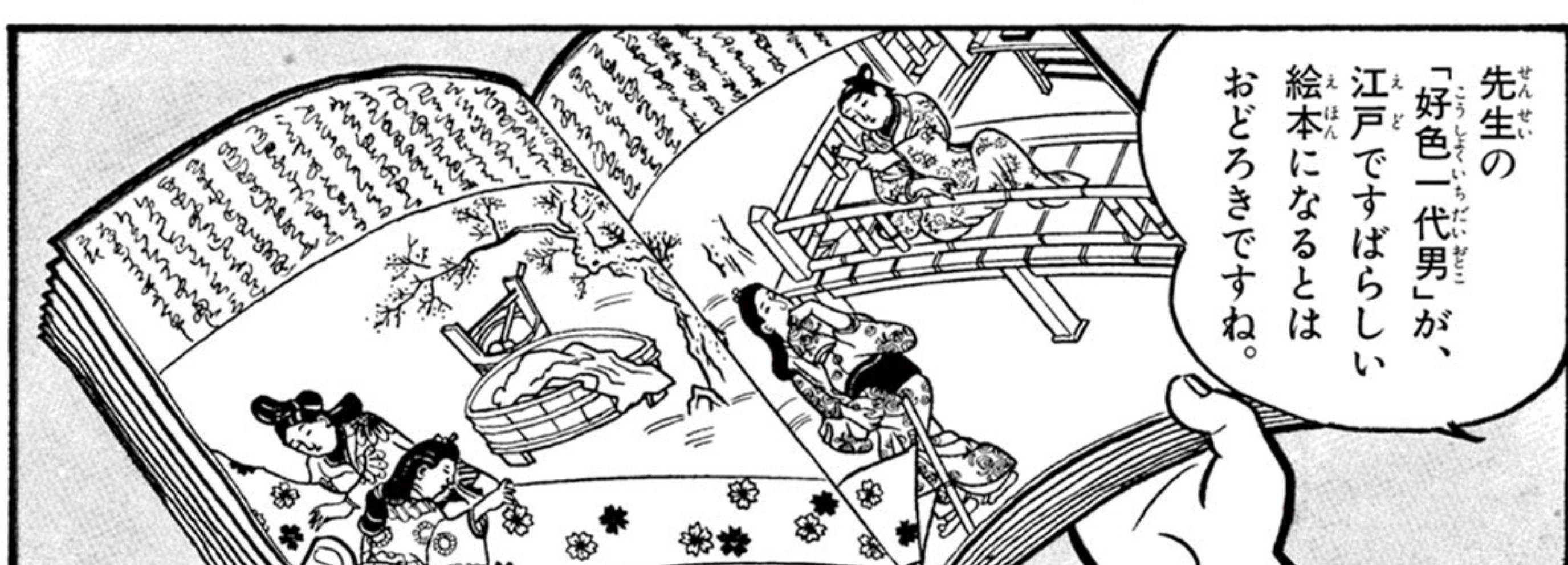


* 今橋：大阪府大阪市東区今橋

* 両替商：手数料をとつて、ある貨幣を同じねうちの他の貨幣にかえる商売をする店。

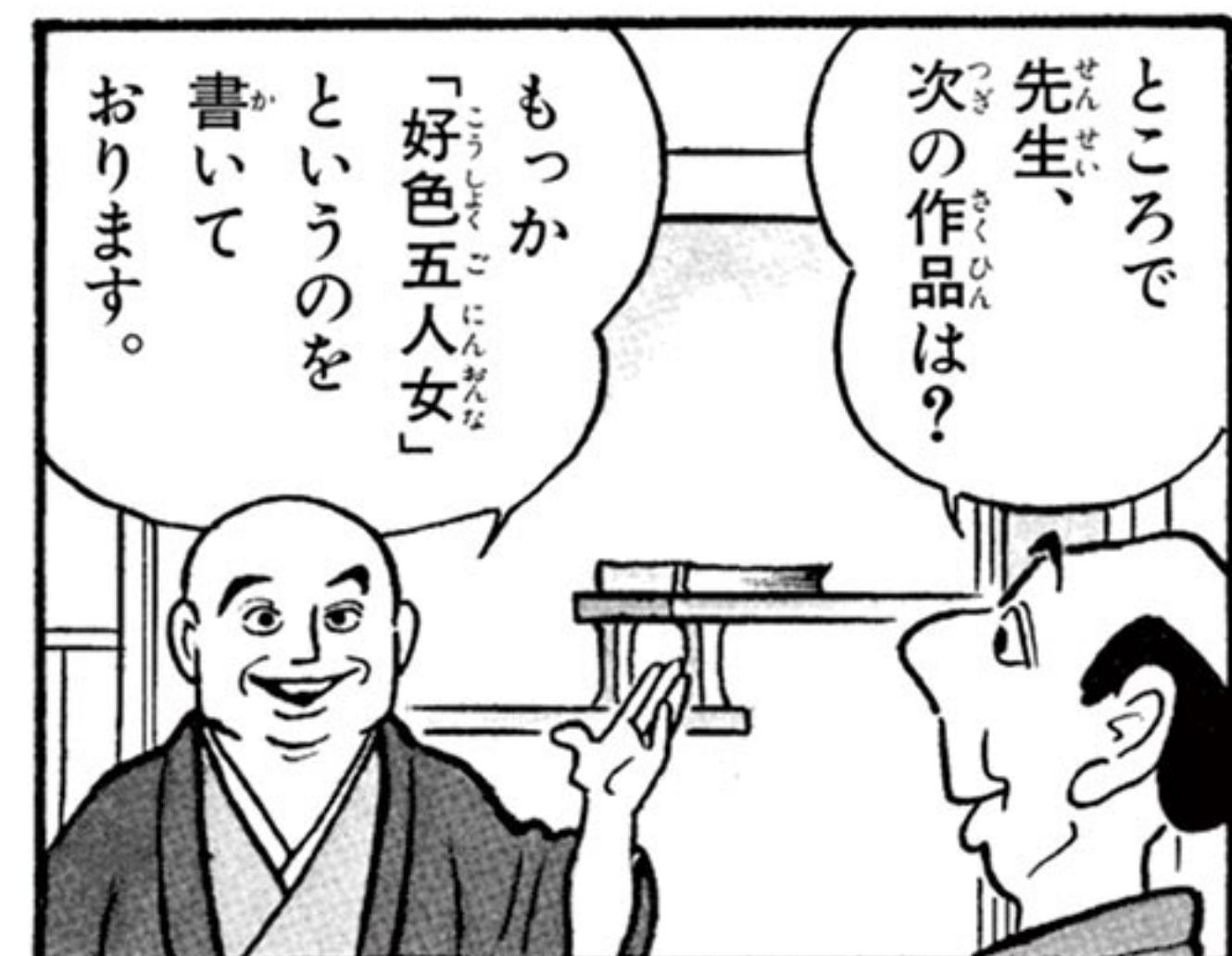
* いまばしのりょうめいしょういけだや
* 両替商：手数料をとつて、ある貨幣を同じねうちの他の貨幣にかえる商売をする店。

*俳諧……こつけい味のある和歌の一
種。



*祇園祭……京都八坂神社の祭礼。昔は六月七日、今は七月一日から三十一日まで行う。

* 駿河町：東京都中央区室町付近にあつた地名。



* 菱川師宣……このころ活やくした浮世絵画家。「見返美人図」は代表的作品。

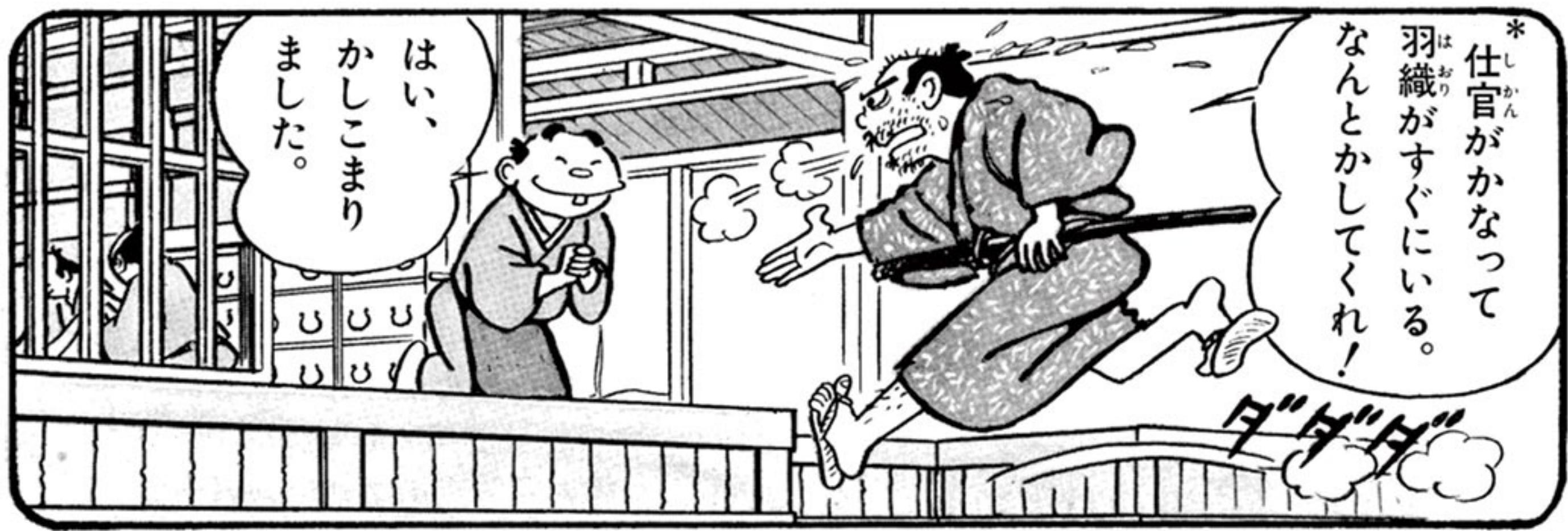
* 浮世絵：庶民風俗や各地の風景など

を題材とした風俗画。

*節季払い：盆や暮れの、商店が貸し借りの清算をする時期に、まとめてお金をはらうこと。
*現金、*掛けねなしです。



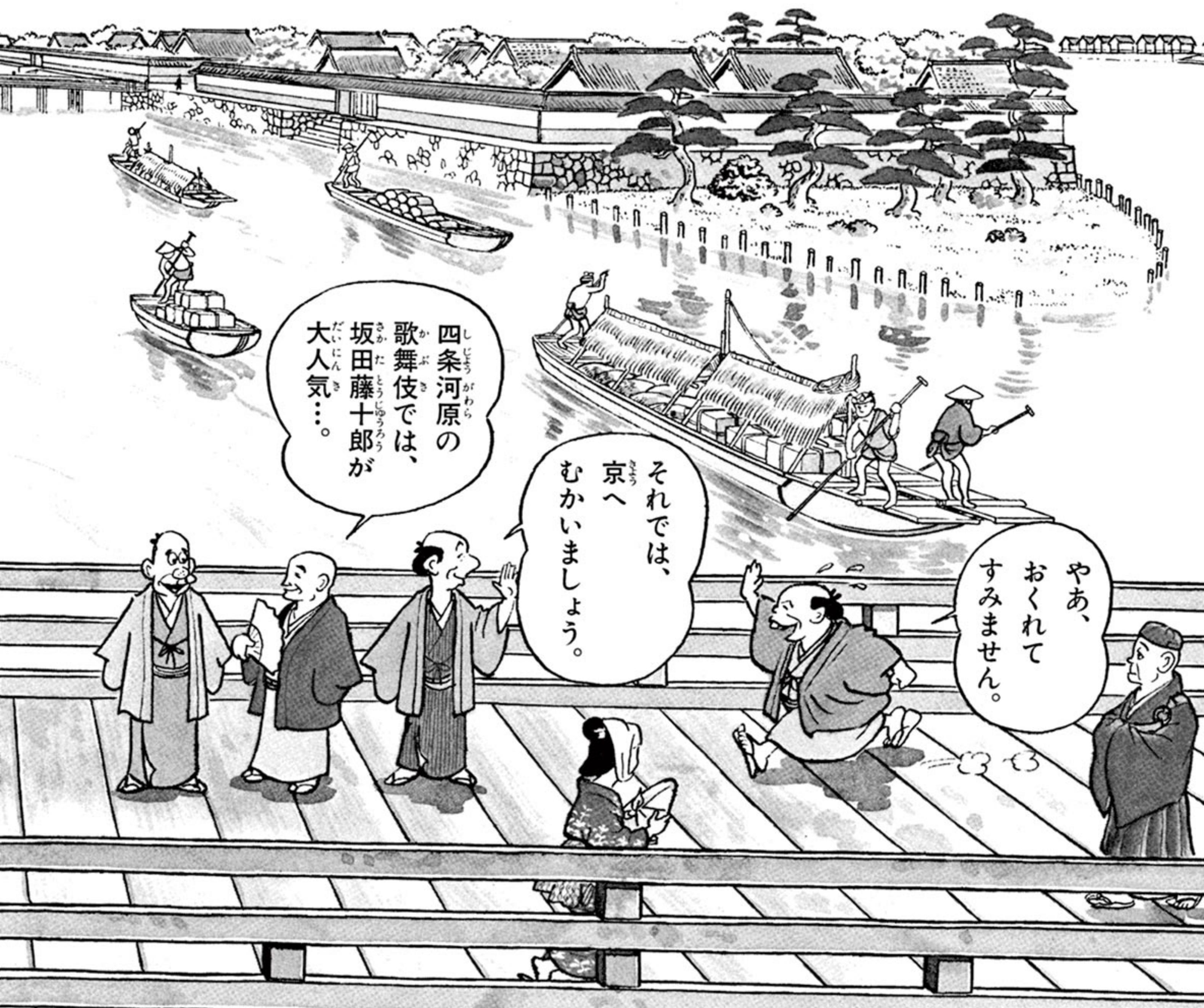
*仕官：武士が主君につかえること。





当時の大坂は、米をはじめとする、全国各地の産物が取引され、日本一の商業都市として、「天下の台所」の名をほしいままにしていました。

ここ難波橋付近は、そこにぎわいの中心で、中之島（淀川の中州）の諸大名の蔵屋敷には、各地の年貢米がはこびこまれ、川岸にたちならぶ豪商らの倉庫には、川船からの荷上げで、いつも活気がみなぎっていました。



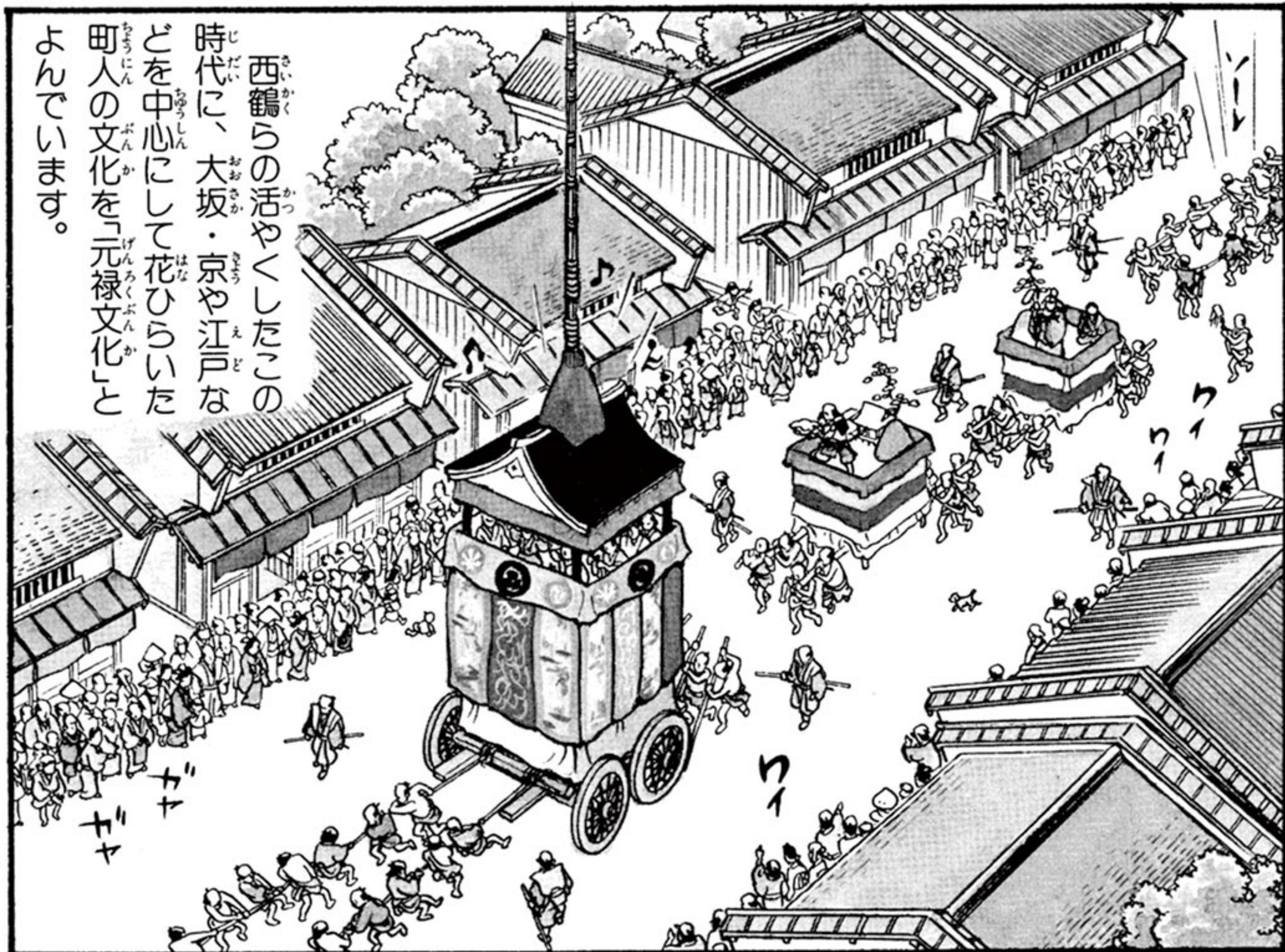
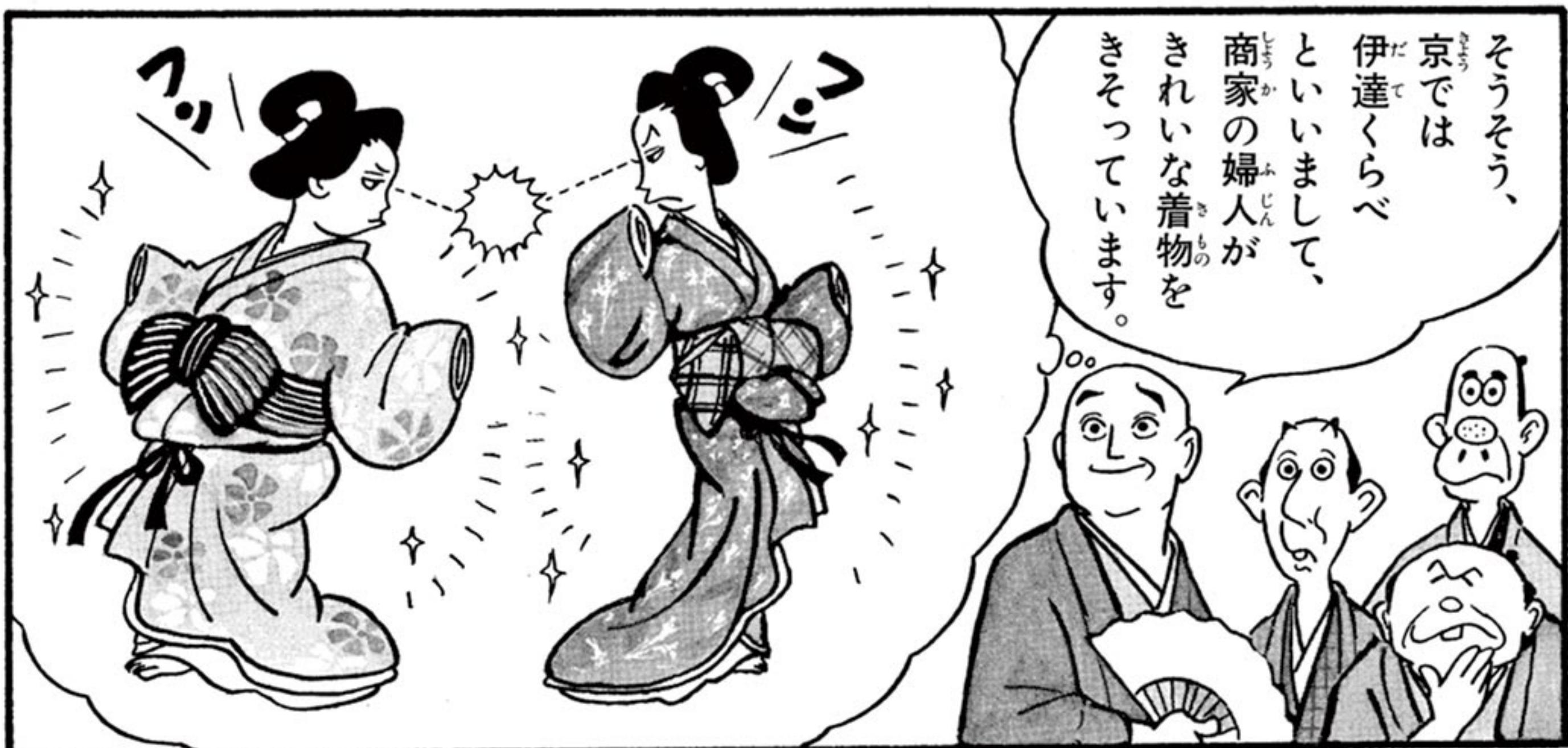
さあ、もう
ひとつきだ。

江戸の
市川団十郎と
はりあつて
いる
そうですな。

平安時代以来の歴史をほこる祇園祭は、江戸時代にもさかんに行われ、多くの山鉾が京の町をねり歩きました。

ウイ
ウイ





* 歌枕…古歌によみこまれた名所・旧跡。

* みちのく…東北地方

* 下野…栃木県

一方、江戸の松尾芭蕉は、
一六八九年、*歌枕をたずねて
みちのくへと旅立ちました。
その旅は後に「奥の細道」という
紀行文にまとめられました。

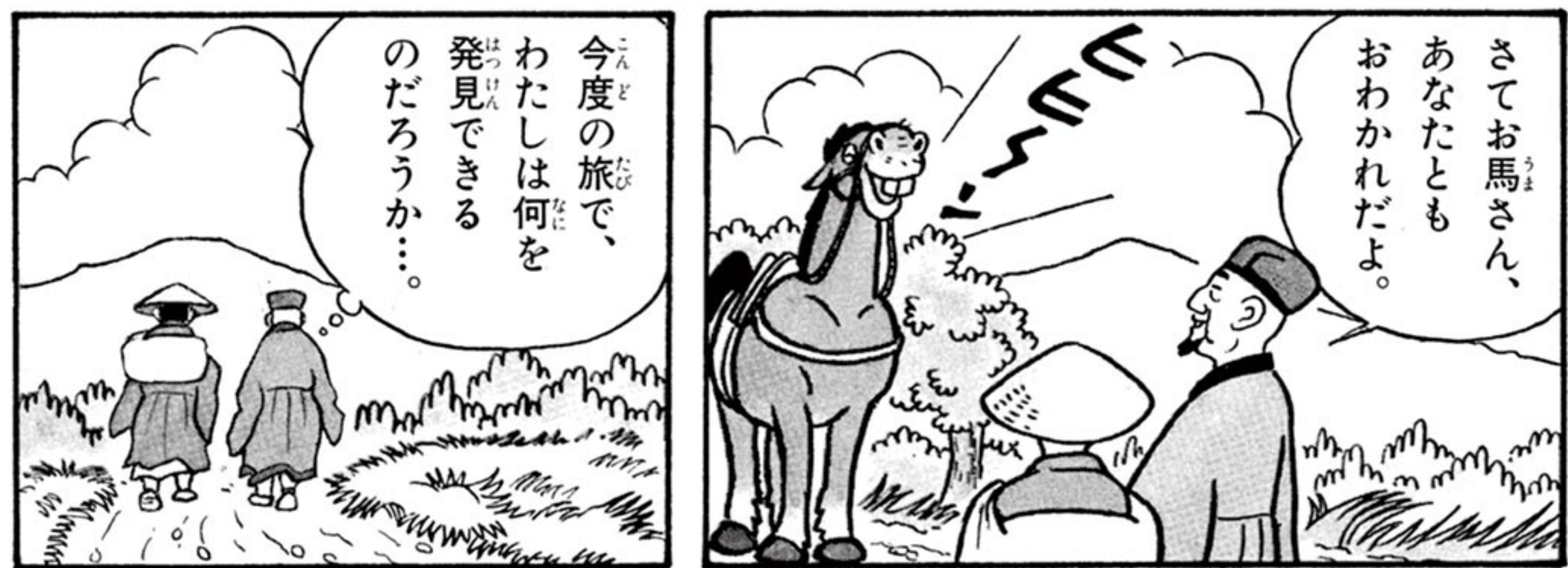
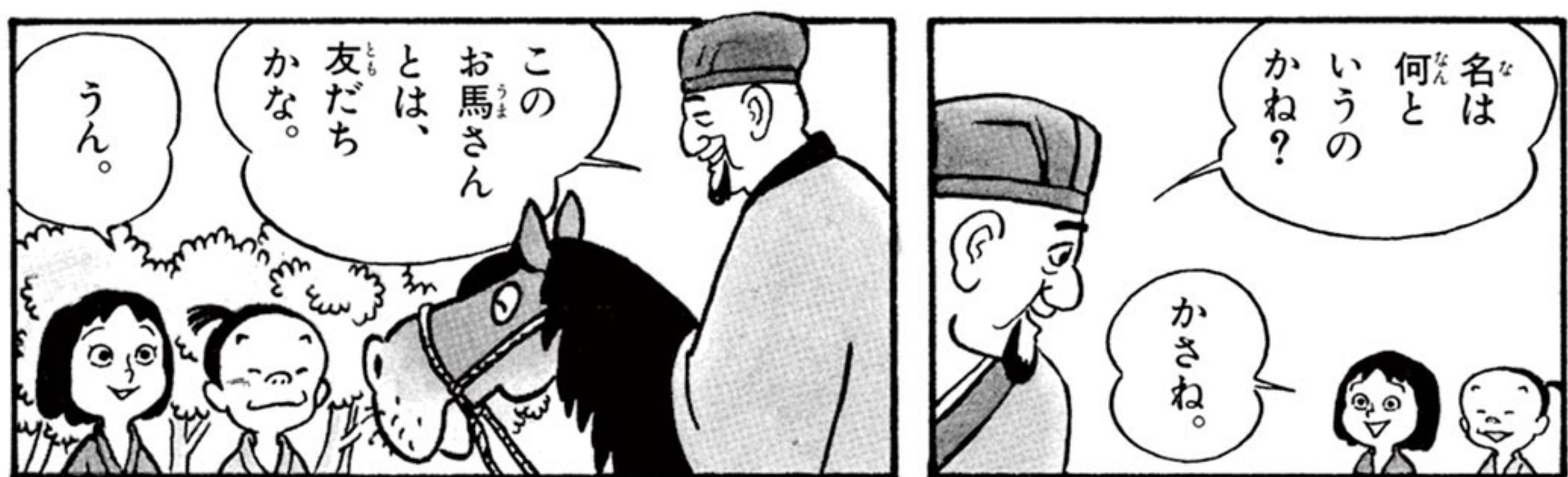
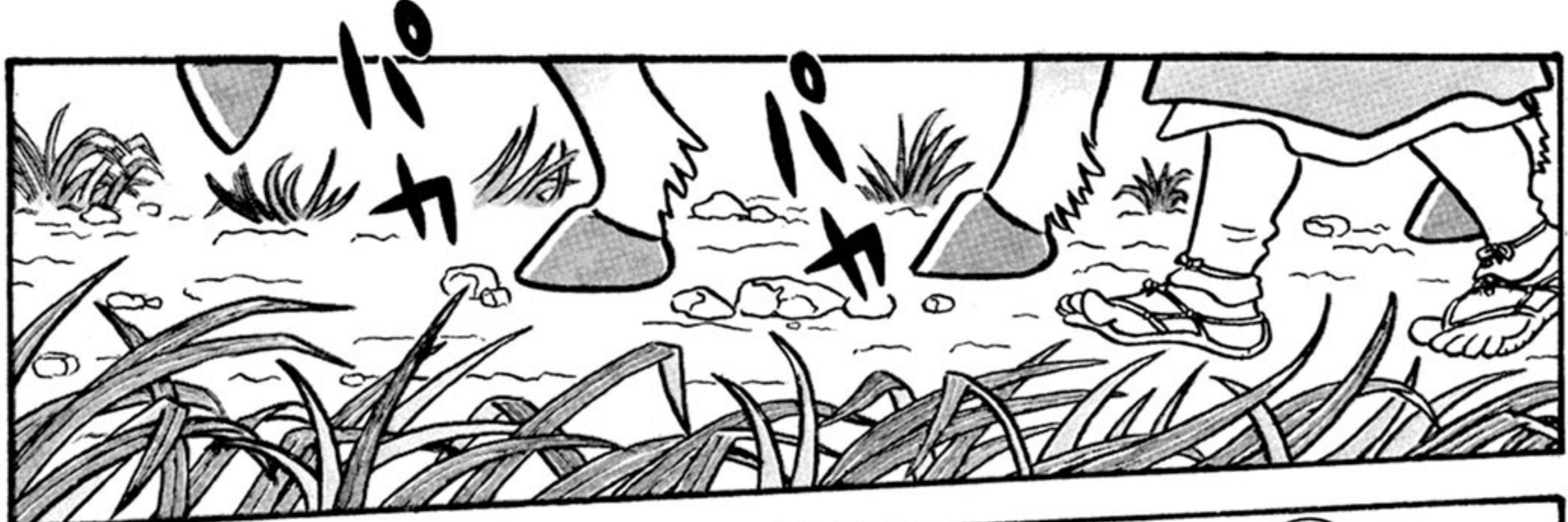
この紀行文にそつて

これからのお話をすすめる

ことにしましょう。

ここは
下野国…。

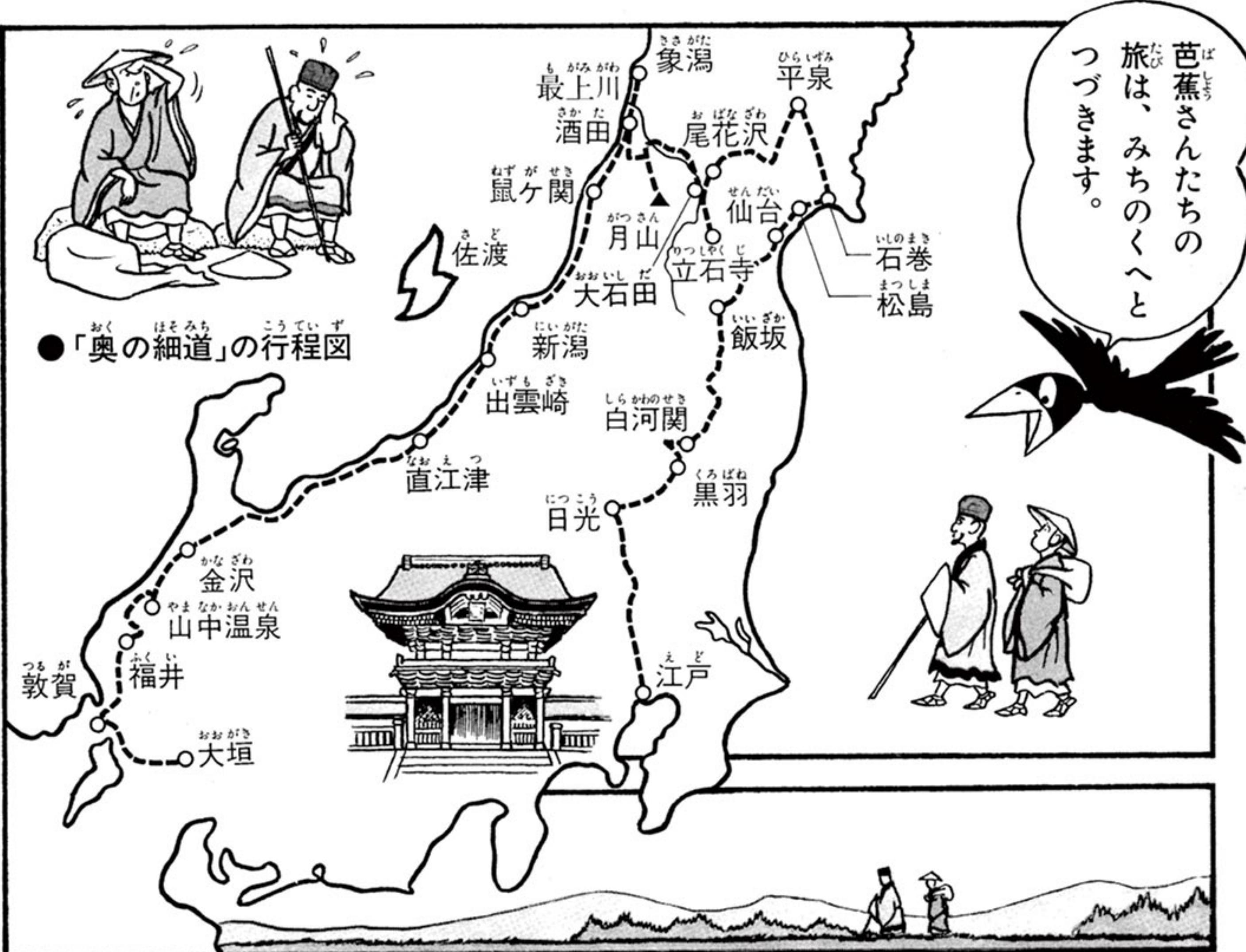




芭蕉さんたちの
旅は、みちのくへと
つづきます。



●「奥の細道」の行程図

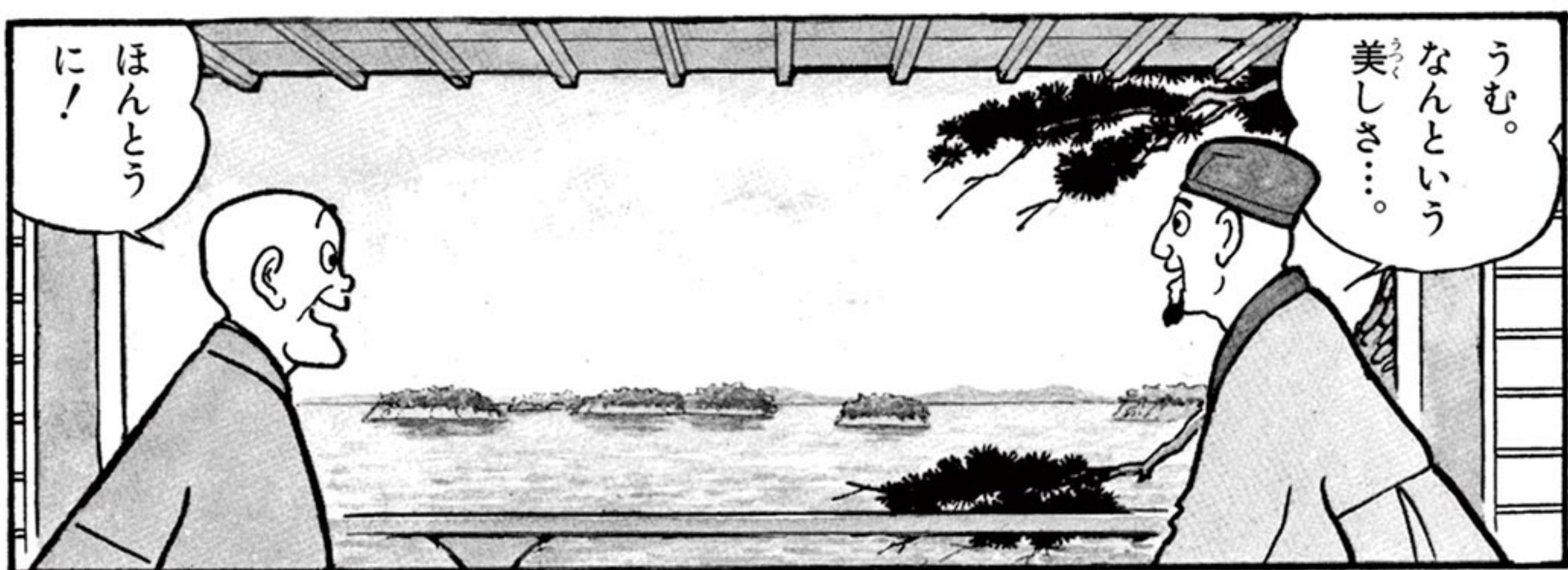


五月九日、
松島



うむ。
なんという
美しさ…。

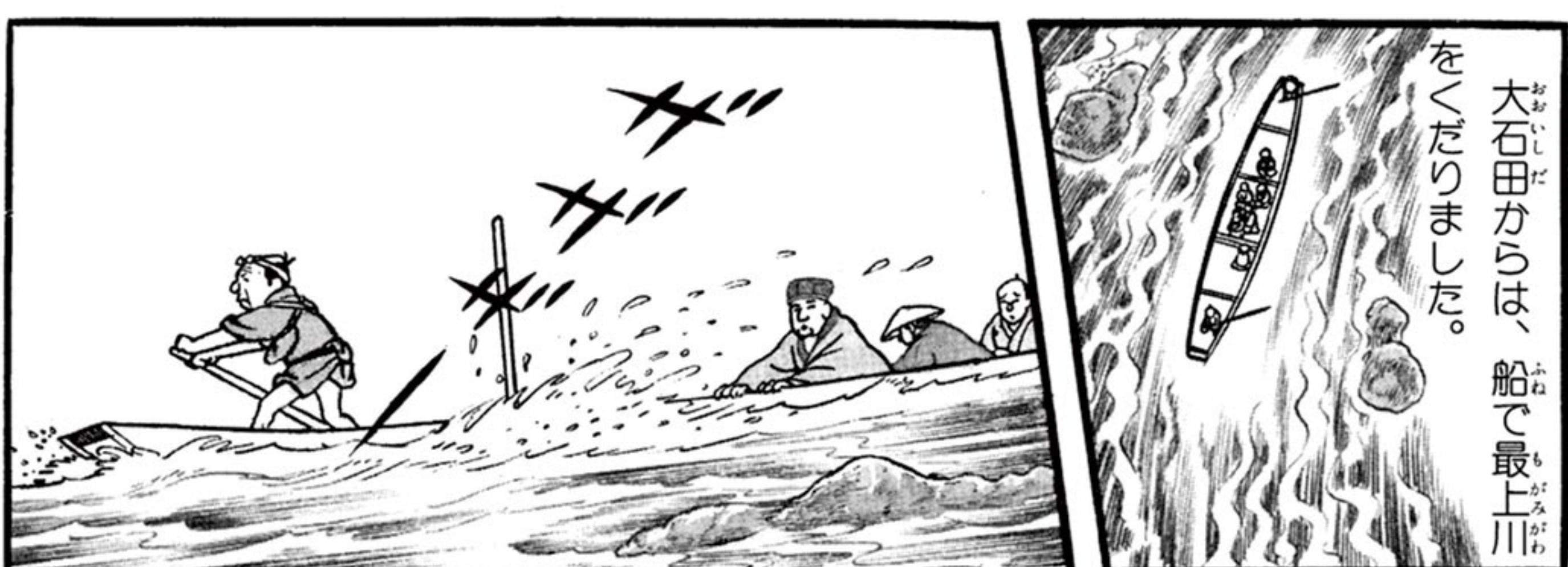
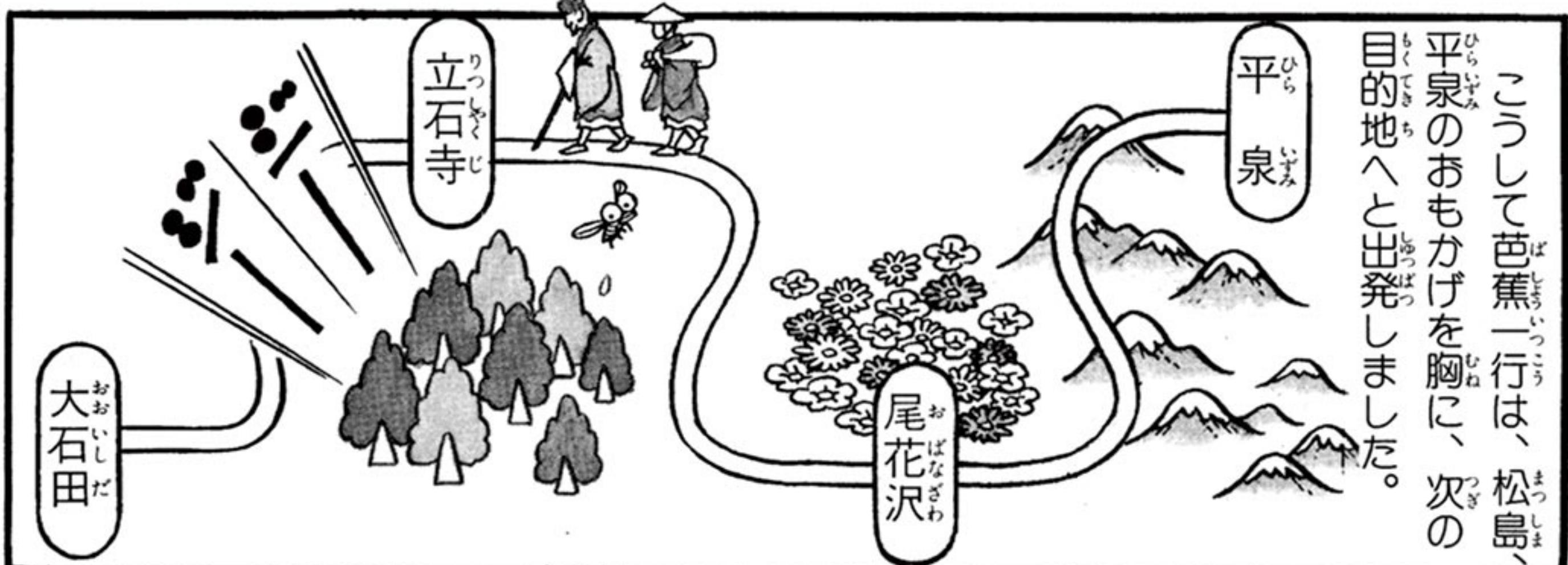
に!
ほんとう





翌朝、松島を旅立つ芭蕉一行は、石巻、一ノ関、平泉と旅をつづけました。

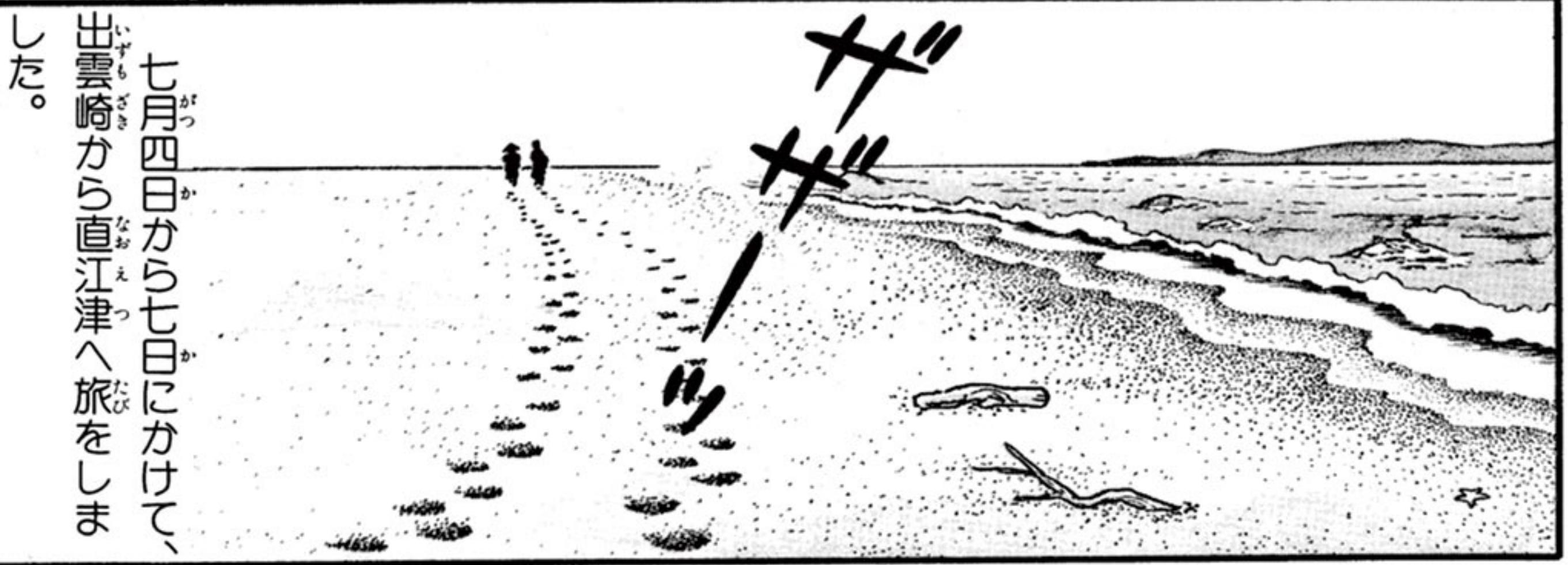


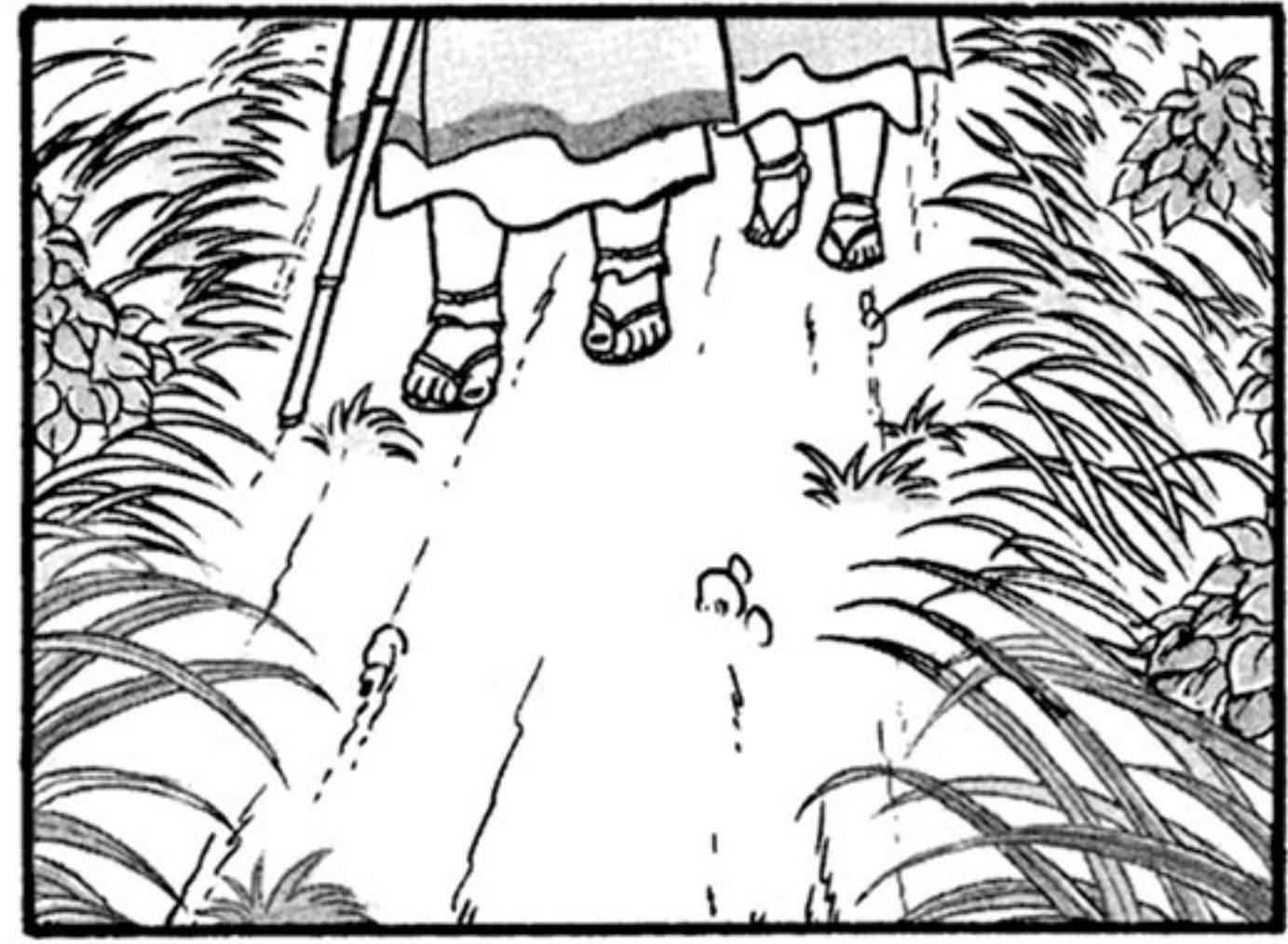


*修験…密教の一つで、山にこもってきびしい修行をすること。



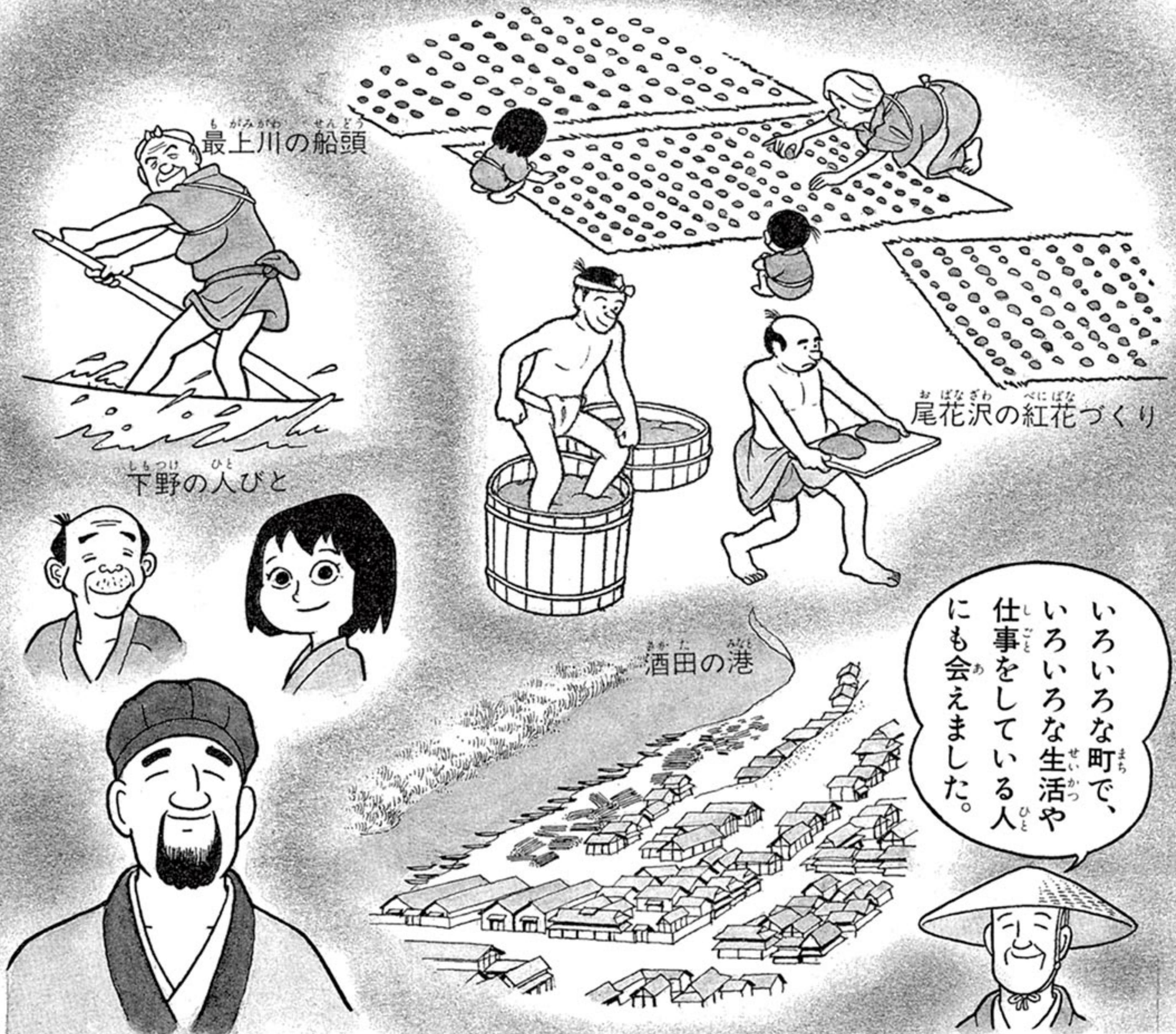






湯をもらいに行つてことわられました。







芭蕉の「奥の細道」の旅は、
こうしてひとまずおわります。
近松という巨匠を、俳諧・西鶴・
元禄文化は、芭蕉・
説・淨瑠璃それぞれの分野で小説・
生き出しましたが、それを下した
からささえていたのは、この
時代に力をつけてきた都市、
とくに大坂や京など上方の町
人たちだつたのです。

小学館 eBooks

おうちの方へ

士農工商

京都教育大学名誉教授

高山博之

17世紀半ば、四代將軍家綱が登場したころから、幕府政治は安定期に入りました。由比正雪の乱や明暦の大火などの大事件もありましたが、幕府の支配体制は強固になり、士農工商の身分制を基盤に社会は一応安定を見せます。

五代將軍綱吉の時期になると、貨幣経済が発達し、米中心の経済に頼る幕府や藩の財政は、しだいに悪化しはじめますが、庶民の活動はさかんで、町人が担う元禄文化が栄えました。

この巻では、將軍、大名、庶民（農工商）それぞれを主人公に、社会の様子を描きます。江戸時代前期の特色をしつかり掘ませてください。

●第1章 「大名のくらし」

岡山藩主池田光政の生活を焦点に、当時の大名の姿を描いています。参勤交代制によつて、諸大名は家族を江戸に置き、江戸と領国間を定

期的に往復することを義務づけられていきました。大名といえども、將軍の前では臣下にすぎず身分、格式にしばられていた点に注目させ、将軍を頂点とする支配体制の強固さ、武家社会の厳しさを感じとらせてください。

また、様々な手段で、大名の経済力を弱めようとする幕府の政策のもとで、光政ら諸大名は新田開発など農政に力を入れ、財政の安定を図つていました。

これらの藩政のあり方、大名の苦心なども読みとれると思っています。

●第2章 「庶民の生活」

農業が経済の基盤ですから、幕府は農民の統制や農政には細心の注意をはらいました。「慶安の御触書」はそれをよく示しています。米作りを中心とした農作業、農民の衣食住、

差別について

京都大学教授

藤井讓治

芥川龍之介の小説に「河童」
という作品があります。河童の
父親が母親のおなかの中にいる
赤ちゃんと、河童として生まれ
たいか、生まれたくないか、と
尋ねたところ、おなかの赤ちゃ
んは河童として生まれたくない
と答えたので、そのようにした
という話です。

人間はどうでしょう。私たち
は生まれてくることについて、
両親から相談を受けたことがあ
りません。したがって、たとえ
は女性として生まれてきたこと
は、その人の責任ではありません
。女性であるという、その人
の人に不都合や不利益を与える
こと、これが女性差別です。

部落差別の場合も、これと同
じです。江戸時代の武士階級の
支配の道具としてつくり出され
た被差別部落の人びとの受けた
いる苦しみも、まったくわれ
のないところから生じているの
です。

年貢取りたての厳しさ、新しい農具や農業技術
の革新などを重点的にとらえさせてください。

後半には、商家の生活や塩田の作業の様子が
描かれています。このころ、貨幣経済が進んで
きて商業が活発化し、塩などのほか、農村でも

商品作物の生産がさかんになる点に留意させま
しょう。弁才船などの活躍によつて、物資が広
域に流通している点も重要です。米中心の経済
のあり方が全体から理解できると思ひます。

●第3章 「綱吉の時代」

五代将軍綱吉は、はじめは積極的に政治に取
り組み、学問にも熱心で朱子学を奨励し、その
教えに基づいた文治政治をめざしました。しか
し、のちには柳沢吉保などの側用人が権力を左
右するようになり、「生類憐みの令」など悪法も
しかれ、汚点を重ねる結果になります。

世はまさに太平の時代で、生活は華美になり、
武士の剛健な気風も失われてきました。このよ
うなときだけに、赤穂浪士の仇討ちは世間をあ
ります。

つと言わせる大事件となつたのです。
太平の一方で、幕府の財政難は深刻化し、貨
幣改鑄も行われます。綱吉の政治の明暗につい
て多面的に考えさせてください。

●第4章 「元禄文化と町人」

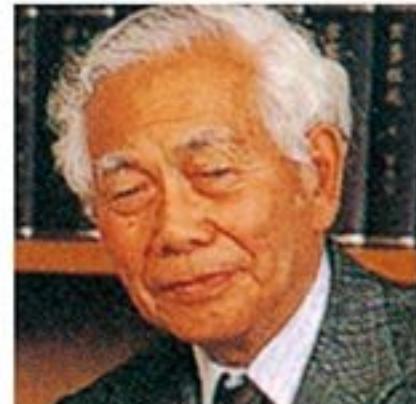
綱吉が政治を行つた元禄年間は、貨幣経済が
進み、町人の経済活動が活発化しました。そし
て豪商たちの豊かな財力を背景に、大坂・京都
など上方を中心とした町人文化――
元禄文化が花開きました。

被支配階級の町人が文化の中心的な担い手にな
なつた点に大きな特色があります。このことの
意義を掘るとともに、武士階級の文化が後
退した理由を考えさせてください。

また、町人の世界を活写した井原西鶴、義理
と人情のしがらみを人形淨瑠璃に描いた近松門
左衛門、俳諧の道を究めた松尾芭蕉らの業績や
生き方を、きちんと読みとらせてほしいもので
す。

児玉幸多

Kouta Kodama



歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の铸造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks

学習まんが 少年少女 日本の歴史 第13巻 士農工商

2015年3月27日 電子書籍版発行

監修 児玉幸多

まんが あおむら 純

発行人 伊藤 護

発行所 株式会社 小学館

〒101-8001

東京都千代田区一ツ橋 2-3-1

s-ebook@shogakukan.co.jp

底本 2014年10月7日 増補版第21刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298113-3

※ご注意

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。

個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと著作権法、その他関連法によって処罰されます。